

令和2年度自己点検・自己評価委員会総会

日時 令和3年3月1日（月）13:30～15:10

会場 オンライン配信（発表者：会議室2・3）

学校法人 順正学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

加野



Mission Statement

Our aim is to maximize students' individual potential and develop good citizens in both local and international communities.

令和2年度自己点検・自己評価委員会総会プログラム

日 時 令和3年3月1日(月) 13:30 ~ 15:10

| | | |
|---------------------|----------------|---------|
| 理事長・総長挨拶 | 加計勇樹 理事長・総長 | 13:30 ~ |
| 学長挨拶(外部評価員紹介を含む) | 兒玉 修 学長 | 13:40 ~ |
| 実施部会報告 基本事項検討部会 | 黒川昌彦部会長 | 13:45 ~ |
| 《各部会報告の全体総括》 | | |
| 組織別報告 通信教育部会 | 川崎順子部会長 | 13:50 ~ |
| 大学院部会 | 正野知基部会長 | 13:55 ~ |
| 学生の受入部会 | 渡邊一平部会長 | 14:00 ~ |
| ※その他の部会は書面報告 | | |
| 《3Pを踏まえた各学科の中期計画報告》 | | |
| スポーツ健康福祉学科 | 正野知基学科長 | 14:05 ~ |
| 臨床福祉学科 | 稲田弘子学科長 | 14:10 ~ |
| 作業療法学科 | 園田 徹学科長 | 14:15 ~ |
| 言語聴覚療法学科 | 倉内紀子学科長 | 14:20 ~ |
| 視機能療法学科 | 山本隆一学科長 | 14:25 ~ |
| 臨床工学科 | 戸畑裕志学科長 | 14:30 ~ |
| 薬学科 | 黒川昌彦学科長 | 14:35 ~ |
| 動物生命薬科学科 | 明石 敏学科長 | 14:40 ~ |
| 生命医科学科 | 三苫純也学科長 | 14:45 ~ |
| 臨床心理学科 | 前田直樹学科長 | 14:50 ~ |
| 《令和元年度授業アンケート結果報告》 | | |
| 結果報告 | 比佐博彰教育開発部門副部門長 | 14:55 ~ |
| 《講評・総評》外部評価員 講評 | | |
| | 澤野幸司延岡市教育長 | 15:00 ~ |
| 学長 総評 | 兒玉 修 学長 | 15:05 ~ |
| 閉会挨拶 | 黒川昌彦副学長 | 15:10 ~ |

【点検・評価項目】(各部会において最重点項目に◎、重点項目に○)

- ①理念・目的
- ②教育研究組織
- ③教員・教員組織
- ④教育内容・方法・成果
- ⑤学生の受け入れ
- ⑥学生支援
- ⑦教育研究等環境
- ⑧社会連携・社会貢献
- ⑨管理運営・財務
- ⑩内部質保証

2020 年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基本事項検討部会 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>本学の建学の理念は、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸し社会に有為な人材を養成する」である。学生の基礎・専門学力そして自ら考える力を高めることにより社会において高く評価される有為な人材を排出し、高校生からは非進学したいと思われる大学となるために、本学としての3つのポリシーを示し、大学のブランド化を目指す。今年度も基本事項検討部会では、教育内容・方法・成果、学生の受け入れに等に関する取り組みを検証してきた。特に今年度は、新型コロナウイルス感染症に対して、感染予防対策を講じることに重点を置き、感染者を出さないよう、感染拡大防止に全力で対応した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症に対応した <ul style="list-style-type: none"> ・授業等の実施 ・遠隔授業の学習機会の確保に係る補助金の申請 ・マニュアルの作成 ・FD・SD研修「遠隔授業の在り方を考える～新たなステージに向けた課題と対策～」 2. 九州保健福祉大学ブランディング計画、大学の3つのポリシーの作成 3. researchmapの登録 4. 大学ポートレートの検証 5. 令和2年度私立大学等改革総合支援事業に係る調査等 | | | | | | | | | | |
| <p>○来年度の計画案</p> <p>来年度は、引き続き教育内容・方法・成果、学生の受け入れに関する基本事項について検討し、必要な改善を求めていく。日本高等教育評価機構の改善を要する点について、改善報告書の提出等（ホームページ公開）を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生自ら考える力のアップ 2. 学生の基礎学力のアップ 3. 国家試験の合格率アップ 4. 学科教員の教育力アップ 5. 教育施設のレベルアップ 6. 就職率のアップ 7. 学生生活サポートと向上 8. 中途退学者の減少 9. 社会人としてのマナー向上 10. 入学定員の充足率向上 | | | | | | | | | | |

2020年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| カリキュラム部会 | ○ | | | ◎ | | | ○ | | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>カリキュラム部会は、教育指導部会（中核センター・教育開発部門）と共に、種々の取り組みをおこなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学共通基礎科目の検討 大学のブランド化に向けたブランドビジョン及びタグラインの策定に伴い、カリキュラム変更に向け大学共通基礎科目の検討を行った。 2. アセスメントポリシーの検証 学修成果の可視化に向け、各学科で策定したアセスメントポリシーについて検証した。 3. シラバスチェック体制の強化 建学の理念及び各学科のカリキュラム・ポリシーに基づいた各科目に対して、高等教育無償化制度への対応の可否や評価方法について、シラバスのチェック体制を強化した。 | | | | | | | | | | |
| <p>○来年度の計画案</p> <p>教育指導部会（中核センター・教育開発部門）と共に、以下の取り組みを行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学共通基礎科目の検討 2. 学修成果の可視化に向けたアセスメントポリシーの検証 3. シラバスチェック体制の強化 | | | | | | | | | | |

2020 年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育指導部会 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | | | ○ |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>本年度は、第2期中期目標・中期計画に従って、学生の能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会から高く評価される人材育成を目指した教育改革に取り組んできた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リメディアル教育として全学的に e-learning システムを引き続き導入し、全ての教科の基礎学力として重要な国語能力の向上に取り組んだ。全学共通の実力テストでは、多くの学科で国語力の向上が確認されている。 2. コロナ禍における遠隔授業の構築・充実に取り組んだ。 3. 各学科での更なる国家試験合格率の向上を目指した。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を決して下回ることがないよう国家試験対策の充実に取り組んだ。 4. コロナ禍でワークショップ形式での FD 研修会が実施できなかったが、「遠隔授業の在り方を考える～新たなステージに向けた課題と対策～」というテーマで実施し、教育力向上に向けた各学科の遠隔講義の実践例が報告された。 5. 教員による学生へのセクハラ・パワハラなど起こさないよう研修会等が開催された。 6. 教員から積極的に挨拶をおこなうなど、学生の社会人としてのマナーを向上に取り組んだ。 <p>○来年度の計画案</p> <p>来年度も、第2期中期目標・中期計画に従って、学生の能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会から高く評価される人材育成を目指した教育改革に取り組んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リメディアル教育として全学的に e-learning システムを引き続き導入し、全ての教科の基礎学力として重要な国語能力の更なる向上に取り組む。 2. 遠隔授業のさらなる充実と応用に取り組む。 3. 各学科での国家試験合格率の向上を目指す。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を決して下回ることがないよう国家試験対策の充実に取り組む。 4. 教員の教育力向上のためにワークショップ形式での FD 研修会の充実を目指す。 5. 教員による学生へのセクハラ・パワハラなど起こさないよう研修会等の充実を目指す。 6. 教員から積極的に挨拶をおこなうなど、学生の社会人としてのマナーを向上に取り組む。 | | | | | | | | | | |

令和2年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 研究活動部会 | | | | | | | ◎ | | | |
| ○今年度の取組状況 | | | | | | | | | | |
| <p>1. 共同研究について</p> <p>①教員による研究・社会貢献を推進するために、共同研究費（800万円）を「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」として配分を行った。研究経費助成の審査については、科研費の審査評価に重点を置き、採択・配分額を決定した。</p> <p>令和2年度の研究経費助成の申請数13件、採択数13件（昨年度申請数13件、採択数11件）、地域創生事業経費助成の申請数4件、採択数4件（昨年度申請数5件、採択数4件）であった。</p> <p>②令和元年度の「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」の成果報告書の提出を求め、該当者全員から成果報告書の提出がなされた。</p> <p>③研究部門における自己点検・自己評価の一環（研究部門FD）として、各経費助成のポスター発表会を開催した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮し、今年度の発表会はポスター閲覧ならびにコメント記載のみと企画内容を縮小して実施した。</p> <p>ポスター発表掲示期間：令和3年2月24日（水）～令和3年3月2日（火）</p> <p style="padding-left: 40px;">閲覧したポスター発表について「コメント票」を提出</p> <p>ポスター発表掲示場所：1号棟エントランスホール</p> <p>ポスター発表内容：研究経費助成 13件 地域創生事業経費助成 4件</p> <p>2. 科学研究費助成事業について</p> <p>科研費（文部科学省・日本学術振興会）の申請を促進するため、「令和3年度科研費公募要領等説明会」を開催した。</p> <p>開催日：令和2年9月29日（火）、30日（水）</p> <p>参加者：55名</p> <p>内 容：・科研費改革の概要 ・公募内容の変更点 ・researchmapについて ・科研費電子システムの操作方法について ・研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止（研究機関ルールについて）</p> <p>令和2年度科研費申請数：44件 基盤研究（C）：32件 （昨年度申請数：45件） 挑戦的研究（萌芽）：2件 若手研究：9件 研究成果公開促進費：1件</p> | | | | | | | | | | |

3. 「公的研究費コンプライアンス研修会」の開催について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮し、今年度はネット配信による動画研修で実施した。

開催日：令和2年11月20日（金）～ 動画研修

講師：三宮紀彦公認会計士事務所 代表 三宮 紀彦

内容：・公的研究費コンプライアンス研修

- ・理解度テストの実施
- ・誓約書の提出

○来年度の計画案

1. 共同研究について

研究・社会貢献推進のため、共同研究費（800万円）を「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」としての適切な配分を図る。

研究経費助成の配分に関しては、引き続き科研費申請の審査評価に重点を置き、科研費の採択率の向上を目指し支援していく。地域創生事業経費助成についても、社会貢献度に重点を置き本学の社会貢献活動を支援していく。

研究部門における自己点検・自己評価の一環（研究部門FD）として、各経費助成の発表会を開催し、発表者の新たなアイデアの発見と創出だけでなく、分野を超えた共同研究へ繋げる機会（コミュニティづくり）を提供できるよう取り組んでいく。

2. 科学研究費助成事業について

科研費申請（文部科学省・日本学術振興会）を促進し、「科研費公募要領等説明会」を開催して変更点や申請手続き等についての的確な指示・説明を行う。

また、「科研費申請書（研究計画調書）作成のポイント」等の研修会を開催し、採択件数向上の方策を講ずる。

3. 「公的研究費コンプライアンス研修」「研究倫理教育研修」について

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（平成26年2月18日改正）文部科学大臣決定」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に則った研修会（FD・SD）を開催し、研究を推奨するとともに研究の倫理に関する取組みや体制整備を行っていく。

2020 年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生生活部会 | ○ | | | | | ◎ | | ○ | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 交通トラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、自動車学校の協力を得て開催していた交通安全講習会はコロナ禍の影響により開催が見送られた。代替として、駐車許可申請時に交通法規の試験とレポートの提出を課した。また、日常的には立て看板、ポスター、ユニパ、窓口等で注意喚起を行なった。事故件数は、令和2年4月から令和3年2月までの学生課への届け出件数34件（昨年は26件）となっている。 ・事故の傾向は、学生の安全運転意識や運転技量の未熟に起因するものが確認されている。また、届け出34件中のうち学生が第一当となった事故が19件（昨年は16件）あることから、学生への安全運転の意識向上とさらなる指導強化が必要である。 <p>2. 犯罪，生活トラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度1件を受理した。学生が転居の際に不要となった自室の電化製品やゴミなどを個人所有地に不法投棄したものである。 ・学生同士やあまり面識のない他人との間でSNS上のトラブルの報告が4件あったが、早急な個人面談や状況によっては地元警察にも協力を依頼し、連携することで大きな事件に進展することはなかった。 <p>3. 防災に対する意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、全学的に実施している南海トラフ大地震を想定した消防防災総合訓練及び防災講座についてはコロナ禍の影響のため規模を縮小して実施した（R2年12月）。 | | | | | | | | | | |
| <p>○来年度の計画案</p> <p>1. 交通トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車通学者、バイク・自転車通学者を対象として定期的な安全運転講習、交通安全啓発活動、立て看板による周知および一斉メールなどにより、昨年度に引き続き更なる交通事故の減少を目指し、延岡警察署との連携を継続する。特に重大事故が発生しないよう地道な啓発活動を行う。また、事故発生時の学生課への届け出をきちんと行うよう引き続き指導する。 <p>2. 犯罪，生活トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活は楽しいが、一歩道を踏み外せば身のまわりには「危険なこと」が多く潜んでいることへの理解を高めるため昨今の学生の事情に合わせた補助資料を配布する。 ・犯罪、トラブルに巻き込まれないように、そのような兆候があれば速やかにユニパでの周知を行い、学生の無知・常識のなさ・情報収集力の未熟さからくるトラブル・軽犯罪の防止や啓蒙を継続する。また、発生した場合には迅速かつ丁寧に対応する。 <p>3. 防災に対する意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ大地震に対する備えとして、学生の防災意識の向上及び防災訓練の実施、オリエンテーションでの講習会、防災マニュアルの配布など各種対策を昨年に引き続き推進する。 <p>4. キャンパスアメニティの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した学生生活を過ごせるよう学生へのアンケートや動向調査等を実施し、快適なキャンパスライフの実現に向けて、学内外と連携を図りながら中長期に向けたビジョンの策定を行う。 | | | | | | | | | | |

令和2年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図書館部会 | | | | | | ○ | ◎ | | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>1) 学習支援及び教育活動への直接の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに行う新入生対象の図書館利用、大学院（通信制）のオリエンテーション時に行う文献検索方法等の指導がコロナウイルス感染拡大に伴い、ほとんど実施できなかったが、6月以降に新入生対象の図書館利用方法の指導を数回開催できた。 <p>2) 研究活動に即した支援と知の産生への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要第22号を3月末に発行するが、今号より冊子体ではなくリポジトリへの登録・公開のみとすることにした。また紀要論文、学位論文ほか学内の研究成果物は遺漏なくリポジトリに登録、公開している。 <p>3) コレクション構築と適切なナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナルおよび外国雑誌の利用調査を基に見直しを図った。 <p>4) 他機関・地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延岡市立図書館との連携を継続、例年8月と2月に認知症をテーマとした企画展示を行っているが、8月はコロナウイルス感染拡大により縮小となった。 | | | | | | | | | | |
| <p>○来年度の計画案</p> <p>1) 学習支援及び教育活動への直接の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用指導、情報リテラシー、論文作成などの支援に、より能動的に取り組む。 <p>2) 研究活動に即した支援と知の産生への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要第23号より学术论文については査読制度の導入を行う。 ・リポジトリでの研究成果の公開を推進する。 <p>3) コレクション構築と適切なナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き電子ジャーナルや外国雑誌のより利用頻度の高いものへの見直しを行う。 ・継続して企画展示を行う。 <p>4) 他機関・地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延岡市立図書館との連携を継続する。 ・オープンライブラリを実施し、中高生の利用が増えるよう工夫する。 | | | | | | | | | | |

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|
| キャリアサポート部会 | | | | | | ◎ | | | ○ | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p><取組内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職希望者の就職率 100%をめざすとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。 2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動の円滑な展開や就職試験への対応に繋がる各種企画を積極的に実施する。また、公務員対策を中心に外部機関と連携し、公的機関への就職者増を実現させる。 3. 学生への各種行事等の伝達を強化し、学生参加数の向上を図るため中核センターへ報告事項として周知する。これにより対象の学部学科の教授会の報告事項として周知を徹底するほか、積極的に各学科のキャリアサポート委員と連携を図りながら行事等の伝達強化を実現させる。 <p><取組状況></p> <p>学生面談予約制の定着により、計画的な支援をすることができている。職員が面談記録を共有することで継続的な支援に注力し、面談記録や求職票記載内容から学生本人が希望する情報提供にも努めている。就職率向上に留まらず卒業の先にある自立を重視し、職員間での情報共有・意見交換を頻繁に行った。また、学生一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう、キャリアサポートセンターと各学科が連携・協力し進路支援にあたり、特に就職活動等を進める上で何らかの問題を抱えている学生に対しては、関係部署・地元ハローワーク・ヤング JOB サポートみやざき延岡サテライト・宮崎県商工会連合会等と連携し、長期的な視点で支援にあたっている。</p> <p>年度当初の取り組みとして、コロナ禍、従来の就職活動の環境が一変したため WEB 面接対策講座やオンラインに特化した周辺機器の整備やキャリアサポートセンターホームページを活用した動画配信に努めた。各学科4年生（薬学科のみ5年生）を対象にした WEB 就職面談会をはじめ、学外実習直前の生命医科学科3年生を対象にした専門の講師によるビジネスマナー講座や、薬学科5年生対象オンライン就職ガイダンスを開催した。また全学的に就職活動前年度及び前々年度の学生を対象とした「自己分析講座」「SPI 対策講座」「合同企業説明会回り方講座」など、昨年よりもさらに充実させたオンライン講座を計6回実施した。その他、オンライン公務員試験対策講座（全3回）を開催し1月29日時点で15名の学生が公務員に内定している。</p> | | | | | | | | | | | |

○来年度の計画案

1. 就職希望者の就職率 100%をめざすとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。収束の見通しが立たないコロナ禍であるため就職サイト運営機関との情報収集に努め学生への指導に役立てる。
2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動の円滑な展開や就職試験への対応に繋がる各種企画を積極的に実施する。また、公務員試験対策を更に充実させ、学生に広く周知し参加者を増やし中長期計画を策定する。また、従来の延岡市などの外部機関に加え宮崎県や延岡近隣の自治体と連携し、公務員への就職者増を実現させる。
3. 学生への各種行事等の伝達を強化し、学生参加数の向上を図るため中核センターへ報告事項として周知する。これにより、対象の学部学科の教授会の報告事項として周知を徹底するほか、積極的に各学科のキャリアサポート委員と連携を図りながら行事等の伝達強化を実現させる。その他、学生が主体的にユニバーサルサポートや掲示板を確認する姿勢を身につけさせる。
4. より充実した本学独自の学生指導や支援について、キャリアサポートセンターホームページにおいて迅速に分かりやすく広く公開する。
5. 令和元年度は延岡市・佐伯市主催の東九州ものづくり交流展、令和2年度は宮崎県主催のテクノフェアみやざきへ本学の持つ知的財産を広く市民に周知するため出展し、事務局をキャリアサポートセンターが担当した。令和3年度も同様に本学の取り組みを広く周知する各種行事に事務局として参画し、様々な業界に本学を理解して頂くことで学生への就職支援に努める。

2020 年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 社会貢献部会 | | | | | | | | ◎ | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け活動制限を余儀なくされるなか、感染防止策を徹底しながら可能な範囲で活動を推進した。</p> <p>1. 社会貢献活動の推進</p> <p>新規事業として宮崎県人権啓発推進協議会より「人権啓発活動協働推進事業（大学との連携）（3年間）」を受託し、初年度は社会福祉学部臨床福祉学科が主体となり、11月7日、28日の2回にわたって研修会を実施した。（参加者総数244名）</p> <p>各学部においても、企業、地域、関係機関との連携を図りながら、社会貢献活動を推進した。</p> <p>2. 情報公開、情報発信の充実</p> <p>各学部・各学科・各部活動・ボランティア・各個人における社会貢献等の成果について、前期と後期に分けて調査し、集約した内容を大学ホームページに公表した。</p> <p>3. ボランティアセンター活動の推進</p> <p>ボランティアセンターに派遣依頼実績のある団体・機関（49団体）へのアンケート調査を実施し、ボランティアニーズや学生への期待等、ボランティア活動に関しての課題抽出を行った。</p> <p>ボランティア活動の派遣依頼は激減し、ボランティア活動総件数37件、総参加人数77人（昨年比15%）の実績となった。</p> <p>4. 順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）の充実</p> <p>延岡市の「ひとり親家庭等学習支援等事業」の業務委託事業（5年目）は、当初15回予定していたが、9回の実施となった。登録者数31名であり、延べ参加人数は154名であった。</p> <p>新たな取り組みとして、事前に中学生の生活実態に関するアンケート調査を行い、学習支援内容に反映させた。また、調理実習や文化活動、植物園でのレクリエーション等を行い、交流活動を行った。</p> <p>○来年度の計画案</p> <p>1. 社会貢献活動の推進</p> <p>宮崎県人権啓発活動協働推進事業の2年目として実施体制を検討し、事業に取り組む。</p> <p>各学部で推進している産学官連携による社会貢献活動の実施状況について情報収集し、ホームページ等を活用して情報発信していく。また、大学全体で情報を共有する機会や方法を検討する。</p> <p>2. ボランティアセンター活動の推進</p> <p>コロナ禍にありながらも活動できるボランティア活動を研究し、実施に向けて検討していく。</p> <p>3. 順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）の充実</p> <p>令和3年度は、参加中学生へのアンケート調査に加え、保護者の意見を聞く機会を設けることも検討していく。令和2年度同様に、実施回数20回を計画する。プログラムの工夫や実施体制の強化を図る。</p> | | | | | | | | | | |

2020 年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通信教育部会 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ◎ | | | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により、大幅な変更を余儀なくされたが工夫して取り組んだ。</p> <p>1. 入学者の確保に向けた広報活動の充実</p> <p>入試説明会が開催できないこともあり、広報媒体を増やして広報活動を充実した。 (宮崎県内は宮日への広告掲載、福岡・熊本地域へ Yahoo 広告掲載、全国版ではリクルートのスタディアプリ、通信教育協会の Yahoo 連動の連合広告、AERA ムック、読売オンライン等への広告掲載)</p> <p>2. 学生サポート体制の充実</p> <p>学びを継続できるためのサポート方法を検討し対応した。</p> <p>①オンライン通信環境状況を調査した結果、50%程度の通信生は対応可能であった。環境設定を検討し、スクーリング科目をオンラインに切り替え実施した。対応できない学生へのサポートとして、学内の LL 教室を開放した。</p> <p>②予定した学習相談会は実施できなかったが、電話、FAX、メール等により丁寧に対応した。</p> <p>③障がい学生との個別面談等を重ね、実習等学習環境の対応を行った。</p> <p>④国家試験の直前対策講座を 12 月に 2 日間オンラインで開催した。随時、参考書や模擬試験案内などの情報を提供した。</p> <p>⑤学生授業アンケート結果を教員へフィードバックし、授業改善につなげる資料を提供した。</p> <p>3. 社会福祉士養成カリキュラムの改正に伴う教育プログラムの再検討</p> <p>予定通りカリキュラム改正手続き、スクールソーシャルワーク教育課程認定事業を申請し、今後具体的に授業内容の充実に向け取り組む準備ができた。</p> <p>○来年度の計画案</p> <p>1. 入学者の確保に向けた広報活動の充実</p> <p>高校や提携団体への広報活動を拡充し、入学者確保を目指す。</p> <p>2. 学生サポート体制の充実</p> <p>オンラインによる授業環境の整備を図る。 学生側の通信機器環境の整備について協力依頼していく。 オンライン学習相談会を開催し、問い合わせや相談に応じていく。 随時、国家試験対策に関する情報を提供していく。</p> <p>3. オンラインに対応した授業内容の検討</p> <p>オンラインによるスクーリングの授業内容・実施方法を科目間で共有し、改善していく。 コロナ禍により実習受入不可能な事態を想定し、代替案としてオンラインによる実習方法の可能性を検討していく。また、単位認定試験のオンライン実施方法も検討していく。</p> | | | | | | | | | | |

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生の受入部会 | | | | | ◎ | | | | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>改善勧告である「定員充足」に向けて</p> <p>(オープンキャンパス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、3回の予定を2回とし、各地からの無料送迎バスを中止し、完全申し込み制で実施した。参加人数は、昨年より下回ったが、事後アンケートの回答から本学への関心が高い生徒が多く、また事前にある程度の人数が把握できていたため、個別に丁寧に対応することができた。 ・前半の土日見学会は受け入れ人数を制限し、対面で実施した。2月・3月に実施していた見学会は、オンライン相談会として実施または実施予定である。 ・高校教員対象大学説明会（宮崎）は、5月中旬実施予定を9月中旬に変更して実施した。 <p>(学科リーフレット等の作成・ホームページ等の広報強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年通り学科チラシは作成したが、高校訪問がほぼできない状況であったため、受験生への資料送付の際に同封し周知を行った。 <p>また今年度は、コロナ感染症拡大に対する緊急支援措置として「入学検定料免除」を実施することとなったため、チラシ、ホームページ、CM、新聞、DM、訪問などで、周知を徹底して行った。</p> <p>(分野別説明会、ガイダンスの参加強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、高校内で実施される分野別説明会やガイダンスがほとんど中止になる中、オンラインでの参加等できる限りの対応とした。 | | | | | | | | | | |
| <p>○来年度の計画案</p> <p>(オープンキャンパス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に1回、8月に1回の計2回を実施する。コロナウイルス感染症の状況により、オンライン、対面などを柔軟に組み合わせて実施する。 ・高校教員対象大学説明会（宮崎）も例年通り実施する。 <p>(ブランディング)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、大学案内2023の全面改訂を行う。今年度は大学の魅力を記載した補助資料「リーフレット」等を作成し、高校訪問、説明会、オープンキャンパスなどで活用する。 <p>オンライン相談や、オンラインオープンキャンパス等も含め、ネット広報を強化する。</p> <p>(分野別説明会、ガイダンスの参加強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校内で実施される分野別説明会の参加を、対面・オンラインを含めて今年度同様に強化し、直接高校生に説明できる機会を増やす。 | | | | | | | | | | |

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学院部会 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップしIFを有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」の開催を継続していく。</p> <p>社会福祉学研究科では、大学院担当教員への昇格を促進し、指導体制の充実を図った。保健科学研究科では、生命医科関連教員の充実、カリキュラムの見直しを行い、臨床検査部門の充実を図り時代のニーズに対応できる体制となった。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップしIFを有する英文学術論文発表数を増やす対策を継続し実施中である。「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ感染拡大防止のため、社会的な状況に合わせて延期中である。</p> <p>2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。</p> <p>研究科ごとに対応を検討した。定員充足率は、社会福祉学研究科 修士課程 23%、連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 87%、保健科学研究科 博士（前期）課程 150%、保健科学研究科 博士（後期）課程 22%、医療薬学研究科 博士課程は 19%となっている。</p> <p>社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリング時に広報活動を継続して行い、また、課題であった修士課程の定員の見直しを行った。保健科学研究科では、広報を各専門分野の学術委員会などで行い充足を目指したが、コロナの影響で入学を延期するケースが多々見られ、十分な充足には至っていない。医療薬学研究科では、夜間に講義を受講できる体制であることなどをアピールしながら、卒業生を含めた地域の医療人を対象に広報活動を継続的に行ってきたが、入学者を確保できていない。そこで、就学条件の見直しの方向での大学院規則の検証を開始した。</p> <p>3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。</p> <p>社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用して、福祉などの現場と連携強化を図る取り組みを継続して行っている。保健科学研究科では、修士 200 名計画が進行中で、すでに 162 名が臨床現場で活躍しており、良好な連携が行われつつある。医療薬学研究科では、院生の多くが現場に出向いて実務経験を積んでおり、研究科としても奨励している。継続して実施中である。</p> | | | | | | | | | | |

○来年度の計画案

1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図る取り組みを継続する。保健科学研究科では、教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう、ホームページの見直しを行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、一般公開される教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ禍の現状を踏まえ、最善の開催形態での実施を検討する。
2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。保健科学研究科では、生命医科学部からの入学に加えて現場で働いている臨床検査技師の入学を促すため、臨床検査関連の学会誌などへの広報を検討する。医療薬学研究科では、時代のニーズに対応した大学院規則の検証を行い、定期的な通学が困難な地域の医療人が入学しやすい環境を整える。
3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続する。保健科学研究科では、修士取得者との情報交換をさらに推し進め、研究の充実と後輩の大学院進学を試みる。医療薬学研究科では、医療人の実務の遂行において大学院での研究活動がいかに有効であるかを継続してアピールする。

2020 年度自己点検・自己評価委員会報告書

| 部会名\点検・評価項目 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 留学生部会 | | | | | | ◎ | | | | |
| <p>○今年度の取組状況</p> <p>本年度の留学生部会の目標は、以下の3点であった。</p> <p>①留学生の除籍・退学者を少なくし、復学を支援する。</p> <p>②留学生が日本の生活習慣に慣れてもらえるよう指導する機会の工夫を行う。</p> <p>③留学生と日本人学生、教職員及び地域住民との相互交流を拡大・進展させる。</p> <p>上記の①～③の実績</p> <p>—①について：除籍・退学者は0人</p> <p>—②と③について：コロナ禍により多くのイベントの開催を断念せざるを得ない状況が続いたため、在学生・教職員・地域住民等との交流の機会がなかった。</p> <p>—その他：昨春韓国に帰省していた留学生（11名うち4名は新入生）の再入国がコロナ感染拡大に伴い、再入国が出来ない状況が続いたが関係機関の情報収集および現地の留学生との連携に努め、再入国の機を窺った。結果、吉備国際大学の協力（送迎バス合同利用）をいただくことで昨年中に11名全員（新入生4名）を入国させることが出来た。</p> <p>【参考資料：令和2年度の留学生の状況】（令和3年2月1日現在）</p> <p>・在学生総数 23人（韓国22人、中国1人）／令和2年度入学者数 5人（韓国4人、中国1人）／令和2年度退学者数 0人</p> | | | | | | | | | | |
| <p>○来年度の計画案</p> <p>①留学生の除籍・退学者が出ないための支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の出身国にあわせた支援ができるように工夫する。 ・韓国籍留学生は兵役による退学がある。兵役終了後の復学の支援体制を教務課等と進める。 <p>②留学生が日本ででの生活に慣れてもらえるよう指導する機会の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学初期に、延岡での生活において特に注意すべき点やルールについて十分説明する。 ・留学初期に、新入留学生と在学留学生が交流する機会を設ける。 ・大学関係者及び学生と触れ合い、肌で生活習慣になれてもらえるような学内行事をおこなうと同時に地域イベントへの積極的な参加を促す。 ・日本語の習得支援として、ラーニングサポートセンターでの相談・日本語指導や e-ラーニングシステム「すらら」の活用を進める。 <p>③留学生と日本人学生、教職員及び地域住民との相互交流を拡大・進展させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科とも協力し、合宿研修や日帰りの研修旅行を行う。 ・留学生として支援過剰とならないよう配慮し、特別扱いすることなく学内の諸活動に一学生として参加できるよう、学生の所属する学部学科及び学生課所轄の団体等に協力を依頼し、連携して支援する原則を継続する。 | | | | | | | | | | |

九州保健福祉大学 社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科

2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|---|--|
| <p>ビジョン (教育目標)</p> | <p>九保大だから学べる「スポーツで健康に生きる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p> |
| <p>学科からの メッセージ</p> | <p>スポーツ健康福祉学科の教育は、健康長寿社会の実現を目指して、スポーツ・健康・福祉そして東洋医学の視点からアプローチします。本学には「スポーツ健康福祉」と「鍼灸健康福祉」の2つのコースがあります。「スポーツ健康福祉コース」では、スポーツを基軸に健康、福祉、教育、コンディショニング等の専門知識を有する健康運動指導士やアスレティックトレーナー、保健体育教員、社会福祉士等を養成します。「鍼灸健康福祉コース」では、スポーツとともに、健康、福祉、コンディショニング等の専門知識を有するはり師・きゅう師を養成します。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、各コースの専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p> |
| <p>教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p> | <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP<4>CP1<5>CP3<11></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1期中期計画で作成された卒業論文の評価基準をもとに、1年次の初年次教育からスポーツ社会福祉学演習、卒業研究へと段階的な学習計画を作成する。 ・ 卒業論文発表会へ1年次より参加し、スポーツ社会福祉学演習・卒業研究における研究テーマを検討する。 ・ 卒業論文発表会では3年生が「企画」、「運営」、「評価」、「課題発見・解決」と主体的に取り組めるよう、教員が補助する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度は新型コロナウイルス感染症により、学科全体で卒業研究発表会を行うことができなかった。特に、1年次の卒業研究に向けた取り組みは、未達成となり、来年度へ向けた課題となった。 ・ 学習成果の可視化として取り組んでいる3年次卒業研究の評価基準策定の一環として、各ゼミ指導教員に3年次の成績評価の聞き取りを行った。 ・ 卒業研究発表会の中止に伴い、3年生を中心とした学生主体で運営を行う予定であったが、これも実施できなかった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度は、現在の社会的状況に耐えうる、卒業研究発表会の運営を模索する。具体的には遠隔授業で用いる器材を使用し、3密を避けた卒業研究発表会を立案、実施する。 ・ 学習成果の可視化については、3年次の評価基準の聞き取りを行った。来年度は、各ゼミの評価基準を調査検討するため、アンケートを実施し、更なる情報収集を行う。 ・ 卒業研究発表会が遠隔での開催になった場合であっても、来年度は3年生が主体性（問題発見・解決力）を持って運営にあたる準備・工夫を考えていきたい。 <p>【基礎国語力増進への対策】CP1<1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義科目における e-learning システム「すらら-国語」導入の長期運用の可能性を調査する。 ・ 積極的な e-learning システム「すらら-国語」の活用を学生に推奨する。 ・ e-learning システム「すらら-国語」実施による学生の国語力の変化について調査・検討を行う。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎演習(リメディアル教育に関する講義科目)にて、「すらら-国語」を導入・運用することができ、実施率は前・後期とも100%であった。 ・ 「すらら」開始前に実施した国語テスト（全学統一国語試験）の結果から学生のレベルに合った「すらら-国語」の学習課題を設定し、その学習課題全ての達成を基礎演習の単位認定の必須条件として実施した。結果、前期では対象学生の課題達成率は100%であったが、後期は課題未達成者が出たため、課題達成率は97%であった。 ・ 前期・後期のはじめに各々実施した国語テスト（全学統一国語試験）の結果比較では、「すらら-国語」実施後、数名を除きほぼ全ての対象学生に国語力の向上がみられた。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、「すらら-国語」の活用を促し、実施率100%を目指す。 ・ 「すらら-国語」の長期的な実施を目指し、学習内容や学習時間の精査・検証を続けていく。 |

・ 国語力の更なる向上を目指すべく、「すららー国語」の継続的な実施および学習課題の内容や学習時間等の検討を続ける。

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1<1>

- ・ 既存のリメディアル教育の内容の調査・検討を行う。
- ・ e-learning システム「すららー数学・英語」について、学生が利用しやすい環境の整備を行う。
- ・ e-learning システム「すららー数学・英語」の活用を学生に推奨する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 既存のリメディアル教育の内容に「すららー数学・英語」の導入の可能性について検討を行ったが、具体的な導入方法や学習計画などの案出までには至らなかった。
- ・ 「すららー英語・数学」の利用・活用方法の説明会の開催や、学習内容等の検討を行い、学生が取り組みやすい環境の整備を行った。しかし、大幅な利用率の向上には至らなかった。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ 既存のリメディアル教育の内容を調査し、「すららー数学・英語」導入の可能性について検討を続ける。
- ・ 引き続き「すららー数学・英語」の実施環境を精査し、学生が利用しやすい環境作りを行う。
- ・ 「すららー数学・英語」の活用方法や学習内容などについての検討を続け、利用率の向上を図る。

【国家試験合格率アップへの対策】CP2<8>

《はり師・きゅう師》

- ・ 新卒合格率 100%を目指す。
- ・ 新カリキュラム移行後の国家試験に対応した受験対策を模索する。
- ・ ロードマップの更新を行い、その年度における受験者全員の国家試験合格を目指す。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 令和元年度新卒合格率は、はり師 66.7%（9名中6名合格）、きゅう師 66.7%（9名中6名合格）となり、100%合格は未達成であった。
- ・ 合格率100%を目指し、担当教員で学生の学力に合わせた個別フォローを行った。
- ・ 昨年度に引き続き、国家試験対策講義を講義外でも積極的に行った。
- ・ google classroom、google formsといったクラウドを用い、対策資料の共有や、対策問題の実施について試みた。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ 国家試験合格率100%を目指し、今回初めて行われる新カリキュラムの国家試験の内容を吟味し、ロードマップを構築する。特に具体的な到達目標を設定する。
- ・ クラウドを使用した国家試験対策の実施をさらに拡充する。

《社会福祉士》

- ・ 学部で連携して可能な限り早期より模擬試験に取り組みせ、その結果を基に弱点を分析し、弱点を克服するための方策を練る。
- ・ 新卒合格率の全国平均を常に上回ることを目指す。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 学部共通科目の時事福祉学（30名：内スポーツ健康福祉学科9名）では、17回の模擬試験（内有料模擬試験3回）を実施した。新たな取り組みとして、苦手科目の解説授業を5回実施した。教員が指導する学生を担当制とし、個別指導を充実させた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で4回自宅学習となったが、模擬問題を郵送して遠隔授業にて対応した。
- ・ コロナ感染防止策を徹底し、年末年始も演習室を開放して学習環境を整えた。
- ・ 2、3年生については、自主勉強会を企画し実施した。前期は3年生対象に5回（29名）、後期は2、3年生対象に6回（69名）の計11回の模擬試験を実施した。科目担当教員による解説時間も設定した。また、相談援助実習の基礎知識としての試験問題と連動させて、習得状況を確認した。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ 本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、指導を充実していくことが求められる。
- ・ 2、3年生の自主勉強会では、オリエンテーションにて国家試験の概要や早期に取り組むことの必要性を説明し、勉強方法の習得と継続的な学習の習慣化のための方策を検討していく。

【学科教員の教育力アップの対策】CP1 CP2

1. 授業の質を高める。

- ・ 大学で実施されている教員相互の授業参観の推進を行う。
 - ・ 学生からの授業評価を受けて、教員が自らの授業の問題点を把握し、改善するための工夫について学科内で発表、検討を行う。
 - ・ 学部FD（教育部門）との連携を図り、研修の成果を教育に反映させる。
2. 適切な教育評価を実施するため、特にはり師・きゆう師の国家試験関連科目（専門分野）における定期試験問題を教員間で閲覧可能な体制を整える。
3. その他
- ・ 各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。

《取り組み状況・実績・成果》

1. 授業参観は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教室内人口密度を極力減らす必要性から今年度の推進は見送られた（大学全体において）。しかし学生からの授業評価を有効に活用するため、年度末の学科会議で学生アンケート結果の報告を行う予定である。「学部FD（教育部門）との連携を図る」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの人を集めることが困難であったこと及び今年度から学部における部門構成が再編されたことから未達成となった。このような状況下、今年度は特にコロナ下における「遠隔授業」と「対面授業」が実施されたが、それぞれの授業方式に対する学生からのアンケート調査を行った結果が報告され、今後の遠隔授業の質向上に役立てられた。
2. 国家試験に関わる教科担当教員（専門分野）が定期試験問題等を閲覧できるシステム内容を一部見直し、コロナ対策および作業の簡素化を図るため、学内メールシステム内での保管に変更した。

《課題・次年度へ向けて》

1. 感染症拡大などの影響が次年度も継続する可能性を考慮して、そのような背景に則した方法による教育力アップへとつながる方策を図る必要がある。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・ 学生に対して教育施設・設備・備品への要望を調査し、実現可能な整備を行う。
- ・ 体育館、グラウンドなどのスポーツ関連施設・設備・備品について、安全性等を調査し、整備する。
- ・ 資格試験対策別（鍼灸・社福・教職・AT）の自習室を確保する。各部屋に試験対策の問題や書籍を常置する。
- ・ 実習・実技科目において必要と考えられる設備・備品等について、費用対効果を踏まえて優先順位をつけ、順次整備を行う。さらに、既存の設備・備品等のより効果的な活用法について検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ ICTを活用した双方向型の講義を実践するために、ICT関連機器（電子黒板機能付きプロジェクター）を導入した。
- ・ 学生からの教育施設（グラウンド）についての要望を確認し、大学内の担当部署に相談をした（サッカー場の芝等）。
- ・ 体育館倉庫内のスポーツ関連備品について、整理し、安全性等の調査を行った。
- ・ 授業で使用するボール（バレー、バスケ、サッカー）を一人1個以上使うことができるように購入した。
- ・ 教職関連の問題集をB402に常置し、定期的な学習会で使用した。
- ・ 高額な実習・実技科目における設備・備品等について、一昨年からの使用状況を確認した。講義、部活動、研究など、使用目的と使用頻度の調査を行った。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ ICTを活用した双方向型の講義を実践するために、導入したICT関連機器の積極的な使用を促す。
- ・ 学生からの教育施設についての要望を確認し、大学内の担当部署に提案する。
- ・ 体育館、グラウンドなどのスポーツ関連施設・設備・備品について、安全性等を調査し、整備を検討する。なお、使用頻度が少ないものについては、教員へ使用を促す。
- ・ 資格試験対策（鍼灸・社福・教職・AT）の自習室確保を検討し、各部屋に試験対策の問題集等（印刷）を常置する。
- ・ 使用頻度が明確になったので、設備・備品等について費用対効果を踏まえ再検討し、予算と照らして、優先順位をつける。十分に活用されていない高額な設備・備品等については、活用法について検討する。

【就職率アップへの対策】DP

- ・ 就職活動中の学生の取り組み状況や希望職種について把握し、就職活動を支援できる環境整備を行い、高い就職率を維持する。
- ・ キャリアサポートセンターの利用や就職面談会への参加を引き続き促す。

- ・キャリアサポートセンターと教員との連絡を密にとり、就職活動が遅れている学生の指導に役立てられる環境整備を行う。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・教職担当教員の対策講座が実を結び、本年度は教員採用試験の現役合格者が3名であった。
- ・星槎大学の通信教育を利用した小学校教諭免許と支援学校教諭の免許取得が可能となった。
- ・キャリアサポートセンターの利用増加を目指した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、就職説明会や就職懇談会の中止や規模縮小が生じた結果、遠隔面接会なども行われてはいたものの、学生の就職活動のサポートが充分であったとは言い難い状況であった。
- ・キャリアサポートセンターと情報交換を行いながら、4年生の就職状況の把握に努めた。
- ・学生へキャリアサポートセンターの活用、および内定者への報告を呼びかけた。

《課題・次年度へ向けて》

- ・小学校教諭免許と支援学校教諭の免許取得が可能になった旨を、学内外を問わず発信していく。
- ・今後増えることが予想される、webを用いた遠隔面接への参加を学生に促す。
- ・教職の就職に関して、キャリアサポートセンターで把握できていない情報の共有化を行い、教員とキャリアサポートセンターの連携を強化する。

【学生生活サポート対策】

- ・悩み（授業、部活動など）のある学生が、より相談しやすい体制を構築する。
- ・学科会議において学生の状況を共有する。
- ・学生同士、横の繋がりのみならず、縦の繋がりを築ける行事を開催する。
※既に実施している、茶話会、合同交流会、運動会、宿泊研修等に加えて新たな行事を検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・チューターによる学生相談に加え、保険室内の学生相談室でのカウンセラーによる学生相談を受けられることを学生に周知した。
- ・個人情報の管理に十分配慮しながら、学内のカウンセリングに関する状況をカウンセラーと関係教員とで共有し、学生指導に活かした。
- ・月1回の学科会議において、学生に関する情報交換を行い、その内容を教員間で共有した。
- ・オフィスアワーを積極的に活用するように学生に促した。オフィスアワー以外でも、何かあればチューターもしくは自分の話しやすい教員に相談が可能であることを伝えた。
- ・今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊研修・学科交流会等のイベントが軒並み中止になったことで、新入生の交流の場をつくるのが難しかったが、感染に最大限配慮することで食事会という交流会イベントを開催することで親睦を深めることができた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2～4年生においては交流会のイベントは行うことができなかった。
- ・学科戦略会議にて、学生生活のサポートにより役立つ学科行事の時期・内容等について現状の評価および次年度についての検討を行った。

《課題・次年度へ向けて》

- ・問題を抱えた学生を可能な限り早期に発見・対応するために、チューター・学科教員・カウンセラー・保護者・事務職員との連携を図ったサポート体制をさらに充実させる。
- ・よりよい学生生活を送れるようにするためにも、新型コロナウイルス感染症に最大限配慮しながら、可能な範囲で学科行事については検討し、実施する。

【退学者防止対策】

- ・チューター時間(1回/月)、ゼミ指導時間(1回/週)を通じ、学生の学業への取組姿勢、出席状況、その他の学生生活状況を把握し、学生の学習意欲、心身面の健康状況をチェックする。
- ・学科行事やゼミ活動等を通じ、異学年の学生や卒業生と交流の場を企画し、各学生が卒業までの過程をイメージした上で、卒業に向けたモチベーションを高く持ち学生生活に臨めるように学習環境を整える。
- ・退学の意向を示す学生に対しては、チューターが個別に抱え込まず、学科教員全体で当該学生の課題解決、退学防止に向けた対策を考え、実施する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・チューター時間(1回/月)、ゼミ指導時間(1回/週)での個別面談によりチューター生の学生生活状況を把握し、学業や人間関係、その他における学生生活をサポートし、大学での生活課題の抱え込み、孤立等を予防し、学生の学習・生活環境を整えた。本年度はGoogle Meetを有効活用し、遠隔での対応も行った。
- ・感染症予防のため例年実施の新1年対象の宿泊研修、1～4年対象の学科運動会はやむなく中止し

た。さらに、遠隔授業が続く中で1年生の孤立予防に向け「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の授業時間を活用し1年生と学科教員間の自己紹介交流会(7月)、ミニバレー大会(11月)等を開催し、1年生と学科教員間の信頼関係、連携力を深めた。

- ・ 昨年度に続け実施した2年生時のGPAおよび2年次までの習得単位数の基準の設置が、1～2年次の卒業に向けた共通の短期目標となり、学習目標を見失い将来の進路に悩む学生を減少することができた。
- ・ 退学や休学の意向を示す学生の悩みや意向を個別面談にてチューター、学科長が聴く場を設け対応すると共に、当該学生の現況を学科会議(1回/月)で情報共有し、学業や学生生活に課題を抱える学生を学科教員全体でフォローする体制を構築し、学科学生の退学防止に努めた。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ チューター時間、ゼミ時間等を通じた教員による個別支援の場と共に、大学での学びを活かし参加可能なスポーツ・レクリエーション活動を中心とした学科行事等を通じ、学科生1～4年間の横・縦関係による支援力を育て、学科学生が大学生活と卒業後の将来に希望をもち学業生活に臨む場を構築し、退学者防止に努める。
- ・ 2年時のGPAおよび2年次までの習得単位数に設けた基準の意義を1・2年生にわかりやすく説明し、これらの基準を1・2年生が卒業に向けた短期目標として捉え、将来に希望をもち学業に取り組む環境を整える。3・4年生については卒業、資格取得等の具体的な目標をもち主体的に学業に取り組む姿勢を、専門ゼミチューターを中心に育み指導する。

【学生指導力の向上】

- ・ チューター制度を活用し、学生の単位取得状況や生活状況を把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な助言、指導を行う。また必要に応じて保護者や関係者へ連絡を行う。
- ・ 学科教員全体で学生の情報を共有する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 学部において教育力向上のためのFDが行われ、外部講師からの講演を受け活用に努めている。
- ・ 毎月の学科会議で学生の状況について情報共有を行い、早期に支援が必要な学生について学科教員全体で支援ができるよう努めている。
- ・ 各チューターは、出席状況や成績、単位の取得状況を常に把握し、学生と面談を行うなど早期の問題解決へ導く支援を行うと同時に、必要に応じて保護者との話し合いの場を設けるなど学生支援に努めている。

《課題・次年度に向けて》

- ・ 早期に学生の変化(欠席の増加や学業不振)を把握し、各学生に応じた支援を行うことによって、留年者や退学者を出さないよう努める。
- ・ 特に遠隔授業時では、直接対面での個々の学生の様子(学習態度、生活態度等)を確認することが難しいことから、より積極的に学生との連絡を行う必要があると思われた。

【社会人としてのマナー対策】

- ・ 教員から積極的に学生への挨拶を行い、模範を示す。
- ・ 全学科教員が学生生活の様々な場面において、社会人としての態度や発言などのマナーについて必要な指導を行う。
- ・ 学科行事やイベントを通して適切な態度を身につけさせる。
- ・ 学外活動を通して、社会人としてのマナーを自覚させる。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 全学科教員は学生に対して講義だけでなく様々な場面において、社会人としてのマナーや社会性を身につけるための働きかけを行った。
- ・ 各種学外実習では、知識だけでなく、社会人として必要な態度やマナーの必要性を自覚する機会となった。

《課題・次年度に向けて》

- ・ 学科の全教員が、社会人としてのマナーの規範となるよう取り組む。
- ・ 実習や就職に向けて、社会で必要なマナーや社会人として必要な態度を身につけられるよう、教員は積極的に学生に関わり、マナー修得に働きかける。
- ・ 新型コロナウイルスのため、本来行われるはずであった学科イベント(交流会や運動会)やオープンキャンパス等のイベントが中止、縮小されたため、他学年や外部の方々とのコミュニケーションを図る機会が少なくなってしまった。今後も新型コロナウイルスの影響によるイベントの縮小は否めないことから、学内での学生間や教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう働きかけることによって社会性向上のための機会とする必要がある。

| | |
|-----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科イベントや学外ボランティアへの参加が可能になれば、様々な人々とかかわりコミュニケーション能力向上や社会人としての態度の習得のための機会にする。 ・ 学外実習を通して、社会人として必要な態度やマナーを身につける機会とする。 |
| 募集力 | <p>【学科入学定員確保のための対策】AP</p> <p>○戦略的な募集活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生や在學生に進学に関する調査を行い、戦略的に広報活動を行う。 ・ 部活動単位での募集活動を行う。 ・ 女子学生の受験者数を増やす。 ・ 県別に高校の特徴を把握し、本学科への進学が見込めそうな高校に広報活動を重点的に行う。 <p>○学内の施設・設備の整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ関連施設・設備を整備し、特色ある環境にすることで他大学との差別化を図る。 ・ グラウンドやウェイトトレーニング場を段階的かつ継続的に整備し、高校生に魅力ある環境を整える。 <p>○社会的ニーズに応じた教育力を上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はり師・きゅう師やアスレティックトレーナー、健康運動指導士、教員免許等資格等の資格取得率を上げるため、対策講座や実践的研修を実施する。 ・ 地域の要請に応じて、教員が運動指導に出向いたり、アスレティックトレーナーを目指している学生を派遣したりすることで、より活発な交流を図る。 <p>○広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSを活用し、学生目線で一般市民へ大学をアピールする。 ・ スポーツ関連の各種大会やイベントに教員やアスレティックトレーナーを目指している学生を派遣し、学科のPRを行う。 ・ 在學生が出身高校へ現況報告や実習挨拶を行う機会等を活用し、本学科のPRを行う。 ・ スポーツ関連の各種大会やイベントに教員が赴き、学科のPRを行う。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略的な募集活動については以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> ①教育実習で母校を訪問し、高校生に進学に際して大学を選ぶ理由を口頭で聞き取りを行った。特にスポーツ系の大学を選ぶ際のポイントについて聞き取りを行った。 ・ 学内の施設・設備の整備については以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> ①2号棟プレイルームにATルームの機能を持たせた。それによってオープンキャンパスや大学見学会等で施設を有効に活用できるようになった。特に高校生が施設見学をする際に鍼灸の施設と合わせて同時に見学できるようになった。 ②グラウンドの天然芝の管理ではサッカー部の学生を中心に水やり、肥料の散布、冬芝の種蒔きを計画的に行い、緑化に努めた。また、芝刈りに関しては学科の教員が行うことで、芝生の生育が促進された。 ・ 社会的ニーズに応じた教育力を上げるについては以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> ①資格取得率向上のために、各資格の担当者が模擬試験や個別に学生対応などの対策講座を行った。教員採用では、現役合格3名、AT試験1次合格は2名に繋がった。 ②ATの学生や教員が積極的に地域や高校に出向き、トレーナーとしてのサポートや講習会を実施した。特に神田助教、佐々木助教はオリンピックや日本代表関連のトレーナーとして競技団体をサポートした。また、両教員が地域のクラブチームのトレーナーとして選手のサポートを行った。 ③高大連携事業では、正野教授が高校水泳部への指導を継続的に行っている。 ④学科の多くの教員がスポーツ関連の外部団体の委員を行うことで先進的なスポーツの関連の情報を得るとともに小中高の競技団体の指導者と交流を行い、本学の広報を行った。 ・ 広報活動については、上述した通り、多角的な視点から本学の広報活動を行った。SNSの活用ではAT部サッカー部、陸上部が学生を中心に行った。また、新たな試みとしてスポ科学生のInstagramを開始し学生生活を学生目線で発信した。大学HP内の学科ブログの更新回数については新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な行事が中止となったため十分に行うことができなかった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生への進学に関する調査を、学園広報を通じて実施をお願いしたい。特に、本学科に関するスポーツ系への進学において高校生が重要視する点に関する情報を収集、分析し、戦略的に活用したい。 ・ 女子の受験生を増やすために、女子生徒が魅力を感じる点について積極的にPRしていく。また、女子教育に関する取り組みを増やしていく（学部・学科単位のみでは難しいので、大学全体として取り組めるよう学内へも働きかける）。 ・ 施設の整備では継続的にグラウンドの整備に努める。トレーニングルームの器具を段階的に入れ替えていくよう学生課と協力して行う。 ・ 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学外での募集活動が十分に行えなかった。しかし、オープンキャンパス等でgoogle meetを活用したLive配信やOB・OGとの対談等を実施した。今後も |

| | |
|-----|--|
| | <p>Web を活用した広報戦略も考えていく必要がある。そのために本学の広報活動の一助となるよう学科戦略部会で PR ポイントを整理し活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS を活用した広報活動では学生生活のInstagramを開設したが更新回数が少ないため、より多くの学生が更新できるよう協力をお願いする。 <p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> • 近隣高校を中心に、出張授業の回数を増やし、学科の魅力を発信していく。 • 在学生・卒業生が近隣高校へ赴き、学科の魅力を発信する機会を検討する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染症の影響により、近隣高校への出張授業に関して、実施することができなかった。 • 新型コロナウイルス感染症の影響により、在学生や卒業生が学科の魅力発信を目的に近隣高校へ行く機会は無かった。 • 教育実習生が学科（大学）の看板を背負って実習を行うことは、学科の魅力発信に繋がっている。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教員、在学生が近隣高校へ赴く回数を増やしていく必要がある（社会情勢を鑑みて、オンライン講座等も検討する必要がある）。 • 在学生が学科に魅力を感じ、母校や地元で本学の魅力について発信してもらえるよう、在学生への教育を充実させる必要がある。 |
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】（DP〈4〉CP1〈5〉）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学科長が学科教員に対して、年間 1 本以上の論文作成を促す。 • 学科長が学位（博士号）未取得者に対して学位取得を促す。 • 最新知識および技術を習得するため、関連学会、各種セミナーへの参加を促し、その内容を教育などにフィードバックする。 • 各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学科会議あるいは学部会議において学科長が教員および学位未取得者に対し論文作成の意義と学位取得の重要性を示した。また大学研究部門FDと共同で、「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」の研究・事業内容について、学内においてポスター発表会を年度末に開催予定であり、本学科からも1名の参加が予定されている。さらに今年度の論文等執筆について学科内調査を実施予定した。その結果、著作数（6）、論文数（7）、学会参加数（11）の各項目において前年度より増加した。また今年度より新に学内研究助成への応募および採択について追加調査した。その結果、応募（2）、採択（1）という結果であった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 論文、学会発表、科研費応募数は増加したが、新たに学位を取得した（あるいは取得予定）教員はいなかったため、学位取得の更なる促しが必要である。また本年度は学内研究推進助成である「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」への採択が 1 件あったが、学内外を問わず研究助成への採択数を増やすことが望まれる。新型コロナウイルスの影響により学会などの開催が中止や延期となったが、一部の学会ではリモートで開催されていることから、開催された関連学会等には積極的に参加することを促す必要がある。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既存施設（機器備品を含む）の最大限の活性化および有効活用・共用化促進のために、「研究機器備品一覧」を作成する。 • 各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学科における「教育施設のレベルアップのための対策」部門と協働して、学科内の教育・研究機器備品一覧を作成した。この一覧を各教員に配信し、本年度、使用した機器について記載を求め、さらに機器備品の有効活用をアナウンスした。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学備品を基に備品一覧を作成したが、他にも研究に有効活用可能な機器備品があれば、順次追記し、教員間での有効活用を促す予定である。 |

| | |
|-------------------|--|
| | <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部研究部門と連携し、外部資金獲得関連FDへ積極的な参加を促す。 ・ 大学より各教員に配信される外部研究資金研究案内について、学科会議においても周知し、応募を促す。 ・ 各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学より配信された外部資金が獲得可能な研究助成について学科会議で周知し、応募を促した。科研費を中心とした外部研究資金獲得への申請者は1名であった。また昨年度より継続が1名であった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研究資金獲得への積極的な応募を促す取り組みを継続していく。 |
| <p>地域 連携力</p> | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】（DP、CP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の依頼に応じたスポーツや健康に関する講演または講習会等を実施する。 ・ 地域との協力により、スポーツイベントを実施する。 ・ 地域の依頼に応じて、スポーツイベント等に学科教員を派遣する。 ・ 地域課題の解決を目的とし、地域の依頼に応じて、教員・学生による地域のスポーツや健康に関する調査研究を実施し、報告する。 ・ 地域の依頼に応じて、教員・学生を地域のイベントにボランティアとして派遣する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のべおか子どもセンターの依頼により、本学科教員が2回の講話をリモートで担当した。 ・ 延岡市の中高生を対象とした陸上競技の練習会に教員と学生を派遣し、指導を行った。 ・ 木城町プログラムの一環で、教員を派遣し、ICTを活用した地元中学生と大学生の交流会を実施した。 ・ 地域のスポーツチームに教員が指導者、トレーナー、学生が選手、トレーナーとして参加し活動を行った。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の施設や人材等を活用し、地域と協力したスポーツイベントを企画、実施する。 ・ イベント情報を教員が把握し、より多くの学生にイベント参加を促す。 |
| <p>総合力</p> | <p>公私協力方式で設置された本大学の使命のひとつは、地域へ学生を呼び込み（定員充足率）、建学の理念に基づいて教育し、社会に有為な人材として輩出することで地域社会の発展に寄与することである（各種試験合格率、就職率）。スポーツ健康福祉学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を本中期目標・中期計画により向上させ、それらを戦略的・有機的に統合することで、学科の総合力を高め、学生および地域にとって有益な価値を創造し、提供することを目指す（公表論文数、講習会等講師派遣数、地域連携事業数など）。</p> <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を向上させるために、本中期目標・中期計画に基づき様々な取り組みを実施した。 ・ 本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教員と学生が直接対面して行われる教育活動が大きく制限されたが、遠隔授業の経験が蓄積され、「教育力」の向上を目指した取り組みにおいて有益な発見が多くあった。 ・ 「教育力」の向上を目指し、ICTを活用した双方向型の講義を実践するために、ICT関連機器（電子黒板機能付きプロジェクター等）を導入した。 ・ 「募集力」の向上を目指した取り組みにおいては、学外での募集活動は制限されたが、オープンキャンパス等で遠隔授業の経験を活用したLive配信やOB・OGとの対談等を実施した。 ・ 「地域連携力」の向上を目指した取り組みにおいては、感染予防策を徹底して可能な限りの活動を実施した。のべおか子どもセンターの活動では遠隔での講話を実施することで、新たな可能性を見出した。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「研究力」についての改善が必要である。 ・ 「教育力」、「研究力」、「地域連携力」の戦略的・有機的な統合により、「募集力」を高める。 ・ 遠隔授業の経験によって得られた知見を活用し、総合力を高める。 |

| | |
|---------------------|--|
| <p>3つのポリシーからの総評</p> | <p>ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げた目標達成のために、本中期目標・中期計画にて策定した「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」および「総合力」を高める取り組みを行った。</p> <p>「教育力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生自ら考える力のアップへの対策（DP4）では、卒業論文発表会が実施できず、1年次からの卒業研究に向けた取り組みは未達成となり、来年度へ向けた課題となった。3年生を中心とした学生主体で卒業研究発表会の運営を行う予定であったが、これも実施できなかった（CP1<5>）。学習成果の可視化として取り組んでいる3年次卒業研究の評価基準策定の一環として、各ゼミ指導教員に3年次の成績評価の聞き取りを行った（CP3<11>）。 基礎国語力増進を図るために e-learning を活用したリメディアル教育を実施したが、後期に課題未達成者が出たため、課題達成率は97%であった。国語統一試験の点数は、1回目から3回目の点数が向上した学生は32名中27名であり、平均18.4点向上した（CP1<1>）。 専門的知識・技能の活用力向上（DP3）を目指し、社会福祉士国家試験対策では、新たな取り組みとして、苦手科目の解説授業を実施した。教員が指導する学生を担当制とし、個別指導を充実させた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で自宅学習となった場合は、模擬問題を郵送して遠隔授業にて対応した。（CP2<8>）。次年度も同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、指導を充実させていくことが求められる。はり師・きゆう師国家試験対策では、国家試験対策を講義外でも積極的にを行い、担当教員で学生の学力に合わせた個別フォローを行った。クラウドを用い、対策資料の共有や、対策問題の実施について試みた（CP2<8>）。新カリキュラムの国家試験の内容を吟味し、特に具体的な到達目標を設定したロードマップの構築が課題である。 学科教員の教育力アップの対策（CP1、CP2）については、遠隔授業への対応を通して新たな知見が蓄積された。 就職率アップへの対策（DP）については、キャリアサポートセンターの利用増加を目指したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、学生の就職活動のサポートが充分であったとは言い難い状況であった。教職担当教員の対策講座が実を結び、本年度は教員採用試験の現役合格者が3名であった。 <p>「募集力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科入学定員確保および学科の魅力発信のための対策（AP）では、教育実習や部活動を活用した取り組み、入試広報課と連携した取り組みを可能な限り実施した。遠隔授業の経験から得られた知見を活用して、オープンキャンパス等でLive配信やOB・OGとの対談等の実施を試みた。今後さらにICTを有効活用した広報戦略も考えていく。 <p>「研究力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科教員の研究力アップのための対策（DP<4>CP1<5>）は、カリキュラム・ポリシーを実践するための基礎となるものである。論文、学会発表、研究助成応募数は増加したが、新たに学位を取得した（あるいは取得予定）教員はいなかった。また、ここ数年業績のみられない教員がおり、研究活動の促進が依然として課題である。 <p>「地域連携力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科の地域連携力アップのための対策（DP）は、地域社会に貢献するとともに、カリキュラム・ポリシーを実践する貴重な場でもある。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くのイベントが中止、または様々な制限を受けた。その一方で、ICTを活用した情報発信により新たな可能性を見出すことができた。今後も、新たな地域連携の方法を模索し、活用できるようにしていく。 <p>「総合力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を向上させるために、様々な取り組みを実施したが、「総合力」を高めるためにはまだ不十分である。次年度も本中期目標・中期計画に基づき改善を図っていく。 |
| <p>次年度への展望（まとめ）</p> | <p>第2期中期目標・中期計画の実施2年目では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、取り組みに大きな制約があった。その中で取り組んだ遠隔授業への対応から、授業や業務の改善方法や手段を考えるにあたって新たな視点を得ることができた。</p> <p>本学科の現状は、福岡県に新設された他大学のスポーツ系学部・学科の影響を受け、3年続けて定員を確保できていない。しかし、さまざまな対策を講じ、受験者、入学者とも増加傾向にある。引き続き次年度も、本学科へ進学したいという高校生に対する魅力づくりと、それらを広報する策についてさらに検討を重ね、可能なものから実施していく。</p> <p>取り組みの改善によって成果が出始めたものと、まだ目に見える成果としてあらわれていないものがある。2年目の実施・評価結果を次年度に活かし、さらなる学生生活の充実を図り、学生の満足度を高めることを目指し、課題として挙げられたところは改善策を講じながら計画を遂行していく。</p> |

九州保健福祉大学 社会福祉学部 臨床福祉学科

2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|--|--|
| <p>ビジョン (教育目標)</p> | <p>九保大だから学べる「人の生き方を支える幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p> |
| <p>学科からの メッセージ</p> | <p>臨床福祉学科の教育には、誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現を目指して、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を育成する「臨床福祉」と、カウンセリングの専門性を有する心理・福祉の専門職を育成する「臨床心理」の2つの専攻がある。現在社会では、悩みや問題を抱える方の生活を支える福祉学と心を支える心理学の専門的な知識と技術を備えた人材がますます必要となっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養する。</p> |
| <p>教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p> | <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(6) (7), CP(1-7) (2-1) (3-3) ■卒業研究評価用ルーブリックの導入の検討を進め、学科共通および専攻ごとの試案を作成し、試案に基づいた卒業研究指導のあり方を学科で共有したうえで指導を実践し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究発表会の実現を目指す。 ■全ての講義において学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。</p> <p>・卒業研究評価用のルーブリックの導入を検討する。アクティブラーニング実施科目における現状と課題の分析を行う。 その結果をもとに、導入可能なルーブリックの試案を作成し、卒業研究指導のあり方について学科で共通理解を行い実践し、最終的にはルーブリックに基づいた卒業研究発表会を開催する。 また、アクティブラーニング実施科目について拡大するとともに根幹をなすスモールグループディスカッションの効果的な実施方法について検討・評価・改善を並行して行う。</p> <p>【2019年度の取り組み状況】 ・卒業研究評価用ルーブリックの導入を検討進めたが、学科共通および専攻ごとの試案作成までは至らなかったが、専攻ごとの卒業研究発表会の実施を実現した。 ・全ての講義での全面的なアクティブラーニングの導入には至らなかったが、個別の講義においてはアクティブラーニングの導入が進んだ。</p> <p>【次年度の課題】 ・卒業研究における学生の自ら考える力とは何かについて学科教員間においてさらなる共通理解を深めながら卒業研究評価用ルーブリックの試案作成を目指す。 ・アクティブラーニングを導入した講義における学習効果について検討を行い、さらなるアクティブラーニングの効果的な導入を検討する。</p> <p>【2020年度の取り組み状況】 ・卒業研究における学生の自ら考える力とは何かについて学科教員間においてさらなる共通理解を深めながら卒業研究評価用ルーブリックの試案を作成し一部教員による先行実施を行なった。 ・アクティブラーニングを導入した講義における学習効果について検討を行い、さらなるアクティブラーニングの効果的な導入を検討したが、途中、オンライン講義への対応などあり、十分な検討に至らなかった。</p> <p>【次年度の課題】 ・引き続き、卒業研究評価用ルーブリックの採用を目指し、コロナ禍の影響を加味してオンラインに対応したものを試作して卒業研究発表会の開催を目指す。 ・コロナ禍の影響を加味してオンライン講義にも対応したアクティブラーニング導入を行い、制限のある講義環境においても学習効果を高める工夫を検討する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】DP(3) (4) (5) (6), CP(3) (8)</p> |

■基礎演習および e-learning を活用した国語力増進プログラムを構築し、文章力・読解力の基礎を身につけ、専門書の内容理解やレポート報告書の作成、卒業論文の執筆ができるようにする。同時に論理的思考を身につける。

・中期計画第1期では学生自身が積極的に e-learning による学習を進めることができなかった。初年度は学生が自発的に取り組む学習プログラムを再検討し試行し、計画的に検証し改善を行い、学習プログラムならびに学習効果の測定方法を構築する。

【2019 年度の取り組み状況】

・学生ごとの文章力と読解力のレベルを確認テストにより評価し、それぞれのレベルに合わせた学習プログラムを作成した

・また、それぞれの学習の到達目標を示し、学習への動機づけを図った

【次年度の課題】

・半期(5-7月、10-1月)単位での学習プログラムを構成したが、学期末直前の駆け込み学習が見られた

・再度、学習プログラムを検討するとともに、学期を通じた継続学習に取り組ませる工夫を検討する。

【2020 年度の取り組み状況】

・文章力、読解力の向上に関わる学習内容を再検討し、4-9 月期、10-1 月期に分けて課題を設定し、実施した

・留学生向けの学習プログラムを別途検討し、課題の設定および実施をした

・2 年次へ向けた学習への動機づけとスムーズな学習移行のために、2-3 月期の春季休業課題を設定した

・1 年次必修科目「基礎演習 I・II」において、学習への動機づけを図った

【次年度の課題】

・おおむね順調に取り組むことができた

・設定した課題以外への取り組み意欲を高める工夫を検討する

【国語以外のリメディアル教育への対策】DP (6), CP(3) (8)

■統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキルの習得プログラムの作成と導入方法の検討ならびに実施(福祉専攻)

【2019 年度の取り組み状況】

・文章力・読解力の育成に精力を傾けざるを得なかった状況であったため、統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキル習得の指導にはほとんど着手できなかった。

【次年度の課題】

・基礎演習の指導プログラムを再調整し、統計や社会調査等のデータの取り扱いに関する基礎能力も育成できるよう取り組む。

【2020 年度の取り組み状況】

・e-learning を活用した統計学習プログラムを検討したが、本学科で必要とする学習内容と e-learning の学習内容のマッチングをさせることができなかった

・社会調査法の講義時間の 1 コマを使い、演習形式で概略を学ばせた

【次年度の課題】

・引き続き、e-learning を活用した統計学習プログラムの検討をおこなう

・社会調査法の講義計画を見直し、統計や社会調査等のデータの取り扱いに関する基礎能力も育成できるよう検討する

■大学院進学希望者への受験対策として高校英語の再学習の機会を設け、語学力の増進を図る(心理専攻)

【2019 年度の取り組み状況】

・2年生1名、3年生4名、4年生2名に対して個別の英語学習を行った。今年度の参加の4年生2人は国内の大学院私学希望ではなく、海外の大学院進学に向けて準備をしている。3年生、2年生の参加者に関しては、国内の大学進学を希望している。

【次年度の課題】

・心理学系大学院への希望者だけでなく、留学希望者も増えてきているため、海外への大学院進学の実策も行う必要がある。

【2020年度の取り組み状況】

・希望者にキャリアグラムとは別に高校英語の再学習の機会を設けて指導を行なった。ただ、途中、対面学習が困難であったため例年とくらべ時間数が減少した。

【次年度の課題】

・コロナ禍の終息が未知数なため、オンライン指導を通じた学習の機会を確保する必要がある。

【国家試験合格率アップへの対策】DP(3), CP(5)(6)(7)

■臨床福祉学科において社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格に関する知識、技術、価値を修得し、資格取得を目指すすべての学生が確実に国家試験に合格する。

- ・学部共通科目である時事福祉学への受講を促す。
- ・2年次から国家試験対策学習支援を実施する。
- ・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験合格率アップのためのロードマップを作成する。
- ・1年次から資格関連科目授業において、資格取得の意義・意識づけを行う。
- ・計画的に国家試験結果を振り返り、時事福祉学での国家試験対策の検討・評価・改善を行う。また、年度初めに模擬試験を実施し、2年次からの国家試験対策学習支援の成果を評価し、学習支援の方法を検討する。

【2019年度の取り組み状況】

＜社会福祉士国家試験対策＞

- ・学部共通科目の時事福祉学では、受験予定者26名が17回の模擬試験(内有料模擬試験4回)を受け、その成績評価を踏まえ、個別指導を充実した。今年度は全国有料模擬試験結果で第1位の学生もおり、学生同士の勉強会の機運も高まった。
- ・本試験終了後にマークシートの提出を求め、受験者26名中22名(84.6%)から提出された。
- ・2年3年については、自主勉強会を企画し前期8回、後期10回の計18回の模擬試験を実施した。今年度新たな取り組みとして科目担当教員による解説時間を設定した。希望者は前期58名、後期52名であった。ただし、後半になるにつれて参加者が減少したことから、継続的な学習支援が課題である。
- ・大学休業期間中は演習室を開放し、自主的な学習環境を整えた。

＜精神保健福祉士国家試験対策＞

- ・社会福祉士同様、時事福祉学で17回の模擬試験(内有料模擬試験3回)を実施し、その成績評価を踏まえ個別指導を行った。また、精神保健福祉士のみ受験の学生には、社会福祉士専門科目(相談援助・高齢者・就労支援・更生保護)の模擬問題も実施し、基礎力の強化を図った。
- ・試験対策ではグループによる試験勉強を行うとともに、受験者9名が協力し勉強に取り組めるよう、学習面だけでなく精神的側面、心理的側面に対しても働きかけを行った。
- ・社会福祉士同様、冬休みの大学休業期間中も演習室を開放し、自主的な学習環境を整えた。

＜介護福祉士国家試験対策＞

- ・1年次より、終了した科目ごと課題を実施した。また、夏季・冬季・春季の休業時期にも課題を実施した。
- ・4年生は模擬試験を8回と科目ごとの試験対策を実施した。成績が振るわない学生には、追加模試を実施した。
- ・最初から正誤は教えず、一から自分で調べ解答を書くよう指導していた。解答内容を教員が確認し、調べ方ができていない学生に対しては、調べ方や勉強の方法などを指導した。

【次年度の課題】

＜社会福祉士国家試験対策＞

- ・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、指導を充実していくことが求められる。
- ・2年3年生の自主勉強会では、継続的な学習に取り組むための実施方法を検討する必要がある。

＜精神保健福祉士国家試験対策＞

- ・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。
- ・4年次夏季に実施される病院実習での学びを国家試験勉強につなげるために、専門科目に関する国家試験の出題傾向を前期に掴めるよう指導する。
- ・4年次は、病院実習、卒業論文作成、就職活動などストレスの多い時間となるので、前向きに課題に取り組めるように、必要に応じて精神的・心理的側面の支援を行う。

＜介護福祉士国家試験対策＞

- ・不得意科目や間違えやすい問題の傾向などを分析し、個別に対応していく必要がある。
- ・すぐに「解答を下さい」と学習に対し受動的な学生が多い傾向がある。学習の方法など1年次からの指導・対策が必要である。

【2020年度の取り組み状況】

＜社会福祉士国家試験対策＞

- ・学部共通科目の時事福祉学(30名内:臨床福祉学科21名)では、17回の模擬試験(内有料模擬試験3回)を実施した。新たな取り組みとして、苦手科目の解説授業を5回実施した。教員の指導学生を担当制とし、個別指導を充実した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4回自宅学習となったが、模擬問題を郵送して、遠隔授業にて対応した。
- ・コロナ感染防止策を徹底し、年末年始も演習室を開放して学習環境を整えた。
- ・2年3年については、自主勉強会を企画し実施した。前期は3年生対象に5回(29名)、後期は2,3年生対象に6回(69名)の計11回の模擬試験を実施した。科目担当教員による解説時間も設定した。また、相談援助実習の基礎知識としての試験問題と連動させて、習得状況を確認した。

＜精神保健福祉士国家試験対策＞

- ・社会福祉士同様、時事福祉学で17回の模擬試験(内有料模擬試験3回)を実施し、その成績を踏まえ指導を行った。
- ・精神保健福祉士のみ受験の学生にも社会福祉士専門科目の模擬問題を実施し、基礎力の強化を図った。
- ・試験対策では、コロナ感染防止対策を行いながら2~3名で問題に取り組む形式で試験勉強を行った。
- ・受験者11名が協力し勉強に取り組めるよう、学習面だけでなく精神的側面、心理的側面に対しても働きかけを行った。
- ・社会福祉士同様、年末年始も演習室を開放し、学習環境を整えた。

＜介護福祉士国家試験対策＞

- ・1~3年生は、終了した科目ごとに、また、夏季・冬季・春季の休業時期にも課題を実施した。4年生は模擬試験を8回と科目ごとの試験対策を実施した。成績が振るわない学生には、追加模試を実施した。
- ・模試実施後の指導は、最初から正誤は教えず、一から自分で調べ問題用紙に解答解説を記載するようにした。教員が記載内容を確認し、調べ方ができていない学生に対しては、調べ方や勉強の方法などを指導した。
- ・新しい取り組みとして、ポーターラインの学生に対し、1月上旬より週に2回模試を実施した。

【次年度の課題】

＜社会福祉士国家試験対策＞

- ・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、指導を充実していくことが求められる。

・2年3年生の自主勉強会では、オリエンテーションにて国家試験の概要や早期に取り組むことの必要性を説明し、勉強方法の習得と継続的な学習の習慣化のための方策を検討していく。

＜精神保健福祉士国家試験対策＞

- ・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。
- ・4年次夏季に実施される病院実習での学びを国家試験勉強につなげるために、専門科目に関する国家試験の出題傾向を前期に掴めるよう指導する。
- ・4年次は、病院実習、卒業論文作成、就職活動などストレスの多い時間となる。また、コロナ感染対策により様々な制約のなかでの試験勉強となるため、前向きに課題に取り組めるように、必要に応じて精神的・心理的側面の支援を行う。

＜介護福祉士国家試験対策＞

- ・本年度同様にロードマップを作成し、計画的段階的に取り組んでいく。
- ・社会福祉士とのダブル受験の学生、介護福祉士のみ受験の学生と混在している。また、学習成果がなかなか得られない学生等、学生の個別性に応じた指導を実施していく。
- ・すぐに「解答を下さい」と学習に対し受動的な学生が多い傾向がある。学習の方法など1年次からの指導・対策が必要である。

【学科教員の教育力アップの対策】CP

■「学習成果の可視化」に向けた授業改善の仕組みの導入

- ・学部FDの積極的参加を促す。
- ・「学修成果の可視化」に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行う。

【2019年度の取り組み状況】

- ・教員に対して学部FDへの参加を促した。

【次年度の課題】

- ・「学習成果の可視化」に向けて、2019年度が具体的な取り組みを十分に進めることができなかった。2020年度は、学科教員間で連携し、教員相互による授業改善の仕組みの具体化に向けて、検討・評価・改善を試みる。

【2020年度の取り組み状況】

- ・教員に対して学部FDへの参加を促した。
- ・「学習成果の可視化」に向けて、2020年度はコロナ禍により授業形態が不規則なため、具体的な取り組みを十分に進めることができなかった。

【次年度の課題】

- ・学科教員間で連携し、教員相互による授業改善の仕組みの具体化に向けて、検討・評価・改善を試みる。

【教育施設のレベルアップのための対策】DP(3)(6)(7)、CP(6)(8)

■学生の学習場所を整備する。具体的には、4年間で学生が利用しやすい環境を作るため、学習資料やPC等の学習ツールを順次、設置する。

- ・学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。
- ・演習室について修繕する物品(いす・机等)があれば、各演習室に関する窓口を設け、対応する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)の利用状況を把握し、必要な設備を調査する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)で学生が使用できる学習資料や学習ツール(インターネットが使えるPC等)を充実させる。

【2019年度の取り組み状況】

- ・学生の学習場所として演習室を開放し、5階の演習室にはパソコンとプリンターを自由に利用できるように設置し、ゼミ活動や自己学習等での利用を促している。

・使用状況は主に4年生が国家試験対策やゼミ活動で授業の空き時間に使用している状況である。また、3年生も授業課題を行うため、空き時間にパソコンを利用している状況である。

【次年度の課題】

- ・学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策・ゼミ活動等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。
- ・演習室について修繕する物品(いす・机等)があれば、各演習室に関する窓口を設け、対応する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)の利用状況を把握し、必要な設備を調査する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)で学生が使用できる学習資料や学習ツール(インターネットが使えるPC等)を充実させる。

【2020年度の取り組み状況】

- ・学生の学習場所として演習室を開放した。ゼミ活動及び国家試験対策での使用が主であった。
- ・感染予防対策として、演習室の人数制限や換気の声掛け、マスク着用の徹底などの指導が必要な学生がおり、随時指導している。また、年明けより使用ルール等の掲示をした。
- ・学習資料やツールの充実については、パソコンやプリンターの整備を随時行っている。

【次年度への課題】

- ・学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策・ゼミ活動等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。
- ・演習室の利用についての注意書きを掲示し、開放時間や感染予防対策の徹底、使用ルールなどを理解してもらう。
- ・演習室について修繕する物品(いす・机等)があれば、各演習室に関する窓口を設け、対応する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)の利用状況を把握し、必要な設備を調査する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)で学生が使用できる学習資料や学習ツール(インターネットが使えるPC等)を充実させる。

【就職率アップへの対策】DP, CP(11)

■就職率100%を達成するため、教員間の連携の下、学生の個性や多様性を尊重したニーズに添った就職支援を推進する。また、推進にあたっては、地域社会や福祉現場、保護者、関係機関・団体等との連携を強化し、人材ニーズ把握に努めるとともに、キャリア教育、就職支援体制の充実強化に努める。

- ・キャリアサポートセンターとの連携による支援体制の強化に向けた取組を行う。
- ・学生に対し、キャリアサポートセンターの積極的な活用を促すとともに、就職先情報を共有し個別指導に活かす。
- ・インターンシップへの積極的な参加を促す。
- ・就職面談会(本学、他機関実施)の情報把握と学生への参加を促す。

【2019年度の取り組み状況】

- ・キャリアサポートセンターとの連携を図り、就活状況などの情報把握に努めるとともに学科内への情報提供に取り組んだ。
- ・キャリアサポートセンターについて、学生へ活用を促すとともに、就職先の情報把握に努め、適宜情報の提供を行った。
- ・インターンシップについては、2名がフェニックス自然動物園、黒瀬水産で行っている。
- ・7月本学開催の就職面談会には学科教員が積極的に出席し、学生の面談状況を確認したり、事業所選定の助言を行ったり、面談会の運営を支援した。
- ・臨床福祉学科の前年度の就職率は国家試験終了以降の年度末にかけて上がるので、昨年度同様の数値は期待できる。なお、キャリアサポートセンターへ進路確定の状況報告を行うよう指導している。

【次年度の課題】

- ・キャリアサポートセンターと教員間の就職情報や就活状況について、さらに密な情報共有化について強化する必要がある。

・4年生が国家試験終了後、就職活動や国家試験の取組について在学生の疑問や不安について学生同士で情報交換をする機会を設ける必要がある。

・3年生への就活への心構えや取組方法について、キャリアサポートセンターと連携して、早期に対応する必要がある。

【2020年度の取り組み状況】

・キャリアサポートセンターから、適宜、学科在籍学生の就活状況について情報取得を行い学科内への情報共有化を図った。

・キャリアサポートセンターについて、学生へ活用を促すとともに、就職先の情報把握に努め、適宜情報の提供を行った。

・2020年度はコロナ禍の影響に伴う、キャリアサポートセンターが実施した、WEB面接対策講座やキャリアサポートセンターホームページを活用した動画配信、WEB就職面談会等の活用を促した。

・インターンシップについては、2月に1名が企業のリモートインターンシップを受ける予定である。

・臨床福祉学科の2月初旬(2021年2月5日現在)の就活状況は下記のとおりであるが、未定者の就職については、キャリアサポートセンターと連携して支援していく。なお、学科の就職率は国家試験終了以降の年度末にかけて上がるので、昨年度同様の数値は期待できる。

また、キャリアサポートセンターへ進路確定の状況報告を行うよう指導している。

(2020年2月5日現在就活状況)

在籍者40名(休学者1名含)の内、内定者25名(公務員4名含)、進学(大学院)2名、未定者12名

・4年生の情報交換会は行えなかった。

【次年度の課題】

・キャリアサポートセンターと教員間の就職情報や就活状況について、さらに密な情報共有化について強化する。

・3年生への就活への心構えや取組方法について、キャリアサポートセンターと連携して、ゼミの時間等を活用した説明会を行うなど、早期に対応する必要がある。とりわけ、公務員試験対策等、計画的な取組を支援する。

・4年生においては、ゼミ担当教員と連携し、前期の早い段階において、自身の勉強の進捗、実習、国家試験の準備等を踏まえた、年間スケジュールを立て、早めの就職活動を始めるよう促す。

・就活情報の取得について、キャリアサポートセンターの活用を促すとともに、施設実習やインターンシップ等の機会の活用、卒業生からの情報収集、家族や知人の情報等、主体的な情報取得に努めるよう促す。

・新型コロナ感染の影響で、例年の採用状況とは異なる状況が懸念されるので、状況に合わせた支援を行う。

【学生生活サポート対策】

■学生の悩みを早期発見できる支援体制の構築。

・オフィスアワーだけでなく、相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。

・チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。

・学生の相談内容について、場合によっては学生課や学科で情報を共有し、安心・安全な生活を支援する体制を構築する。

・個々の取り組みについて検証するため、学科会において個々の教員がどのような工夫や支援を行ったか、また、学生がどのような生活課題を抱えているのかを共有し振り返りを行い、内容によっては教員だけでなく、専門職(カウンセリング・学生課等)と連携を図るシステムを構築する。

【2019年度の取り組み状況】

- ・学科会議で気になる学生について報告し情報の共有を図った。また講義中の学生の心身状況について、気になったり異変があったりする場合はその都度、チューターに報告した。
- ・大学全体で「多様な学生」についての支援方法を今後どのように行うべきかの第1回会議が開催された。明確な方向性は打ち出されなかったものの各学科での状況を知ることができた。
- ・学科全教員の研究室のドアにオフィスアワーの時間帯を明記しているため、学生が相談をしやすい環境になったと考える。
- ・新入生が早期に大学の雰囲気慣れるよう、今年も在学生在が主体となって教員も含め親睦会を開催した。

【次年度の課題】

- ・学内での状況を教員が常に観察し些細なことでも何かあればチューターと連携を図り学生を支援することが必要である。しかし次年度より改組の為、心理の2年生から4年生についての情報が今までどおり共有されない可能性が生じてくるため、この点を検証する必要がある。
- ・入学性が減少しているなか、これをチャンスと捉え新歓では横の繋がりだけではなく縦の繋がりを今まで以上に太いパイプができるよう新歓の内容について検討することが必要である。

【2020年度の取り組み状況】

- ・学科会議で気になる学生について報告し情報の共有を図った。また講義中の学生の心身状況について、気になったり異変があったりする場合はその都度、チューターに報告した。
- ・出席状況、授業態度など気になる学生についてはチューターに連絡し、早期に学生との面談等を実施し学生に寄り添い、不安や困りごとに対応した。
- ・コロナ禍での入学となった1年生に対し、できる限り大学の雰囲気慣れるように学科全教員でコロナ対策に留意しながら様々なイベントを開催した。

【次年度の課題】

- ・コロナ禍のなか、経済的・心理的な問題を抱えた学生に対し早期に対応できるよう教員間での連携を図る。
- ・入学者に対してコロナ対策を実施しながら大学生活に1日でも早く適応できるようチューターや学生と交流を深められるようなイベントを検討する。
- ・1人暮らしを始めた新入生に対して、在在学生からのアドバイスを得られるような場の設定を検討する。

【中途退学者防止対策】CP(1)(5)(6)

■中途退学者ゼロに向けた支援体制の構築。

- ・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。
- ・連続欠席者について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。
- ・転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。
- ・転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。
- ・中途退学の学生の原因を分析し、対応策を検討する。
- ・中途退学防止に有効であったと考えられる支援を教員間で共有する。

【2019年度の取り組み状況】

- ・今年度の臨床福祉学科の退学者は3名(福2名、心1名)であった。
- ・気になる学生については学科会議で報告され、教員間での情報共有が行われた。またチューターや科目担当者を中心に早期対応が行われた。
- ・転学科してきた学生に対しては、チューターを中心に年度当初の時間割作成をはじめ積極的かつ丁寧な指導を行った。今年度に転学科してきた学生では中途退学者はいなかった。

【次年度の課題】

- ・学生の抱える問題は多岐にわたり、学内で早期発見しても解決への対応が難しいことが増えてきた。そのため、来年度には、中途退学の原因を中心に学生の抱える問題について整理する必要がある。また、これまでに行った退学防止の支援をふまえ、有効な対応策について十分な検討が必要である。

【2020年度の取り組み状況】

| | |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の臨床福祉学科の退学者は1名(臨床心理専攻)であった。 ・気になる学生について各専攻会議で報告され、教員間での情報共有が行われた。またチューターや科目担当者を中心に早期対応が行われた。今年度は、学年及び専攻によって履修科目が大きく異なっており、加えて学部改組があったため、専攻を超えた情報共有は困難もあったが、個々のケースに応じて対応がなされた。 ・転学科してきた学生に対してはチューターを中心に年度当初の時間割作成をはじめ積極的かつ丁寧な指導を行った。今年度に転学科してきた学生では中途退学者はいなかった。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学科教員の学生対応が功を奏して中途退学者が減少したと考える。ただ、学生の抱える問題については整理できていないので、引き続き検討が必要である。 <p>【社会人としてのマナー対策】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学科教員から学生に積極的な挨拶をする運動を推進する。 ■各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。 <p>・教員から学生へ積極的なあいさつ運動を実施し、チューター・ゼミ担当教員が普段から細やかな指導を行い、学生にどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認する。初年度の施行の結果を基に、取り組みを検証したうえで、指導計画に修正を加え、試行を重ね、指導体制のさらなる充実を図る。</p> <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の全教員が講義前後で挨拶を行うなど、メリハリのある授業態度を身につけるよう指導を実施した。また講義以外での日常生活においても教員から積極的に挨拶や声掛けを行い、社会性を身につけることができるよう働きかけを行った。 ・特に1年生にはチューター時間や基礎演習の時間を利用して声掛けを行い、今後行われる実習等で必要とされるマナーの修得に努めた。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も様々な側面において、教員が積極的にマナーの規範となるよう取り組む。 教員が学生に積極的に関わりマナー修得に働きかける。 ・学科のイベントなどを通して、多くの人と関わりマナーについて学ぶ機会にする。また積極的に学外でのボランティア活動への参加を促し、大学以外の社会を体験することで社会性やマナーを学ぶ機会にする。 ・学外実習(社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)を通して、将来必要とされる社会人としてのマナーを身につける。 <p>【2020年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の教員が講義の前後や廊下等で積極的な挨拶を行った。特に、1年生は基礎演習の時間やチューター時間に、3年生以上はゼミ時間等において、あいさつを奨励した。 さらに、メールや手紙の書き方や電話のかけ方などを指導し、多少の効果が出ている。2年生以上は、実習先への訪問のマナーなどの必要なマナーを指導した。3年生は各国家資格(社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)の実習指導において毎回の授業の時間はもちろんマナーの時間を設けて指導した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も様々な側面において、教員が積極的にマナーの模範となるよう取り組む。 ・今年度の取り組みを継続し、基礎演習や実習指導の中で敬語や手紙やメールの書き方、電話のかけ方などを指導する。また、ボランティアの参加などを奨励し学外の大人との関わりを持ちながらマナーを実際に身につけるよう指導する。 |
| 募集力 | <p>【学科入学定員確保のための対策】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講座等を活用して社会福祉に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、指定校・推薦入試を中心に早期の入学希望者の増加につなげる。 |

| | |
|-----|--|
| | <p>また、在学生の満足度の向上を目指し、退学を防止するとともに学生自らが本学科の魅力を発信したくなるような学科を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科の教育理念、方針(社会福祉の必要性を基礎に)についてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかす。 ・入試広報室と定期的に情報交換会を設け、広報活動のあり方を協議する。 ・在学生や卒業生が活躍している様子を出身校に伝える。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集用の新たなチラシの検討、作成を行った。 ・入学者にアンケート調査を実施して入学動機、傾向の把握を行った。 ・在学生から出身校に向けての手紙を送付した。 ・高校訪問、出張講義等積極的に参加した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員確保にまでは至っていないため、引き続き対策を検討して実施する。 <p>【2020年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集用のチラシ配布を広範囲に行った。 ・入学者にアンケート調査を実施して入学動機、傾向の把握を行った。 ・在学生から出身校に向けての手紙を送付した。 ・高校訪問、出張講義等積極的に参加した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で直接訪問ができない場合の広報のあり方について検討が必要である。入学希望者が増加傾向であるため、その要因について分析する必要がある。 <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <p>■大学生活の魅力も含め、臨床福祉学科で学べることを多世代にわかりやすく伝える。宮崎県で唯一、専門的に社会福祉・心理が学べる大学として、宮崎県の社会福祉を支えてきた実績や、本学科の卒業生の幅広い活躍を発信する。また、本学科に在籍するからこそ経験できることも積極的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。 ・ホームページのブログを活用して、学科の近況をアップする。 ・保護者通信で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。 ・オープンキャンパスについて今までの内容を検証し、変更点も含めて検討する。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科での取り組みや、国家試験対策等ホームページにて掲載した。 ・定期的なブログの更新を行った。 ・定期的な保護者通信の作成、発送を行った。 ・オープンキャンパスに新たなプログラムを追加して実施した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床福祉専攻のアピールについて再度検討が必要である。 ・ホームページ、ブログの充実を図る。 <p>【2020年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験の合格情報やスクールソーシャルワーカー養成課程についてホームページにて掲載した。 ・定期的なブログの更新を行った。 ・定期的な保護者通信の作成、発送を行った。 ・オープンキャンパスに新たなプログラムを追加して実施した。 ・オープンキャンパスはオンラインでの参加も可能な体制を整備した。 ・本学科の入試合格者へ学科案内チラシを送付した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに最新情報を積極的に掲載する。 ・ブログの更新回数を増やす。 ・大学見学会、オープンキャンパス等、オンラインでの参加を見込んだプログラムの充実を図る。 |
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】DP(4) (6) (7) ,CP(8)</p> <p>■教員の研究力のレベルアップを図り、学術論文の数を増やす</p> |

| | |
|-------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 ・研究力アップの仕組みを充実させ、研修等で周知する。 ・学術雑誌への積極的な投稿を促す。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床福祉学科の教員3人でワーキンググループを立ち上げ、研究力アップの仕組みを検討した。 ・ワーキンググループから、教員に対して査読付き論文である最新社会福祉学研究への積極的な投稿を促した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新社会福祉学研究への投稿数をさらに上げるため、より積極的な投稿を促していく方法を検討していく必要がある。 <p>【2020年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に対して積極的に学術論文に投稿するように促した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に対してインパクトファクターの高い学術誌への投稿を促していく。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】DP(1)(3)(7),CP(8)</p> <p>■研究に必要な施設の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な研究設備の調査。 ・研究施設充実のための資金調達の検討。 ・必要な教育研究整備を行う。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループで必要な研究施設の調査、資金調達の方法について検討した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も研究施設についての調査がすすめられるが、資金調達に関しては外部資金等の活用等も関わってくる課題でもあり、教員の研究内容を考慮しながら、さらに詳細に検討を進め行く必要がある。 <p>【2020年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究施設についての調査を継続的に行った。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続的に研究施設についての調査を行い課題等を検討する。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】DP(1)(6)(7),CP(8)</p> <p>■科研費申請の増加を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促す。 ・研修等で得た知識を活かして外部資金を獲得するための対策を立てる。 ・科研費や外部資金への積極的な申請を促す。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得のための研究計画の書き方等を検討した。 ・ワーキンググループから、外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促した。 ・社会福祉学科から5件の科研申請があった。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に対する研修・FD等のさらなる参加を学科教員に促す。 ・科研費申請の件数をアップさせるための方策を検討する。 <p>【2020年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ分野の教員同士で研究力アップのための話し合いを行った。 ・教員に対して積極的に科研だけでなく、それ以外の外部資金の獲得を促した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間で連携して研究力アップの具体的な仕組み構築に向けて検討、評価を行っていく。 |
| 地域連携力 | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <p>■学科教員の専門知識・技術を地域に提供する機会を増やすとともに、地域との連携・協働事業を推進し、地域の活性化、地域課題の解決、生涯学習等に寄与できる教員の地域連携力をアップする。また、学生への教育力にも波及させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況(連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況)を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析 |

| | |
|------------|--|
| | <p>し、連携関係の強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する(自治体・関係機関等) ・連携推進に係る検討チームを設置し、地域の要請に応えられる相談窓口を検討する。 ・地域連携推進事業成果報告会を開催し、今後の方向性を検討する <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体や関係機関との連携事業が推進されている。例として、延岡市委託によるJKC事業、木城町との連携事業、延岡市社会福祉協議会との協働による災害ボランティアセンター設置運営訓練等にて教員や学生の参画により実施されている。大学ホームページにて社会貢献に関する活動状況を公開している。 ・各自治体や関係機関からの各種審議会、委員会委員を積極的に担い、地域のニーズに応じて役割を果たしながら、地域連携を推進してきた。 ・次年度の県事業の実施に向けたワーキングチームを編成して検討を行った。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの連携活動状況について、教員間で共有する機会をつくり、さらなる連携力アップに向けた検討が必要である。 ・連携推進に係る検討チームを編成し、学科教員の総力で地域連携力を高めていくことが求められる。 <p>【2020年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治体や関係機関から依頼されている各種審議会、委員会委員の活動状況について、教員間で情報共有した。2020年度の実績として、自治体や各種団体の委員には50件、会議・研修講師派遣対応には31件の活動であり、地域のニーズに応じて役割を果たしながら、地域連携を推進してきた。 ・今年度新規事業として、宮崎県人権啓発推進協議会の受託事業「人権啓発活動協働推進事業」では、臨床福祉学科が中心となり、ワーキングチームを編成し、事業を実施した。 ・継続的な連携事業として、延岡市委託によるJKC事業、木城町との連携事業、延岡市社会福祉協議会との協働による災害ボランティアセンター設置運営訓練等にて教員や学生の参画により実施されている。大学ホームページにて社会貢献に関する活動状況を公開している。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携活動状況について、教員間で共有する機会(報告会や意見交換会等)をつくり、地域が大学や教員に求めているニーズを把握し、さらなる連携力アップに向けた検討を行っていく。 ・連携推進に係る検討チームを編成し、学科教員の総力で学生を含めた地域連携力や地域発信力を高めていくことが求められる。 |
| <p>総合力</p> | <p>【総合力】AP DP CP</p> <p>■臨床福祉学科の強みでもある、学生に寄り添った丁寧な指導・対応、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の国家資格、高校の教職(福祉)・認定心理士など多様な資格の養成、就職率 100%、これらをさらに充実させ、「福祉」や「心理」の専門職として社会に有用な人材が輩出できるよう教員一丸となって、教育・指導に取り組む。また、研究活動、地域貢献(学生を含めた地域活動を含む)を推進し、魅力ある学科づくりを目指す。臨床福祉学科の強みを基に、学生募集PRを積極的に取り組み、入学定員充足率 100%を目指す。</p> <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議を定例化し事前に会議内容等を送信し、効率化・充実化を図った。学生に関することは学科内で共有し、該当する教員への指導の依頼を行った。平成 31 年度、12名の転学部・転学科生と1名の編入学生がいるが、教員の学生に寄り添った丁寧な指導により、退学者は現在3名である。また、各国家資格の受験対策は、ロードマップを作成しいままでの取り組みを継続・強化している。入学定員の充足に関しては、今年度の取り組みとして、職能団体(社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員等)の協力を得て、会員宛ての文書に学科のチラシを同封した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員の確保に向け、更なる取り組み(仕掛け)が必要である。また、臨床心理学部が新設し心理専攻の教員は2つの学科に所属するため学科教員の連携のあり方を考えていく必要がある。 ・「福祉」「心理」は、今の日本にとって必要不可欠な分野であることの魅力発信活動を展開する必要がある。 <p>【2020年度の取り組み状況】</p> |

| | |
|---------------------|---|
| | <p>ディプロマポリシーに(DP)掲げている福祉・心理の専門職として必要な基礎知識・技能を修得し実践力を備えた人材育成を目指し、中期目標・中期計画に基づき取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期目標・中期計画を円滑に実践するには、学科内での教員間の連携が必要である。本年度より、改組により教員間の連携が難しい状況があったが、教員が協力し連携することができた。 <p>「教育力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で卒業研究発表会を急遽中止するなど、一部実施できなかったが、国家試験対策等は演習室での感染予防の徹底、施設使用のルールを理解してもらい順調に実施できた。 ・社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の新カリキュラムの変更(令和3年度より)に伴い、3つのポリシーの実現ができるよう、新しい教科の検討を行い設定した。 <p>「募集力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報チラシにスクールソーシャルワーカー養成課程等について最新情報を積極的に掲載した。入学希望者が昨年度より増加しているが、入学定員確保には至っていない。 <p>「地域連携力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の新規事業である宮崎県の受託事業「人権啓発活動協働推進事業」では、臨床福祉学科が中心となり、講演会等を開催した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の終息が未知数のなか、入学定員確保、卒業研究発表、大学院進学希望者への受験対策等、オンラインでの対応ができるよう対策を考える。 |
| <p>3つのポリシーからの総評</p> | <p>【2019年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科のディプロマポリシー(DP)を具現化するために、個々のカリキュラムポリシー(CP)の実践に取り組んだ。卒業研究は学科のDP(3,6)に掲げる実践力、研究力を養う重要な過程である。ゼミ内、専攻で発表会を実施した。3年生は全員参加とし来年度に向けての意識を高めさせた。ルーブリック評価に関しては試案作成までには至らなかった。 ・リメディリア教育(DP3,4,5,6, CP3,8)に関しては、文章力・読解力に力を入れざるおう得なかったため、数学的知識等の習得の指導には着手できなかった。心理学の大学院進学希望者への受験対策として語学力(英語)の学習を行った。 ・国家試験合格率のアップ(DP3,CP5,6,7)に関しては、各資格ともロードマップを作成し取り組んだ。今年度の結果は未発表ではあるが、介護100%、社福と精神は合格点が何点に設定されるかによって左右されるが、昨年以上の合格者が期待されている。 ・学生の学習の場(国家試験の勉強、ゼミ活動、自主学習等)として、演習室の整備やパソコン等、学習資料を少しずつではあるが、充実しつつある。(DP3,6,7,CP6,8) ・就職率アップへの対応(DP,CP11)に関しては、キャリアサポートセンターと連携を図り、就活情報を学科内で共有することができた。 ・学生への支援(CP1,5,6)では、在学生が主体となって、新入生・教員との親睦会を学科全体で開催した。また、学科会議で気になる学生について報告し教員間で情報の共有を図った。当学科は、今年度12名の転学部転学科生がいるが、教員の丁寧な指導により中途退学者はいなかったが、学科全体で3名の退学者がいた。 ・募集力(AP)に関しては、今年度の取り組みとして社会福祉協議会に依頼し、福祉の職能団体へ学科のチラシ(オープンキャンパス等)を送付したが、成果が出ていない。来年度より臨床心理学部が新設されることにより臨床福祉学科(現. 臨床福祉専攻)の定員確保が厳しい状況ではあるが、ミニオープンキャンパスの開催(3/8. 22)、来年度より小学校教諭免許取得(吉備国際大学通信制度利用)のPRをすること等、教員の意識が高まっている。 ・地域連系力に関しては、JKC 事業や災害ボランティアセンター(延岡市委託)をはじめ、木城町との連携事業等を学生も参加し実施している。また、各自治体や関係機関からの各種審査会、委員会委員を積極的に担い、地域連携を推進している。 <p>【2020年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究(DP3,6)は、専攻毎での発表会を計画していたが、コロナ禍の影響で発表会は中止した。ルーブリック評価に関しては試案を作成し一部教員による先行実施をおこなった。 ・リメディリア教育(DP3,4,5,6, CP3,8)に関しては、e-learningを活用した統計学習プログラムを検討したが実施には至らなかった。心理学の大学院進学希望者への受験対策として語学力(英語)の学習は対面学習が困難であったため、例年と比べ時間数が減少した。 ・国家試験合格率のアップ(DP3,CP5,6,7)に関しては、各資格ともロードマップを作成し、感染防止に努めながら取り組んだ。 ・学生の学習の場(国家試験の勉強、ゼミ活動、自主学習等)である演習室は、演習室の使用ルールの作成、感染症予防対策を徹底し有効に活用できた。(DP3,6,7,CP6,8) |

| | |
|--------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・就職率アップへの対応(DP,CP11)に関しては、キャリアサポートセンターと連携を図り、就活情報を学科内で共有することができた。 ・学生への支援(CP1,5,6)では、新入生・教員との親睦を図るため、月1回の基礎演習では、コロナ感染の状況を見ながら、マスク作成、調理実習、ミニバレー等を学科全体で開催した。また、学科会議で気になる学生について報告し教員間で情報の共有を図った。当学科は、今年度11名の転学部転学科生がいるが、教員の丁寧な指導により中途退学者はいなかった。学部改組があったため、専攻を超えた情報共有は困難もあったが、個々のケースに応じて対応がなされた。 ・募集力(AP)に関しては、スクールソーシャルワーカー養成、幼稚園・小学校教諭免許取得(星槎大学通信制度利用)、保育士試験による取等のPRをした。入学希望者が昨年度より増加しているが、入学定員確保には至っていない。 ・地域連系力に関しては、JKC事業や災害ボランティアセンター(延岡市委託)、木城町との連携事業等は継続実施している。また、各自治体や関係機関からの各種審査会、委員会委員を積極的に担い、地域連携を推進している。「人権啓発活動協働推進事業」は新規事業として取り組んだ。 |
| <p>次年度への展望 (まとめ)</p> | <p>【2019年度】 本学科は、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士、公認心理士・認定心理士、高校教諭(福祉)と複数の資格が取得できるようカリキュラムが構成されている。入学してくる学生が、「なりたい自分」になれるよう国家試験合格を目指し学科教員が一丸となって今後も教育や学生指導に取り組んでいきたい。</p> <p>社会に有用な福祉職の育成を行うため、国語力を含む基礎学力教育への強化、アクティブラーニングの導入を試みているが、学生は単位取得のための学習で受動的な学習状況である。入学時より学生が能動的にそして専門性を深めるような学習ができるように、学生への意識づけ、授業の改善をしていく必要がある。</p> <p>また、本学科は学生に寄り添った丁寧な対応、学生の満足度の向上に力を入れている。本学科の特徴として転学部転学科生が多いことから、これらの学生も含め今後も個々の学生に合わせた丁寧な指導を心がけていく。</p> <p>これだけ世の中で福祉のニーズが高まっているが、入学者が増加しない。入学生の保護者が福祉関係に就労していることもあり、今年度は、新たなPRの場として福祉系の職能団体の会員へオープンキャンパスや学科のチラシを配布したが、成果が表れていない。危機意識を持って、新たな「仕掛け」を検討することとしたい。</p> <p>来年度より臨床心理学部が新設され、臨床心理専攻の教員が2つの学部・学科に所属することになる。情報共有を強化し、更なる教員の連携を図っていく。</p> <p>【2020年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部改組により専攻を超えた教員間の情報共有は困難なこともあるが、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー実現のため、更なる教員間の連携を図る。 ・学生募集対策は急務である。入学定員確保にはまだ、ほど遠いが、今年度は増加している。増加した要因を含め入学者にアンケート調査を実施して引き続き対策を検討し更なる入学定員確保を目指す。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムの対応や公認心理士養成(心理専攻)の実習が初めてとなるため、円滑に実施できるよう教員一丸となって取り組む。 ・オンラインの可能性を探る。 |

九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科

2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|--|---|
| <p>ビジョン (教育目標)</p> | <p>九保大だから学べる「たとえ障がいがあったとしても自分らしく生きていくことの幸せ」をプロデュースできる能力を身につける</p> |
| <p>学科からのメッセージ</p> | <p>作業療法学科の教育目標は、作業療法士国家試験合格のもと先にあります。少子高齢化に伴う介護の問題、うつ病による自殺、障がい者の雇用問題など、単に病気や障がいへの対応だけでは自分らしく生きていくことが難しいほど、生活困難の様が多様化しています。作業療法は健康面の問題でどのような状況に置かれても、常に心と身体のバランスに目を向け、その人らしく生きていくことを医療・福祉の側面から支えています。本学では、入学後の医学の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、患者さんに対し「病気や障がいがある人も自分らしく輝いて生きていくこと」の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。</p> |
| <p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p> | <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習系座学系を問わず、ほとんどの科目でアクティブラーニングが用いられて授業遂行がなされているが、教員によってその手法はまちまちである。今後は、各教員の手法の共有化を行い改善点の抽出および手法の向上を図る。 ・各年次に実施される学外実習にてルーブリック評価表を使用し、実習遂行結果を学生に提示する。 <p>＜取り組み状況と次年度への課題＞</p> <p>全学年のルーブリック評価が完成し、現在使用している。今後はその活用を検討する。厚労省が推奨する臨床参加型実習（CCS：クリニカル・クラーク・シップ）への移行を受けて対応する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】AP(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育や作業療法概論およびホームルームなどで当日学んだことを作文する時間を設け、書く力、まとめる力、読み解く力を養う。 ・国語のe-learning 結果を学生に提示する。 <p>＜取り組み状況と次年度への課題＞</p> <p>ホームルームなどでの作文時間の確保、実習セミナーなどでの作文レポート課題の創案などを行なっている。学生募集停止を受けて「すらら」は実施しない。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】AP(1)(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のリメディアル教育内容の検証を行う。 ・高校まで勉強経験のなかった学生が多く存在する。そのため教科書の読み方、ノートの取り方、勉強の仕方など勉強の仕方をいちから教える。 <p>＜取り組み状況と次年度への課題＞</p> <p>リメディアル検証は募集停止を受けて実施しない。学科内リメディアルは学習の仕方などのガイダンスを編集して配布し、授業に応用させる。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP(1～3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から主体的に学習する機会の提供（放課後自主学習）を行い、同時に国家試験に必要な基礎科目（解剖学、生理学、運動学）を中心とした学習内容を行っていく。 ・各年次の特性（基礎学力が低い、全体的に意欲が低いなど）を勘案した学習方法を担当チューターが中心となって学科全体で話し合いながら国家試験対策を考えていく。 ・国家試験模試の結果を粗点グラフ、席次などで可視化した総合成績表を配布する。 ・規則正しい生活を常に指導する。 ・成績の振るわない学生に対して特別指導を行う。 <p>＜取り組み状況と次年度への課題＞</p> <p>放課後自習学習、成績の振るわない学生に対する特別指導など、すべてを実施した。また、模擬試験を1回増やし11回とした。ただし、4年生の国試対策学習に対する出席率は思わしくない。今後は出席率をあげる工夫が必要となる。課題の多さ、難易度の高さが問題なのかもしれない。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な会議で授業内容および教授法の確認を行い、教育力の向上を図る。 ・日本作業療法協会が指定する教員の教育力向上研修や新しい評価方法の研修会に積極的に参加し、その内容を学科内にフィードバックする。また、学生の講義内容に反映するように教員間でコンセンサスを得ておく。 ・年1本以上の論文執筆を指導する。 |

| | |
|-----|---|
| | <p><取り組み状況と次年度への課題> 診療参加型臨床実習講習会を始めとする研修会に複数の教員が参加し、教授法や教育力の向上に努めた。投稿をはじめ学会発表などを行ってきた。江口助教が本学大学院後期課程で、博士号を取得した。田中講師が九州大学大学院後期課程に在籍しており、博士号のための論文が雑誌に掲載された。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】 ・文科省、厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 科研費は 2 研究にて受けているが、当該教員 1 名が退職したため現状では 1 研究のみである。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【就職率アップへの対策】 ・キャリアサポートセンターとの連携をとり、募集のため来学された施設には出来る限り対応する。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 国家試験合格者の就職率はほぼ 100%である。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【学生生活サポート対策】 ・悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。（保健室等の利用） ・予防接種や自分自身の体の変調に気づくように、心身の病、感染症についての啓発活動を行う。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 学生のメンタルサポートは複数回のチューター面接などで取り組んでいる。しかし、メンタルヘルス系や発達系の問題を抱えた学生が増えており、これに対して教育現場で対応する限界を感じている。</p> <p>【学生指導力の向上】 ・個人面談の際にチューター以外の教員も参加し、面談過程および面談結果を共有し学生指導力の共有を図る。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 学生の問題や問題解決については、月一回の学科会議等で情報を共有している。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】CP(4) ・1 年次より各科目にて対人関係の第一歩である挨拶の大切さを教え、教員自ら学生への積極的な挨拶運動を実施する。 ・学外実習を契機として実習に出る前に、前社会人（1 年生）、社会人（2 年生）、前医療人（3 年生）、医療人（4 年生）としての倫理およびマナーを段階的に学ばせる。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 取り組みの成果は各学年での臨床実習で成果を出していると考え、取り組みは今後も継続する。</p> <p>【学科の魅力発信】AP ・日頃の広報活動のほか、オープンキャンパス時、大学祭など外部の人たちと触れ合う機会を有効に活用し、作業療法の魅力を伝える。 ・卒業生の動向（海外青年協力隊で活躍している卒業生や地域、病院で活躍している卒業生現状報告など）を高校への学校説明会、出前講義時に学生や進路指導の先生に伝える。 ・教員は社会貢献（地域）や研究などで外部に作業療法の魅力を啓発できる機会が多い。そのような機会に意識をもって作業療法の魅力を啓発する。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 募集停止のため、作業療法啓発以外は実施していない。</p> |
| 募集力 | |
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】 ・学術論文 各教員が論文を少なくとも1篇以上投稿する。 ・学会発表</p> |

| | |
|--------------|---|
| | <p>各教員が少なくとも1報以上発表する。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 江口助教が本学大学院後期課程で、博士号を取得した。田中講師が九州大学大学院後期課程に在籍しており、博士号のための論文が雑誌に掲載された。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な研究者やスタッフとの協働によるチーム型研究体制を図る。 ・ 博士号取得を推進する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> チーム型研究体制の構築は、部分的にしか達成できていない。江口助教が本学大学院後期課程で、博士号を取得した。田中講師が九州大学大学院後期課程に在籍しており、博士号のための論文が雑誌に掲載された。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費等の競争的資金の申請を毎年行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 1名の教員が科研費を取得している。取り組みは今後も継続する。</p> |
| 地域連携力 | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康増進のための作業療法的提案を地域社会に発信する。 ・ 授業の一環として地域の障害児を招き、学生との交流を通して活動性や対人関係能力の育成の一助となる。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 作業療法啓発や市民大学などの活動をしている。障がい児の育成についても活動している。取り組みは作業療法啓発については今後も継続するが、障害児関連については未定である。</p> |
| 総合力 | <p>・ ディプロマポリシーである「有能な作業療法士として社会に貢献できる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を修得する」ことを目的に、カリキュラムポリシーに法って教育を展開する。</p> |
| 3つのポリシーからの総評 | <p>DP: 各年次に実施される学外実習にてルーブリック評価表を使用して、実習遂行結果を学生に提示し、臨床コミュニケーション、共感、作業療法の実践、チーム医療などの涵養に努め、それら実践力および研究力を身につけた者に対して学位を与えようとしている。</p> <p>CP: 基礎科目では資質の基盤となるコミュニケーション能力を、専門基礎科目では作業療法の基盤となる一般臨床医学を、専門科目では作業療法学と演習および学外臨床実習により段階的かつ構造的に教育を実践している。</p> <p>AP: 募集停止により該当せず。</p> |
| 次年度への展望(まとめ) | <p>これまでどおり有能な作業療法士として社会に貢献できる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を育成してゆく。また、厚労省が推奨する臨床参加型実習(CCS:クリニカル・クラーク・シップ)への移行を受けて対応する。</p> |

九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科

2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|--|--|
| ビジョン (教育目標) | 九保大だから学べる「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。 |
| 学科からの メッセージ | 言語聴覚療法学科の教育目標は、言語聴覚士国家試験合格のもと先にあります。現在、脳梗塞などでコミュニケーションが取れない、食事ができない高齢者や、コミュニケーション上のやり取りが不得手なお子さんが増えています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、「コミュニケーションができる」「口から食べられる」など、言語聴覚士として幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。 |
| 教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観点を含む | <p>(2020)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP（6、7）、CP1（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議で卒業研究のルーブリックと成績評価について検討する。 ・学科会議で卒業研究の取組状況を確認し合い、全員の卒業論文完成を目指す。 ・卒業論文提出後、副査による査読や論文発表会を実施し、考える力、発表する力の向上を図る。 ・全学年の学生が実習指導者会議等の行事の運営に参加し、実習指導者への対応などについて自ら考え行動する力を養う。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による外部臨床実習の大幅な日程変更の中、4年生全員が卒業論文を提出することができた。実習指導者会議は3月にリモートで実施予定であり、実習指導者と学生との面談の時間を設け自ら考える力を養う機会とする。次年度は、今年度に引き続き卒業研究の位置づけや成績評価について検討する。また、実習指導者会議の内容に改善を加える。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】CP（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語力向上のためのプログラムを実施し、基礎国語力の増強を図る。 ・必修科目である基礎ゼミの講義内で e-learning を積極的に活用する。実施前後に試験を実施し、有用性を検討する。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語に加えて生物を導入し、専門科目との連携を強化する。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>本学科には1年生は在籍していない。ただし、2年生以上にも読解力など基礎国語力が身につけていない学生がおり、各教員の担当科目や学内臨床実習の中で指導を行っている。次年度も引き続き、丁寧な指導を行う。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP2（9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策部門で効果的な対策方法を検討・実施し、学科会議でその効果を検証する。 ・e-learning による国家試験対策ソフトを学生に提供し、問題解答の機会を増やす。 ・国家試験部門を中心に、模試の成績不良学生を中心に特別プログラムや個別指導を行う。 ・学科会議で各学生の成績を提示し情報を共有する。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>昨年度の結果をふまえて、学科会議で効果的な対策方法について繰り返し協議した。全教員が、テキストテストや補講等の特別プログラムを実施した。また、模試の成績不良学生に対する個別指導を強化した。各学生の成績等の情報を教員間で共有し、危機感を持って学生に対応した。国家試験対策ソフトを学生に提供した。次年度も引き続き、全ての教員が創意工夫して国家試験対策にあたり、合格率 100%を目指す。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議等を通じ、基礎系科目と臨床系科目の内容を確認し教育目標を共有する。基礎系・臨床系教員の連携を強化する。 ・国家試験対策での補講等の取組内容を学科会議等で確認・共有し、各教員の教育力をアップする。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>アセスメントポリシーの充実を図り、学科会議で各科目に関わる情報を提供するとともに、国家試験対策での補講等の情報を学科会議で共有した。次年度も、学科会議で講義に関わる情報の共有を図り教育力アップにつなげる。また、基礎系・臨床系教員の会議を定期的実施し連携を強化する。</p> |

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用する。
- ・文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募し、学科内施設の整備に利用する。

＜取組状況と次年度への課題＞

社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用した。補助金情報を収集したが応募には至らなかった。次年度も、積極的に補助金の情報を収集・応募し学科内施設の整備を行う。

【就職率アップへの対策】DP

- ・履歴書作成指導や模擬面接等を通して、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。
- ・「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生の臨床教育を行う。
- ・低学年からインターンシップを導入し、キャリアイメージを早期から形成できるよう支援し、就職率アップにつなげる。

＜取組状況と次年度への課題＞

キャリアサポートセンターと連携して、就職部門教員を中心に履歴書作成指導や模擬面接を通してきめ細かい指導を行った。次年度も、臨床教育に創意工夫をこらし、「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」の育成を図る。就職率 100%を達成する。

【学生生活サポート対策】CP 2（11）

- ・定期的なチューター面談を実施し、学生の情報を学科会議で報告して教員間で共有する。
- ・学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。
- ・学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。
- ・学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。

【退学者防止対策】

- ・学生がかかえる問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。
- ・発達障害や精神疾患に対する知識や対応方法を向上するための研修を、学科内 FD 研修として行う。
- ・障害学生支援部門で発達障害等への支援システムを検討し、学科会議で支援方法を提案する。

＜取組状況と次年度への課題＞

定期的なチューター面談を実施し、各学生の問題点を学科会議で共有して、解決に向けて対応した。学修支援部門（障害学生支援部門を改称）より、他大学での取り組み事例などを学科会議で紹介し教員間で共有した。次年度も、定期的なチューター面談、学生情報の学科教員内での共有を行うとともに、学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。

【学生指導力の向上】

- ・入学前教育、「すらら」、基礎ゼミ等を通して、基礎学力を向上させ学力不足を解消する。
- ・1、2 年次に見学実習を導入し、早期から言語聴覚士の魅力を知るための手段を構築する。
- ・基礎ゼミ、学内臨床実習等でポートフォリオを導入し学習成果の可視化を図る。
- ・国家試験対策で各教員による個別指導を積極的に取り入れ、模擬試験の平均点アップにつなげる。
- ・経済的な問題がある学生には各種奨学金を勧める。

＜取組状況と次年度への課題＞

国家試験対策で各教員による個別指導を積極的に取り入れ、模擬試験の平均点アップにつながった。新型コロナウイルス感染症の影響で見学実習は中止となり、学内臨床実習のプログラムの見直しを行った。学外臨床実習が中止または短縮となった学生に対して、実習部門教員が学内で実習を実施し代替を行った。次年度も、学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターや学修支援部門からの指導を実施するとともに、引き続き各教員が学生の適性に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】DP 1、CP 1（2）

- ・学内臨床実習を通して、臨床に必要な基本的態度、患者への関わり方について具体的指導を行う。
- ・学内実習の一環として、一般企業への見学実習、高齢者施設、小児施設での見学実習を行い、社会人としてのマナーを身につけさせる。

＜取組状況と次年度への課題＞

高齢者施設、小児施設等での見学実習を実施することはできなかったが、学内臨床実習を通して臨床に必要な基本的態度、患者への関わり方について具体的指導を行った。次年度も、学内臨床実習を通して、臨床に必要な基本的態度や患者への関わり方について具体的指導を行う。

| | |
|--------------|--|
| 募集力 | <p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応する。 ・9月1日の「言語聴覚の日」イベントの運営、言語聴覚障害者相談システム「ハロー」における支援を通じ、地域への発信を積極的に行う。 ・学科新聞の発行、ブログの更新、「言語聴覚の日」のイベント等を通して学科の魅力を発信する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介する。 <p><取組状況と次年度への課題> 臨床心理学科、入試広報室と連携して広報活動に積極的に取り組んだ。</p> |
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障する。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚障害児者相談システム「ハロー」等、学内の施設を活用するとともに、医療、保健、福祉、教育機関との連携を強化し、研究フィールドの充実・拡大を図る。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の獲得率の向上を図る。 ・その他の委託研究費の獲得率の向上を図る。 <p><取組状況と次年度への課題> 新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学会・研究会が中止またはオンライン開催になった中、各教員は論文発表等、研究活動を推進した。言語聴覚障害児者相談システム「ハロー」を活用するとともに、医療、保健、福祉、教育機関との連携を強化した。科研費、及び委託研究費の獲得率が向上した。</p> |
| 地域連携力 | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体の各種委員会の委員として、発達支援、就学支援、地域包括支援等に貢献する。 ・地方公共団体からの委託費による研究を通して地域連携力の向上を図る。 ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。 <p><取組状況と次年度への課題> 昨年に引き続き、各種の委員会の委員として、発達支援、就学支援、地域包括支援等に貢献した。委託費による研究を通して地域連携力の向上を図った。学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行った。</p> |
| 総合力 | <p>建学の理念およびディプロマポリシー（DP）に掲げた目標を達成するために、カリキュラムポリシー（CP）の教育内容 1～6 と教育方法 7～11 を取り入れた授業を実施し教育評価 12～13 を行う。本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図る。効果的な臨床教育プログラムについて学科会議等で検討・実施し、その成果を検証する。「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を育成するため、中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組む。</p> |
| 3つのポリシーからの総評 | <p>建学の理念およびディプロマポリシー（DP）に掲げた目標を達成するために、アセスメントポリシーの充実を図り、カリキュラムポリシー（CP）の教育内容 1～6 と教育方法 7～11 を取り入れた授業を実施して教育評価 12～13 を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で外部臨床実習が中止または短縮となった3・4年生に対して、相談システム「ハロー」を活用した学内実習を実施し成果をあげた。例年2年次に実施していた見学実習は中止となったが、基礎系教員と臨床系教員の連携を活かした内容を盛り込むなど、学内臨床実習のプログラムを見直し学生の満足度の向上につながった。</p> |
| 次年度への展望（まとめ） | <p>「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を育成するため、中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組んだ。今後も、本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上をめざす。ハイブリット授業の可能性も視野に入れた、効果的な臨床教育プログラムについて検討・実施し、その成果を検証していきたい。</p> |

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科

2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|---|---|
| <p>ビジョン (教育目標)</p> | <p>九保大だから学べる 「みる・みえる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p> |
| <p>学科からの メッセージ</p> | <p>視機能療法学科の教育目標は、視能訓練士国家試験合格のもっと先にあります。現在、高齢化社会が進み視力障害や眼疾患で悩む患者さんが多くなっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度な眼科医療を支える専門知識に加えて、患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p> |
| <p>教育力 (ブランド カ)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p> | <p>教育力の可視化</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 DP (2) (5) CP (4) (5) (8) (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図り、両ポリシーを踏まえた教育力の可視化に取り組む。具体的には、学生が視能訓練士となる学びの段階を意識して学習を進めることができるように、アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーとの関係性から検証する。 ・卒業研究を充実させるために、指導マニュアルを教員間で共有すると共に客観的評価ができるよう28年度に作成した卒業研究のルーブリック表の改定版を完成させる。 ・実習講義（臨床実習事前指導）において学生が独自に検査マニュアルを作成することを目標にアクティブラーニング（①個別での文献調査 ②グループ内でのプレゼンテーションとディスカッション ③意見集約 ④全体へのプレゼンテーション ⑤検査マニュアルの作成と配布）を実施する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期はじめのオリエンテーションで、学科ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図っている。シラバスの検証は学期開始前に学科全体で検証している。さらに、卒業研究評価のためにルーブリック表を作成し、学生の卒論評価に使用している。 ・本年度は、コロナ過で実務実習も一部学内実習に切り替わったりと満足できる状態ではなかった。しかし、オンラインでの対応など大学全体での工夫がなされ、大きな影響がでなかったことは幸いであった。 ・次年度は、募集停止により最高学年の4年生のみとなることから、教育力を集中し実務実習を含め学生の学力アップが課題となる。 <p>【基礎国語力増進への対策】 CP (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいてゼミ単位の文献抄読会を実施する。卒業論文を作成するためには、関連分野の論文を正確に解釈および批評する力が必要である。この力を増進することは、土台となる基礎国語力の増進にもつながると考えられる。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年にはゼミを利用した基礎国語教育に取り組んでいる。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 CP(1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4年時生では、ゼミ単位の個別指導を実施する。 ・2～3年次生では、到達度の低い学生には、目標設定の再検討および、到達度クラス別の補講を実施し、効果測定を行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力は高学年であっても必要なため、ゼミ等を利用して基礎学力向上を心がけた。 ・高学年になると、専門性が高くなり基礎学力向上への取り組み時間が短縮することが課題である。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】 CP (4) (11)</p> |

- ・H30 年度の国家試験を解くために必要な知識の整理から、本学科教務委員会とリンクし、国家試験出題基準対応表に漏れのない教育の実施確認を行う。
- ・3 年次生に対する早期国家試験対策の取り組みの効果測定により早期教育の検証と修正を行う。
- ・国家試験対策マニュアルとロードマップを作成する。
- ・模擬試験問題の水準を国家試験合格に合わせるために、過去に使用した模擬試験問題の内容の再検討を行い、より近年の出題傾向に即した模擬試験を実施する。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・本学科の国家試験合格率は高く、基本的に従来の戦略・戦術を踏襲している。
- ・将来、視能訓練士国家試験の内容が、視機能矯正から屈折矯正に重きが移る。本学科では、新しく変化するとされる国家試験内容に対応できていないことが課題である。

【学科教員の教育力アップの対策】

- ・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。
- ・講義内容や試験問題を相互に確認することで互いに高め合う。
- ・教員間の専門知識を相互に提供しあうことで、教員の教育内容のレベルを向上させる。また、学会などで知りえた最新の情報なども併せて情報交換を行い、教育レベルを向上させる。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・模擬試験の問題作成では、難易度の調整等について全教員が協力して取り組んでおり、教員交互のレベルアップに繋がっている。
- ・視機能には別科があり、講義や出張が多くなり教員相互の授業参観ができていないことが課題であったが、次年度は別科が閉鎖となることから、十分な時間を確保したい。

【教育施設のレベルアップのための対策】 CP (4)

- ・教育設備を中心に拡充を図るために、文部科学省をはじめとして利用可能な補助金等があれば積極的な応募に向けて具体的に検討する。
- ・新たな検査機器については、可能な限りメーカーのデモ機器を借り受け、学生に最新機器の取り扱いについて修得させる機会を増やす。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・最新機器については、デモ機を借り受けており、学生に最新機器の取り扱いについて修得させる機会を増やしている。
- ・学科は学生募集が停止していることから機器の新規購入が困難であり、デモ機借り受けをさらに増加させていくことが課題である。

【就職率アップへの対策】 DP (4) CP (4) (11)

- ・計画の基本的な考えとして、キャリアサポート室を積極的に有効活用することを主体とし、戦略的に行われている各種の就職面談会や就職懇談会に積極的に参加する。
- ・高い国家試験合格率を維持する。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・キャリアサポートとの緊密な連携と教員の学生との連携を図っているが、コロナ過もあり、本年度は十分な成果があがっていない。
- ・学力の低い学生が、大学病院など希望するが就職できないことがある。将来の就職先を考えて、勉強に対するモチベーションを上げさせるなどの指導が課題となっている

【学生生活サポート対策】 CP (9)

- ・学生の相談内容に応じて、学内各部署（学生課、教務課等）への的確に誘導し、当該部署への連絡及び相談の連携を行う。
- ・学生の授業への欠席状況を教員間で共有・把握し、早期にチューター面談及び保護者への連絡を実施し、学生の長期間無断欠席の回避を図る。
- ・個別学習スペース（電気生理実習室等）を充実させ、いつでも勉強できる環境を整備する。
- ・学生との対話を重視し、気楽に話せる環境を整備する。

| | |
|-----|--|
| 募集力 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生から寄せられた情報はガルーンを活用し情報共有を行い、どの教員も対応できるような体制を整える。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポートのために、学生と緊密に連絡が取られており、場合によっては保護者との連絡も密にしている。特に、教員間での学生情報の共有に取り組んでいる。 ・教員は、土日祭日にも学生対応にあたる場合もあり、働き方改革の観点から課題となっている。また、本年度は、学生と教員の間で人間関係のトラブルがあり、より慎重な学生対応が課題である。 <p>【中途退学者防止対策】 CP (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者の多くが、学力不足による単位不認定がきっかけとなることが多いため、基礎学力を向上させ専門教育へのスムーズな移行を図ることにより退学者減少につなげる。 ・定期的に実施できる学習相談窓口を設置する。 ・適切な進路相談により、退学希望者に対して転学部、転学科を勧めることができるようにする。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のため学習相談窓口を設置しており、学力不足での中途退学を防止を図っている。 ・学生の早い時期での学習意欲消失を認知出来ない場合があり課題となっている。 <p>【学生指導力の向上】 CP (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の価値観、気質、能力を配慮した指導や対応を行うことを目指す。 ・講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生面談の頻度を増加させるなど、教員の学生指導力の向上を図っている。 ・本年度は、学生と教員の間で人間関係のトラブルがあり、学生と教員との信頼関係の修復が図られたが、より慎重な学生対応が課題となっている。 <p>【社会人としてのマナー対策】 DP (1) CP (4) (5) (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員側から積極的に挨拶を行う。 ・誤った言葉の遣いがあった際はその都度注意する。 ・検査実習などにおいて丁寧な言葉遣いがあった際は良かった点を褒める。 ・実習室使用ルールおよび実習生としてのマナーの指導を低学年より実施する。 ・臨床実習前指導では医療従事者における接遇マナーの専門書を用い事例を交えた指導を実施する。 ・ボランティア活動の意義を学生へ説明し参加を促す。 ・学期毎に学生に対し身だしなみ、マナー、言葉遣いにおける目標を列挙させる。 ・身だしなみ、マナー、言葉遣いにおけるチェックリストを作成し、学生の自己評価表として活用する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのマナー対策で、教員が気がつけば学生にその都度、注意している。 ・学生に対する注意が過ぎると、教員との人間関係が難しくなることが課題である。 <p>【学科の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員の積極的な学会・講習会における発表にて九保大をアピールする。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科は、募集停止となっているが、教員は学会や地域貢献などで九保大のアピールに努めている。 |
|-----|--|

| | |
|--------------|--|
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>研究活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会や講習会への積極的参加 ・学術論文が学科から毎年少なくとも1報は発表する。 ・学会発表が学科から毎年少なくとも2報は発表する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の学術論文数および学会発表数は、目標を達成した。 ・教員の講義や出張が多く、十分な研究時間が取れないことが課題となっている。しかし、次年度は別科での講義・実習がなくなるため研究時間が確保できると期待している。 <p>【臨床技術の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院での継続的な研修および臨床業務への参加。 ・臨床経験を積む場、研究の場の1つとして、3歳児眼科健診などに積極的に参加する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県内4市町村（延岡市、美郷町、諸塚村、椎葉村）の三歳児健康診査における視機能検査業務、宮崎大学医学部附属病院および済生会日向病院における眼科検査業務、しろやま支援学校における視覚支援業務、延岡市民大学院における市民向け講座、のべおか子どもセンターにおける「子育て講話」など地域連携を進めているが、そのことが、学科教員の臨床技術の向上に繋がっている。 |
| 地域連携力 | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県内4市町村（延岡市、美郷町、諸塚村、椎葉村）の三歳児健康診査における視機能検査業務、宮崎大学医学部附属病院および済生会日向病院における眼科検査業務、しろやま支援学校における視覚支援業務、延岡市民大学院における市民向け講座、のべおか子どもセンターにおける「子育て講話」など、地域市民の視覚の保健、医療、情報発信に寄与することで地域連携力アップを図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携については、学科として十分に貢献できていると考えている。 ・可能な限り地域貢献に協力したいが、学生教育が最重要であることから、教育とのバランスが課題となっている。 |
| 総合力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合教育を行う中で100%進級を目指すと共に、100%の国家試験合格率をキープする。 ・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員が一丸となって全員国家試験合格を目指して努力しており、高い国家試験合格率をキープしている。 ・しかし、本年度は学力が低く授業についてこれない学生も散見される。コロナ過で、学生指導ならびに学生教育に十分な時間が確保できていないことが課題となっている。 |
| 3つのポリシーからの総評 | <p>学科ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図り、両ポリシーを踏まえた教育力の可視化に取り組んでいる。シラバスは教員間でチェックし合い、教科間での整合性についても検討しており、学生が有効に活用し学力を向上させることに繋がっている。また、卒業研究を充実させるために、指導マニュアルを教員間で共有する。「ヒトは自分の何が評価されるのか知ることにより変化する」と言われるが、本学科は学生にディプロマ・ポリシーを明確に意識させることによって教育効果向上に取り組んでいる。</p> |
| 次年度への展望（まとめ） | <p>学科の募集停止により、次年度は4年生のみとなる。患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養するために、特に専門教育に力を注ぎ留年者・退学者を出さないよう学科教員が一丸となって取り組んでいく。さらに、国家試験で次年度も高い合格率を目指す。</p> |

九州保健福祉大学 保健科学部 臨床工学科
2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|----------------|---|
| ビジョン (教育目標) | 九保大だから学べる「高度なチーム医療」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた社会に有為な人材を輩出する。 |
| 学科からの メッセージ | 臨床工学科の教育目標は、臨床工学技士国家試験合格のもと先にある。医療の高度化が進み、多くの医療機器が臨床で使用されており、いまや医療現場には工学知識を持つ臨床工学技士がますます重要になっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、チーム医療の一員として医師の指示のもとで生命維持管理装置の操作や、自らの判断で医療機器の保守・管理を行うなど、高度なチーム医療を支えるのみならず、患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることを目標としている。また本学は、タイを中心とした ASEAN 諸国の大学ならびに病院との交流があり、毎年、臨床工学科の施設を中心とした研修を受け入れている。そのため海外の方との交流を通じ、グローバルな視点も養うことができる。 |

| | |
|--|---|
| 教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む | <p>【学生自ら考える力をアップする対策】</p> <p>従来の卒業研究指導法に加え、卒業研究指導時ならびに卒業研究発表会で使用するルーブリック表を作成し運用する。学科教員全員でルーブリック表の内容とその運用について検証を行い、必要があれば改訂を行う。また、卒業研究で優秀なものについては、研究成果を積極的に国内外での学術大会において発表させる。</p> <p>アクティブラーニングについては、従来から PBL (project/problem based learning) 型、学生によるプレゼンテーション型の講義などを取り入れているが、これらの教科に加え、他の教科においても導入可能であることを学科教員で協議する。</p> <p>タイの2つの大学と教育提携をおこなっている。これらの大学より研修生を受け入れており、外国の学生との積極的な交流を通して価値観の多様性に触れることで、自ら考える力をアップさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 卒業研究指導に用いるルーブリック評価表の内容および運用方法について適時見直しをする。 随時見直しを行ってきた。 ■ 卒業研究については学術大会へ参加できるよう指導を行う。 本年度はコロナ禍により発表ができなかった。 ■ アクティブラーニングについては、導入科目を学科で新たに検討する。 各教員が担当科目において検討してきた。 ■ 教育提携校より研修生を受け入れる。 ■ タマサー大学よりのダブル学位の申し入れを学園本部の指示に従い検討する。 令和2年3月にキンモンクード工科大学より4年生15名を2週間受け入れる予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルスによる感染症のためタイ政府より日本への渡航が制限され延期となっていたが、未だ見通しがたない。 <p>〈次年度〉 本年度達成できなかった課題を実施すべく引き続き努力する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】</p> <p>教員監督のもとにスララを学習させる。一方、基礎数学である計算力向上のために従来どおり補講をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スララを活用して国語力のアップを図る。 <p>① 毎週木曜日の2限目にスララの e-learning を教員監督のもとに実施する。 生命医科学科1年生に対して実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 臨床工学科では工学系科目が7～8割を占めており計算力は必須であるので、計算力の低い学生についてトレーニングを実施する。 <p>① 毎週夕方時間を利用して計算力向上のための演習を実施する。 ② 計算力の評価のために毎月評価試験を実施し、結果を学生へフィードバックする。 後期より臨床工学プログラムを履修している1学年で、計算力が弱い学生へ対し毎週月曜日に実施しており計算力は向上している。</p> <p>【単位認定試験】</p> <p>単位認定試験については、主に前期・後期の15コマの講義終了後実施するが、大半の学生は15コマ終了時点での試験に臨む学習が不足している。したがって、15コマを前半と後半に分けて評価試験を実施</p> |
|--|---|

し、その結果を学生へフィードバックし、重要項目の再学習を促し、学生の未習得科目の減少を目指す。

- 15 コマの前半（約半数が終了した時点）と後半に分けて評価試験を実施する。
各履修科目において実施し結果を学生へフィードバックし、復習の重要性を促した。
- 再試験等において所定の点数を獲得できない場合はレポートによる評価も実施する。
実施しており、これによる単位認定も行ってきた。

〈次年度〉

次年度も上記項目達成すべく課題に取り組む。

【国家試験合格率アップへの対策】

国家試験過去問題の活用方法の検討が重要であり学科内での国家試験データベースのバージョンアップを実施する。従来から4年生に対して実施している国家試験対策模試において、前期で各自の弱点科目を見つけさせ、前期終了後にこれを学習させる。後期の国家試験対策模試で学習状況、達成度を分析し、12月からの集中対策に活かす。

- 現在まで実施してきた試験対策方法を踏襲する。

① 4～6月にかけて国家試験過去問をベースとした模擬試験を毎日50問実施と共に評価試験を毎月1回実施する。

② 毎回の擬試験終了後に出题問題の見直し（とくに不正解であった問題）を行わせることで、不得意科目の克服を図る。

③ 2～3人を1組のグループとしてのグループ学習を実施する。

④ 11月からの国家試験集中対策の受講とともに、毎年11～2月に3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会実施）を受験させ、学習状況の把握と達成度の分析を行う。

⑤ 3年次学生においても、全国統一模擬試験を実施し、国家試験対策への認識を深める。

国家試験対策については従来通り実施してきたが、全く成績が伸びない学生もいる。

〈次年度〉

国家試験対策は最も重要事項であり本年度は目標を達成できていることから次年度にも全員合格できるよう指導する。

【卒業判定】

4年次の最終卒業判定については4年次前期までの必要単位数の取得とともに、卒業研究および全国で3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会編）を受験し、少なくとも1回以上60%ラインを超えていること。これを満たさない場合は、学科内における再試験を実施し判定をおこなう。

- 全国統一模擬試験で少なくとも60%を超えることは国家試験合格の可能性の目安となるので、国家試験対策を踏襲する。

3回の全国統一模擬試験を実施したが、4名ほど規定の点数を満たさなかったため、チュータ（卒後研究担当）が学生と面談の上、就職を目指し活動をしている（3名は就職先内定）。

【学科教員の教育力アップの対策】

最新医療の知識、技術を習得するため、関連学会や各種セミナーへ学科教員が参加できるような体制を構築する。また、他校や臨床現場より教員を招聘し、相互に講義手法についての意見交換を行う。

さらに、タイの大学との教員交流により多角的な教育力アップを図る。

- 学科教員に対して、講義や学事に配慮しつつ、積極的な関連学会や各種セミナーへの参加を促す。

1名の教員が担当科目の講義改良を志向して、有料セミナー（医療統計学）を受講した。

- 他校および臨床現場の教員との意見交換を積極的に実施する。

① 交流を深めるために講義終了後に意見交換を行う機会を設ける。

他校の教員を非常勤講師として招いているので、積極的に意見交換をおこなってきた。

【学生生活サポート対策】

毎年8月に開催されるオープンキャンパスの前日に、学科で保護者懇談会を開催している。本懇談会では保護者と教員が直接問題点を話し合っており、これを通じて、保護者と教員が連携し、学生生活のサポートに活かす。近年、心身面に不調を来した学生が多いことから、学内の健康管理センターを積極的に利用する。

- 保護者面談・懇親会への更なる参加を求める。

① 成績不良学生の保護者の参加が悪く、また学生が保護者に大学生生活の現状を都合の良いように報告しており、教員と保護者の思惑に相違が見られる。そのため、特に成績不良学生の保護者に対し保護者面談の積極的な参加を促す。

本年度より1年生は生命医科学科所属となり、従来の方法を踏襲するか否か検討していたが、感染症蔓延のための対策として本年は実施を見送った。

- 心身面に不調を来した学生は、教員へ相談しにくいと思われる。そこで、健康管理センターの使用を促すような案内（掲示物）を作成し、学科内の掲示板に掲示することを検討する。

本年度は、コロナ禍での学習であったが、年度当初の遠隔授業に適應できないと学生が見られ、体調不良も重なって2年生が2名退学し、1名が休学している。また、3年生についても1名が進路変更した。保護

者への連絡を密にして対策を行ってきたが退学を防ぐことができなかった。

〈次年度〉

学生を退学させることなく全員卒業が達成できるように指導する。

【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学生の適正に応じた指導を実施し学力不足を解消する。成績不振の学生に対して、個別に学習指導、アドバイスを行えるような体制を構築しており、さらなる充実を図る。

成績不振の要因の一つに授業中のノート整理ができないことがあげられる。この対策として学科内で使用しているコーネルノート（コーネル大学開発）によるノート整理について個別指導を実施する。

全学年へコーネルノートを必要に応じて配布しており、学生が学科ノートとして使用しているが、教員が随時指導しているの関わらず授業中にノートに記載できない学生が存在する。

〈次年度〉

コーネルノートを学科ノートとして学生全員が使用できる環境が整ったので、ノートの記載方法を各教員で具体的に指導し、国家試験対策においても授業ノートの重要性を理解させる。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施することに学科の学生は全員挨拶ができるようになっている。特に授業開始および終了後の挨拶は重要視している。また、当学科では3年生に対して、ソーシャルマナーインストラクタの資格（JAL 国際線キャビンアテンダント）を有する外部講師を招聘して、ソーシャルマナー講座を受講させている。

■ マナーに関する講義の受講後マナーが顕著に向上することにより、引き続きソーシャルマナー講座を開講する。

① 3年生に対し初回の病院実習前にマナー講座を受講させる。

② 各学年を通じて段階的にマナーを身に着けさせることを目的として1年次、2年次にも取り入れる方向で調整する。

コロナ禍により実施できなかった。

〈次年度〉

例年、本講師による指導は好評であるので次年度も引き続き実施する。

| | |
|-------------------|---|
| <p>募集力</p> | <p>令和2年度より募集停止となり臨床工学科としての募集は実施していない。</p> <p>【学科入学定員確保のための対策】 学科の特徴を高校生および保護者へ直接アピールできる方が重要であり、これらの機会があれば教員と在校生とで対応することが必須である。</p> <p>【学科の魅力発信】 4年前より入学者が減少の一途をたどっている。九州圏内の臨床工学養成校が増加しことに原因があるが、宮崎県内の高等学校学生、特に近隣の高校からの受験者が少ないので入試広報と連携して高校訪問、「見学は何時でもOK」の見学会を積極的におこなう。 ①近隣の高校へ学科の魅力を発信するため、高校ごとに大学（施設）見学会を立案する。 ②宮崎県臨床工学技士会と連携協力し、職能団体として臨床工学技士の啓発活動を行う。</p> <p>【学科教育力の評価および広報活動への工夫の提案】 ■教員相互の授業評価をおこない学科教育力の確認を実施する。 ■従来、臨床工学科ブログにおいて学生（2学年～4学年）が中心にブログを書いており、保護者、卒業生、高校生が閲覧しており継続して学生による学科教育内容を発信する。 ■学生による学科紹介のInstagramを立ち上あげており継続して学科内の様子を発信していく。</p> <p>【社会で活躍している卒業生の情報を収集】 現時点で9期生が卒業しており卒業生との連絡体制、また、臨床工学関連の博士課程前期生の卒業生（70数名）との連絡体制（同窓会）を構築し、学生募集への協力を依頼する。 ■卒業生が同窓会の発会を試みており、同窓生を通して本学科の情報発信をおこなう。 ■九州臨床工学技士会および宮崎県臨床工学技士会を通じ、高校・各種関連団体に臨床工学技士の職場体験プログラムを構築し臨床工学技士養成の重要性を啓発し学生確保に努める。 生命医科学部医科学科としての募集については、上記事項を実践してきた。 〈次年度〉 生命医科学科としての学科広報を実施する。</p> <p>【将来の展望】 学生募集に影響することは、①国家試験合格率、②就職先・就職率、③学生による学科の評価が重要であることより、①、②に関しては従来の方法を踏襲し、③については、可能な限り学生に対して丁寧にしていく。また、海外からの留学生獲得も重要となってくることよりタイの教育提携校よりの留学生獲得を目指し収容定員の確保を目指す。 ■留学生獲得のための布石として研修生を受け入れる。 タイの2つの教育提携大学より研修生を迎える門戸は開いている。</p> <p>【将来展望に関する情報および既存の情報紹介】 学生募集のための高校訪問は重要ではあるが、直接的に高校生と接することができず高校生および保護者に対しては情報が伝わっておらず、①業者説明会や②インターネットを中心とした媒体での情報提供となることはやむを得ない。①、②を通じて作成している資料を配付していく。 ■依頼がある業者説明会に全て参加し高校生へ学科を紹介する。 入試広報室の依頼を受けて、1回説明会に参加して直接高校生に学科の紹介を行った。 ■学科紹介パンフレット（日本語、英語、中国語、タイ語）を修正し関連施設へ配布する。 学科募集停止により臨床工学科としての紹介はできなかったが臨床工学についての説明は実施してきた。 〈次年度〉 生命医科学科として将来展望の①～③を目指す。</p> |
| <p>研究力</p> | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>【学会発表・学術論文】 ■各教員の専門性にもとづき所属する学会にて年間1～2演題の研究成果を発表する。 ■専任教員については、学会発表にて成果が上がっているものを学術論文とし年間1編の投稿を目指す。 ■通信制大学院の学生を指導している教員については、大学院生を指導するとともに共同著者として学術論文に投稿する。 〈学会発表〉 丹下 佳洋：シンポジウム（指定演者）；アジアの透析事情と日本からの援助活動～タイでの取り組み～、第65回日本透析医学会学術集会・総会 2020年11月 〈学術論文〉 大野 文代, 久保 拓也, 外室 貴章, 古郷 米次郎, 丹下 佳洋, 竹澤 真吾：多人数用透析液供給</p> |

| | |
|---------------------|--|
| | <p>システムにおける透析液清浄化対策. 医機学 90(4) 374 - 380 2020年8月 Takeshita, T., Kai, H., <u>Watanabe, W.</u>, Kurokawa, M. Evaluation of ocean biomass products that activate cell-mediated immunity in mice cutaneously infected with herpes simplex virus type 1. World J Biol Pharm. Health Sci. (2020) 01, 001-009. DOI: 10.30574/wjbpsh.2020.1.3.0017.</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】 ■ 研究設備については、すでに老朽化がはじまったおり経済的に学内でのレベルアップは困難であることより、外部資金が調達できた段階で検討する。 学科募集停止にともない機器の更新は停止となった。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】 ■ 科学研究費申請にあたっては、複数の採択者の申請書をシェアして申請書作成の参考にし、採択されるようにする。 獲得率向上のために、教員同士でディスカッションを行った。 ■ 企業との共同研究を積極的におこない研究費の供給を受ける。 本年度は研究費としての外部資金調達はなし。 〈次年度〉 本年度達成できなかった課題を実施すべく引き続き努力する。</p> |
| <p>地域連携力</p> | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】 臨床工学科は内閣府の地域活性化総合特区である「東九州メディカルバレープロジェクト」の人材育成を担当しており、タイを中心とした海外の医療従事者を日本の医療機器でトレーニング、日本製品が海外に普及しやすい土壌を宮崎県庁と作りつつある。また、本プロジェクトの一環として県内の医療機器企業と共同で新しい医療機器の開発も行っており、数億円規模の国家予算も獲得した。すでに開発は最終段階に来ており、今後本学科を中心とした地元企業とのさらなる連携が行われる。単に研究や教育のみではなく、実用化や医療の質向上に直結する貢献を行っているのが特徴である。</p> <p>■ タイの大学から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習実施する（地元企業が医療機器 ■ タイを含む ASEAN 各国から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習を実施する（地元企業との新規医療機器開発を拡大）。</p> <p>本年度より県立延岡高等学校の生徒を本学科で受け入れ、英語による大学の授業、実習を行っている。これによって、地元の高校生が国際感覚養成と大学の魅力を体験し、視野が広がることを期待している。このプログラムには高校側より毎年定期的な開催の希望が出ており、引き続き本学科としても対応する予定である。 〈次年度〉 タイからの研修生が来日した際にメーカー見学を実施するとともに、県立延岡高等学校の生徒を受け入れ、英語による授業、実習体験学習を行う。同様に近隣高校に情報を流して高校生も一緒に英語で研修を受けられるようにする。</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>総合力</p> | <p>教育力、募集力、研究力、地域連携力により、大学院教育も含めて教育連携システムの構築を目指し活動をおこなっている（下図）。学部卒業生が医療現場へ就職し、本学科生の臨床実習指導などを担うようになってきている。また、通信制大学院を卒業した 70 数名の臨床工学技士は、医療現場での指導者となっていることより、彼らが本学科出身の技士を指導して社会に有為な人材を育成するとともに、本学科卒業生や医療現場で前向きな臨床工学技士が、通信制大学院へ入学し高度専門教育を受け社会での指導者となり本学出身の技士の教育・技術レベルの高さをアピールしている。一方、臨床工学技士は本邦のみの医療職種制度であり、国策にしたがい ASEAN 地区で最も医療が進歩しているタイ国を中心に臨床工学技士制度を輸出する。その第 1 歩としてタマサー大学、キンモクド工科大学での実習施設構築への協力および研修生の受け入れをおこなってきた。次段会として両大学卒業生を本学科への留学するよう促しており、これが実現すると日本の臨床工学技士免許を持ったタイ人技士が本国で指導者となって行くことは明白であり、彼らとともに ASEAN 地区で本学のブランド力を構築することを目指す。</p> <p>〈次年度〉</p> <p>引き続き上記内容を生命医科学科臨床検査コースの協力を得て本年度達成できなかった課題を達成すべく引き続き努力する。また、海外からの学生研修時に地元の高校生参加も募り、地域連携力を強化するとともに大学の魅力を感じてもらう新たな試みによる入学者増も行う。</p> |
| <p>3 つのポリシーからの総評</p> | <p>教育力、募集力、研究力、地域連携力により、大学院教育も含めて教育連携システムの構築を目指し活動をおこなってきた。教育力、地域連携力については一定の実績が評価できるが、募集力においては、各コース（学部生、別科生、大学院生）において、すべて定員以下となっている。また、研究力に関しては、少しずつではあるが学科内のコラボレーションも進み研究成果も上がりつつある。</p> |
| <p>次年度への展望（まとめ）</p> | <p>令和 1 年度をもって募集停止となり、生命医科学科として新たに学生を迎えているが、令和 3 年度時点で臨床工学科の在校生は 3、4 学年となる。学生を退学させることなく、全員が国家試験を合格すべく教員一丸となって教育を実施する。また、生命科学部生命医科学科の臨床工学コースとして臨床工学技士の育成がはじまっている。臨床工学プログラムコース制となるが、医療現場での職能の多様性を鑑み学生の希望に応じた医療従事者育成に努めたい。</p> |

九州保健福祉大学 薬学部 薬学科
2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|--|---|
| <p>ビジョン (教育目標)</p> | <p>九保大だから学べる「適正で安全な薬物療法」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p> |
| <p>学科からの メッセージ</p> | <p>薬学科の教育目標は、薬剤師国家試験合格のもっと先にあります。現在、薬物療法の高度化により、チーム医療の中で「薬の専門家」としての薬剤師の重要性がますます高まっています。また、現在の薬剤師は患者さんのフィジカルアセスメント（実際に患者さんの身体に触れながら、薬の効果や副作用の早期発見を行うこと）などを実施して最良の薬物療法を医師に提案することが求められています。本学では、入学後の基礎科目から5,6年次の卒業研究までを通して、広い視野で自ら考え、適正で安全な薬物療法を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p> |
| <p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p> | <p>教育力の可視化 【学生の主体的な学びの対策】 DP (5)、CP1 (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生がゴールに向かう段階を意識し学習を進めることができるように、アセスメント・ポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・ ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーおよびアセスメント・ポリシーとの整合性を検証し、必要に応じポリシーを改訂する。 ・ シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、各ポリシーとの関係性から検証する。 ・ 現行の卒業研究（特別研究Ⅰ、Ⅱ）ルーブリック評価について、観点・基準の妥当性および学生側の活用状況を検証する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>前年度に引き続き、薬学科入学前ガイダンスおよび在学生オリエンテーションにて、全学年を対象に「薬学部薬学科履修系統図」「薬学部薬学科ディプロマ・ポリシー（DP）とアセスメント・ポリシー」を配布し、その主旨と学習過程における重要性を説明した。次年度も継続する。</p> <p>ポリシー間の整合性は、アセスメント・ポリシー作成時および本学 web ページへのアップロード時に検証済みであり、現時点での整合性は保たれていると考えられる。今後、薬剤師に対するニーズの変化に対応して検証・改訂することとする。</p> <p>シラバスの記載内容について、学科でチェックする担当の教員を決め、確認を行なった。ポリシーとの整合性には特に問題はなく、自主学習の内容と評価方法が記載されていた。今後は学習資料の提示・配布方法も含めて記載することで、自主学習の推進に繋がると考えられる。</p> <p>特別研究Ⅰ・Ⅱに対するルーブリック評価の観点は、シラバス記載の学習目標に基づき、ディプロマ・ポリシーとの整合性が確認されている。現在までに問題点は指摘されていないが、学生側の活用については各指導教員の対応に任せており、その検証は今後の課題である。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 CP1 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語力が必要な必修科目（理科系作文法Ⅰ・Ⅱ）の講義で e-learning を積極的に活用し、有用性の高い運用方法を検討する。 ・ e-learning による国語の学習成果を可視化し、成績評価の一部として反映する。 ・ 統一試験での個々の学生の成績に合わせた効果的な学習項目を吟味する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>今年度も第1回および第2回統一試験（国語）の成績に従ってクラス分けを行い、理科系作文法Ⅰ・Ⅱの講義内で e-learning による国語の学習を行った。クラス毎に学生の学力に合った学習項目を設定し、約2週間毎に小テストを行って、その成績も単位認定の一部とした。また、全クラスを対象に、作文法Ⅰ・Ⅱ共通の教科書を採用し、通年で初歩から応用まで、理科系文章の特徴やレポート等の構成について演習・作文指導等を行った。</p> <p>その結果、学年末の第3回統一試験（国語）において、クラスに係わらず殆どの学生が成績を伸ばし、最高で44点、平均で19点（第1回60.6点→第3回79.7点）と大きく成績が向上した。</p> <p>次年度は、今年度の成果の定着を図るとともに、学習内容の見直しや学習習慣の定着をより図ること等により、読解力、思考力、作文力が向上するようにさらに改善していく予定である。</p> |

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1 (2)

- ・既存のリメディアル科目の科目構成および担当者の見直しを行う。
- ・学習者の能力に合わせた効果的な学習項目と運用方法を吟味する。
- ・リメディアル科目の効果的な学習方法を、学生が自ら見出すことができるように授業内容を検討する。

<取り組み状況と次年度への課題>

リメディアル教育で習得すべき内容とレベルについて、薬学科全教員へのアンケートをもとに検討を加え、薬学数学、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱおよび化学演習の学習内容を見直し、科目間の調整を行なった。さらに数学に関して物理学・化学の学習に必須の基礎的な項目を抽出し、その中でも特に基本的な事項について、次年度から自由科目「薬学数学演習」を1年次前期に開講することとした。

今年度も1年次必修科目「薬学数学」を前期・後期に開講し、成績クラス別にe-learning学習と小テストを課したが、下位クラスでは期待した成果が得られていなかった。薬学数学の授業は新生全員がPCが使用可となる5月より開始せざるを得ない。そこで上記「薬学数学演習」の授業は入学直後から演習形式で集中的に実施し、「薬学数学」開始前に基礎学力の確認と学習の習慣づけを行う予定である。

【国家試験合格率アップへの対策】 CP2 (14)

- ・薬学総合演習試験の結果をもとに、弱点科目・項目などについて分析し、その科目・項目克服の方策を練る。
- ・単位認定(卒業判定を含む)の厳格な基準を明示する。
- ・出席管理の厳格化な運用を目指す。
- ・6年生の各学習レベルに合わせた指導内容を検討する。

<取り組み状況と次年度への課題>

今年度は、コロナ渦で6年前期が始まる頃から、予定していた講習会が開催できず、講義全体が大きな影響を受けた。この影響を最小限にとどめるため、オンラインの講義開催と並行して、国家試験対策として昨年度から分類している上位層・中位層・下位層のうち、主に中位層と下位層に毎週オンラインで課題を与え、取り組み率や解答正解率をチェックした。近年の国家試験における思考力を問う問題の増加に対応するため、理論問題を中心にオンラインで課題を与え、全体的な思考力アップを目指した。試験の結果から、昨年より上中位層の思考力アップは達成できたが、下位層の思考力アップには、もう少し改善する必要があることがわかった。今後、コロナ渦の中、学生に早期に国試対策に取り組ませるよう、オンラインシステムを積極的に利用する予定である。講義や講習会については、模試によって判明した弱点の対策を行い、6年生から直接意見や要望を聞いて、改善できる点は積極的に取り入れ、適宜講義や講習会の内容の調整を行った。また、国試合格率の大幅な回復を目指し、単位認定の基準の厳格化を行った。

【学科教員の教育力アップの対策】 CP

- ・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。
- ・教員を期限付きで国内外を含め適切な医療施設・機関にて研修させ、最新の業務内容等を大学にフィードバックする。
- ・大学院生の学位取得率を改善させるため、各研究室のさらなる研究力アップを図る。

<取り組み状況と次年度への課題>

今年度はコロナ禍による授業の日程・形式の変更が多々あったため、授業の相互見学に関する調査を行わなかった。新たな試みとして、授業評価アンケート結果をもとに学科長と教務委員長が教員面談を行い、授業への取り組みや教育手法などについて意見を交換する機会を設けた。

医療施設・機関における教員の研修は今年度も行われなかった。その理由の一つとして、長年の間実務から離れている教員が現場に立つことの問題点が教員側から挙げられていた。研修先の確保と研修内容について、現場の意見を聞き検討する必要がある。

大学院生の主担当講座・研究室での研究力強化に関し、共通研究機器の更新や使用ルール

制定などを行なってきた。詳細は「研究力【研究施設のレベルアップのための対策】」を参照のこと。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・文科省・厚生省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を構築する。

<取り組み状況と次年度への課題>

講義室、実習室のプロジェクター等の映像・音響システム老朽化に伴う更新を徐々に進めた。特に実習室のプロジェクターやOHPを新規購入した。また、今年度はコロナ禍における遠隔授業のため、各講義室にコンピューターやOHPを設置して、教員が常時講義に使用できる体制を整えた。今後、薬学科として各教員からの情報を収集できる体制を構築して補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制の構築が必要である。

【就職率アップへの対策】 DP

- ・キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。
- ・社会人マナーやコミュニケーション能力の向上を目指した企画を模索する。
- ・早期からキャリア教育を推進する。

<取り組み状況と次年度への課題>

就職面談会、企業の個々の説明会やインターンシップ等の日程がユニバーサルサポートを通じてキャリアサポートセンターから学生へ配信されているため、学生が積極的にキャリアサポートセンターを活用できる機会を増やしている。しかしながら、コロナ禍ということもありイベントは基本的にオンライン開催とした。具体的には、薬学科6年生および5年生を対象にしたオンライン就職面談会をそれぞれ6月および3月（予定）を実施した。また、専門の講師による就職活動前の学生を対象とした「インターンシップガイダンス」「就職情報サイト登録説明会」「自己分析講座」「SPI対策講座」「合同企業説明会回り方講座」などオンラインイベントを計6回実施した。その他、公務員試験対策オンライン講座（全3回）も開催した。さらに、キャリアサポートセンターにも来室せずともキャリアサポートが受けられるLineのトークルームも開設し、薬学科学生の相談に応じた。県内就職率アップを目指して、本年度は5年生に対する就職面談会が宮崎県事業所とその他の事業所に分けて2日間で行われる予定となっている。

次年度は、さらに各教員が学生に就職手続きの詳細説明や面接対応を行っているキャリアサポートセンターの積極的な利用を喚起するとともに、成績不振学生への就職活動の推進と通じて「卒業したい意識」を高めて、様々な媒体からキャリアサポートセンター利用につながるよう努力する予定である。

【学生生活サポート対策】

- ・学生の相談内容に応じた学内各部署（学生課、教務課、保健センター等）との連携体制を構築し可視化する。

<取り組み状況と次年度への課題>

学生からの相談内容は、チューター主導で主に学内メールを利用して学科教員、関連各部署間で共有され、学生対応に役立てられた。この取り組みにおいては学生のプライバシーへの配慮が必要であることから、学生からの相談時に、あらかじめ他の関係者への情報提供の可否や範囲について説明・確認するなどの対策を講じて行うのが望ましいと考える。

ハラスメント関連の事項については、学科ハラスメント委員会から学科長への迅速な連絡体制を構築して、学科長が予防的な対応も含めてその対応に当たることとした。しかし、全学的に今年度以降、ハラスメント委員への申し込み事項は全部全学のハラスメント委員会で掌握れることとなった。

【退学者防止対策】

- ・学生の長期間無断欠席の回避を図るための学科内対策を構築する。
- ・学生課やキャリアサポートセンターと協力・連携して学生へ奨学金等の推薦を通じた経済的支援体制を構築する。
- ・縦断的な学生同士の繋がりを強化する体制を築く。

| | |
|-----|--|
| | <p><取り組み状況と次年度への課題> 長期無断欠席となる学生は、学力や精神面に問題を抱えていることが多く、そのような学生についてはチューターが個別に対応している。チューター以外の教員も学習方法などの相談に応じている。次年度は、新入生の基礎学力不足によるドロップアウトへの対策として、自由科目「薬学数学演習」を開講する（「教育力（ブランド力）【国語以外のリメディアル教育への対策】」参照）。</p> <p>医療機関や企業からの奨学金の情報をキャリアサポートセンターへ集約し、学生に提示してきた。今後も継続して学生支援に活用する。</p> <p>薬学科では毎年、スポーツ大会と新入生合宿研修により学生間の縦の繋がりを図ってきたが、今年度はコロナ禍のため実施できなかった。次年度は状況に合わせて、それらに替わるイベントを実施する。</p> <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の価値観、気質、能力を配慮したきめの細かい指導や対応を行うことを目指す。 ・講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 今年度はコロナ禍で、対面での個別指導の機会が十分確保できず、成績指導や進路相談など、必要最小限の指導、対応に留まった。対面指導が困難な状況下でも、チューター、科目担当教員が連携し、学生の問題に気が付いた時点から速やかな介入・対応を心がける。</p> <p>実習科目のみならず、講義科目においてもグループでの討議・課題作成を通して、学生の主体性、協調性を把握できる科目がいくつか設けられている。しかし前項の退学者防止対策と同様、対応はチューターや科目担当教員に留まっている。全教員で学生個々の問題点を共有し検討する機会が必要となる。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生へ積極的な挨拶を促し、学生間における挨拶・礼節の実行も含めて、各教科・実習の態度にその評価結果を反映させる。 ・ハラスメント委員を増員してチューター教員との関係を密にして、初期の問題行動を共有してハラスメント委員や学科長から即時個別指導を行う体制を構築する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 教員から学生に対して積極的に挨拶を実施することを申し合わせるとともに、学生にも挨拶の励行を指導した。本年度はコロナ禍の影響で、積極的な挨拶の取り組みがなされていない場面も見受けられたので、今後も継続して指導していく。各教科・実習の態度への評価の反映については、教員各自に委ねており、次年度も実施する予定である。</p> <p>学生からのハラスメント相談、申し出については、適宜、ハラスメント委員間で情報を共有し、九州保健福祉大学キャンパス・ハラスメント防止対策規定および九州保健福祉大学キャンパスハラスメントフローに従って、適切に対応した。</p> |
| 募集力 | <p>【学科入学生定員確保のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、薬学科のアピールポイントをまとめ、高校訪問、土日見学会、オープンキャンパス等で活用する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 下の項目に示した各種の入試広報用資料を作成し適宜活用した。</p> <p>オープンキャンパスや土日見学会の来場者からは好感触が得られている。今年度はコロナ禍のためオープンキャンパスや見学会などが例年よりも小規模となり、また高校訪問にはほとんど行けなかった。出前授業は、先方の希望に応じてオンラインミーティングソフトによる遠隔授業を実施した。年度末の合格者見学会および高校1、2年生対象の大学見学会は、Google Meet を活用してオンライン相談会として実施予定である（執筆時点）。</p> <p>来年度もコロナ禍の終息は難しいと思われるため、オンライン対応の機会が増えることが予想される。そこで、よりきめ細かくインパクトのある広報資料を作成し、受験者増、志願者増につなげたいと考えている。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学科志願者を増やすために、薬剤師の魅力ややりがい、将来の展望などに関する情報を |

| | |
|-----|---|
| | <p>積極的に収集し、中高生を中心に広く発信する（ニーズの拡大）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科教育力の高さを客観的に示すために、これまでの卒業生の成績や合格実績などのデータを整理し、数値化・可視化する（本学科のアピール）。 ・ 効果的な情報発信を行うために、入試広報用コンテンツを統一するとともに、学科のアピールポイントやFAQ等を学科教員間で共有する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>活字媒体として、学科パンフレット（出前講義やオープンキャンパス等で配布）、合格者へのメッセージ（合格者向けの書類に同封）を作成した。最新の合格実績や教育力を示すためのデータを解析し、前述の資料にわかりやすく記載した。出前講義等で使用するための学科共通スライドをアップデートした。</p> <p>作成した資料はそれぞれ適宜情報のアップデートを行っている。次年度は、より訴求力のある資料を作成し、それを適切に活用することにより、一人でも多くの来学者・受験者・入学者の確保につなげたい。</p> <p>薬学部への志願者の増加を目指して、宮崎県薬剤師会と共に中学生あるいは低学年の高校生と保護者向けの薬学や薬剤師に関する説明会を企画していたが、コロナ禍で実施できなかった。来年度は、本企画をオンライン開催や資料のネット配信などにより実施できないか、環境整備を含めて検討する。</p> |
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術論文：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である英語論文を、各講座・研究室単位で少なくとも毎年2報発表する。 ・ 学会発表：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である学会発表を、各講座・研究室単位で少なくとも毎年4報発表する。 ・ 研究発表会：研究促進委員会を設立し、年3回、薬学棟各階の講座・研究室単位で学生を交えて研究発表会を行い、各講座・研究室の研究成果の進展度を可視化する。 ・ 可視化した研究力に基づいて、薬学科の研究費配分に反映するシステムを構築する。 ・ 薬学科講座・研究室間、あるいは、学科間での共同研究活動を推進する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>今年度の取り組みとして、研究成果発表（学術論文および学会発表）に関しては、目標に到達できていない。研究促進委員会主導で昨年度より開始され、各講座・研究室の研究成果の進展度を相互に把握する好機となっている、研究発表会「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、今年度はコロナ感染拡大防止のため、社会的な状況に合わせて延期中である。薬学科の研究費配分に関しては、今年度は計画通りに実施された。講座・研究室間、学科間での共同研究活動に関しては、数件行われ、一部の成果が学術論文として発表された。</p> <p>次年度への課題として、研究成果発表に関しては、学科教員個々人が、教育・研究職として就任しているという自負を改めて持ち、教育や社会貢献等の用務が多い日々においても就業時間を有効に活用してより一層懸命に研究を進め、発表していくことが求められる。研究発表会に関しては、次年度は、コロナ禍の現状を踏まえ、最善の開催形態での実施を検討する。研究費配分に関しては、可視化された各講座・研究室の研究力（学術論文、学会発表、外部資金獲得状況、上記研究発表会での進捗報告等のエビデンス）に基づいて、計画通り傾斜配分の実施を継続する。共同研究活動の推進に関しては、次年度も今年度と同様に研究発表会等を通じて各講座・研究室の研究成果を学科内や他学科と共有し、互いに連携を図りながら実施していく。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科内で共通機器や実習機器等の更新機器に優先順序を付けて、計画的に機器更新を図る体制を構築する。 ・ 大学内での高額共同研究機器の獲得やその共同使用・維持システムを構築する。 ・ 学科内の共通機器や実習機器等の管理者を明確にし、定期メンテナンス報告や研究成果を上げる効果的な使用方法等についての情報を共有する。 ・ 学科内の共通機器室の掃除を定期的実施し、研究機器の不具合を確認するとともに実験室の環境美化保持に努める。 ・ 製造業者や代理店が企画する公開セミナーやWebセミナーに積極的に参加し、学会内に設置してある研究機器の活用例や関連最新機器の情報を広く収集する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>4月に薬学科研究環境整備委員会で共通機器や実習機器等の更新機器に優先順序を付け、計画的に機器更新を図る体制を構築した。今年度は、長年の更新要望が出ており、かつ学科</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>予算内で執行可能な機器を最優先した。6月に前年度に購入できなかった高速冷却遠心機のローターを追加した。また、11月にサーマルサイクラー、12月にフローサイトメーター、2月にイメージング装置をそれぞれ更新した。更新できなかった機器は、次年度の更新を検討する。なお、フローサイトメーターについては、1,000万円を超える高額機器のため、私立学校施設整備費補助金（文科省）に応募・申請し、採択されたため導入することができた。</p> <p>大学内での高額共同研究機器について、共同使用・維持システムを構築するために、4月の学科会議やオリエンテーション時に、共通機器の使用ルールや廃溶媒、医療廃棄物の区分について薬学科教員に資料を配布、説明した。高額共同研究機器の獲得については、研究助成金情報を全教員で精力的に情報獲得、発信、応募していく必要がある。</p> <p>4月の学科会議で共通機器管理講座一覧を配信することで、学科内の共通機器や実習機器等の管理者を明確にした。また、定期メンテナンス報告、修理点検の案内を管理講座からグループメールにより随時配信された。研究成果を上げる効果的な使用法等については、グループファイル管理にてマニュアル等の更新により情報共有がなされた。</p> <p>8月、3月に全講座協力体制のもと、学科内の共通機器室の掃除を実施し、研究機器の不具合を確認するとともに実験室の環境美化保持に努めた。</p> <p>本年度は一部の教員が、公開セミナーやWebセミナーへ積極的に参加したようであったが、より活発な情報交換をしていく必要がある。また、全教員がより精力的な研究活動を行い、学会等で研究機器の活用例や関連最新機器の情報を広く収集する必要がある。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費等の競争的資金や寄付・委任経理金等：これらの資金獲得のために、各講座、あるいは、研究室単位で毎年申請を行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>今年度の薬学科の外部研究資金獲得実績は、科研費新規採択数が1件、受託事業が2件（のべおか市民大学院含む）、共同研究が2件、受託研究が5件（CRESTの継続1件を含む）、特別寄付が7件であった。今年度の薬学科の外部研究資金応募実績は、科研費が17件、科研費以外の競争的資金が2件、民間助成が4件であった。科研費以外の競争的資金情報の連絡については回覧している。しかし、まだ研究費の応募さえしていない講座・研究室があるので、その促進を図りたい。また、特に若手研究者の科研費の採択率を上げる努力を推進する予定である。</p> |
| 地域連携力 | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬学科の研究力を定期的に地域に開示・発信する。 ・ 開示した研究力を基盤とした地域連携産官学プロジェクトの構築を行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>COC+事業は終了したが、COC+授業コンテンツは継続されることとなった。亜熱帯薬食資源学および薬食同源学について、従来通りオンデマンド授業および対面授業を実施した。この授業にて、本学薬草園の紹介や薬学科と宮崎大学の共同研究成果について発信できた。今年度はコロナ禍の影響で、本学薬草園にて受講生が実地観察できなかったが、オンライン講義にて振替授業を実施した。次年度も宮崎県内の他大学の学生が興味を引くような、薬学科の研究成果を発信していきたい。</p> <p>これまでに年3回行っていた薬草園講演会は、講演会に加えて薬草を使ったものづくりを行うという特性から、今年度はコロナ感染拡大防止のため、全ての回を中止とした。その他、これまで延岡市役所および宮崎県とともに行ってきた様々な薬草関係の講演についても相次いで中止となったため、地域への発信については計画通り実施できていない。</p> <p>2020年2月2日に渥美および後藤事務局長が延岡市長を訪問し、2017年12月に締結した「薬用作物等に関する連携協定」について期限が切れていることをうけ、改めて締結し直すという方針で話し合いがなされた。連携協定が再締結されることで、今後は薬用作物の栽培方法や加工方法についての研究結果を地域に発信する機会が増えるものと考えている。コロナ禍の中、これまで通りの発信方法だけではなく、【研究力】の項目でも書かれているように最善の開催形態での実施が求められる。</p> <p>地域薬剤師の職域拡大のために無菌調製およびフィジカルアセスメントの研修会を行った。今後はフィジカルアセスメントにADME人形を加えた本学オリジナルの新たな教授法を各地の実施研修会やオンライン講義・研修会等を介し全国へ発信できる体制を構築する。</p> |
| 総合力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッションポリシー（AP）に掲げている「信頼される有能な薬剤師」としての豊かな人間性と医療人としての高い潜在能力を有する専門職育成を目指して、精力的に学生募集を行い、定員充足を目指す。 ・ ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラ |

| | |
|--------------|--|
| | <p>ムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合薬学教育を行う中で100%進級を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>ディプロマポリシーの達成、実現には、「学生が主体的に学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを体感する」ことが必要である。このためにアセスメントポリシーを充実させて薬学での学びの流れを学生が理解したうえで、低学年でのすらら等の基礎学習、リメディアル講義、高学年における思考力アップの学習形態や時間配分の見直しを行った。しかし、コロナ禍においてこれらの充実度が足りなかったためか、今年度の卒業率が低下してしまった。今後は、全学年を通して、「学生が主体的に学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを体感する」ことができるように、各学年で年間継続して学ぶ習慣をつけさせる方策を考えて実行していく予定である。</p> <p>コロナ禍の状況で、今年度は、学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図ることが難しかったため、今後の課題として継続する。</p> |
| 3つのポリシーからの総評 | <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー（AP）に掲げている豊かな人間性と医療人としての高い潜在能力を有する専門職育成を目指して、コロナ禍の状況で検定料無料となった学生募集では、受験者人数が増加し、2月現在で昨年より入学者数が増えると予想している。今後はさらに学科一丸となって九保薬学のブランド化を図り、薬学のブランド力を広範に発信する方策を具体的に検討する必要がある。 ・アセスメントポリシーの充実により、ディプロマポリシー（DP）とカリキュラムポリシー（CP）の関連がより明確になり、卒業まで一貫した統合薬学教育を行える体制の基礎が構築できた。しかし、学生の意識としてこの学びの流れが十分理解されていないと考えられる。今後は、この体制を学生・教員に周知・浸透されることにより、100%進級を目指した教育を行う。 ・今後、コロナ禍で行えなかった「宮崎県北サイエンスフォーラム」や地域連携力のアップを図り、また、共通機器更新を含めて学科内の研究力の充実に努める。まだ成果は十分に得られておらず、今後も薬学科のブランド力の一環として研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る必要がある。 |
| 次年度への展望（まとめ） | <p>学生募集対策、留年生対策（退学者対策）、研究力の充実や卒業率・国試合格率アップは、本学科の抱えている大きな課題である。これらの課題に対して、教員一人一人が真摯に向き合い、学科一丸となってそれらの解決策を模索する必要がある。具体的には、自ら考えて学ぶことのできる学生の育成を主眼として、各学年での「学生が主体的に学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを体感できる」教育・環境の設定が不可避である。このためには教員間の和・信頼が大切であることは言うまでもない。薬学科教員の奮闘あるのみです。</p> |

九州保健福祉大学 薬学部 動物生命薬科学科

2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|--|--|
| <p>ビジョン (教育目標)</p> | <p>九保大だから学べる 「薬に強い動物・動物性食品の専門家」として人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p> |
| <p>学科からの メッセー ジ</p> | <p>動物生命薬科学科の教育目標は、動物看護師統一認定試験（将来の国家試験）合格や実験動物1級技術者認定試験合格のもと先にあります。現在、“地域創生”に至る国策の一つとして、産業動物や食の安全とそれに基づく関連産業の発展が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、動物、医薬品および動物性食品に関連した「薬に強い動物看護師」、「薬に強い実験動物技術者」、「動物・薬・食に詳しい学芸員」、「食品衛生管理者・食品衛生監視員」として活躍できる専門知識を習得すると共に、さらに人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p> |
| <p>教育力 (プラン ドカ) 「学修成 果の可視 化」の観 点を含む</p> | <p>(2019) 【学生の主体的な学びの対策】DP CP1〈2〉CP1〈3〉CP1〈4〉CP2〈8〉CP3〈15〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・飼育当番、臨床実習及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高める。 ・卒業研究レポートのルーブリックを作成、運用する。 ・半期あるいは通年 GPA をチューター面談に活用し、学修成果を確認・指導する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 アセスメントポリシー（学修成果の評価方法）については学科内で作成した学修マニュアルを用いて全学生に周知した。飼養・管理・疾病対応などを含む動物飼育当番、臨床実習及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高めた。卒業研究レポートについては、従来からの評価項目、評価基準にしたがって評価を実施、冊子として学科保管した。 GPA は進級判定あるいは資格取得判定の基準など学修評価として活用、それに基づきチューター面談時に学生を指導した。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】CP1〈1〉CP2〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-learning（すらら - 国語）を積極的に活用し、学修成果を可視化、有用性を検討する。担当者は、適応時間数に合わせて学生に学習させる項目を吟味する。 ・科目「文学」により学生の国語力を高める。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 新入生に対しては「すらら - 国語」を実施した。不定期ではあるが、各学生の進捗度を調べ、課題達成率を各学生に周知し、参加を促した。多くの学生の最終試験結果は初回に比べて向上していた。また、科目「文学」を活用については履修者が少なく、この科目を十分に活用できなかった。 次年度も1年生は「すらら - 国語」を活用、課題達成率が低い学生に対しては、補講を追加する。「文学」の科目については担当者未定（現時点）となり、今後の課題とする。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1〈6〉CP2〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語は英語村の活用により実施 1～4年生の学年ごとに週1回以上の定期的受講を推奨する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 英語は英語村を活用、1年生に対しては英会話入門コース、また、主に3・4年生を対象とした TOEFL 対策クラスへの定期的な受講・参加を促した。1年生の参加は多かったが、高学年生の取り組みは低かった。 次年度も、全学年において、活用人数のさらなる増加を図る。</p> <p>【資格試験合格率アップへの対策】CP2〈7〉CP2〈12〉CP3〈11〉 認定動物看護師及び実験動物1、2級技術者並びに動物看護師統一認定試験の資格試験対</p> |

策について全て対策が記載されている「学修マニュアル（ロードマップ記述）」に従って実施する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

学科で作成した、学修マニュアルに記述のロードマップ（資格取得に必要な科目、取得学年、必要な成績など）に従って、認定動物看護師においては、自主学習の推進・確認、模擬試験（過去問活用など）の実施にて合格率アップの対策を実施した。

認定動物看護師試験実施日は3月7日（日）。12名受験予定。なお、昨年度の合格者は8名（合格者/受験者=8/8）であった。

実験動物1級技術者においても学修マニュアルに従って、筆記試験においては学習習熟度の確認試験、実技試験は技能習得度の確認試験を複数回実施し、合格率アップの対策を実施した。本年度の一次試験合格者2名（合格者/受験=2/2）、二次試験は3名（昨年度1次試験合格者1名を含む）受験予定であったが、コロナ禍の影響で本年度の2次試験は中止となった。

次年度も学修マニュアルに従って、試験対策を引き続き実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】CP1 CP2

- ・学科FD（学科教員研修会）を実施する。
- ・授業に関する相互見学を勧奨する。
- ・学位取得、論文作成並びに学会・研修会等への参加を推奨する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

学科FDは未実施であったが、教員相互にWEB授業の円滑な進め方、評価方法などに関する情報交換が図られた。

授業に関する相互見学は推進したが、ほとんどがWEB授業であったため、相互見学はほとんどなかった。

学位取得に関しては、昨年度は1名が博士（医療薬学）を取得したが、本年度はなかった（学位未取得者2名）。学会・研修会等への参加は、コロナ禍の影響で少数のWEB開催学会への参加が見られたのみであった。

次年度も引き続き、学科FD研修の実施、授業の相互見学、学位取得並びに学会・研修会等への参加、論文作成を推奨する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・科学研究費などの競争的外部資金に応募する。
- ・認定動物看護師の公的資格化にむけて施設設備の整備を検討する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

科研費等の競争的外部資金には応募をしたが、採用には至らなかった。次年度も競争的外部資金に応募する。

昨年度、愛玩動物看護師法が公布（2019年6月28日）され、「愛玩動物看護師」が国家資格となること、並びに法の全部施行が令和4年5月1日と決定した。さらに、令和5年2～3月頃に第1回試験が実施予定となった。1昨年度は回診用X線撮影装置を購入、昨年度並びに本年度は超音波診断装置の調査を継続したが、購入には至らなかった。次年度も施設設備の調査を継続し、さらなる充実を図りたい。

【就職率アップへの対策】DP CP2〈11〉CP2〈12〉

- ・担当教員及びチューターの面談指導等を行う。
- ・キャリアサポートセンターとの連携を密に行う。
- ・インターンシップへの参加を促す。
- ・公務員模擬試験を活用する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

担当教員及びチューター面談指導を行った。

キャリアサポートセンターと連携、初めて、WEBにて卒業生が在籍する企業の就職説会（企業人事担当者との面談）等を行った。

インターンシップへの参加は、コロナ禍の影響でほとんど参加できなかった。

公務員模擬試験は全学的な申込者が少なく、実施できなかった（コロナ禍も影響）。

| | |
|-----|---|
| | <p>次年度も引き続き、チューターを中心とした個別面談、キャリアサポートセンターとの連携を密にして学生の就職先の希望動向、求人情報などを共有する。就職説明会はキャリアサポートセンターと相談し、WEBの活用を推進する。インターンシップ参加については、新型コロナウイルスの感染状況に依存するので未定である。公務員模擬試験への活用を促す。</p> <p>【学生生活サポート対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般に、チューターと担当学生が参加する研究室会や個別面談、又はこれに代わる方法により、チューターの学生に対する指導を実施する。 ・特定の学生には、保護者とのコミュニケーションを取りながら、健康管理センターを活用して学科長及び各チューターが指導する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>通常は、チューターを中心とした個別面談にて学生指導、また、一部の学生に対しては学生課ならびに健康管理センターとの連携による学生指導を実施した。さらに、保護者と電話、メール等による連絡あるいは、保護者と学生を交えての3者（4者）面談を実施した。</p> <p>昨年実施した消費生活センターによる出前講義はコロナ禍の影響で開催ができなかった。</p> <p>次年度も引き続き、チューターを中心とした個別面談、学生課ならびに健康管理センターと連携を密にした学生指導を実施する。</p> <p>【退学者防止対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務課並びに学生課と協力・連携、早期のチューター面談にて対策する。 ・チューター会は低学年と高学年との合同で開催し、学年間の縦断的交流を図る。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>教務課からの授業出席状況の情報、学生課からの情報提供に基づき、早期のチューター面談にて対策を行った。また、精神的な問題を抱えている学生に対しては、健康管理センターと連携し、カウンセリングを実施した。</p> <p>チューター会は、コロナ禍で未実施となったが、1年生については、茶話会を開催した。次年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、本取り組み方法を検討する。</p> <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生がもつ諸問題に対して、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>チューター面談並びに講義等を通じ、諸問題をできるだけ早期発見し、指導を行った。コロナ禍のために、チューター面談は例年よりもWEBを利用した方法が多かった。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】 DP3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。 ・学外実習の事前指導及び飼育実習によりマナー対策を実施する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>挨拶運動については教員から積極的に挨拶をするとともに、学生に対しては挨拶の励行を促した。</p> <p>動物病院、牧場あるいは博物館への学外実習の際には、事前指導及び飼育実習によりマナーを指導・実施した。なお、農業共済組合の学外実習はコロナ禍の影響により中止となった。</p> <p>次年度も本取り組みを継続する。</p> |
| 募集力 | <p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、各種資格試験、大学院進学、留学などの実績を広報できるだけの教育を継続する。 ・これら実績を高校訪問、土日見学会、オープンキャンパス、入試広報パンフレットなどで活用する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>オープンキャンパス、土日見学会などで、就職、各種資格試験結果、進学などの実績、また、昨年度</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>「愛玩動物看護師法」が公布され、動物看護師が国家資格「愛玩動物看護師」となることを強調した広報活動を実施した。 なお、本年度は、本学科で初めて韓国留学生 1 名の入学者があった。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、資格試験、進学、留学などの実績を整理(数値化)・可視化し、広報活動に活用する。 ・野生動物教育プログラムを広報活動に活用する。 ・動物看護師の公的資格化に関する情報を広報活動に活用する。 ・フィリピン国立大学獣医学部への編入留学制度を広報活動に活用する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集、広報活動に活用する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 学科の学修マニュアル並びに学科パンフレットなどで実績を整理(数値化)、見学者などへの広報資料とした。なお、例年、学芸員養成課程の学生が実施している延岡市内での展示会を広報活動の一つとして活用していたが、本年度はコロナ禍の影響で中止となった。 国家資格となる「愛玩動物看護師」については、国が開示した愛玩動物看護師法施行スケジュールを活用して広報活動を実施した。 フィリピン国立大学獣医学部への編入制度並びに卒業生の情報も学科パンフレット等で広報活動に活用した。次年度も本取り組みを継続する。</p> |
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術論文発表、学会発表並びに学会・研究会への参加を推奨する。 ・学位(博士)取得を推奨する。 ・学科内あるいは他学科との共同研究活動を推進する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 論文は作成中のはあったが、発表には至らなかった。本年度は、特にコロナ禍の影響により、多くの WEB 授業を実施した。この WEB 授業を支障なく実施することに多大の時間を要したことも少なからず影響したと思われる。 学会等は延期あるいは WEB 開催となり、通常とはことなる状況となり、学会・研究会への参加は一部の WEB 開催のものに限られ、結果として参加は少なかった。 学位取得に関しては、昨年度は 1 名が博士(医療薬学)を取得したが、本年度はなかった(学位未取得者 2 名)。学科内あるいは他学科、あるいは他大学との共同研究は少ないものの実施した。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業セミナーあるいは学会・研究会等に参加し、最新研究機器の情報を広く収集する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 本年度はコロナ禍の影響により、参加はほとんどできなかった。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費などの競争的外部資金へ応募する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 科学研究費の新規採択は無かった。継続の科学研究費 2 件、共同研究は 3 件実施中。次年度も本取り組みを継続する。</p> |
| 地域連携力 | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施可能な地域連携プロジェクトの調査を行う。 ・市民大学講座などで本学科の教育・研究の成果などを発信する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 地域連携プロジェクトの実施は無かった。市民大学講座では 1 講演を予定したが、コロナ禍で中止となった。次年度も本取り組みを継続する。</p> |

| | |
|--------------|---|
| 総合力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー（DP）に掲げている動物及び薬の専門職としての基礎的学力と、臨床、研究等の職業的現場に対応した知識・技能・態度を修得することができた人材育成を目指し、就職率、資格試験合格률을外部に発信できるだけの教育を継続する。 ・高い就職率並びに資格試験合格률、動物看護師の国家資格化、さらにフィリピン国立大学獣医学部編入留学制度など、学科の魅力を学外に発信することで、入学定員の充足を目指す。 |
| 3つのポリシーからの総評 | <p>アドミッションポリシー（AP）には動物と薬に関する専門性の高い職業への就業意欲、基本的な国語力、英語力並びに生物学の知識を修得した学生を掲げているが、その就業意欲並びに知識・能力には学生間で大きな幅がみられる。本学科で取得できる認定動物看護師資格は現在は民間資格であり、また、就職動向を考慮すると必ずしも学科の「柱」なる資格では無く、単に複数取得できる資格の一つであった。しかし、昨年度、「愛玩動物看護師法」の公布により動物看護師の国家資格化（呼称は愛玩動物看護師）が明確となったことから、今後は本資格を柱とした学生募集を実施したい。今後、国家試験受験の指定登録機関にむけてカリキュラム変更が予定されるが、作業は本学が所属する一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会と協働して実施する。これら変更に伴い、3つのポリシーを整合していくことが必要となる。ディプロマポリシーに掲げた人材を育成する基盤として、基礎学力の向上が必要で、現在実施している「すらら」等のリメディアル教育の学生への周知を徹底する必要がある。</p> |
| 次年度への展望（まとめ） | <p>動物看護師の資格は、昨年度、「愛玩動物看護師法」が公布、法の全部施行が令和4年5月1日、また、次年度ではないが、令和5年2～3月頃に第1回の国家試験が実施される予定となり、念願の国家資格となる。</p> <p>九州圏内の大学では唯一、国家資格「愛玩動物看護師」が取得できる学科にふさわしい教育並びに施設設備の充実を図り、この特徴を学生募集に活かしたい。本学科では留年生はほとんどないが、退学者では精神的な面での支援が必要な学生が散見され、その対策としては、早期のチューター面談並びに健康管理センターと連携を密としたカウンセリングを積極的に活用したい。また、将来の目標が定まらない学生に対しては、早期からキャリアサポートセンターと連携して指導、対策をしていくことで、学生一人一人のモチベーションの向上並びに目標設定を明確にさせていきたいと考えます。</p> |

| | |
|--|--|
| ビジョン (教育目標) | 九保大だから学べる「高度な倫理観と専門知識を持った医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME 技術者」として、人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を養成・輩出する。 |
| 学科からの メッセージ | 生命医科学科では、本年度から臨床検査技師と細胞検査士に加えて、臨床工学技士の資格取得も可能となり、全国でも珍しい臨床検査技師と臨床工学技士の国家資格ダブルライセンスの取得もできるようになった。このことを踏まえ、当学科では、医療専門職たる臨床検査技師、臨床工学技士、ならびに細胞検査士、ME 技術者、さらに生命医科学者として活躍できうる実践力、専門的知識と技術、高度な倫理観、自己実現意欲と能力、リーダーシップ等を身につけた、社会に有為な人材を育成することを目指す。 |
| 教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の 観点を含む | <p>教育力の可視化</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(4,5)、CP1(3,5)</p> <p>卒論評価用ルーブリックの策定し、実施計画を立案する。具体的には、卒論評価用ルーブリックの作成、卒業評価用ルーブリックに基づいた卒業研究指導マニュアルの作成、卒業研究発表会の計画立案などを実施する。現在実施している卒業研究発表においては、内容とともにプレゼンテーション技術の向上も図れるよう計画を立てる。</p> <p>実習または演習科目で積極的にアクティブラーニングを導入する。現在アクティブラーニングを実施している臨床免疫学実習Ⅰを継続しつつ、アクティブラーニングを採用する科目を積極的に増やす計画を策定する。その一環として系統講義をベースにアクティブラーニングを導入する手順を明確化する。アクティブラーニングを導入した科目は効果的なSGD(small group discussion)を計画し、グループごとに成果発表をさせる。学生が自ら学ぶための様々なアイデアをまとめ、具体的な指針案を策定する。</p> <p>1)2020年度の取り組み状況</p> <p>卒論評価用ルーブリックの策定し、それに従って卒業研究の指導を行った。9月に実施した卒業研究発表会では各ゼミの学生たちによる工夫をこらして発表や発表後の活発な質疑応答など、非常に有意義な卒業研究発表会となった。また、本発表会には生命医科学科の学生及び教員の全員が参加したことから学科全体への波及効果が認められた。また、これらの活動は卒論評価用ルーブリックに従って学習効果を評価し、成績に反映した。</p> <p>2年生の臨床検査総論実習、3年生の臨床血液実習、臨床免疫学実習Ⅰ及びⅡでは少人数のグループで実習を行い、その結果についてディスカッションしパワーポイントを用いて発表させることにした。その過程で、学生たちは自ら実習項目について調べ創意工夫しながら資料を作製した。発表会では各実習項目について詳しく調査した成果が報告され、予想以上に充実した内容となった。実習の最後に質問時間を設けたところ、通常の講義ではみられない活発かつ本質的な討論がなされた。これらの内容から判断して実習内容の深い理解に繋がったと推測された。</p> |

2)2021 年度への課題

卒論評価用ルーブリックに基づいた卒業研究指導マニュアルを学生の学力向上にさらに活用する。卒業研究発表においては、前年度を継続し、更に内容の濃い発表会にするよう綿密な計画を立てる。また卒論評価用ルーブリックを効果的に活用するためこの内容を学生に十分に理解するよう周知する必要があると考えられた。

アクティブラーニングを実施している科目はそのまま継続し、他に採用できる演習や実習があれば積極的に採用していく。ただ、多くの知識を身に着けなければいけない授業が多いので、選択は慎重にならざるをえないと思われる。

【基礎国語力増進への対策】CP1(1)

2020 年度の取り組み状況

1. 国語力増進を図るために、講義・実習で積極的なレポート作成を課し、提出させる。提出したレポートについては、必ず教員が添削しフィードバックする。2.さらに e-learning の「国語」を活用し、中学校から高校までの基礎的な国語を復習させる。の2点を計画し、実行した。
2. 講義、実習でのレポートについては教員が添削しフィードバックを行っているが、「～の方はこちらになります」の様な誤った日本語、所謂バイト敬語を無意識に使用する学生が散見された。また、多くの学生が文語と口語の違いを十分に理解していない。文法的な誤りに気が付かないなど様々な点で全体に注意を促した。
3. e-learning の「国語」については、実施により一定の効果があり、学力が全体的に向上していることを確認した。しかしながら、国語の学力試験上位の学生と下位の学生に対しては現在の e-learning 教材があまり有効に機能していないことも確認された。

次年度への課題

1. レポートで使用される文語体は日常的に使う言葉ではないため一朝一夕には習得できないと思われる。論理的な文章の組み立ても繰り返し行う事で培われるため、次年度も引き続きレポート課題の提出、フィードバックを実施する必要がある。
2. 平均的には現在の e-learning 教材は有効であるため、次年度も利用したいと考えているが、より有効な利用方法については検討が必要である。また、国語力が乏しい学生に対する方策についても検討が必要である。

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1(1,2)

本年度は「リメディアル教育は、学生への「自立支援」が目的であり、学生の学力レベルに適合した、より身近なりメディアル教育実践の環境作りを行う」とする教育モデルとして検討した。入学時から学力レベルの確認を実施しつつ、これに合った、基礎科学、選択科目での実施を目指し、以下のようなことを計画したが、実際的には、講義日程変更や対面講義の中止などが影響し、すべての項目では実施できなかった。

- ① e-learning「数学」: 基礎科目「物理学」において活用する。
- ② e-learning「英語」: 基礎科目「英語 I」において活用する。

- ③「化学」の基礎知識、基礎計算の学習:基礎科目「化学」及び「生化学」で積極的に実施する。
- ④「生物学」の基礎知識の学習:基礎科目「生物学」及び「生化学」で積極的に実施する。
- ⑤「物理学」の基礎知識の学習:基礎科目「物理学」で積極的に実施する。

次年度の課題としては、講義形態に関わらず、上記項目の実践を徹底し、学生の習熟度の均一化を図ることとする。必要に応じて、担当教員による個別指導や学生同士の学習サポート体制を構築し、早期の成果均一化の達成に努める。進学した際に、専門科目の習熟に支障を来さないような実力を確保すべく、読解力、理解力を高めるような指導、サポートの取り組みを進めていく。

【国家試験合格率アップへの対策】CP2(12)

■2020 年度の取り組み

当学科では教員からなる専門委員会で策定した臨床検査技師国家試験対策スケジュールを策定し遂行した。具体的には、4 月から8月中旬にかけて各科目担当者が、国家試験の特別講義ならびに小テストなどを実施し、その中で理解度の低い分野については教員が解説を行いサポートすることで、弱点を克服し基礎学力の定着を行った。また、8月からは毎月、臨床検査技師国家試験の外部模擬試験を実施し、その成績をもとにチューターを中心に個別指導を行った。特に成績最下位～10 数名に対する学習支援は、まず彼らがやる気を出すこと、我々教員がやる気にさせることからはじめ、他の学生たちとのグループ学習などを展開し、ご父兄の協力も得ながら面談指導を行った。

臨床検査学演習 I および同演習 II において、臨床検査技師国家試験主要科目の知識向上を目的とした外部講師による専門科目講義を開講することで、学生自身が自らの知識不足のポイントを再認識できる機会をつくり、さらに卒業試験を課すことで学生の集中力を継続するように配慮した。

不合格者に対しては、卒業後も国家試験対策へ聴講生として参加できる体制を整え、卒業生専用の自習室を確保し、次年度の合格に向けてフォローする。

■2021 年度の課題

来年度は、今年度行ってきた受験指導に加え、次の3つのポイントを新生生に対しても認識させる。

- ①国家試験は 200 問中 120 点以上(60%)で合格であるが、近年、基礎を問う問題が多く出題される傾向にあり、1 年次からの日々の授業の内容が国家試験合格に繋がる。
- ②国家試験勉強では、暗記すべき項目・分野が多岐にわたることから、日々の授業をきちんと聴き、実習にも真面目に取り組む姿勢を徹底させる。
- ③本格的に国家試験対策の勉強を始めるのは3年次臨床実習が終わってからとなる。出題傾向に若干の変化が見られたとしても、過去問を中心に基礎をしっかりと学習していれば、合格基準である 60%に十分手が届く。そのために、間違った問題に対して、何故そのような経緯に至ったのかについて理解できるように指導する。

今後は、定期的に個人面談を実施し、さらにきめ細やかな個別指導で国家試験へ向けた総

仕上げを行う。また、面談では、模擬試験結果などの学業面だけではなく、精神面のサポートも充実して行う予定である。

【学科教員の教育力アップの対策】

教員の教育力の向上は、学生の教科に対する理解に欠かせない。教育力アップのツールとして既に全学的に学生授業アンケートや授業見学が実施されているが、それが現時点で有効に活用されているかというとなかなか難しい。この 2 つのツールを今一度見直すことによって教育力アップが望めると考えられる。

学生アンケートの多角形を用いた評価では、その教員の何が良くて何が悪いかをイメージとしてとらえることができる。各教員が自分の悪い点をもう一度見つめ直し、その点を少しずつ改善していくよう促す。学生の評価が教員の教育力の評価の全てではないことは事実であり、教育の成功は、学生の満足度以上に、アウトプット(結果)が重要である。すなわち、小試験、定期試験、ひいては模擬試験や国家試験などの点数である。各教員が「結果」を意識して教育に取り組むよう、学科として取り組んでいく。

授業見学については、近年はあまり活発にやられていないのが実情である。授業評価の高い教員の授業をできるだけ見学することで、良い部分を吸収して良い授業につなぐことができる。今一度、学科として授業見学に関して教員に周知し、臨検、臨工の教育プログラムを超えた行き来を活性化し、教育力アップにつなげていく。

最新の医療、生命科学の知識を習得し、その知識を持って教育をするのも教育力アップの一つの道筋である。各教員が属する学会や、関連するセミナーへの参加を活性化し、積極的に意見交換を行っていくことを継続していく。

コロナ禍のもと、オンライン授業は欠かせないものとなりつつある。逆にオンラインならではの利点も少なからず見いだされ始めている。試行錯誤が必要とはなるが、オンライン授業の良い点を利用し、通常の授業に少しずつでも双方向あるいは単一方向でのオンライン授業を取り入れることを推進していく。

以上のような対策をもって、ディプロマポリシーである「学生が臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME 技術者、さらに生命医科学者として活躍できる人材」となるよう、カリキュラムポリシーに沿った教育を効率よく実践していく。

【教育施設のレベルアップのための対策】

本年度は新型コロナウイルス感染症で対面授業がストップし、オンライン遠隔授業への移行が加速した。本学では情報シナジー(バーチャル)組織設置により Google Meet を利用した九保大式オンライン遠隔授業システム(遠隔授業ポータル時間割)を確立した。本学科もこのシステムを応用するとともに、学科独自の ICT 環境を整備し、学生の学びを止めないための体制づくりを行った。次年度は、After コロナ段階を鑑みて、「対面授業+遠隔オンライン授業(ハイブリッド型)」をさらに充実化させ、未来型教育システムの構築と教育の質のワンランクアップを目指す。そのためには、教育改革の基盤であるアクティブラーニング(AL)のための教員と学生、あるいは学生同士の活発なコミュニケーションができる ICT 環境を構築する。すなわち、学生の五感に

訴えかける AL 専用の ICT 環境スペースを整備する。これらの環境整備には、設備投資が必要となる。文科省・厚労省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を整える。また、豊かな人間性と高度な倫理観・専門知識を持った医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME 技術者を養成するためには、教育に必要不可欠な医療機器等の更新、さらには教養図書および専門図書のさらなる充実化を図る。カリキュラム・ポリシーに基づく教育評価ならびにディプロマ・ポリシーに基づく学位授与を確実に実践する。

【就職率アップへの対策】DP

キャリアサポートセンターと綿密な連携関係を構築し、高い就職率を目標とする。宮崎県、九州地区、西日本の医療施設に、九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の卒業生をアピールする方策を立案し、計画的に実施する。就職懇談会など早期実施が可能な項目を洗い出し、できることから実施するとともに、履歴書作製・面接対応などを指導する。地域に関わらず臨床検査技師・細胞検査士・臨床工学技士が活躍できる医療施設へ積極的に出願するよう入学時より学生に指導し、特に資格試験合格圏内に近い学生には早期からの就職活動開始を指導する。

【学生生活サポート対策】

目標

学生生活のサポート対策として以下の事を重点的にサポートすることを目標とする。

- ①授業、実習への欠席低下のサポート。
- ②退学防止のための学生へのサポート。
- ③学力向上のためのサポート。

2020 年度の取り組み

- 1) 新入生へオリエンテーションで生命医科学科の目標として国家試験の合格を目指すことを伝えた。そのために学生生活の各教員が欠席の多い学生の情報共有を行い、チューターにより学生に電話やメールによるコンタクトを取り、出席を促した。また、一部では講義中に講義に対する要望との無記名アンケートを行い授業の要望を聞き、可能な限り取り入れた。
- 2) 座学だけではなく臨床検査技師になるという意識付けを早期に行うためアーリーエクスポージャーを計画していたが、コロナ渦の状況で残念ながら実施できなかった。
- 3) 学科の学生には教員が積極的に声掛けを行い、学生が教員に話しやすい環境を目指した。

2021 年度への課題

- 1) 授業への欠席の増加、それに伴い定期試験の「不可」により、退学となる学生が少なからず居るため欠席しそうで授業へ消極的な学生を早期に見つけること。
- 2) 学力向上のため、これまで以上に教員へ質問しやすいような体制をつくる。

【学生指導力の向上】

2020年度の取り組み

基礎学力の向上と、学力不足を解消するために、初年次には eラーニング教育を行うことで基礎学力に一定の成果が得られた。専門課程(教科)では、グループワークやアクティブラーニング型授業、個別質疑応答形式の授業を行うことでロジカル・コミュニケーション能力等の育成にも努めた。また、演習形式や振り返り授業や授業内で国試に則した内容を教科毎に盛り込み専門知識習得のアップや国家資格取得の意識付けを行った。

入学後のコーチング・フォローとしてチューターまたは学科教員による「寄り添い型」の取り組みを行った。地区別懇談会を積極的に利用し、学生の実情を報告し保護者と連携し充実化をはかり、さらに学部・部門間での情報の共有や連携も強化を行った。特に、チューターは学生の話聞くことを徹底し、年数回学生との面談を行い、成績不振者や欠席の多い学生とはメールや電話で密接に連絡を取り、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で適切な指導を行った。また、保護者と連絡をとり情報・状況を共有した上で、その学生にとって最善の解決方法を模索した。

退学予備軍をサーチし、退学リスクやパーソナリティ診断を実施した。

次年度(2021)への課題

初年次には eラーニング教育、専門課程ではロジカル・コミュニケーションや国試取得を目標とした内容を教科毎に授業内に盛り込み、演習形式や振り返り授業、グループワークやアクティブラーニング型授業を各教科に継続して導入する

情報の共有や学部・部門間での連携を強化すると共に、地区別懇談会を積極的に利用して、学生の実情を報告し保護者連携の充実化を継続的に行う。

インタラクティブ、オンゴーイング、テラーメイドのアプローチを学生に行い「寄り添い型」学生支援の取り組みを継続して実施する。

チューターまたは学科教員は学生からよく話を聞くことを徹底し、保護者と連絡をとり情報・状況を共有した上で、その学生にとって最善の解決方法を模索することを継続して行う。

退学予備軍をサーチのための専門教科の GPA 判定を行い、転科等を考慮した適切な指導を行う。

全体的にエビデンスに基づく「早期支援システム」の PDCA サイクルを強化する。

【社会人としてのマナー対策】 I ①、⑤、⑥、⑦、Ⅲ. I 3、Ⅲ. II 4、

- ①入学時から社会人、特に医療従事者には、挨拶が必須であることを意識するよう指導する。
- ②来客や教員だけではなく、学生間でも挨拶することの大切さを身に着けさせる。
- ③講義、実習だけではなく、生活全般で時間厳守を心がけるよう指導し、自らの責任や協調することの大切さを理解させる。
- ④学科の全学生を対象として社会人(医療従事者)としてのマナー対策の講習会を開催する。具体的には、基本マナー、挨拶の仕方、敬語の使い方、メールの書き方、電話対応、オンライン時のマナー、お礼状の書き方、呼称、話の聞き方ほか。マナー対策講習会に基づいて、日々の生活の中で、各専任教員が気がついた時に個々の学生に注意を促す。

| | |
|-----|--|
| | ① ⑤その他、社会におけるマナーへの認識を折に触れ教員がフォローし、必要な指導を行う。 |
| 募集力 | <p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <p>本学科の最大の特徴は臨床工学技士および臨床検査技師資格または臨床検査技師および細胞検査士資格を4年間で同時取得できることにある。これらのダブルライセンス制度は、九州の4年制大学では本学科が唯一の存在であるため、このユニークな特徴を周知することにより入学定員の確保を果たすことができると考えられる。</p> <p>周知を確実にを行うために入試広報をはじめとする事務部門とも十分な連携することが重要であると考え、広報活動を行ってきた。具体的な周知方法としては中学校、高等学校などの教育機関、あるいは様々な団体による大学見学、高校訪問、学会や地域のイベントへの積極的な参加などである。</p> <p>また、現代においては欠かすことのできないツールである SNS や Youtube を用いた情報の発信も行っている。</p> <p>更に、学科定員確保には海外からの留学生獲得も重要になってくるため、タイの教育提携校からの留学生獲得を目指している。そのための布石として研修生を受け入れる門戸を開いている。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <p>学科の魅力を発信するために入試広報との連携を図り、広報活動を行っている。</p> <p>また、今年度から生命医科学科には臨床工学技士および臨床検査技師の両資格取得が可能な新規プログラムが発足した。それに伴い学科パンフレットを一新した。新パンフレットは臨床工学技士、臨床検査技師、細胞検査士を知る人は勿論、知らない人にも手に取ってもらえる表紙を意識して作成されている。今年度は新型コロナウイルスによって高校生への配布機会が減少したが、このような場合にも対応できるよう、公共施設等に設置するなどの対策をとる必要があると考える。</p> <p>さらに、高等教育機関である大学として研究力も重要であり、ユニークな研究は学科の魅力にもなり得る。今年度は大学院生が全国学会への発表も行った。教員はもとより、大学院生による全国、世界に向けた成果報告を行うことが、学科のみならず大学の周知に貢献するものと考えられる。さらに学部生にとってより身近な存在である大学院生による活動は、学部生の好奇心や向上心を刺激することができると考えている。それらを通して学問に対する楽しさややりがいを学生が感じることで、学生自身が大学の魅力を発信してくれる存在になり得る。それらを実現するために大学院生の成果報告を学部生が閲覧できるようにしている。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響によって得た様々な遠隔技術を今後の広報活動に利用していく必要があると考える。今年度は実際に、遠隔システムを用いた見学会も行った。このシステムは本学に來学することが容易でない方々に本学、本学科の魅力を発信するためには非常に有効であるため、今後も続けていく必要があると考える。普段の見学会では保護者と生徒のみが対象になることが多い。しかし、学校単位で遠隔見学を行う際には中学校または高等学校の教員もいるため、中学校、高等学校自体への周知も期待できる。</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>現在活用しているホームページの補強も重要である。具体的には卒業後に働いている卒業生の声を入れ、卒業生から学科の魅力を発信してもらうことで学科と就職が繋がり、将来の明確なビジョンおよび生徒や保護者へ将来に対する安心感を抱かせることが可能であるとする。</p> |
| <p>研究力</p> | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>研究活動の過程で、「学会発表」で経過報告を行い、最終成果報告として「学術論文」を完成させるということで、連携した成果報告として実践できるように教員が意識することが必要である。最終的な「学術論文」までのモチベーション維持の手段として日常的な研究活動における学科内での学習やディスカッションが大きく貢献すると考えられる。また、研究活動を淡々と続ける中、「学術論文」や「学会発表」を一定の期間目標とすることで研究意欲向上や研究力の活性化などにつながると思われる。</p> <p>上記を踏まえ、成果報告を達成するために、研究活動を進める上で環境整備が重要で不可欠である。研究活動に必要な環境としては、資金、人材、システム(プラン)、そして、計画実施のための時間確保から成り立つと考えられ、今年度はそういったところの整備を少しずつ進められたのではないかと思う。</p> <p>資金面で、研究費獲得を目標として科研費申請は行ったが、採用実績が良くないことから、学内研究費助成という形で研究費を得ることとなり、それをういた研究は有効に行われた。今後更に研究費獲得の可能性を高めるため、申請書作成の講習やトレーニングなどはこれからも随時検討されるべきである。</p> <p>次に人材に関しては、特別研究員事業等の研究者支援やシニア職員を含めた流動化促進等の人材育成プランの活用は進展がなかった。重要と考えられた若手研究者の育成については安定研究環境の創出(ポスト振替や卓越研究員制度等)や独創的・挑戦的な研究を進めるための設備整備、また、大学院教育に対する協力等を通じた若手研究者育成 等が検討されたが、明確な成果は得られなかったため、引き続き適切な対応が求められる。</p> <p>また、システム(プラン)として、新興・融合研究領域への取組の強化、新分野創成や異分野融合の推進などを踏まえた研究計画を検討し、産学官連携による研究開発投資の確保、地方創生への貢献などを実践した成果を「第27回みやざきテクノフェア」などで提示することができた。地方大学として、大学共同利用機関との連携による学術研究基盤の効率的な形成については今後も検討が必要な課題である。</p> <p>研究実施のための時間確保については、教育面で学科教員に対する種々の負担が大きくなったことから、今年度は十分に確保できたとは言えない状態となった。学科教員数減となる次年度以降、教育面での負担がより大きくなることを踏まえ、可能な限り研究時間の確保するための取り組みを学科全体の問題として進めていかねばならない。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <p>2020年度の<u>取り組みとして</u>、既に導入済みの設備や器具を把握した。導入した設備と多くの研究者の研究分野が一致していないと研究施設のレベルアップとは言えないため、教員や大学院生を含む研究者の研究内容を把握して、不足しているものを洗い出した。</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <p>次年度への課題として、機器は時間が経つあるいは使用するにつれて劣化や故障が起こると予想される。予算は潤沢ではないため、今後導入する機器についてはメンテナンス費用やランニングコストのことも考え、経済的に持続可能な研究施設を目指す。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <p>生命医科学科教員の研究を円滑に遂行するため積極的な外部資金獲得を目指す仕組みを構築する。科研費や民間の研究助成金の募集情報を随時教員に提供し、積極的な応募を促す。教員は毎年科研に応募することを目標にする。また、生命医科学科内および外部研究機関との連携をはかり効率的に研究助成を受けられるよう情報を共有する。</p> <p>1)2020年度の取り組み状況</p> <p>2020年度は研究資金獲得への情報提供および積極的な働きかけを行い、地域創成事業助成1件、教育の質の転換に繋がる優れた取り組み支援1件、研究経費助成(学内)6件を獲得した。しかしながら科研や財団等の研究資金の獲得には至らず今後の課題として検討する必要がある。</p> <p>2)2021年度への課題</p> <p>2021年度は研究資金調達のための年間計画を策定し、余裕を持って申請準備を行う体制を整える。また教員間の連携を促しレベルの高い研究を計画し共同で申請する方法を試みる。</p> |
| <p>地域連携力</p> | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <p>目標</p> <p>本学の教員は高度な専門領域を持つ集団であり、且つ県内唯一の医療系私立大学である。そのため本学教員に対する期待は大きいものと思われる。これらの事から以下を目標とする。</p> <p>1)医学部の教員や専門の臨床検査技師との連携をとること。 2)宮崎県や近隣の県の臨床検査技師会との連携を取る事。</p> <p>2020年度の取り組み</p> <p>1)宮崎大学との共同研究を行った。 2)宮崎県臨床検査技師会と連携し学会をサポートすることとしていた。しかしコロナ渦で学会は中止となった。 3)コロナ渦のため電話にて宮崎県内外の病院検査責任者とコンタクトを取り、なるべく顔の見える関係を築くように心がけた。 4)宮崎県医師会の下部組織のICLS普及委員会での研修会へ、指導者として協力。 5)日本医師会の災害対策者JMATの研修会へ指導者として協力。</p> <p>2021年度の課題</p> <p>1)コロナ渦のため中々病院検査責任者とのコンタクトが取れなかったため、2021年度は可能な限り、顔の見える関係をつくる。 2)教員が担当以外の病院も訪問し、就職斡旋できる関係を構築する。</p> |

| | |
|--------------|--|
| | 3) 県内の臨床検査技師会や臨床工学技士会のイベントにはなるべく参加し、他の医療職種とも連携を図る。 |
| 総合力 | <p>アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を備えた豊かな人間性を持つ入学を受け入れる。学科の「魅力と強み」、すなわちダブルライセンス教育・研究能力をアピールポイントにして、どのような学生を「受け入れ」、「学ばせ」、「卒業させるのか」を明確に可視化する。カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー達成のために、建学の理念に基づき、専門知識・技術・態度を修得することを目的にカリキュラムを構築する。「振り返り学習」授業やアクティブラーニング型授業に力点を置き、入学者の学びたい内容、卒業までに求められる学修成果が可視化できるポリシーをさらに強化する。また、カリキュラム・ポリシーを通して、臨床検査技師国家試験合格率、臨床工学技士国家試験合格率、細胞検査士認定試験合格率、ME技術者認定試験合格率、さらには就職率100%を保証する仕組みを構築する。ディプロマ・ポリシーは、大学、学部、学科等の教育理念に基づき、教養と専門性の高い知識および技術を有した臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、または生命医科学者として活躍できる人に学位を授与する。さらに、アセスメント・ポリシーをステップワイズ的に導入し、「自己評価と外部評価」を同時に実施すると共に、その教育目標達成度を大学レベル、学科レベル、科目レベル、学生レベルで可視化する。</p> |
| 3つのポリシーからの総評 | <p>今年度から臨床検査技師・細胞検査士に加えて臨床工学技士のライセンスの取得も可能となり、さらには臨床検査技師と臨床工学技士の国家ダブルライセンスの取得もできる新生・生命医科学科としての3つのポリシーを制定した。この新しいディプロマポリシーの実現を念頭に、個々のカリキュラムポリシーの実践に取り組んだ。</p> <p>ディプロマポリシーの問題発見・解決能力、専門的知識・技能の活用力、コミュニケーション能力、およびプレゼンテーション能力の達成度を客観的に判断するため、卒業研究の評価へのルーブリック評価を継続し、積極性、理解力、研究能力、プレゼンテーション能力、論文作成能力、そして国家試験合格に向けた知識の習得についての評価を実施した。</p> <p>ディプロマポリシーに掲げている対象者を支援する汎用的能力やコミュニケーション能力を臨床実習の現場で実践するため、臨床実習前にはキャリアサポートセンターとの協力でマナー講座を実施し、学生自身によるロールプレイを継続して行なった。臨床実習前にカリキュラムポリシー(2)の客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)および学力試験を行う予定であったが、コロナ禍のため実施できなかった。</p> <p>コロナ禍のもとでのカリキュラムポリシーの実践のため、パワーポイント、iPadを用いた板書、教室での板書の投影、YouTubeなどの様々ツールを用いて、各教員が工夫したオンライン授業を行った。</p> <p>アドミッションポリシーIにある、求める学生像のような生徒にアピールするため、YouTube、Instagramなどでの学科情報の発信を積極的に行なった。また、アドミッションポリシーIIの入学までに修得すべき学力・能力を確実なものにするため、推薦入学の学生には生物・化学・数学の問題集を用いて入学前教育を実施し、国語力アップのために臨床検査技師、臨床工学技士、或いは生命科学に関する本の感想文を提出させた。</p> |

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>次年度 への展 望 (まとめ)</p> | <p>改組2年目の次年度、新しい3つのポリシーの具現化に向けて、教員一同一層努力をしていく必要がある。臨床検査技師教育プログラムと臨床工学技士教育プログラムの共存が一つの課題であり、集中講義や遠隔授業をうまく取り入れることによって、効率の良い時間割編成を考えていく必要がある。臨床工学別科や細胞検査士養成コースも並行しているため、土日祝日の利用や早朝夜間の講義も視野に入れる必要が生じるが、学科全教員の強い意志のもとに実施していく所存である。これに関連し、近年中に、臨床検査技師及び臨床工学技士の新カリキュラムを実行に移す必要がある。新カリキュラムでは授業科目の増減や臨床実習期間の増加などがあり、臨機応変に対応することが求められる。</p> <p>今年度は昨年度から国家試験対策授業の方式を大きく転換し、土曜日も有効に活用しながら非常にきめ細かな指導を行った結果、比較的良い結果が出ていると考えられるため、次年度もこの方式を継続し、さらなる合格率アップを目指していく。国試対策授業とともに4年次でのキャリア教育を行ったことも学生のモチベーションアップに大きく寄与したので、次年度も継続すると共に、もう少し早い段階(4~5月)時点で実施することで、さらに良い結果が期待できる。</p> <p>九州唯一の臨検・臨工国家ダブルライセンス、臨検・細胞検査士を取得できる学科として引き続き、様々な媒体を使ってアピールしていく。後者は6年前から積極的にアピールしているため、入学者の中でも人気が高いが、前者に関してはまだまだである。「入学後に学生の希望に沿って取ることができるライセンスを選択できる」ことを大きくアピールし、選んでもらえる学科にしていきたい。</p> |
|------------------------------------|--|

九州保健福祉大学 臨床心理学部 臨床心理学科

2020年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

| | |
|--|---|
| <p>ビジョン (教育目標)</p> | <p>九保大だから学べる「心の健康」と「コミュニケーションする幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p> |
| <p>学科からの メッセージ</p> | <p>臨床心理学科は、「誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現」を目指して、心理・福祉の専門職を養成する「心理・福祉コース」と、心理学やカウンセリングの知識を有した言語聴覚士を養成する「言語聴覚コース」の2つのコースを設定しております。本学科では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して学生の論理的思考力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p> |
| <p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p> | <p>(2020～2023)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP (5) (6)、CP 1(1-7) 2 (1) 3 (3) (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究評価用ルーブリックの検討を進め、コースごとの試案を作成し、試案に基づいた卒業研究指導の在り方を検討し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究を目指す。 できるだけ多くの講義において、学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。 コース会議等で卒業研究のルーブリックと成績評価について検討する。 コース会議等で卒業研究の取組状況を確認し合い、全員の卒業論文完成を目指す。 <p>【基礎国語力増進への対策】DP (2) (3)、CP 1 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学前教育で国語力向上のための課題等を実施し、基礎国語力の増強を図る。 必修科目である基礎ゼミの講義内で e-learning を積極的に活用し、有用性を検討する。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 入学前教育で国語力向上の課題を実施し、基礎国語力の増進を図った。 学生に対して基礎演習と並行して、すららに積極的に取り組むように促した。 次年度も今年度と同様に学生の能力に合わせた基礎学力の向上を図っていく。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】DP (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院進学希望者への受験対策として、高校英語の再学習の機会を設け、語学力の増進を図る。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は基礎科目の授業での再学習を図った。来年度は英語再学習者希望者の調査等を行って、状況を把握する。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】DP (4)、CP 1 (2) (3) (4) (5) 2 (3) 3 (1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策部会で効果的な対策方法を検討・実施し、コース会議等でその効果を検証する。 1年次から資格関連科目授業において、必要に応じて資格取得の意義・意識づけを行う。 資格希望者のうち、成績不振者に対して個別指導による国家試験対策を行う。 コース会議等で各学生の成績を提示し、教員間での情報共有を図る。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 資格関連授業やチューター時間において、資格取得の意義や具体的な方略等を説明した。 来年度はコースごとに国家試験への具体的な取り組みを行う。 <p>【学科教員の教育力アップの対策】CP</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善等に関するFDへの積極的な参加を促す。 学修成果の可視化に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行う。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善等に関するFDへの積極的な参加を促し、教育力の向上を図った。 次年度も引き続き、来年度も学修成果の可視化に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行っていく。 <p>【教育施設のレベルアップのための対策】DP (1) (5)、CP (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用する。 |

| | |
|-----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習場所として4、5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促す。 ・学生の学習場所で学生が使用できる学習資料や学習ツールを充実させる。 <p>【就職率アップへの対策】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履歴書作成指導や模擬面接等を通じて、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。 ・「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生の臨床教育を行う。 ・低学年からインターンシップを導入し、キャリアイメージを早期から形成できるよう支援し、就職率アップにつなげる。 <p>【学生生活サポート対策】CP2（2）（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なチューター面談を実施し、学生の情報をコース会議等で報告し、教員間で共有する。 ・学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。 ・学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。 ・学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なチューター面談を行い学生生活を積極的にサポートした。 ・学生の意見をできるだけ取り入れて、学生生活満足度の向上を図った。 ・次年度も今年度同様に学生一人一人に寄り添い、チューターごとに学生生活をサポートしていく <p>【退学者防止対策】DP2（2）（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 ・学生がかかえる問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。 ・教員はオフィスアワーだけでなく、相談やコミュニケーションが取りやすい環境を作る。 ・チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。 ・転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 ・転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行った。 ・学生が抱える問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切な対応を行った。 ・次年度も学生の問題に対してできる限り早期に対応し、退学防止に努めていく。 <p>【社会人としてのマナー対策】DP1、CP2（3）（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。 ・教員から学生に対して積極的なあいさつを行い、普段から学生のどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認する。 ・学内実習を通して、社会人として現場で必要な基本的態度、他人との関わり方について具体的指導を行う。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導をおこなった。 ・教員から学生に対して積極的なあいさつを行い、普段から学生のどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認を行った。 ・次年度も挨拶を中心に社会人としてのマナーの指導を積極的に行っていく。 |
| 募集力 | <p>【学科入学定員確保のための対策】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が学生ファーストの立場で教育を行い、在学生から家族や後輩、学校関係者に本学科の肯定的な評価が伝わるように日々努力する。 ・入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講座等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、一般入試における入学希望者の増加につなげる。 ・本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかす。 ・入試広報室と定期的な情報交換会を行い、広報活動のあり方を協議する。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。 |

| | |
|-------|---|
| | <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が学生ファーストの立場で教育を行い、在学生から家族や後輩、学校関係者に本学科の肯定的な評価が伝わるよう可能な限り努力した。 ・入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講座等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう積極的に働きかけた。 ・本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行った。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかした。 ・入試広報室と定期的な情報交換会を行い、広報活動のあり方を協議した。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールした。 <p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介する。 ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。 ・保護者通信等で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応した。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介した。 ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信した。 ・次年度も今年度同様の広報活動を継続する。 |
| 研究力 | <p>【学科教員の研究力アップのための対策】DP(3)(4)(5),CP2(3)(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 ・研究力アップの仕組みを充実させ、研修等で周知する。 ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障する。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討した。 ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障した。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進した。 ・次年度は研究力アップの具体的な仕組みをさらに検討する。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】DP(3)(5)(6),CP1(3)(4)(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な研究設備の調査。 ・研究施設充実のための資金調達の検討。 ・必要な教育研究整備を行う。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は研究施設レベルアップのための対策を積極的に行うことができなかった。 ・次年度は施設設備のレベルアップのための調査と対策の方法を検討する。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】DP(5)(6),CP1(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促す。 ・研修等で得た知識を活かして、外部資金を獲得するための対策を立てる。 ・科研費や外部資金への積極的な申請を促す。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促した。 ・科研費や外部資金への積極的な申請を促した。 ・次年度は外部資金獲得のための研修会等への参加を積極的に促していく。 |
| 地域連携力 | <p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況（連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況）を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携関係の強化を図る ・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する（自治体・関係機関等） ・連携推進に係る検討チームを設置し、地域の要請に応えられる相談窓口を検討する。 ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行った。 |

| | |
|--------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況の具体的な把握の仕方について検討していく。 |
| 総合力 | <p>【総合力】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の心に寄り添った丁寧な教育・指導を行い、社会に有為な「公認心理師」「社会福祉士」「言語聴覚士」を輩出できるように教員一丸となって取り組む。また、本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図る。在学生、保護者、地域住民の本学科に対する評価およびイメージを常に意識した教育、指導、支援を学生に提供し、入学定員充足率 100%を目指す。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の心に寄り添った丁寧な教育・指導を行い、社会に有為な「公認心理師」「社会福祉士」「言語聴覚士」を輩出できるように教員一丸となって取り組んだ。 ・次年度も今年度同様な取り組みを行っていく。 |
| 3つのポリシーからの総評 | <p>2020年度に開設した臨床心理学科では、ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げた目標達成のために、本中期目標・中期計画にて策定した「教育力」「募集力」「研究力」「地域連携力」および「総合力」を高める取り組みを行った。</p> <p>【教育力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語力向上の課題を実施し、基礎国語力の増進を図り、また入学後も学生に対して基礎演習と並行して、すらすらに積極的に取り組むように促した。 ・4年後の国家試験を念頭に置いた国家試験受験対策等を行った。 <p>【募集力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設前から心理・福祉コースと言語聴覚コースの教員、および入試広報室が積極的に連携し、多くの優秀な学生を確保することができた。 <p>【研究力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障することで、各教員が学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に行った。 <p>【地域連携力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況（連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況）を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携関係の強化を図ることができた。 <p>【総合力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の心に寄り添った丁寧な教育・指導に取り組み総合力を高めることができた。次年度も本中期目標・中期計画に基づき、さらなる総合力アップを図っていく。 |
| 次年度への展望（まとめ） | <p>今年度は中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組んだ。次年度も、本学科の特徴である心理・福祉コースと言語聴覚コースの教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図り、効果的な臨床教育プログラムについて検討・実施し、その成果を検証していく。</p> |

授業アンケート結果 報告書

令和元年度(2019年度)まとめ

教育開発・研究推進中核センター教育開発部門

1. はじめに

本学では平成 17 年度より、各教員の授業方法・内容の充実を目指し、実習を含むすべての講義・演習・実習科目について、受講学生に対しアンケート調査を前期・後期に 1 回ずつ実施してきた。平成 22 年度に設問の大幅な見直しを行い、23 年度から集計結果を公開してきた。平成 26 年度に設問を 2 項目追加し、現行の授業アンケートは 15 項目の設問および自由記述から成っている。

授業アンケートの設問は、授業に対する学生自身と教員の取り組み姿勢、授業内容の理解度・達成度および授業の意義という観点から設定されている。その集計結果は、本学の教育理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」に相応しい教育が行われているか否かを知る貴重な手掛かりとなる。以下、令和元年度(2019年度)の授業アンケートについて、実施方法と全体および学科単位での集計結果を示す。

2. 授業アンケート実施方法

アンケートの内容と配付・回収：

アンケートの設問は「学生自身の授業の取り組み」に関する 5 問(結果の図中 Q1~Q5)、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」に関する 7 問(Q6~Q12)、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」に関する 2 問(Q13~Q14)、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」に関する 1 問(Q15)である。回答は「あてはまる」から「あてはまらない」までの 4 段階または時間や回数などを 4 段階に区切った選択肢から 1 つ選ぶ形式とした。また自由記述の欄があり、授業への感想や要望等があれば記入することになっている。

すべての科目について、前期・後期に 1 回ずつ、原則として授業の最終回に時間を設け、今年度よりユニバーサルパスポート(本学 WEB 学習支援システム)において実施している。

アンケート対象学生数と科目数：

令和元年度(2019年度)の授業アンケートの対象となった教員数、科目数、学生数を下記※表 1 にまとめた。

※ 表 1

| アンケート実施 | | 科目数 | 専任教員数 | 非常勤教員数 | 教員数 | アンケート回収数 | 受講生数 |
|---------|----|-----|-------|--------|-----|----------|-------|
| 令和元年度 | 前期 | 604 | 112 | 45 | 157 | 9752 | 14910 |
| | 後期 | 625 | 118 | 36 | 154 | 6298 | 14844 |

アンケート集計・解析方法とフィードバック：

各学科の学年ごとに、設問に対する 4 段階回答を集計し、学年及び学科単位で回答の割合を図示した。各授業科目については、科目間での比較のために差が顕著に表れるよう 4 段階回答を 8、3、2、0 点として点数化し、また設問項目間での比較のために評価レーダーチャートを作成した。

アンケートの集計・解析結果については、各教員へ担当分の結果を配布するとともに、学科全員分お

よび学科単位での結果を学部長へ配付し、その後学科長が各学科において、アンケート結果をふまえ授業改善につなげられるようにフィードバックを実施している。

なお平成 28 年度より、授業に対する学生の自由記述内容について pdf ファイルによるデータ化を行ない、30 年度は web 上での自由記述を試験的に実施した。

本年度より全項目を web にて実施した。Web にて実施することにより、学生からの自由記述のコメントを、集計後速やかに担当教員に開示することが可能となった。また自由記述をデータ化することが容易となった。

但し、後期授業アンケート回収率が下がっており、実施にあたり担当教員のさらなる協力と、学生への授業アンケートの重要性の周知が今後の課題となると思われる。

3. 授業アンケート結果

授業アンケート結果については、アンケート内容である「学生自身の授業の取り組み」、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」、また、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」について、各学科での回答割合を図で示した。全学的な総括は、過去の結果との比較および学科間での相違に着目して行なった。

全学的アンケート結果 (図Ⅱ)

各学科のアンケート結果を基に大学全体での傾向をまとめた。「教員の授業に対する取り組み」は概ね高評価であった。「学生の理解度・達成感」では、前年度の高い値を維持していた。「学生の授業への取り組み」では、予習・復習時間や準備学習が不十分であった。総合評価としては、本学では全学的に「意義ある授業」が行われているが、学生の自己学習を推進する必要があると考えられた。

「学生自身の授業の取り組み (Q1～5)」

前期・後期ともに、大部分の学科において授業を 4 回以上欠席した学生は 5%以下であった (Q1)。予習 (Q2)、復習 (Q3)、準備学習 (Q4) については、学科により差はあるが、前年度と同様に 20%～50 の学生は全く授業外に学習していないことが示された。一方、授業に関しては大部分の学科において 90%程度の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、居眠りや私語など無く意欲的に取り組んでいると考えられた (Q5) 2019 年度より、授業外学習の具体的な方法手段をシラバスに明記することとしている。シラバスが学習習慣改善の方策としても機能するように、学生への周知を徹底する必要があると思われる。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み (Q6～12)」

シラバスに沿った授業と目標や習得すべき事項の説明 (Q6, 7)、授業開始時間や授業雰囲気確保に対する教員の努力や学生の授業への参加を促す努力 (Q8, 9, 10)、およびわかりやすい講義資料の作成や説明が行われたか (Q11, 12) について、前期・後期ともに全学科において 90%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、大部分の学生は教員の取り組みを認めていると考えられた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度 (Q13・14)」「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か (Q15)」

学生の理解度 (Q13)、学習意欲の高まり (14) および授業の意義 (Q15) について、前期・後期ともに全体として約 90%の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答えていた。これらは授業に対する教員の熱心な取り組みの成果であると思われる。

臨床福祉学科アンケート結果(図Ⅲ)

「学生自身の授業の取り組み」

本学科学生の授業への取り組みについて、【欠席状況】では、4～5回以上欠席した学生が10%弱おり他学科に比べ多い。特に4年生後期は約30%である。【予習復習時間】では、70～80%の学生が「30分未満・ほとんどしなかった」であり、全学科を通して一番多い結果となった。特に、2年次の前期・後期に関しては、80%と割合が高くなっている。前回の結果でも同様の結果となっている。再度、全教員に1年生のうちから予習復習の学習習慣を身に着けるような指導と2年次学生に対し再度指導を促していきたい。【授業中の取り組み】を見ると、「Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか」の問いに対して、「あてはまる・ややあてはまる」が全学科を通して低い傾向にある。

4年次後期は、欠席状況、授業中の取り組みに関して4～5回以上欠席、学習に意欲的に取り組めていない学生のパーセントが全学年、前・後期を通して多い傾向にある。4年次後期は卒業要件の単位が不足している学生が、卒業するため予備的に多めに履修していたり、意欲的に取り組んでいるわけではないので、このような結果になっているのではないかと考えられる。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

学生から見た教員の授業の取り組みに関する設問では、「あてはまる・ややあてはまる」が、すべての学年および学期において95%以上と高く、学生からは概ね良好な評価であった。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業に対する学生自身の理解度・達成度に関する設問では、「あてはまる・ややあてはまる」が90%弱と概ね良好であった。2年次が他学年と比べ低い傾向にはあるが、学年の進級につれ良好になってきている。2年次前期では大学にも慣れ、やや中だるみが生じているのではないかと考えられる。これは、学生自身の授業の取り組みがほかの学年に比べ2年次前期が低いことと関連している。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について95%以上の学生が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。しかし、「あまり当てはまらない」と回答した学生数は2年次前期が多く、昨年度と同じような結果になった。2年間同じような2年次前期の特徴が出ているので、この結果を全学科教員と共有し、指導に当たっていく必要性を感じている。

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】は、3回以内の欠席でみると、1～3年では前期後期とも90%以上である。4年生では就職活動や教育実習が実施されるが、前期後期とも80%以上とおおむね良好な出席状況である。昨年度の報告で気にかかる点として、1年前期の欠席0回の学生の割合が、2016年度約74%、2017年度約65%、2018年度約52%と徐々に減少傾向にあることを挙げたが、2019年度約66%とやや改善された。

【予習復習】は、前期では1～3年と学年が上がるにつれて実施率が上昇する傾向があるが、後期は1年生が上昇し、2、3年には低下傾向が認められる。4年については、前期の実施率は60%程度であるが、後期は80%以上となっている。1年前期の予習を「ほとんどしなかった」割合は、2016年度約60%、2017年度約57%、2018年度約52%、2019年度約45%と、徐々に減少している。

【学習への意欲的な取り組み】では80%以上の学生が肯定的に回答している。

昨年の報告で気になった点として挙げた3年後期の出席状況について、2019年度は改善されて1～3年生の欠席3回以内の者は90%を超えていた。予習復習は、「ほとんどしなかった」学生の割合が2、3年後期に増加傾向が認められた。各種認定・国家試験や採用・就職試験に対する地力を養成する重要な時期であり、この中弛み傾向を改善し、所期の目的達成のために意識づけを高める対策をより強化・充実させていく必要がある。中期目標・中期計画に沿って、資格試験に対する意識づけを高める対策・指導を行い、ほとんどの資格試験で全国平均を上回る合格率となっているが、学年進行とともに受験をあきらめる学生もみられ、意欲的に資格取得を目指す者とそうでない者との二極化の傾向が続いている。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6～12のすべての質問において、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると全学年においてほぼ90%を超える肯定的な回答を得ており、学生からは概ね良好な評価を得ている。昨年の調査において積極的な評価が低い点が気になった2年については、前期は昨年同様に他の学年と比較して積極的な評価が低い傾向にあったが、後期にはすべての質問において90%を超える肯定的な回答を得た。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

学生の理解度・学習意欲の高まりについては、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると、2年前期を除いて90%を超える肯定的な回答を得ている。昨年の調査において積極的な評価が低い点が気になった2年については、前期は昨年同様に他の学年と比較して積極的な評価が低い傾向にあったが、後期には90%を超える肯定的な回答を得た。引き続き、大学へ入学して新たな環境で学習に取り組み始める新入生に対して、より理解しやすく、学習意欲を高めるための授業の工夫・改善を継続していく。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について、2年前期を除いて、90%以上が「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答をしており、1、2年よりも3、4年で肯定的な評価の割合が高くなる傾向が認められた。「あてはまる」だけに着目すると約70～93%であり、昨年と同様であった。1年の評価に着目すると、前期約75%・後期74%であり、この評価を80%以上に向上させなければならない。本学科への進学に対する満足度を上げるために、新入生の段階から、今の学びが将来につながっていることを学生に授業を通して理解させながら、学習意欲の向上を図る取り組みの見直しが必要である。

作業療法学科アンケート結果（図V）

「学生自身の授業の取り組み」

出席状況は、欠席3回までを含めると90%以上と概ね良好である。1年次（21期生）が良好だが、この傾向は2020年度も続いている。

予習復習について、前年度の調査では予習は全学年をとおして「ほとんどしなかった」との回答が50%を超えていたが、本年度では若干改善している。また、学年が上がるにつれて若干良好な傾向を示しているが各学年ともばらつきが多い。ただし、4年次（18期生）の前期のほとんどが学外臨床実習であるのに復習が少ないのは理解できない。理由のひとつに学外臨床実習がこのアンケートで問われる「授業」の範疇に入らず、学生がケースノート作成などを復習と捉えていない可能性がある。また、18期生が低学年から学習意欲の低いクラスであったことも理由の一つと考えられる。

私語や居眠および遅刻早退については90%が「あてはまる（していない）」と回答しているが、4年次（18期生）の後期は「あまりあてはまらない・あてはまらない」が80%と多い。4年次はそのほとんどが学外臨床実習であるのに、この結果は実情を反映していない可能性がある。学生がアンケート用語の「授業」をどのように受け取ったのか疑問が残る。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

シラバスについて、概ね90%以上がシラバスどおりの授業進行であると回答している。教員の授業内容説明についても同様である。私語等に対する注意も、概ね良好で「ややあてはまる」まで含めると全学年でほぼ100%に近い。教員の授業に対する取り組みも（開始時間も含む）、概ね良好で「ややあてはまる」まで含めると全学年で90%を超えている。ただし、全学年を通して居眠りはままた見られるが、そもそも私語は少ない。授業参加への促しについても、教員の説明のわかりやすさ及び講義資料についても同様である。なお、ほぼすべての項目で1年次（21期生）の評価が高い。授業の開始時間に関しては、開始時間を守っていない教員は皆無であり各教員自身の印象とは異なる。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度および意欲」

授業内容の理解、学習意欲について、前期は全ての学年で肯定的意見が80～90%程度だが、後期の4年次を除きほぼ100%である。逆に4年次（18期生）の後期で90%台に落ちている。4年次の授業が特別講義主体であり、講師の入れ替わりが多いことに原因があるのかもしれない。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

傾向は前項と同じである。1～3年時の90%程度以上が肯定的だったのに対して、4年次（18期生）だけは80%程度に落ちている。18期生が学習意欲の低いクラスであったことが原因かもしれないが、程度の差はあれ、同じことが3年次（20期生）にも当てはまる。3年次になるとほぼ全てが専門科目となり、難易度が高くなることが反映されているのかもしれない。

言語聴覚療法学科アンケート結果(図VI)

「学生自身の授業の取り組み」

出席状況は、いずれの学年も欠席3回以内の学生が90～100%と良好な結果を示していた。1年生後期、4年生前期で欠席回数が多い点については注意喚起が必要である。

予習時間および復習時間は、学年が上がるにつれ、ほとんどしなかったと答えた学生の割合が減る傾向があり、30分以上学習する学生の割合は5～85%と学年により差がみられた。とくに、3年生後期で70～85%と高い割合を示した点が評価できる。一方、1年生前期では5～20%と低い結果を示しており、早い時期からの学習習慣の形成が課題である。シラバスに記載されている準備学習を行っている学生の割合は40～95%であり、4年生前期で30分以上が15%、1時間以上が75%と高い割合を示していた。

学習に意欲的に取り組んだかに対して、あてはまる、または、ややあてはまると回答した学生の割合は1・2・4年生では80～100%と良好な結果を示していた。3年生は、前期が90%以上だったのに対し後期には50%と低下していた。3年生後期に実施する学外評価臨床実習の影響も考えられ、関連性について検討が必要である。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

シラバスにそった授業、授業の開始時間の厳守、授業への参加の促し、わかりやすい説明や指導、講義資料の適切性、授業の雰囲気については、いずれの学年も90～100%が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており、教員の授業に対する取組みが高く評価されていた。

授業目標・修得すべき事項の説明については、1・2・3年生では95～100%が、あてはまる、または、ややあてはまると回答していたが、4年生は、前期が90%だったのに対し、後期には75%と低下していた。国家試験対策が中心となる4年次後期には、講義資料や指導方法を適宜、見直すとともに、授業目標・修得すべき事項を繰り返し説明する必要がある。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業の目標や修得すべき事項を理解できたか、および、授業で学習意欲が高まったかに対しては、いずれの学年も95～100%が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており、授業に対する学生自身の理解度・達成度は高いといえる。

あてはまるだけを見ると、1年生が70～80%と、昨年度に比し低い傾向があった。大学の授業形態への導入時期である1年次に、学生の理解度に配慮が必要であることが伺える。

「学生にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業は意義のあるものであったかに対しては、いずれの学年も95%以上が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており高く評価できる。あてはまるだけを見ると、今年度は全学年で80～100%と、昨年度に比し改善がみられている。

学生の満足度を高めるためにも、学科教員間で、各学年の授業の内容や方法について引き続き議論を重ねていくことが重要であると考えられる。

視能療法学科アンケート結果(図Ⅶ)

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】本学科は募集停止のため、1年生はいない。全体として授業への出席率は高い。後期に関しては、毎年、授業欠席に対する単位への影響等を指導していることから、欠席者数は少なくなっている。また、後期では高学年ほど出席率が高い傾向が見られた。おそらく、国家試験や就職等、社会人としての自覚が芽生えた結果であることが考えられた。

【学習への意欲的な取り組み】2年生よりも3年生が予習・復習時間が多く、逆に4年生は少なくなっていた。

Q2～Q3の自主学習時間（予習復習）については前期と後期を比較するとわずかではあるが増加している。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6～Q12のすべての質問では、2～4年次において「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると90%以上の回答を得ており、学生からは概ね良好な評価を得ていた。Q9～Q12については、本学科でも高い傾向にあり学生の満足度は高い。2年次の基礎科目でも高い満足が観られた。高等学校までとの授業スタイルの違い、たとえば、パソコンおよびプロジェクターを用いて、板書が少ない、あるいは、理系でもこれまで選択していなかった生物学的科目等に対する戸惑いがあるのではないかと心配したが、大きな問題はなかった。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

Q13～Q14のすべての質問における、学生の理解度・学習意欲の高まりについても、2～4年次においては「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせるとほぼ90%の肯定的な回答を得ている。しかし、2年次後期は80%程度であった。その理由として、新入生のモチベーションが一時的に低下したことが考えられた。大学へ入学して新たな環境で学習に取り組み始める新入生のモチベーションを持続させることへの授業の工夫・改善が不足していた可能性がある。また、授業が判らない場合や、不服、不満等がある場合に学生が気軽に相談や不服申し立てできるような窓口を当科として設ける等の対策を構築していることから、有効に活用してもらいたい。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について、「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒は、2年の後期で90%以上となっており、3年および4年後期では、ほぼ100%であった。一方、2年次は前期85%程度であったが後期には90%以上となっており、学科教育が有効に機能していると総括される。

当科においては、2年次の基礎科目においても国家試験に準じたカリキュラムを行っている授業もあるが、そうでない授業もある。しかし、社会に有為な人材の育成という本学の建学の理念を考えると、多方面での教養や知識が、本学卒業後にも、必ず役立つといった、広い視野をもって学習すべきと考える。いずれにせよ、視能訓練士を養成する本学科では、興味の持てる面白い授業を行うことで、生涯を通じて、学習とは楽しいことであるということを悟って身につけていただければ良いと考える。そのためには、楽しく学習でき、いつでも質問、不満などを気軽に相談できる開かれた自由な雰囲気重要であると考えられる。

臨床工学科アンケート結果 (図Ⅷ)

「学生自身の授業の取り組み」

授業の欠席回数は、全学年で見ると前期に比して後期が若干増加しているものの大きな差はない。予習の時間に関しては、各学年ともに前期より後期が増加している。1年次においては前期に予習をする学生が非常に少ないが、授業の内容が本格的なもの(専門的)になる後期においては予習していることがわかる。復習についても予習と同様な傾向を示しており、予習・復習をしないと授業についていけないことを理解している。学習時間は前期よりも後期の方が多くなっている。4年次生は予習復習の時間が最も長く、特に後期は国家試験対策に集中していることが分かる。シラバス内容の準備学習も予習復習と同様な傾向であった。「授業中居眠り・私語・遅刻早退なしの学習の意欲的な取り組み」については、後期に増加傾向となった。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

「シラバスにそっての授業」、「授業目標や修得すべき事項の説明」、「授業の雰囲気」、「学生への授業参加の促し」、「わかりやすい説明や指導」、「講義資料の適切さ」、「修得すべき事項」に関して、全学年ともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、教員の授業に対する評価は高いと推測される。教員全体のミーティングでは前期・後期ともに同様の対応を行ってきた。今後、アクティブラーニング等の取組を増加させ、引き続き、学生個々の能力を伸ばす指導を継続させることが重要である。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標は習得すべき事項の理解」、「授業での学習意欲の高まり」については、1～3学年についてはともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、今までの学習が十分になされていることが伺える。しかし、4年次後期において学習意欲が低下している学生が僅かだがいる。国家試験対策で少し疲弊している可能性がある。この時期の4年次学生は精神的にも不安定であり十分なフォローをする必要がある。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

全学年ともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、授業は意義あるものであったと推測される。シラバスに記載されている授業目標、修得すべき事項を十分理解した上で授業に望んでいたと言える。今後、授業の中に積極的にアクティブラーニングあるいはWeb学習などを取り入れ、一方向型教育の改善が必要であると感じられた。

薬学科アンケート結果 (図IX)

「学生自身の授業の取り組み」

欠席については、1-5 学年は 8 割前後の学生がほとんど欠席はなく、欠席 1-3 回の学生を含めるとほとんどの学生の出席状況は良好であった。しかし、6 年生では他学年に比べて欠席率が高く、1-3 回、4-5 回、及び 6 回以上の欠席が前期 50%から後期 70%近くに増加していた。この傾向は近年毎年繰り返されている傾向があると思われるので、近年の国試合格率の減少と呼応した何らかの対策が必要である。

予習・復習については、学年により若干の差があるが、ほとんどしなかった学生は概ね 10-40%程度であった。また、1 時間以上予習・復習をしている学生は全学年を通してほぼ 30%以下であり、特に 4 年生で顕著に低く、10%以下であった。全学年を通して、例年に比べて予習も復習もしない学生の割合が増えている傾向にあると感じられた。予習時間に関しては、特に、4、6 年生の前後期通して 1 時間以上予習した学生の割合が 20%以下と共用試験や卒業・国試を前にして予習量が少ない学生の割合が多かった。復習時間については、6 年生の復習時間は若干予習時間より伸びたが、4 年生の 1 時間以上の復習時間の学生割合は、全学年の中で最も少なく 10%程度であった。4、6 年生への授業に対する取り組みを変えるように強く指導する必要があると感じた。

シラバス記載の準備学習では、5 年生前期ではほとんどしなかった学生は 50%以上であり最も多く、他学年では 20-30%程度の学生がほとんど行っていないことが明らかとなった。学習に意欲的に取り組みましたかという設問に対しては、5 年生前期 (70%程度) 以外は、いずれの学年においても、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせるとほぼ 90%程度であった。

「教員の授業に対する取り組み」

1, 2, 3, 4 年生前後期通して、教員の授業に対する取り組みに関するすべての設問では、例年と同様に、「あてはまる」、「ややあてはまる」が 90%程度を超えていました。しかし、5 年生前期では、すべての設問で「あてはまる」、「ややあてはまる」が 90%以下で「あてはならない」の解答が顕著であった。しかし、5 年生後期では、すべての項目に対して 90%以上と改善されていた。6 年生前後期通じて、授業の目標や修得すべき事項を毎回説明したか、授業への参加を促したか、分かりやすい説明・指導をしたか、講義資料が適切か、の項目については、「あてはまる」、「ややあてはまる」が 90%以下が多く、教員の高学年の授業に対する取り組みを改善する必要があると感じられた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

1, 2, 3, 4 年生前後期通して、授業に対する学生自身の理解度・達成度は 90%程度であった。しかし、5、6 年生では前後期通して、授業の目標や修得すべき事項を理解したか、学習意欲が高まったかの項目について、「あまりあてはまらない」、「ややあてはまる」の回答が増加していた。例年に比べて 5、6 年生は授業に対する学生自身の理解度・達成度を感じていないと思われた。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

1, 2, 3, 4 年生前後期通して、意義のある授業であったか否かについては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価が、ほぼ 90%超であった。しかし、5、6 年生では 80%未満になる場合が多く、講義に意義を感じていない学生が増加していた。

動物生命薬科学科アンケート結果（図X）

「学生自身の授業の取り組み」

欠席については、いずれの学年においても、欠席が3回以下であったが、前期において3年生の約50%、後期において2年生の約60%で1回以上の欠席が見られた。通常、4年生においては就職活動のために1回以上の欠席が他学年よりも多く見られるが、今回、2・3年生の欠席が4年生を上回ったことについては、その理由を解明するなど今後の改善すべき課題である。

予習・復習時間については、ほとんどの学年および学期において、「30分未満」、「ほとんどしなかった」を合わせると、概ね50～80%を占め、昨年度と同様に少なかった。シラバスに記載されている準備学習については、「ほとんどしなかった」、「30分未満」を合わせた結果は、約30%（3年生後期）～約80%（4年生後期）であり、学年および学期におけるバラツキが大きかった。しかし、「学習に意欲的に取り組みましたか」という設問に対しては、いずれの学年においても「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、概ね80%を超えており、学習への意欲的な取り組みは、良好であった。

「教員の授業に対する取り組み」

教員の授業に関する取り組みに関する設問では、すべての設問について「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、約80%以上であり良好であった。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標や修得すべき事項の理解」並びに「授業での学習意欲の高まり」の質問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、ほとんどの学年および学期において、約90%以上であり良好であった。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

意義のある授業であったか否かについては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、すべての学年および学期において約90%以上であり良好であった。

生命医科学科アンケート結果（図 XI）

「学生自身の授業の取り組み」

全学年において授業欠席回数 0～3 回は、前期・後期とも 95%以上であった。例年通り 4 年生に関しては卒業研究や国試対策授業の回数が非常に多い関係で欠席が多く見えるが、出席率ではそれほど悪くないと考えられる。予習を 1 時間以上行った学生は前期・後期を通して、3～4 年生は概ね 25%～50% であったが、1～2 年生は十数パーセント以下であった。予習を 30 分未満～ほとんどしなかった学生は前期・後期を通して、1～2 年生でおよそ 70～80%、3～4 年生でおよそ 25～60%であった。4 年生後期は国家試験が迫っているため、予習時間が多い学生が増えたが、ほとんどしていない学生も約 20%みられた。復習を 1 時間以上行った学生は 1 年生では約 20%、2 年生は約 25%、3 年生は約 40%、4 年生は約 70%であり、高学年ほど復習時間が多い学生が多かった。復習を 30 分未満～ほとんどしなかった学生は 1 年生前期でおよそ 40%もいたが、後期では 25%に減少した。2 年生～4 年生では平均すると 20%前後であった。予習復習の両方において 1、2 年生の学習時間が短く、今後指導する必要があると考えられる。シラバスに記載されている準備学習についても、上記予習時間と似たような傾向がみられ、1 年生で時間数が短かった。「学習に意欲的に取り組んだか」という設問に対しては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、前期・後期通して概ね 90%前後であった。3、4 年生の後期ではほぼ全員が意欲的に取り組んでおり、良い傾向であると考えられる。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

「シラバスにそった講義かどうか」、「授業の開始時刻は守られていたか」、「授業中の静穏な雰囲気は保たれているか」についての設問では、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、前期・後期通して概ね 90%以上であった。ほとんどの学科教員の講義は高評価であった。「担当教員はわかりやすい説明や指導を行ったか」についての設問でも、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると前期・後期通して 90%以上であり、概ね学生の満足度は高いことが伺われた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標や修得すべき事項を理解できたか」および「授業で学習意欲が高まったか」についての設問では、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると 1 年生前期と 4 年生前期を除き、90%以上であった。1 年生前期と 4 年生前期は約 85%にとどまったが、後期で 90%以上になり、改善がみられている。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

「授業は意義あるものだったか」についての設問では、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、前期・後期通して概ね 90%以上であった。1～3 年生までは高学年になるにつれて高い評価であったが、4 年生では授業に不満のある学生が比較的多かった。4 年生では国試対策授業がほとんどであるので、今年度の国試対策授業へ向けた改善が必要とされる。

全体を通して、3 年後期の授業評価が高いが、回答数が少なく好意的な学生の回答が多数を占めた可能性もあると推測している。

学生支援システム「UNIVERSAL PASSPORT」により、
Webアンケートを実施。

(以下、アンケート内容のイメージ)

123456789 科目A (教員B)

授業アンケート 年度 (前期)

授業アンケート Q1～Q18

Q1 [あなたの授業に対する取組について]

あなたは、この授業を何回欠席しましたか

- ① 0回
- ② 1回～3回
- ③ 4回～5回
- ④ 6回以上

Q2 [あなたの授業に対する取組について]

あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい予習を行いましたか

- ① 1時間以上
- ② 30分～1時間
- ③ 30分未満
- ④ ほとんどしなかった

Q3 [あなたの授業に対する取組について]

あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか

- ① 1時間以上
- ② 30分～1時間
- ③ 30分未満
- ④ ほとんどしなかった

Q4 [あなたの授業に対する取組について]

あなたは、シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか

- ① 全部やった
- ② ほとんどやった
- ③ あまりやらなかった
- ④ 全然やらなかった

Q5 [あなたの授業に対する取組について]

あなたは、この授業で居眠り・私語・遅刻・早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q6 [教員の授業に対する取組について]

担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q7 [教員の授業に対する取組について]

担当教員は、授業の目的や修得すべき事項を毎回説明していませんか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q8 【教員の従業に対する取組について】

担当教員は、授業の開始時刻をきちんと守っていましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q9 【教員の授業に対する取組について】

担当教員は、学生の私語などに注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q10 【教員の授業に対する取組について】

担当教員は、学生に授業への参加を促しましたか（質問等）

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q11 【教員の授業に対する取組について】

担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q12 【教員の授業に対する取組について】

担当教員の講義資料（教科書を含む）は適切でしたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q13 【授業に対するあなたの理解・達成度】

あなたはこの授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q14 【授業に対するあなたの理解・達成度】

あなたは、この授業で学習意欲が高まりましたか

- ① あてはまる

- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q15 〔総合評価〕

あなたにとって、この授業は意義あるものでしたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的にかいてください）

Q16 この授業でよかったと思う点について書いてください

Q17 この授業で改善した方が良くと思う点について書いてください

Q18 この授業の感想（自己反省を含む）、また授業担当者へ伝えたいことなどを自由に書いてください

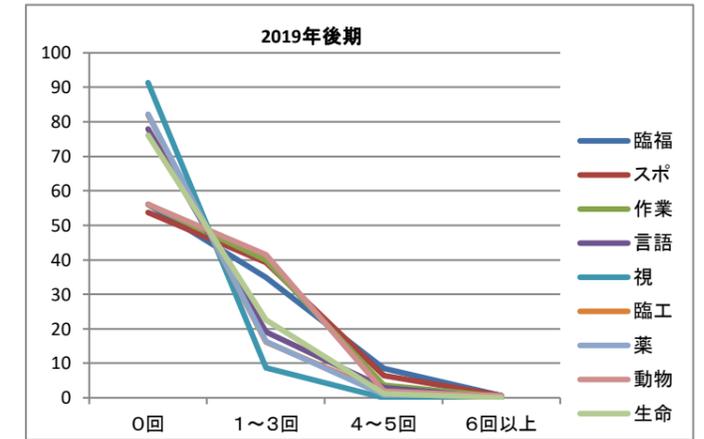
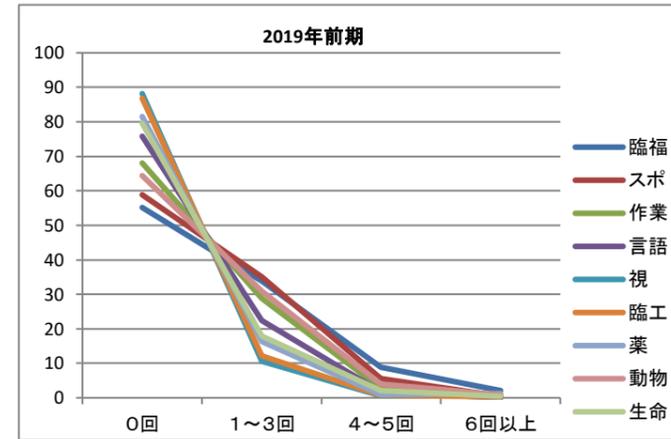
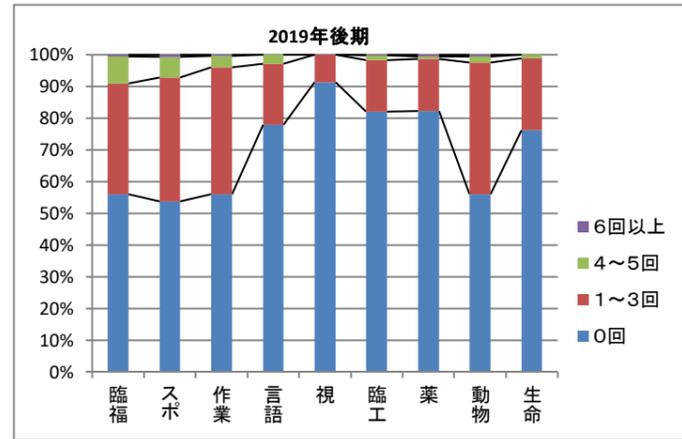
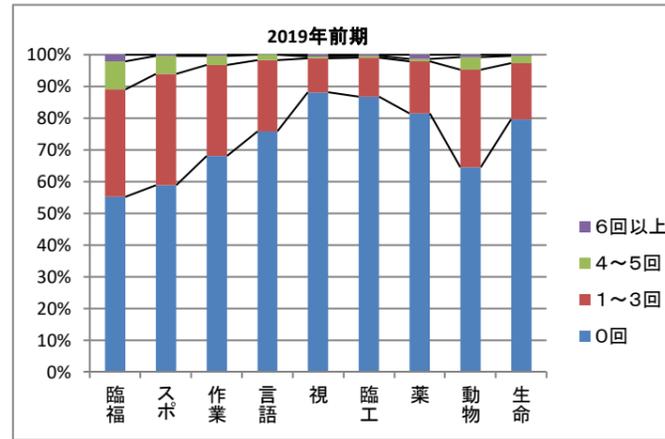
このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は、今後の授業改善の参考となります。アンケートの回答によりあなたが不利益をこうむることはありませんので、率直な回答をお願いします。

回答

授業アンケート 令和元年度(2019年)

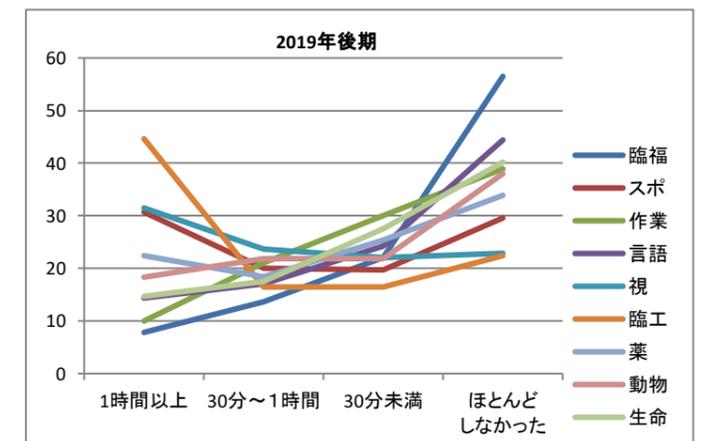
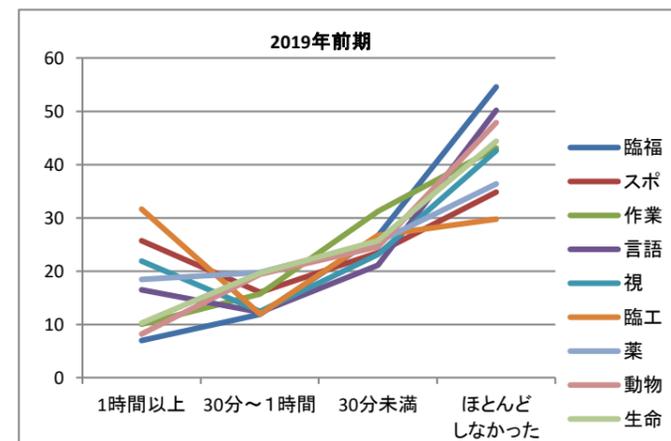
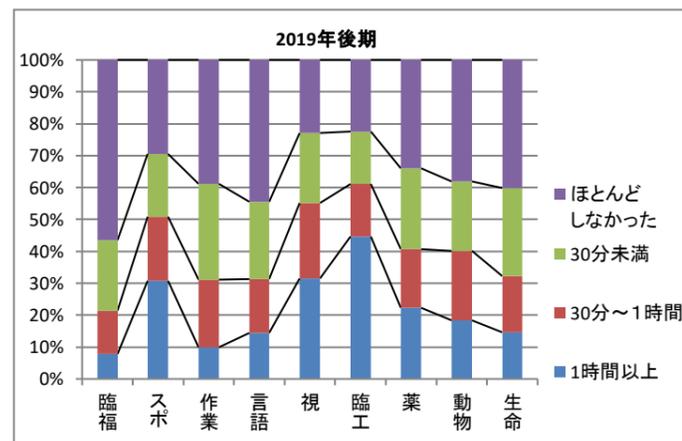
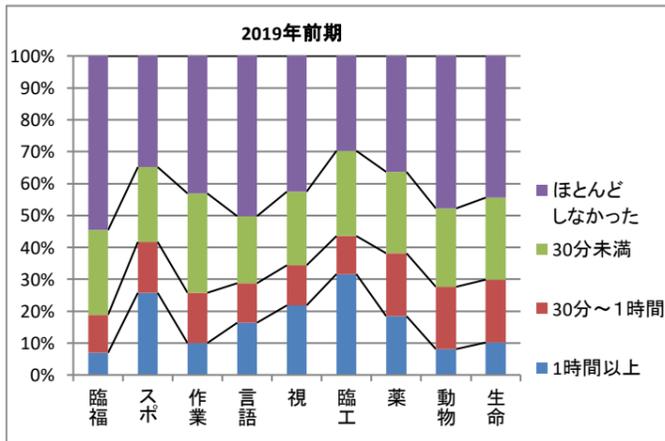
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



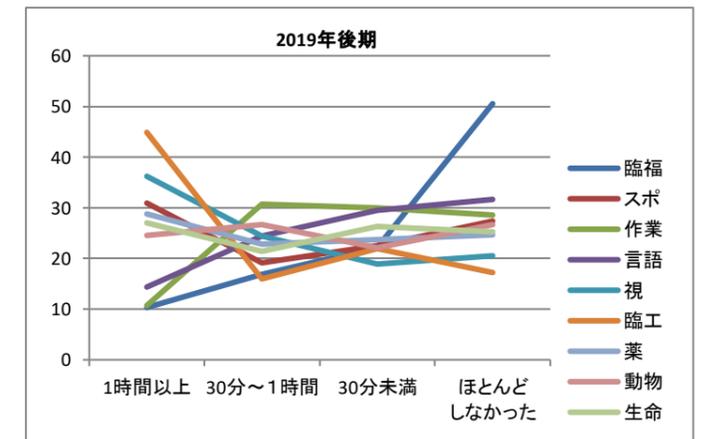
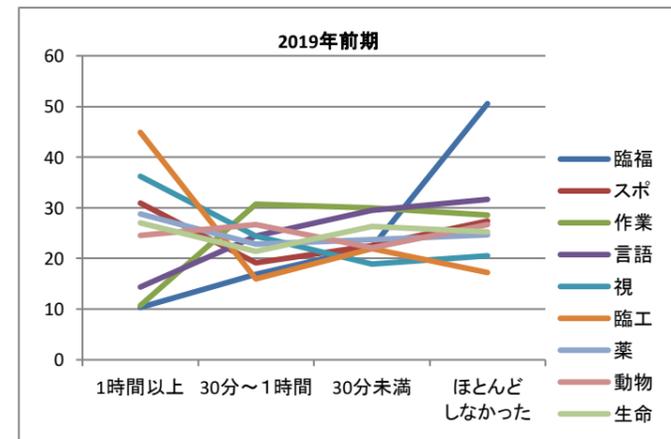
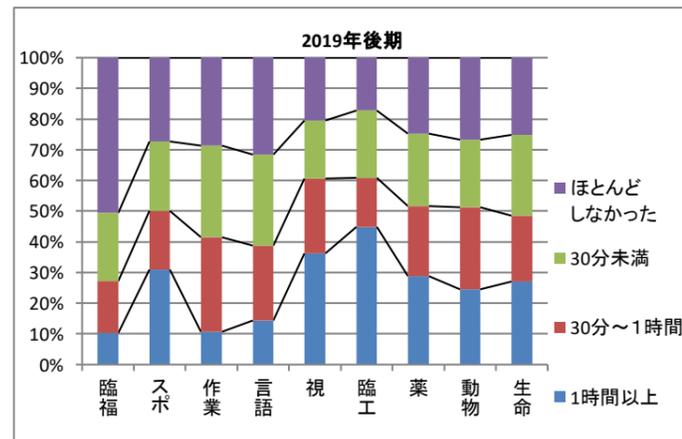
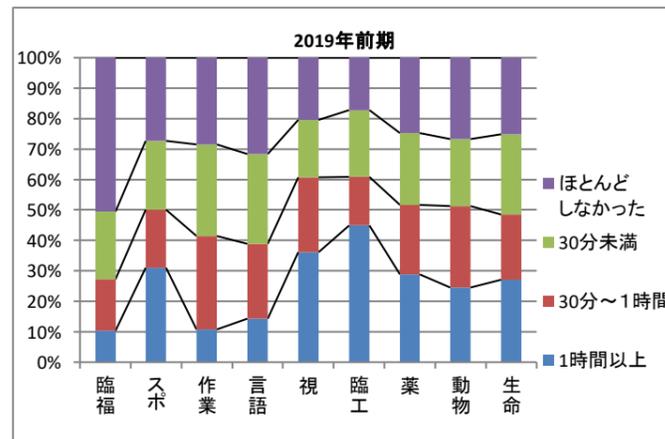
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して平均どのくらい予習を行いましたか。



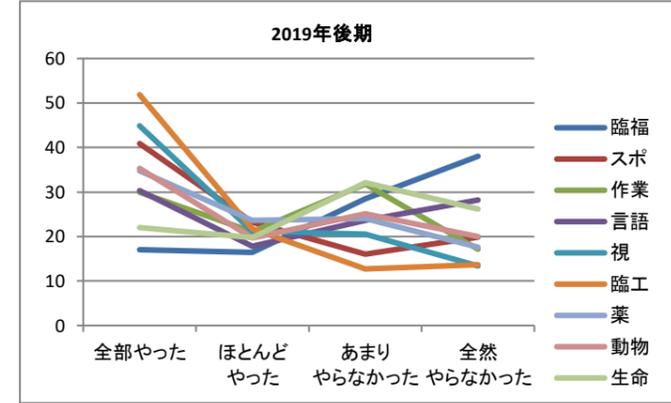
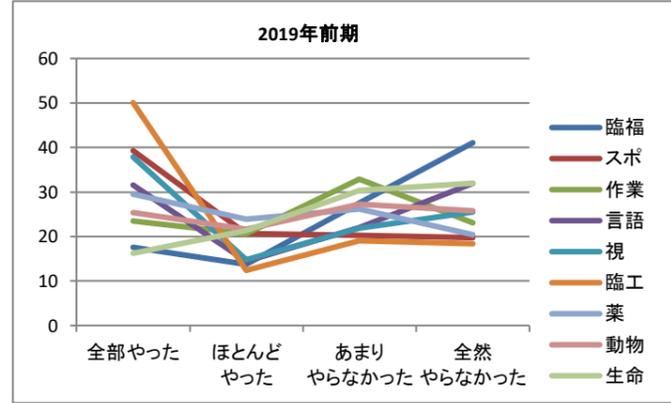
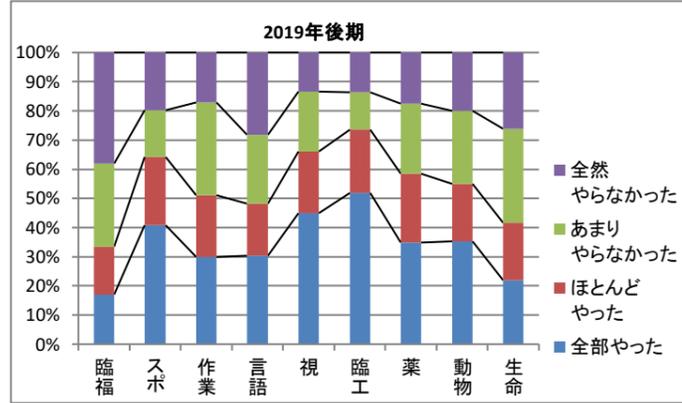
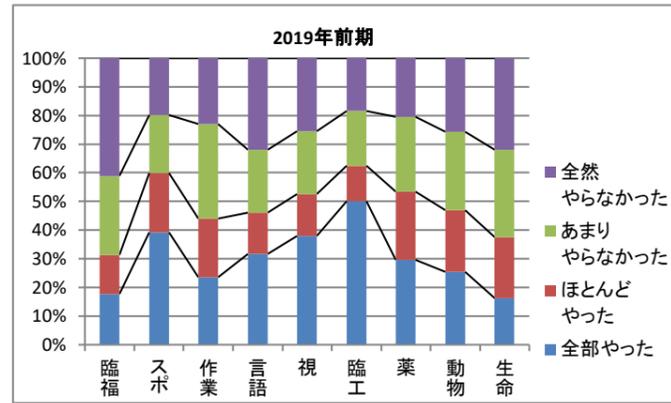
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



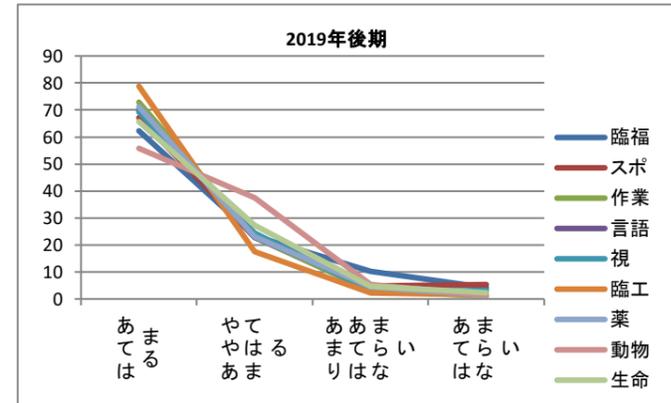
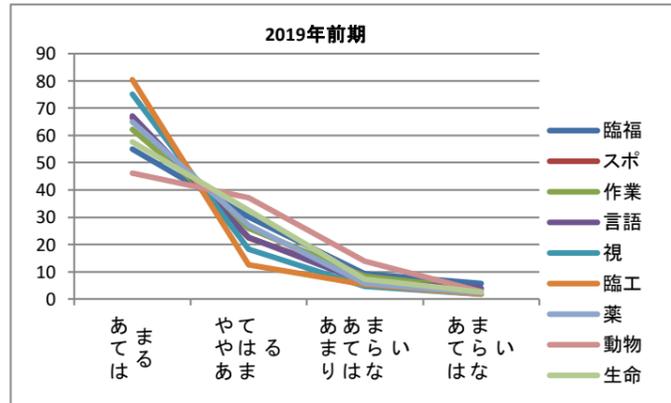
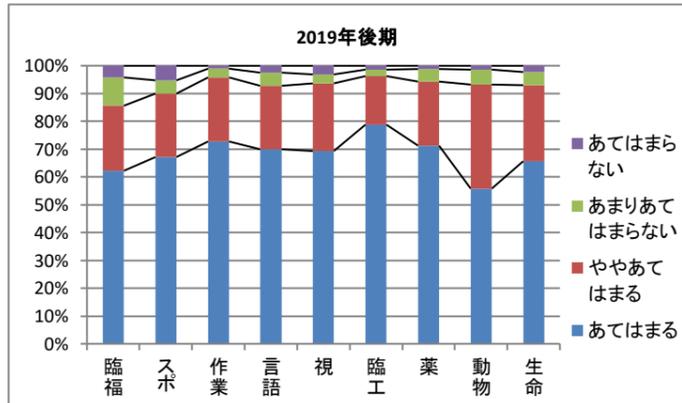
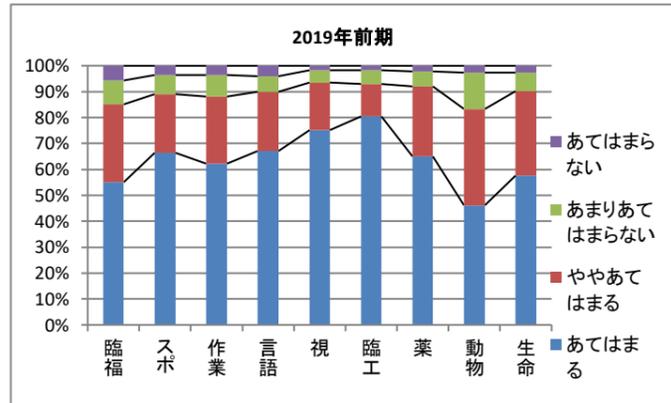
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



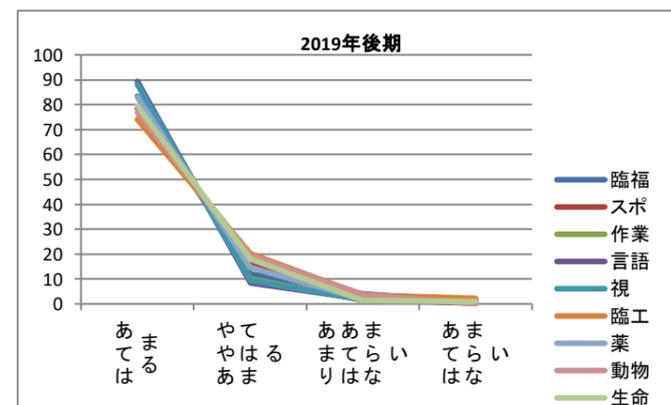
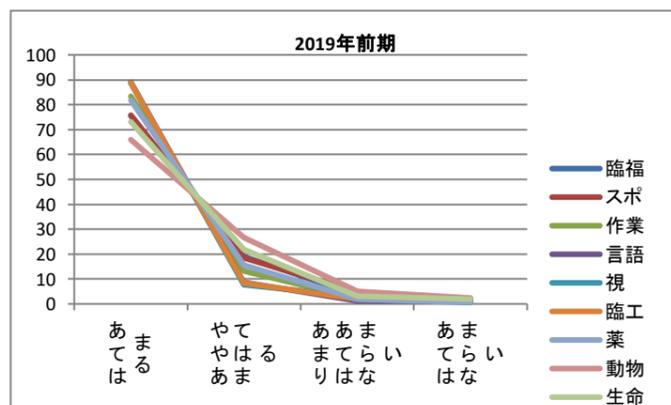
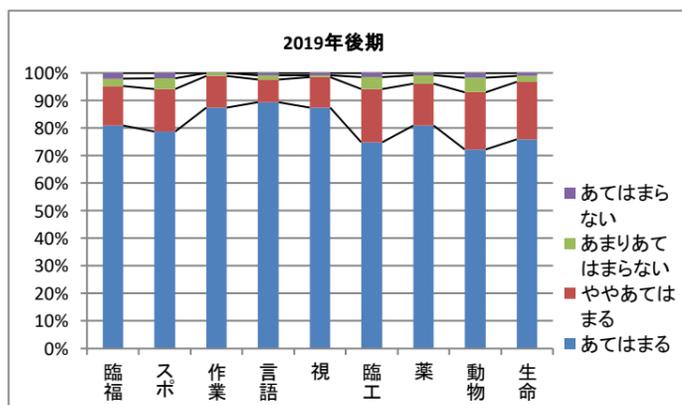
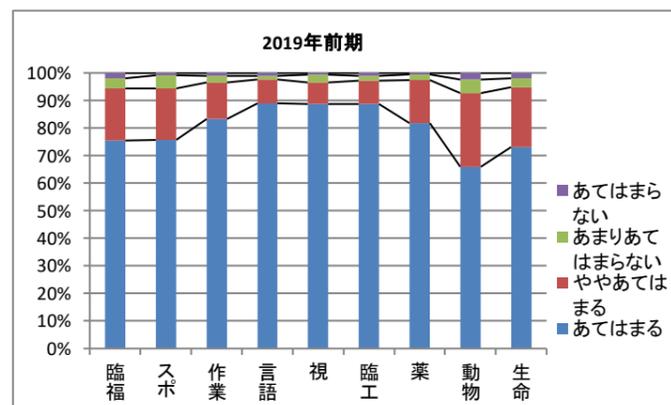
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



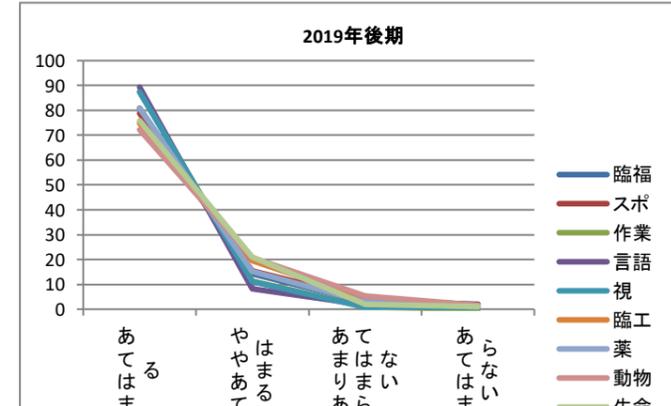
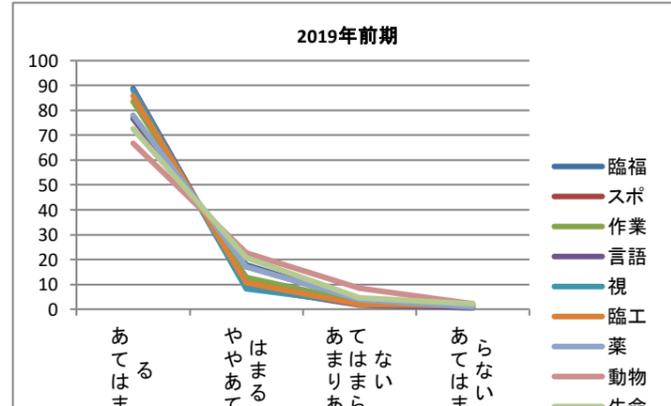
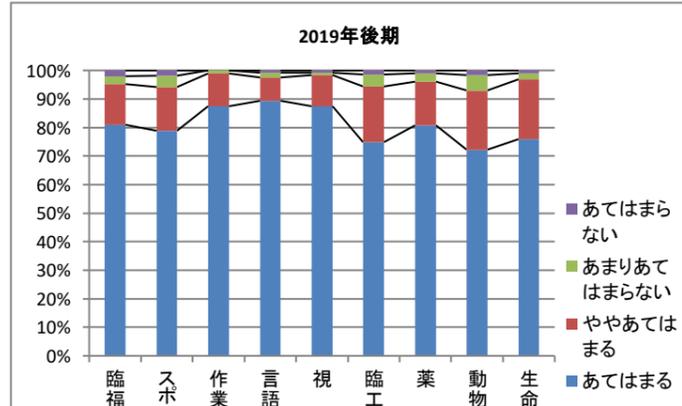
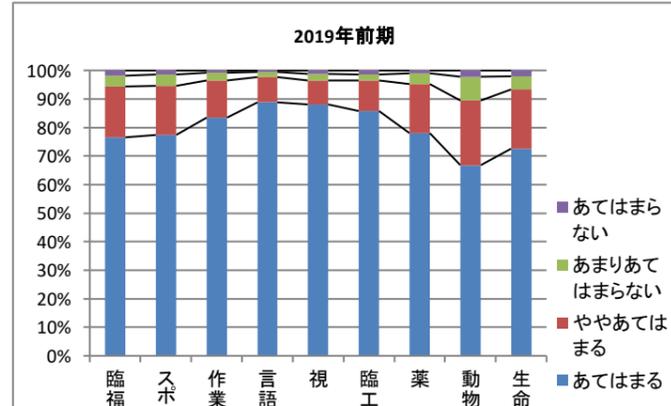
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。

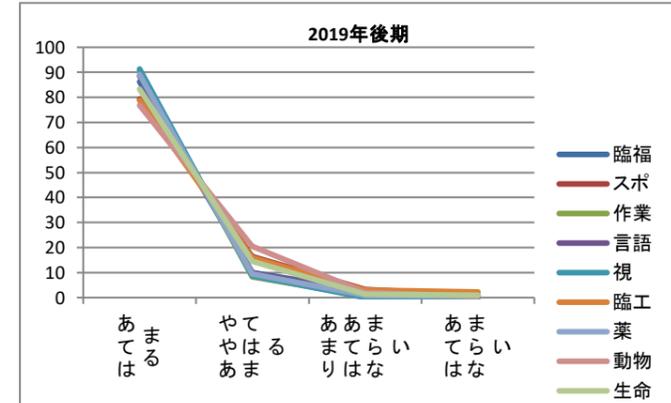
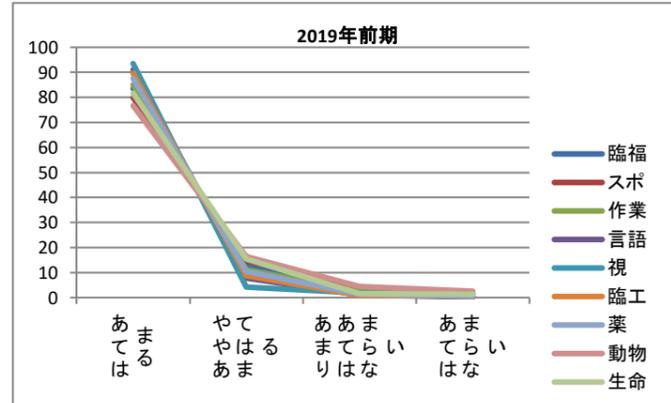
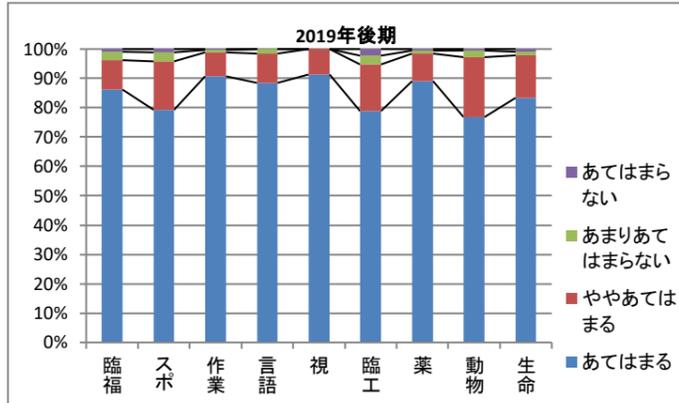
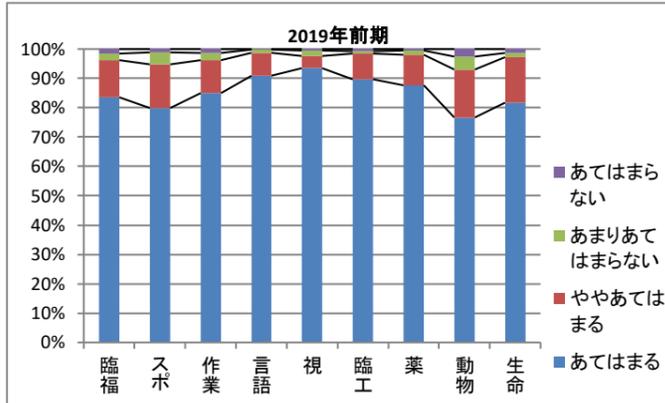


【教員の授業に対する取り組み】

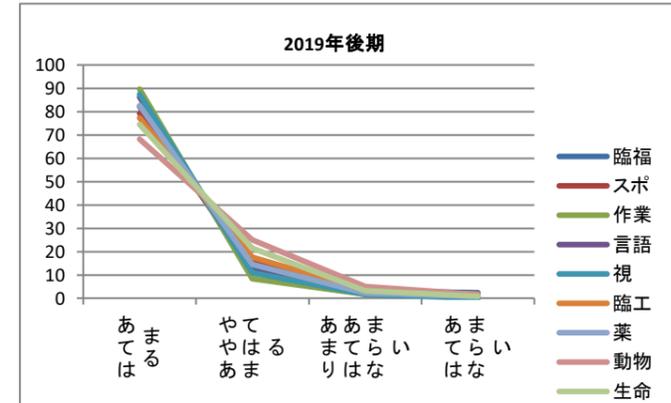
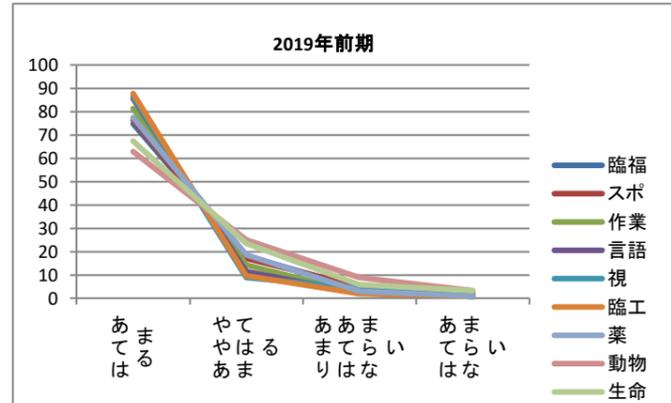
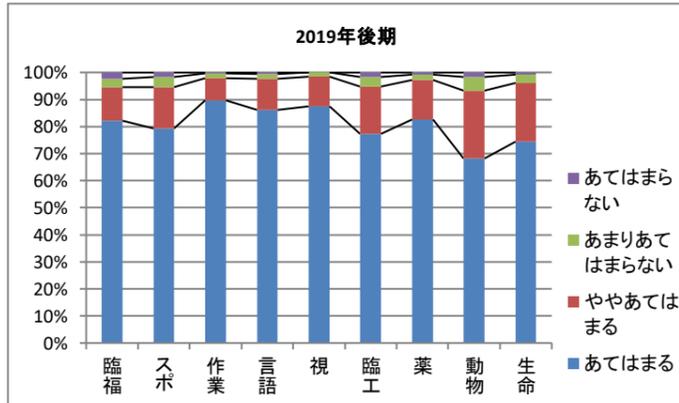
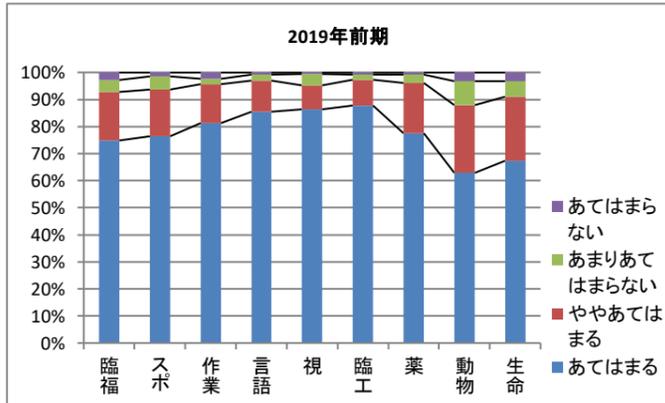
Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



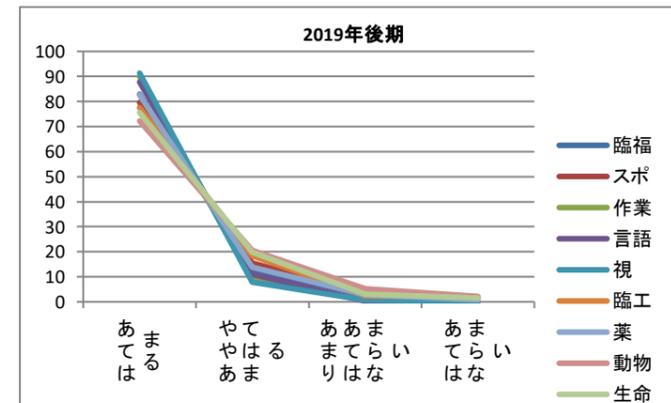
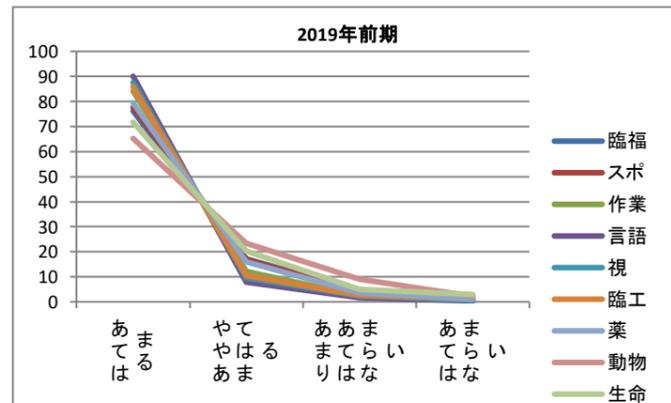
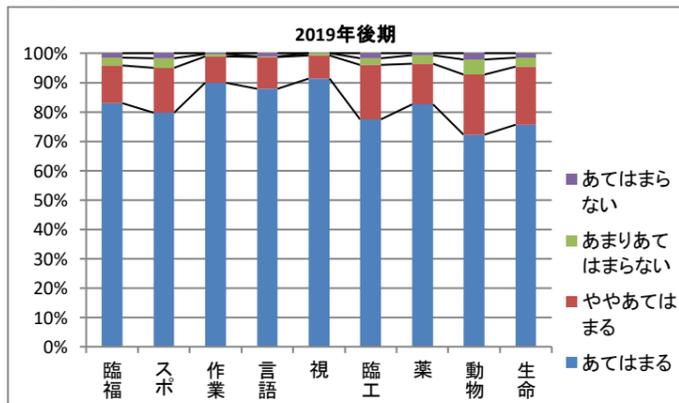
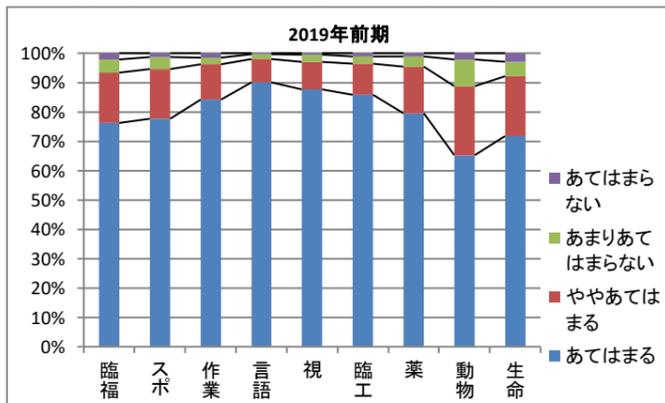
【教員の授業に対する取り組み】
Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



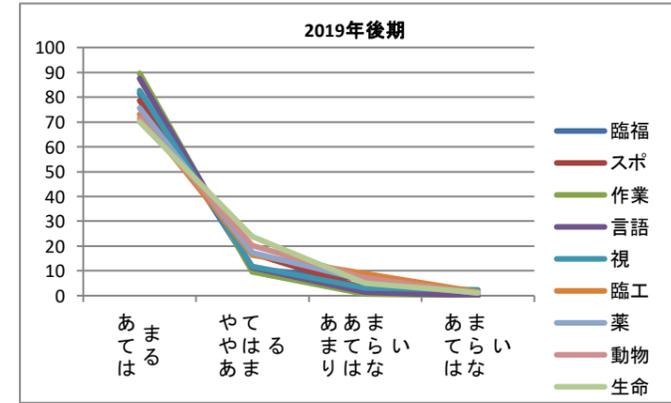
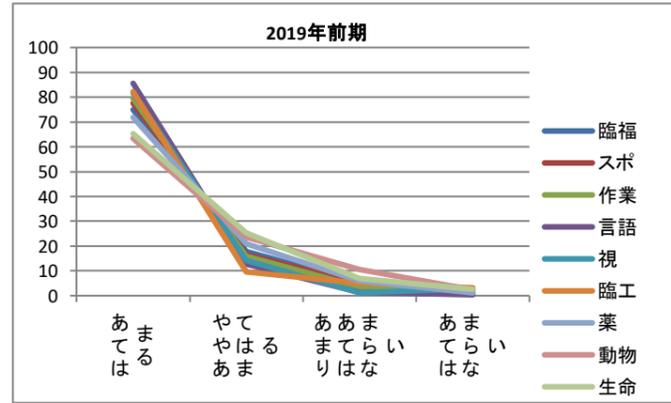
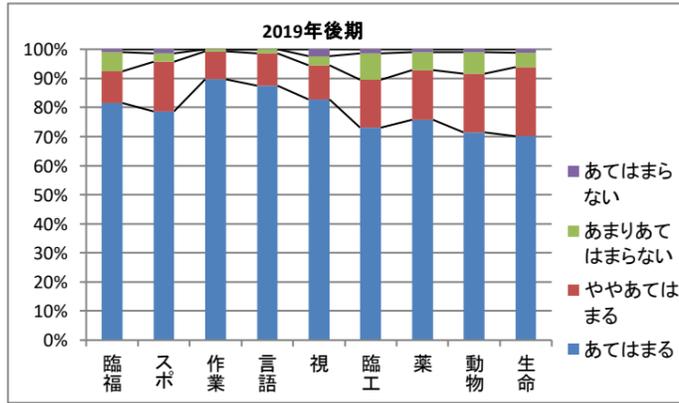
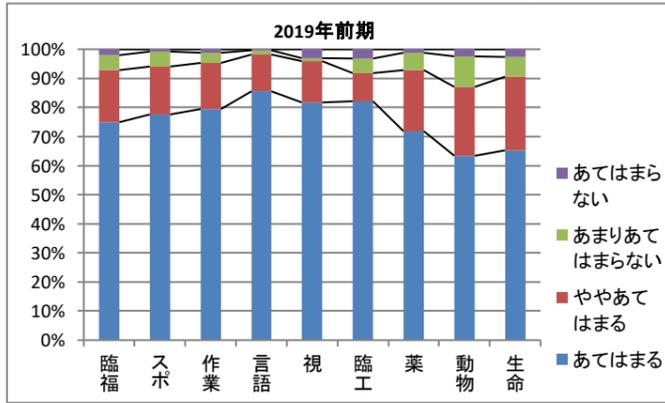
【教員の授業に対する取り組み】
Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



【教員の授業に対する取り組み】
Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。

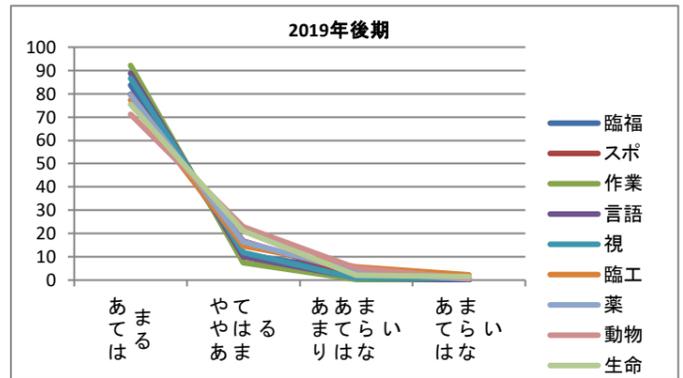
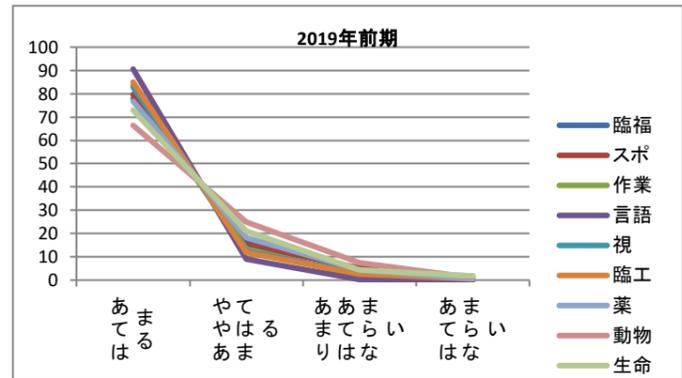
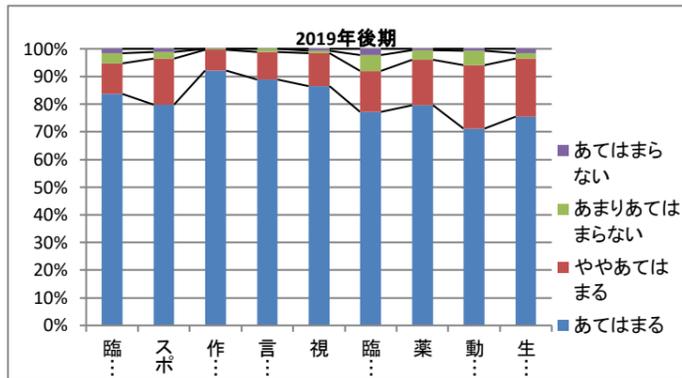
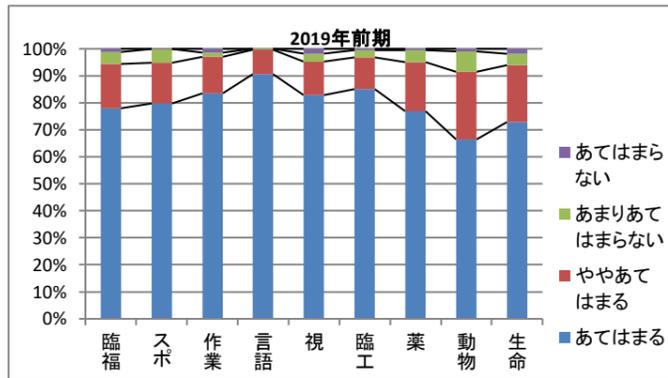


【教員の授業に対する取り組み】
Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



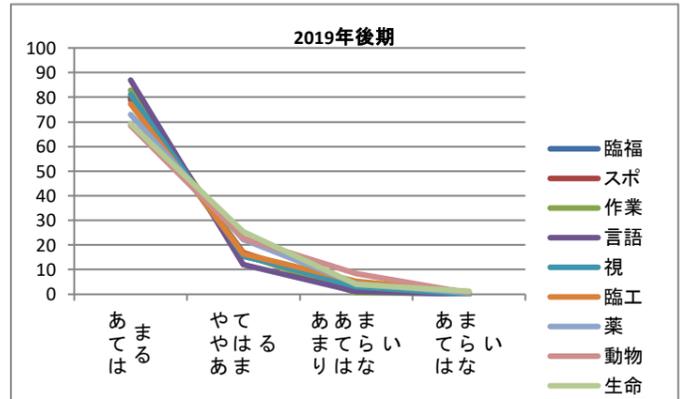
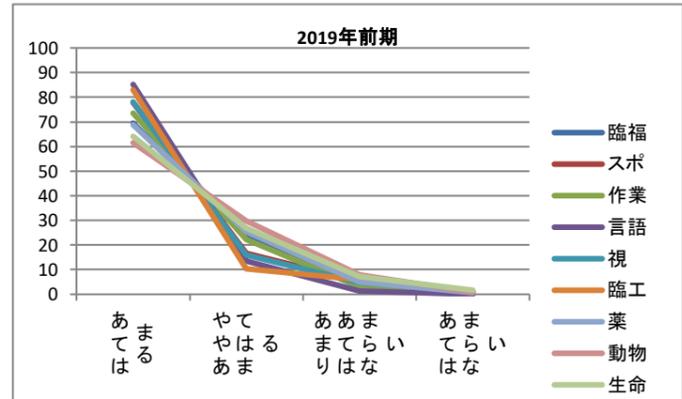
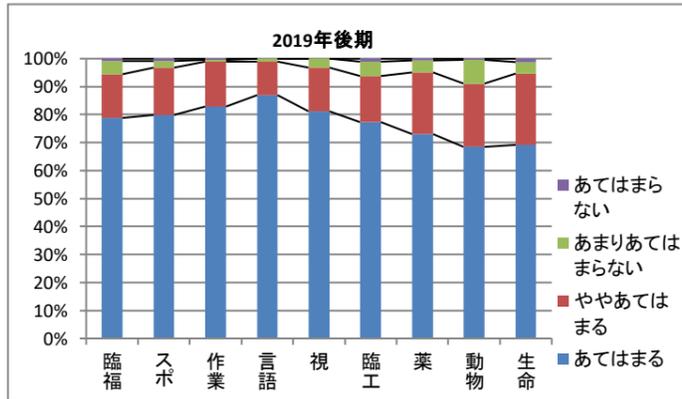
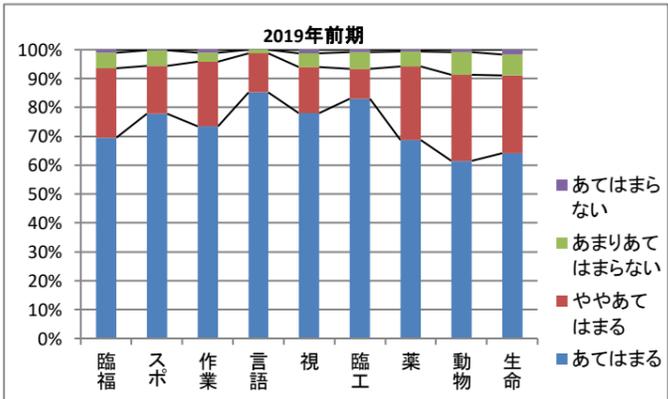
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



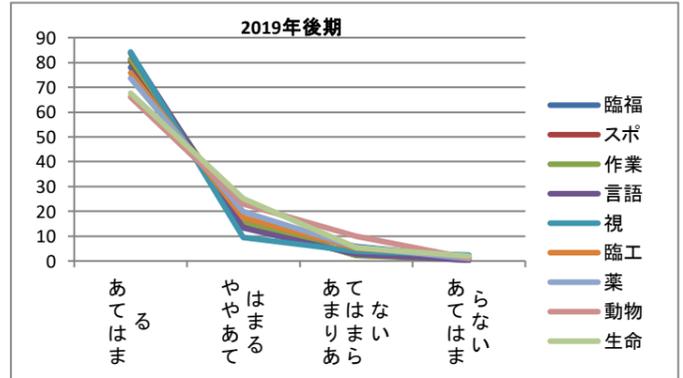
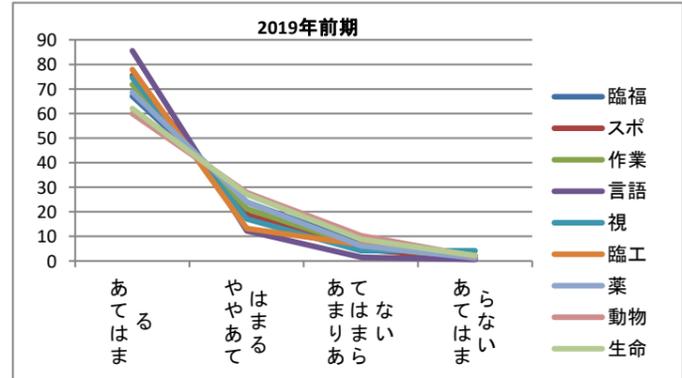
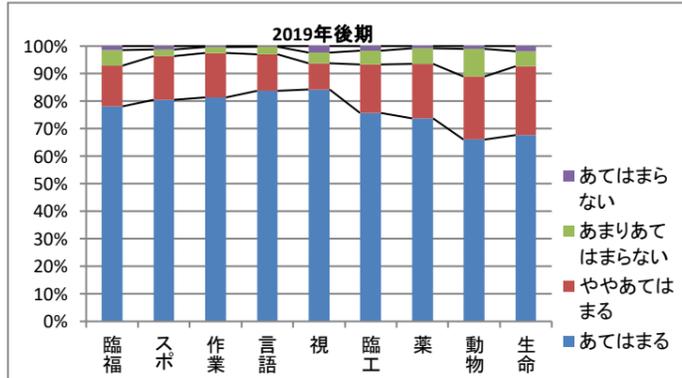
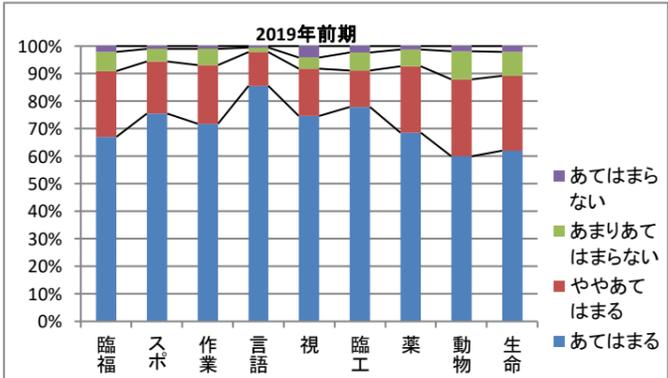
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



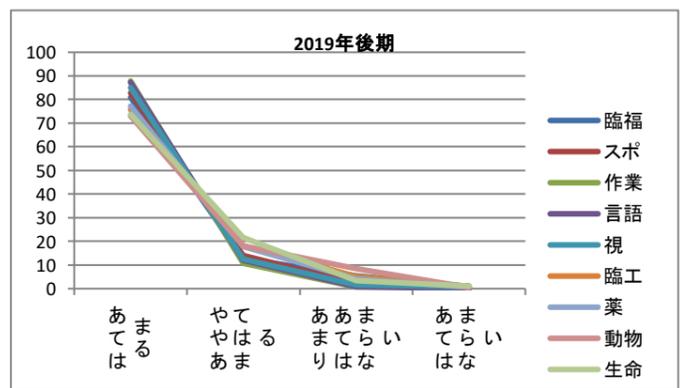
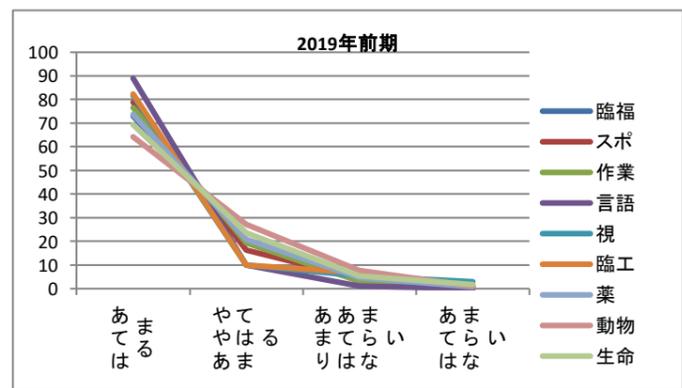
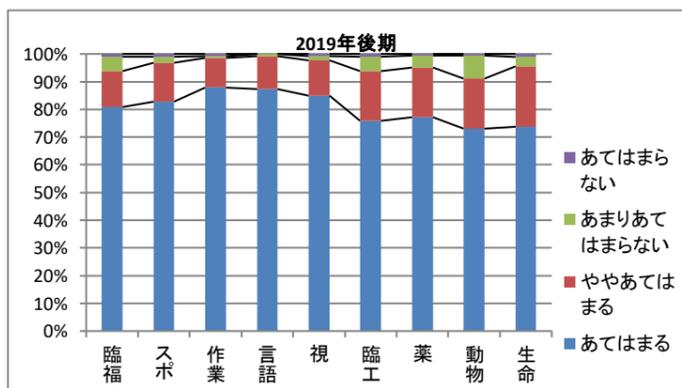
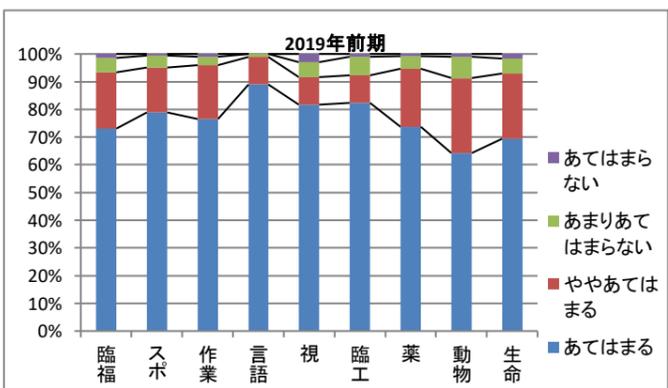
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

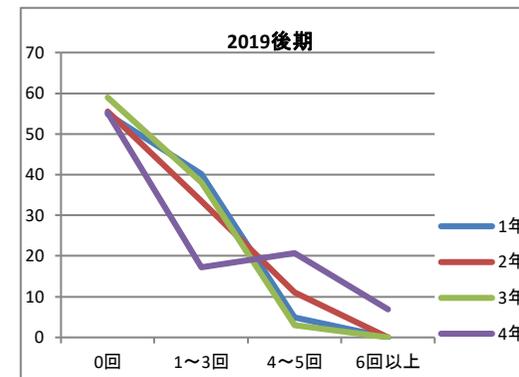
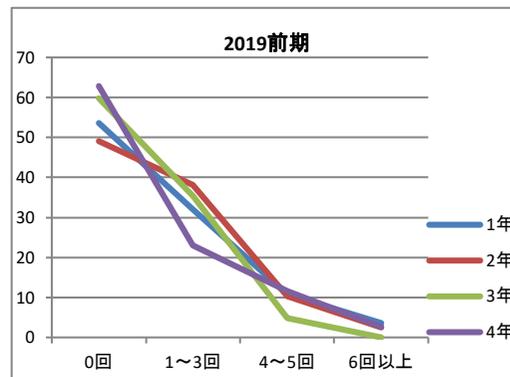
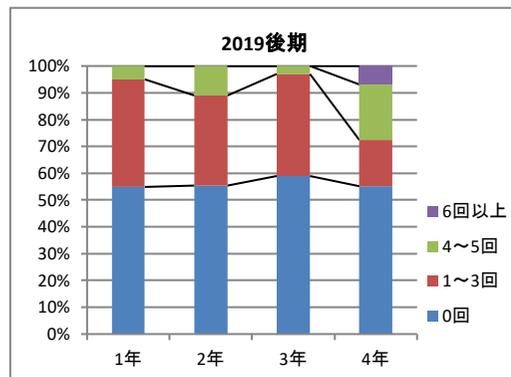
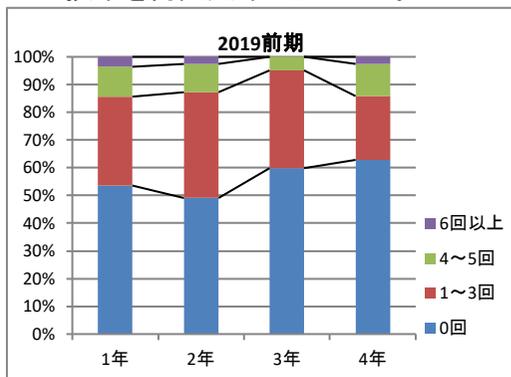


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<臨床福祉学科>

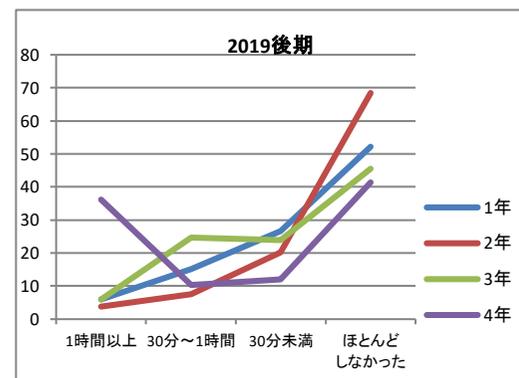
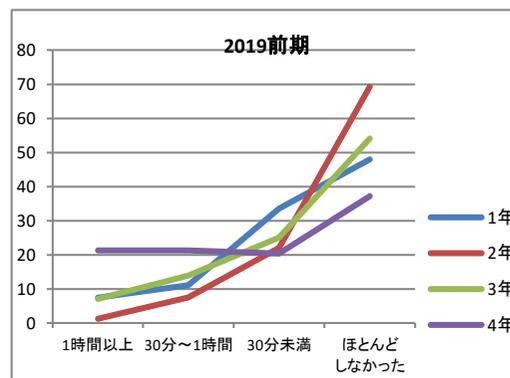
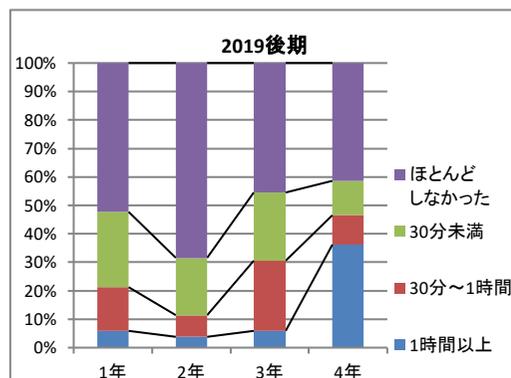
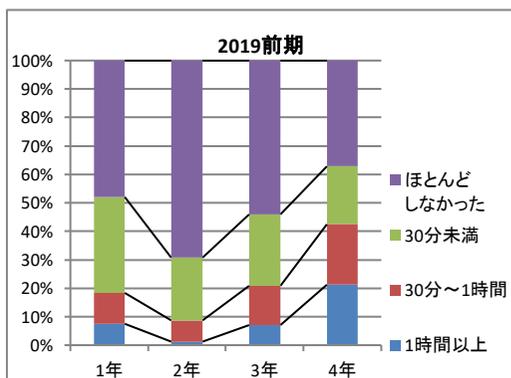
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



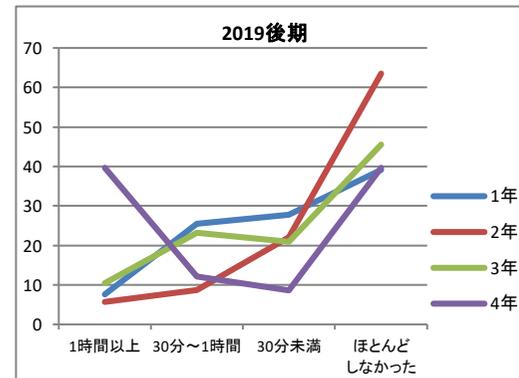
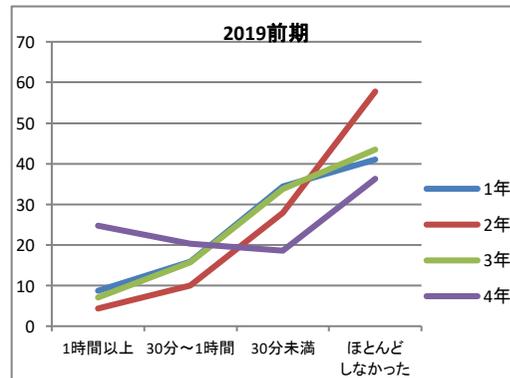
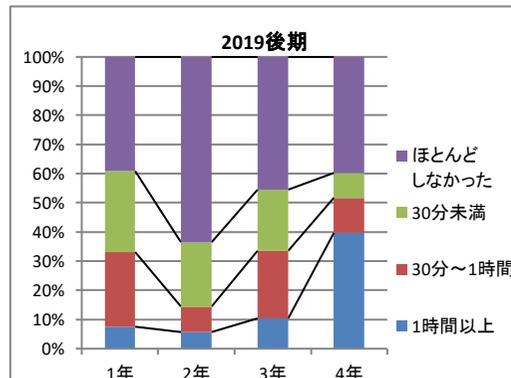
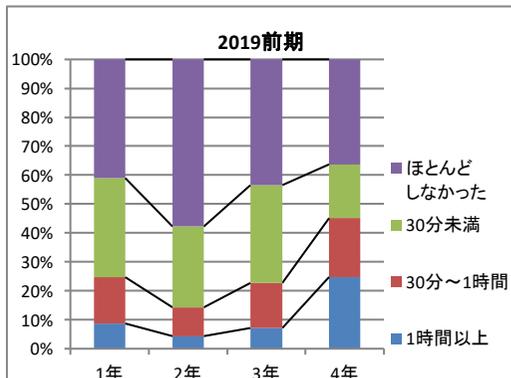
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



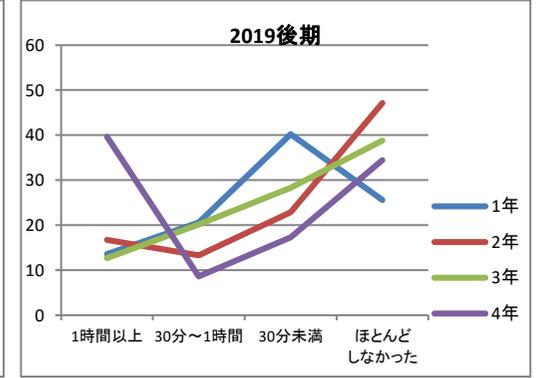
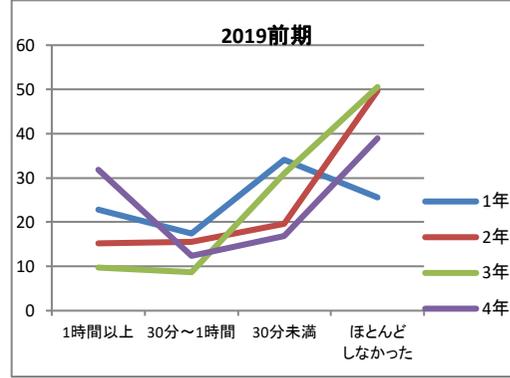
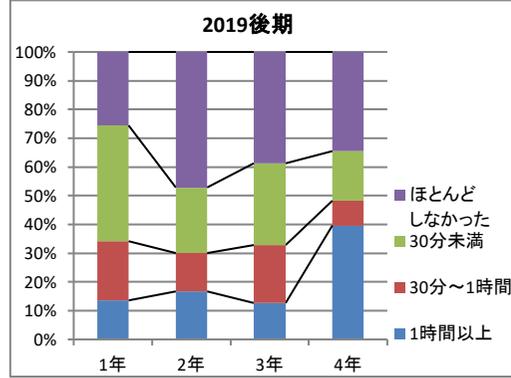
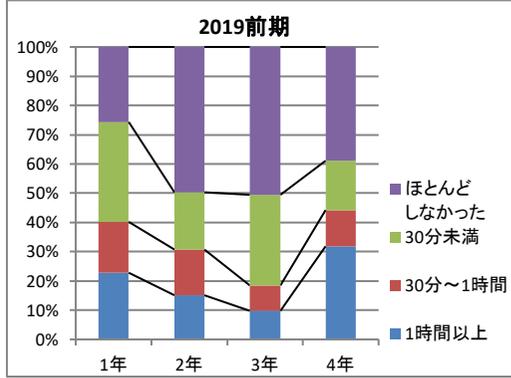
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



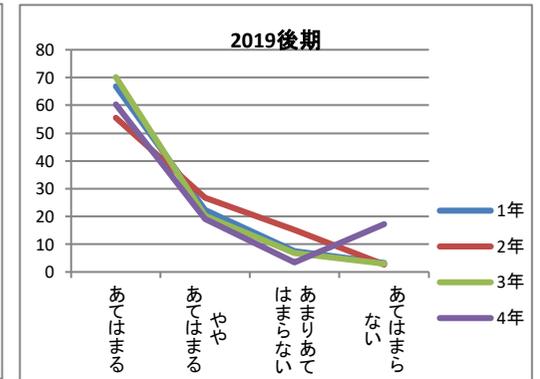
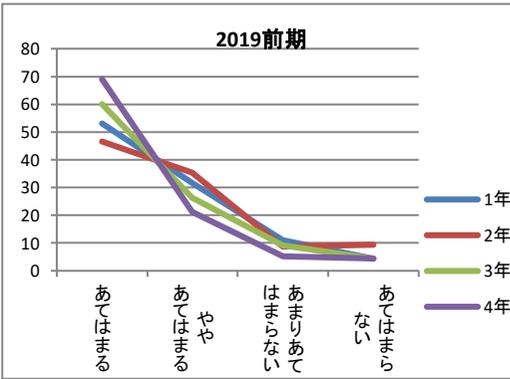
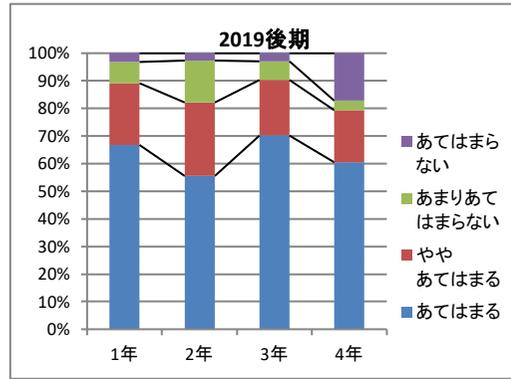
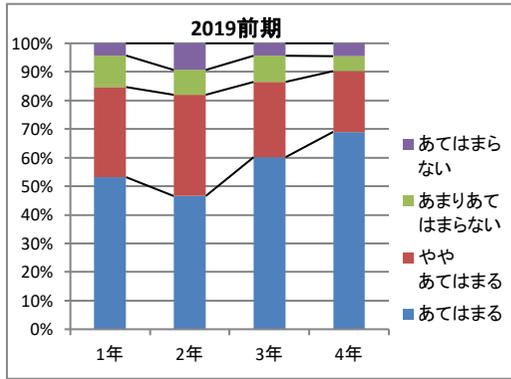
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



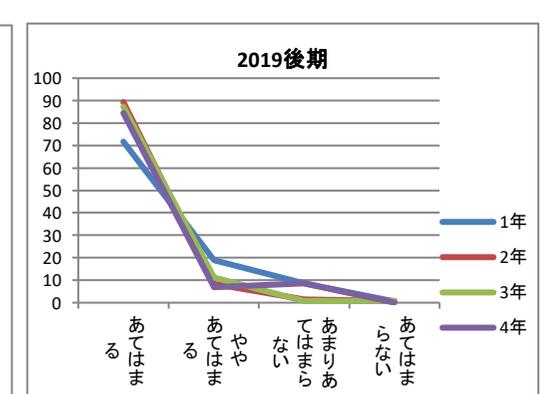
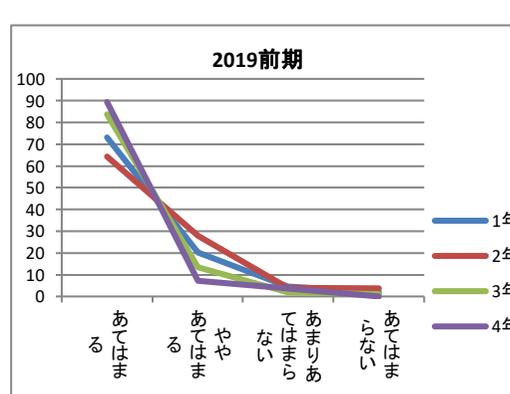
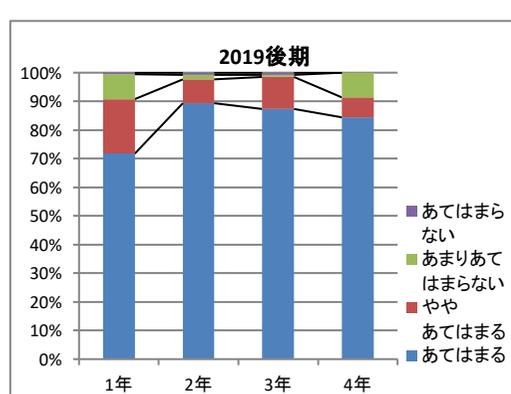
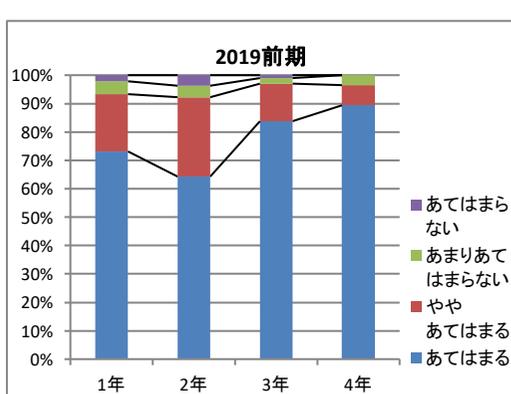
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



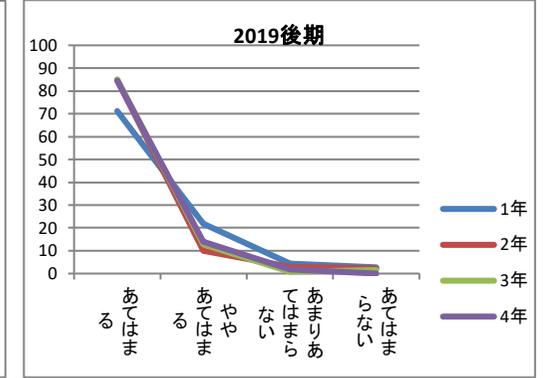
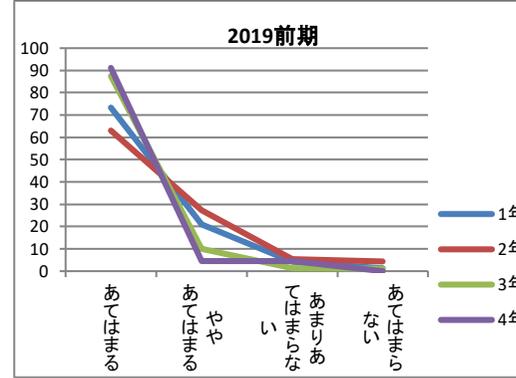
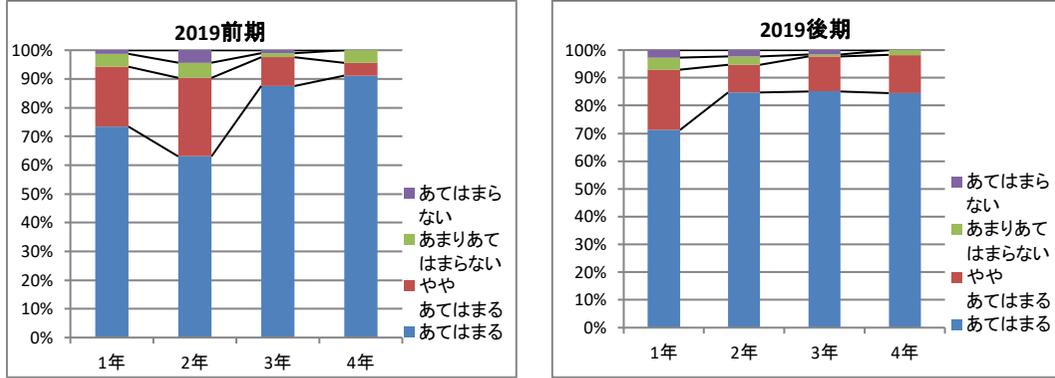
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



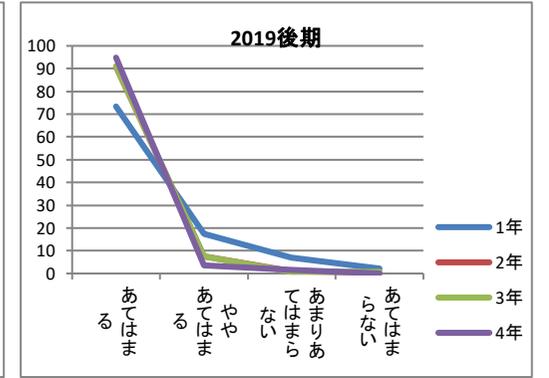
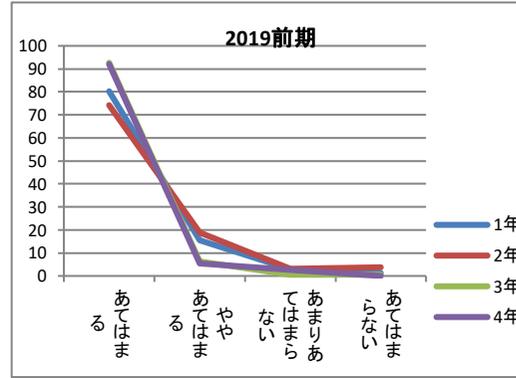
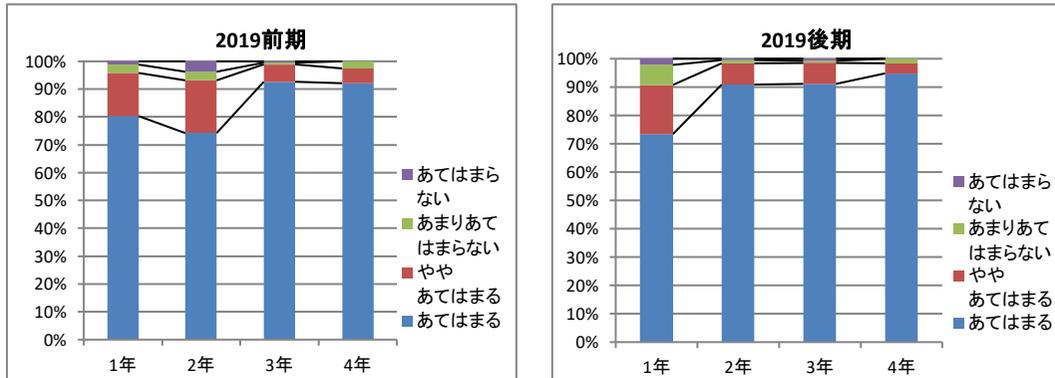
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



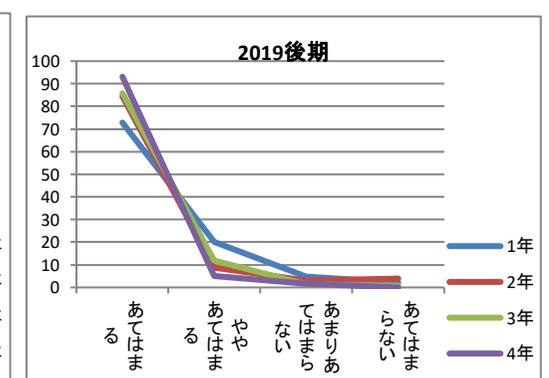
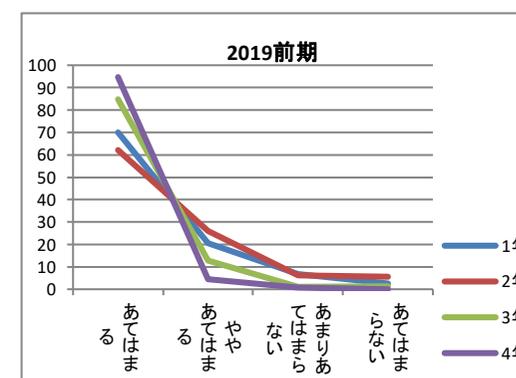
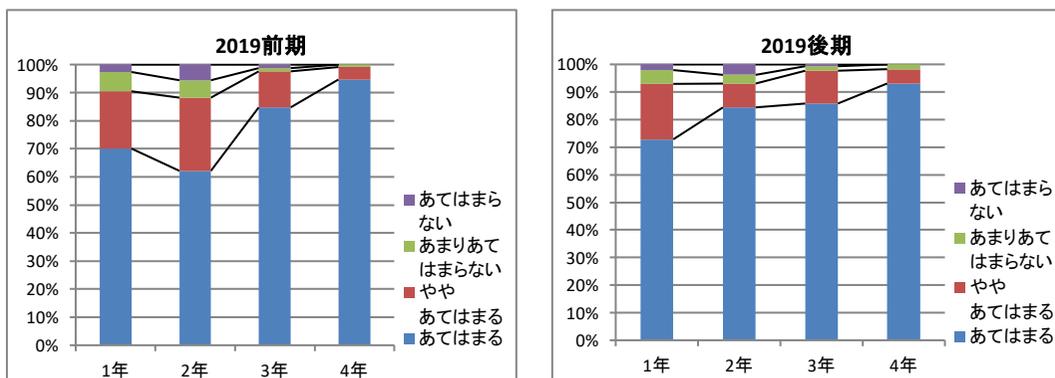
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



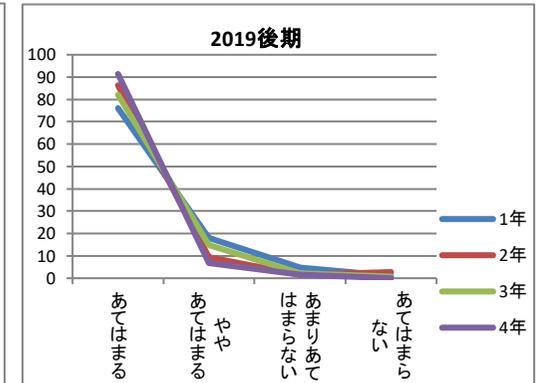
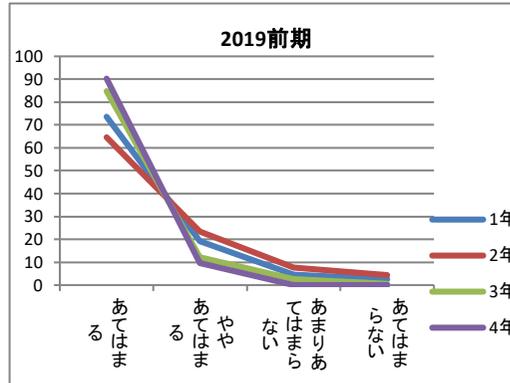
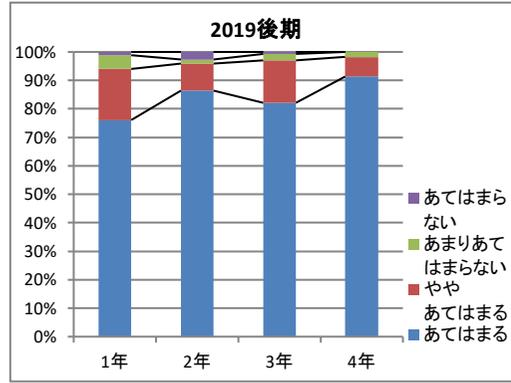
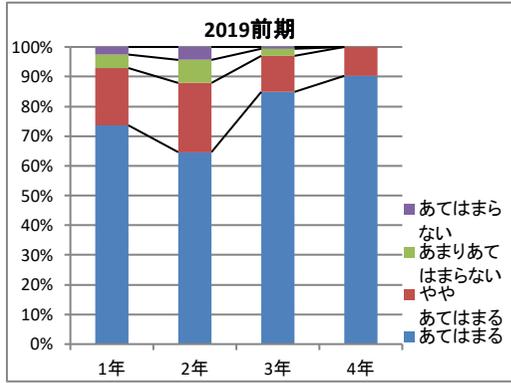
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



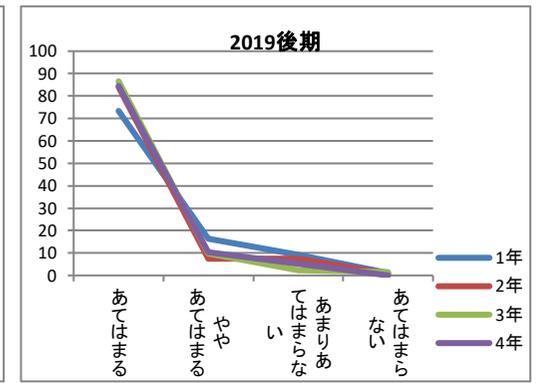
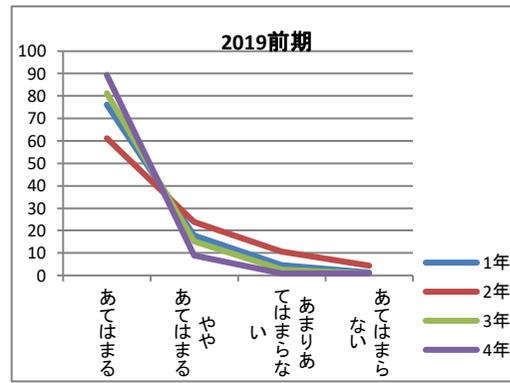
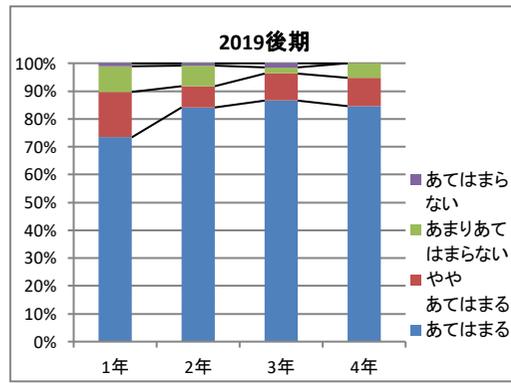
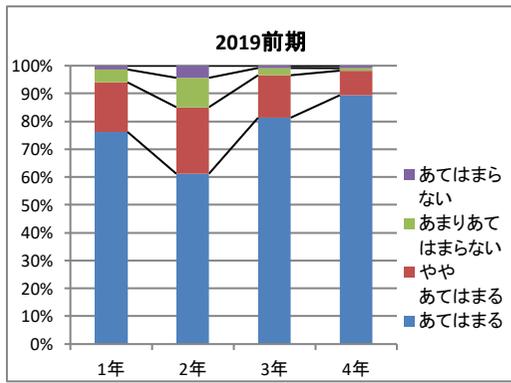
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



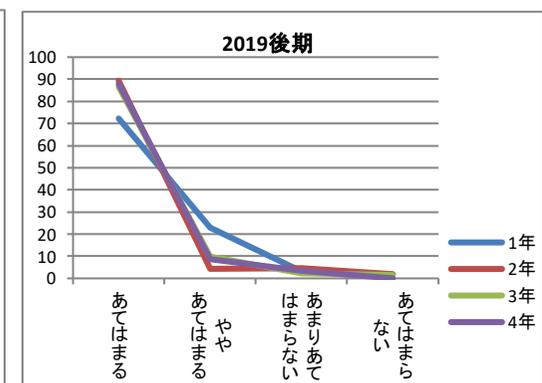
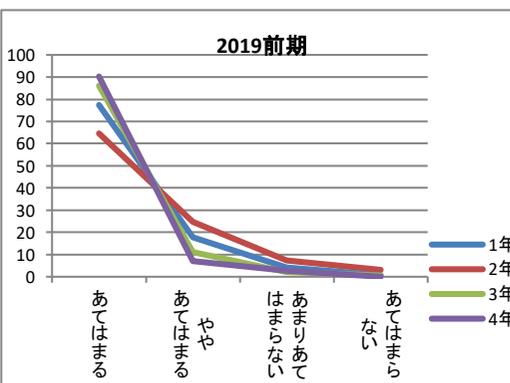
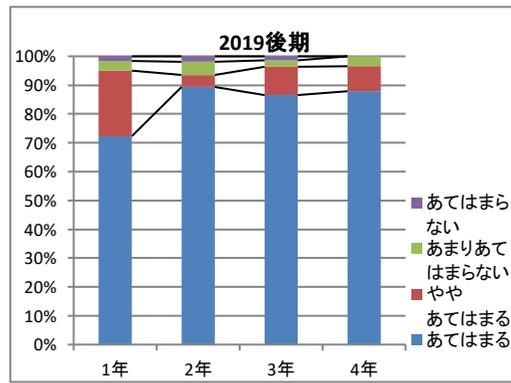
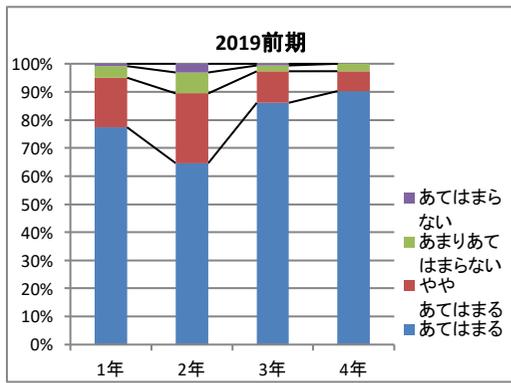
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



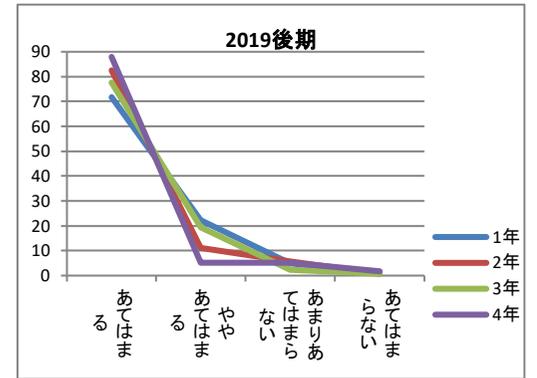
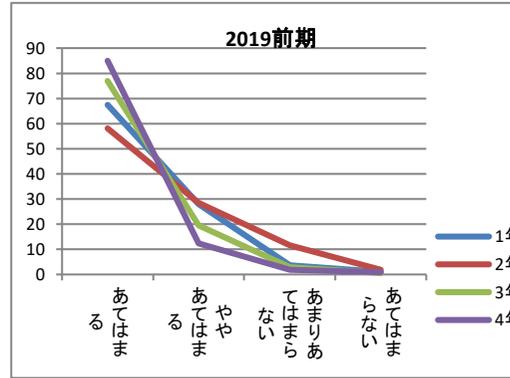
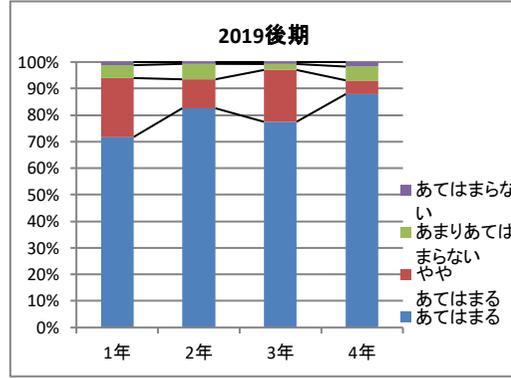
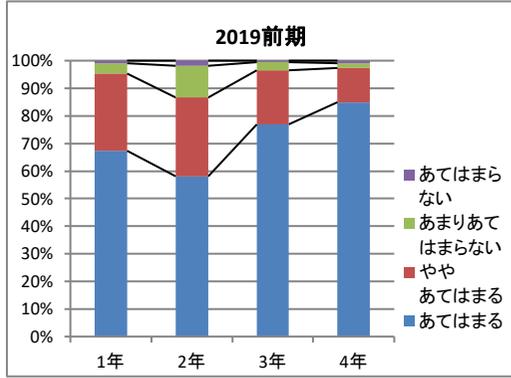
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



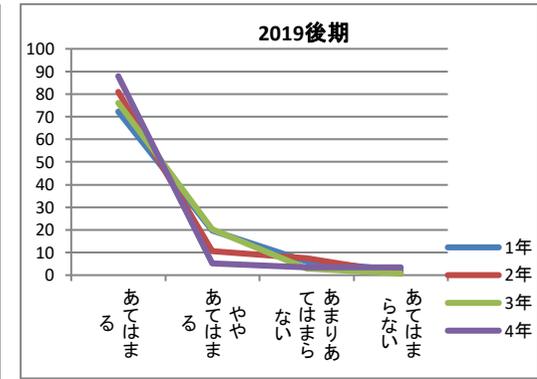
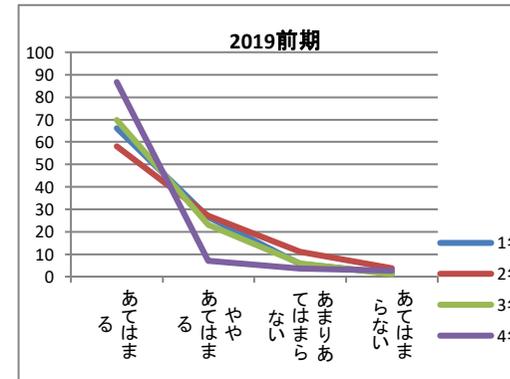
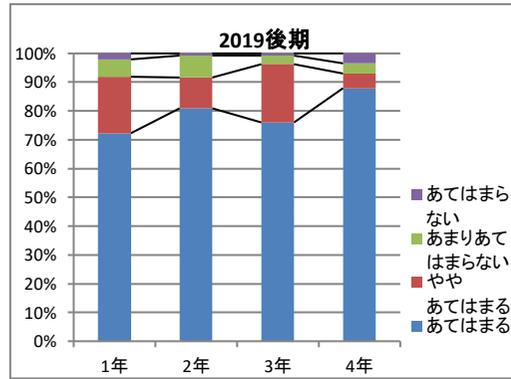
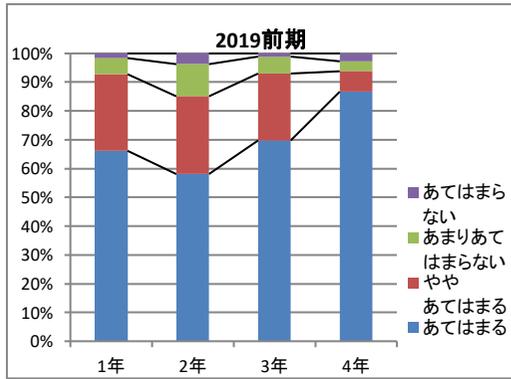
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



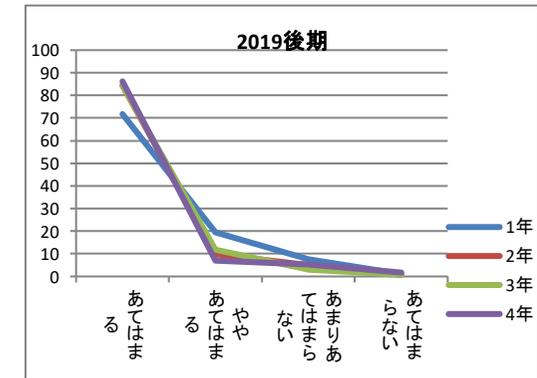
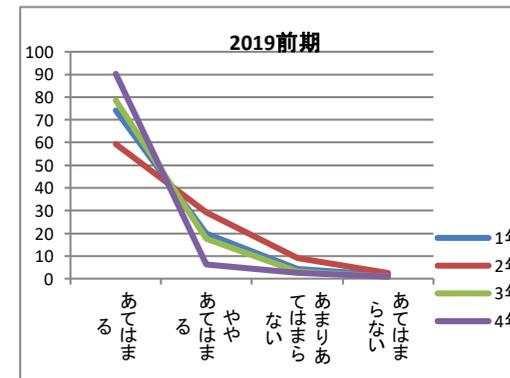
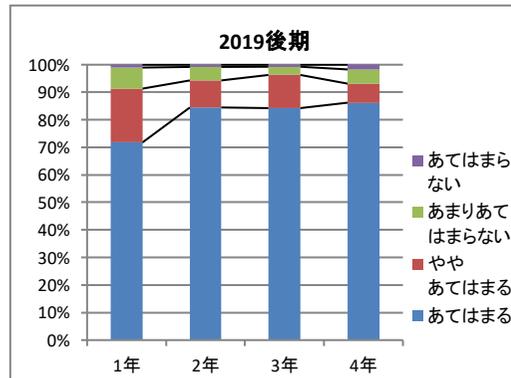
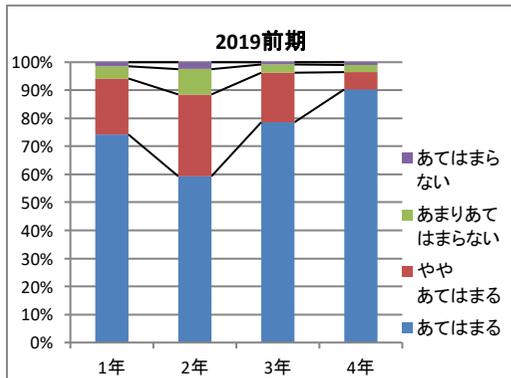
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

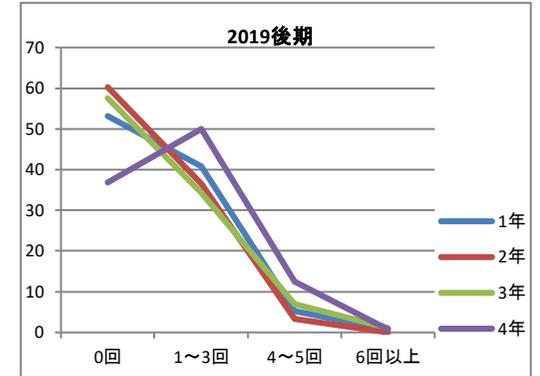
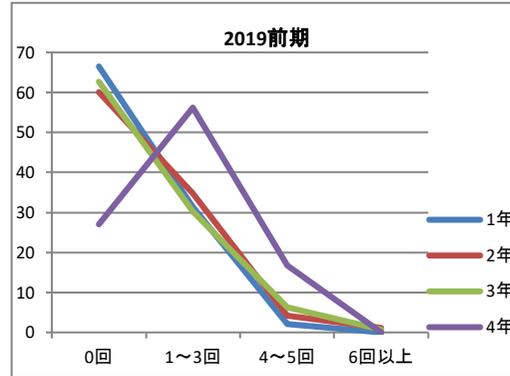
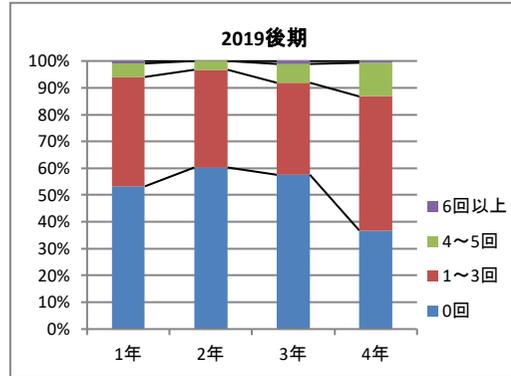
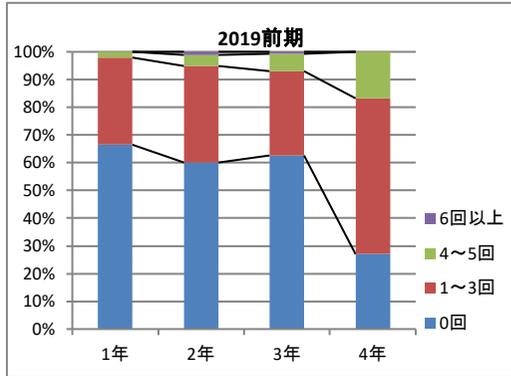


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<スポーツ健康福祉学科>

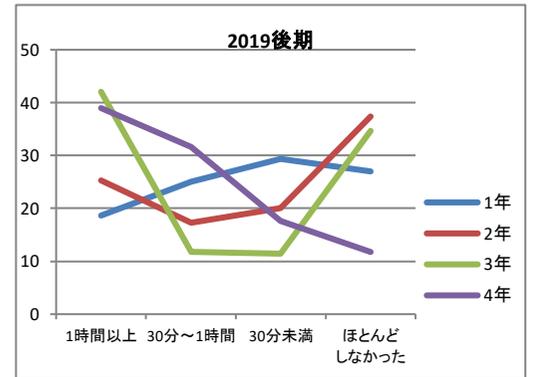
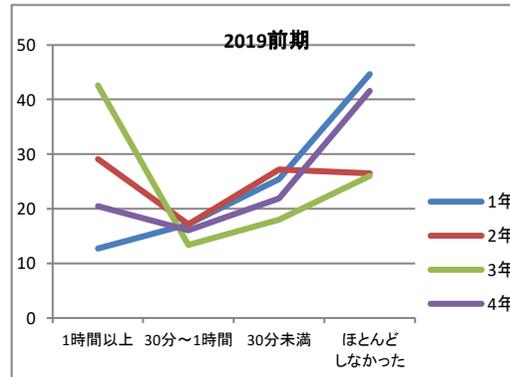
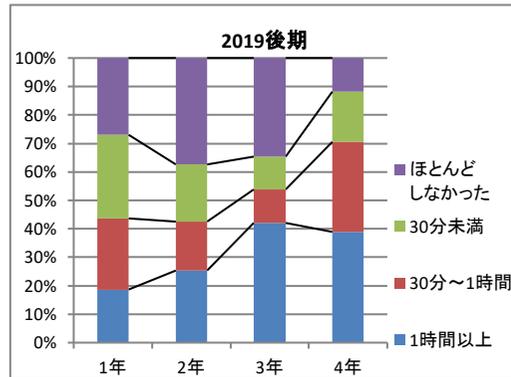
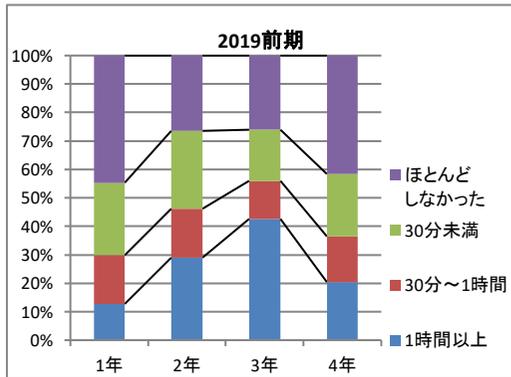
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



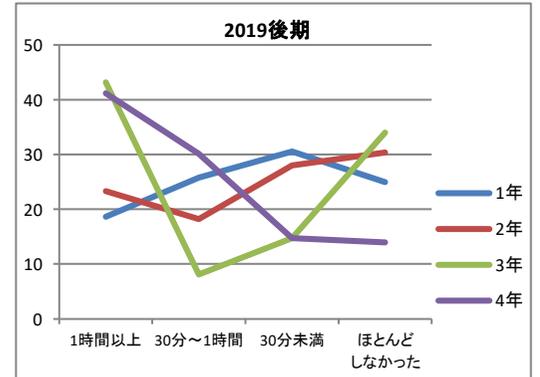
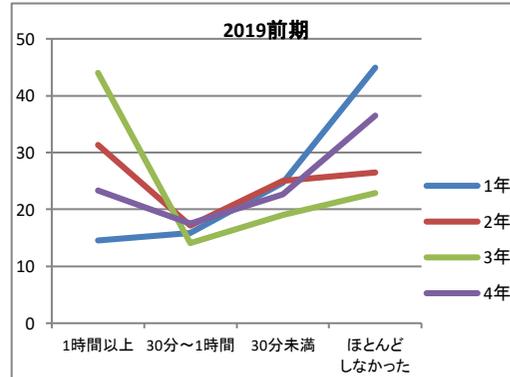
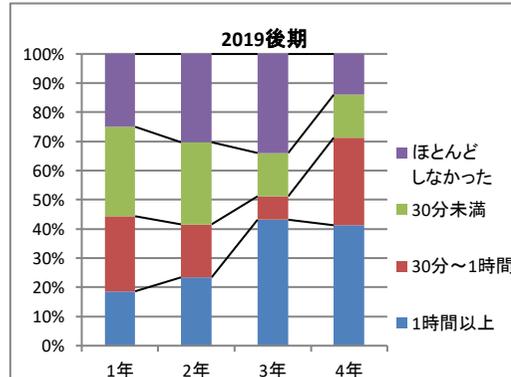
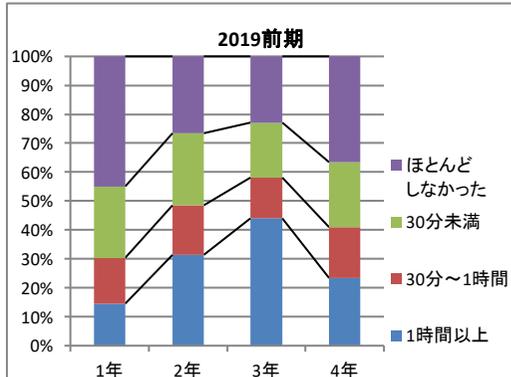
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



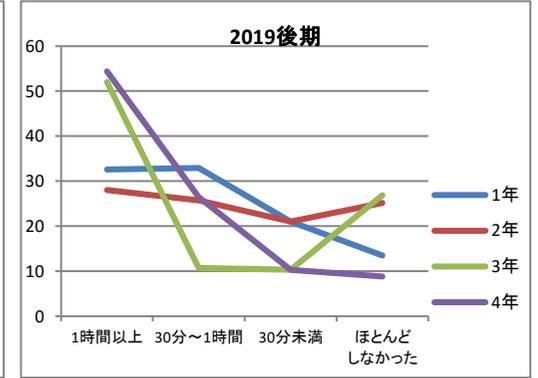
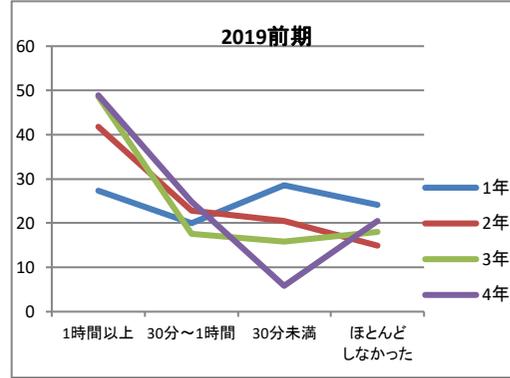
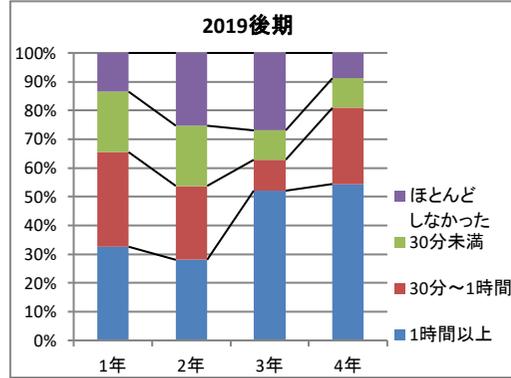
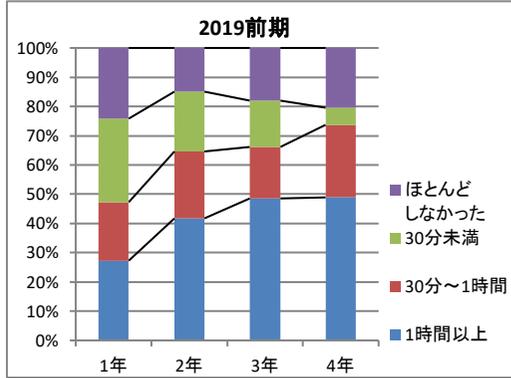
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



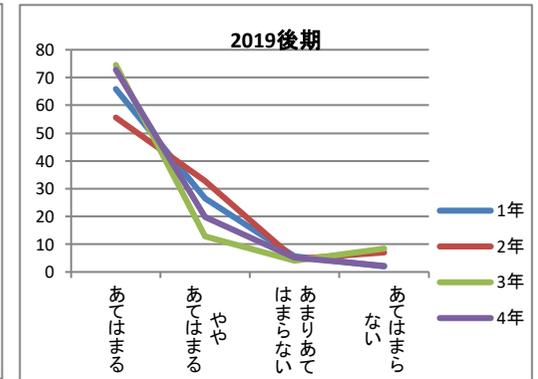
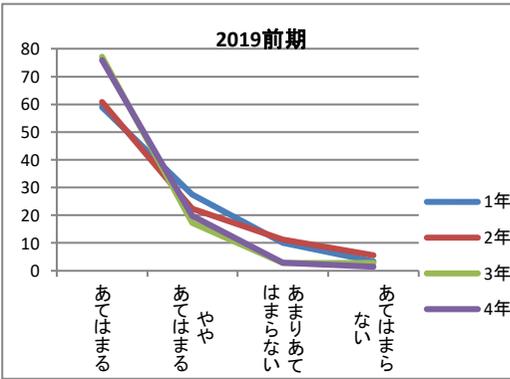
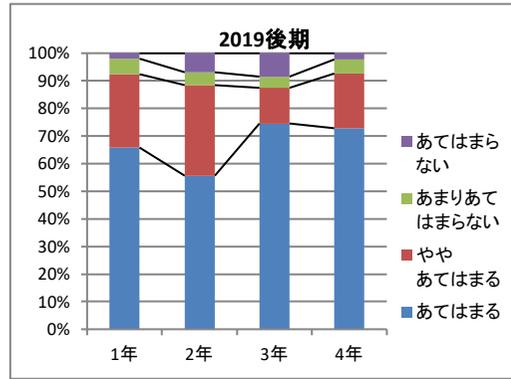
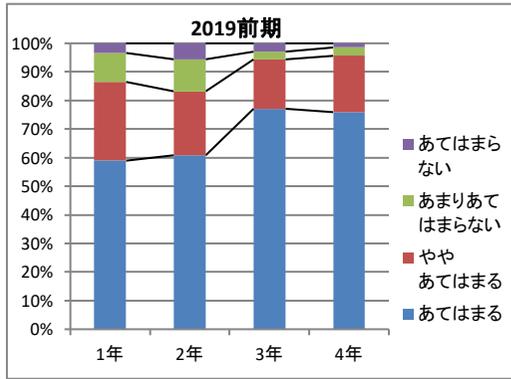
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



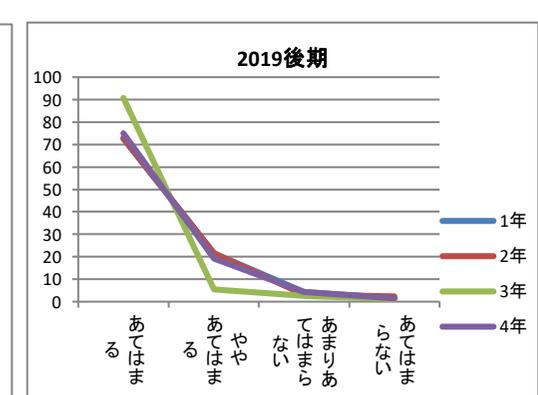
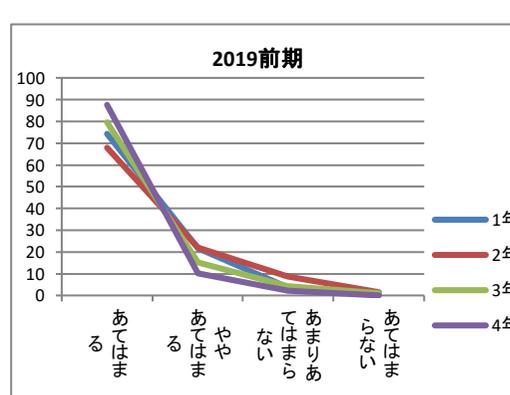
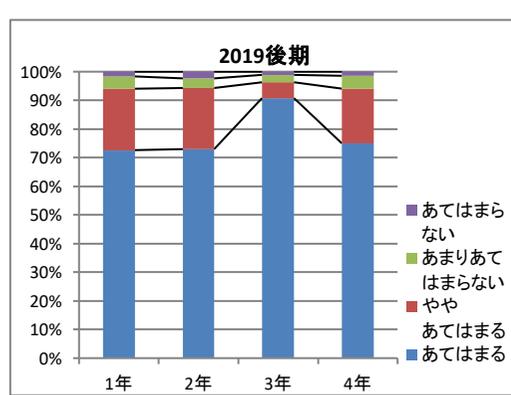
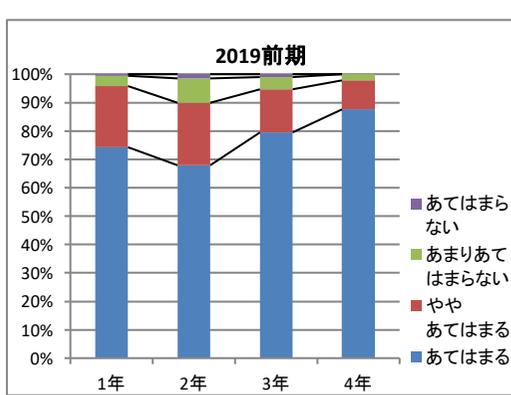
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



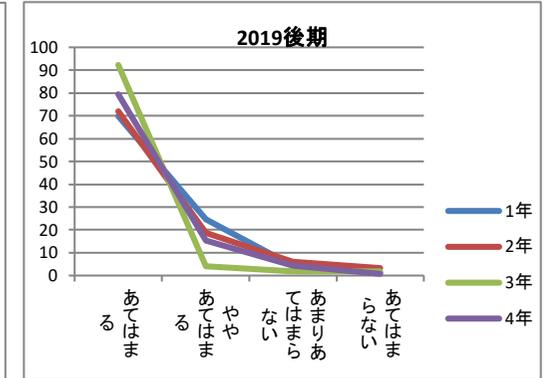
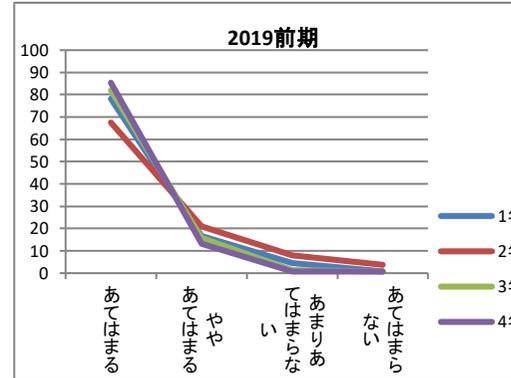
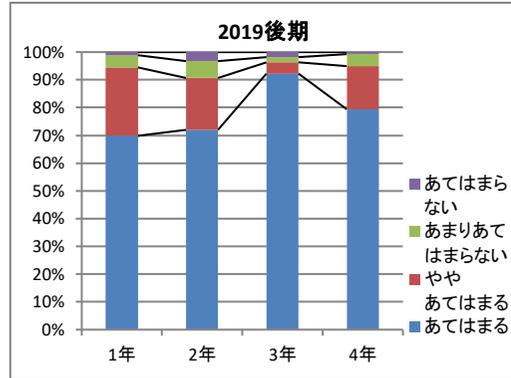
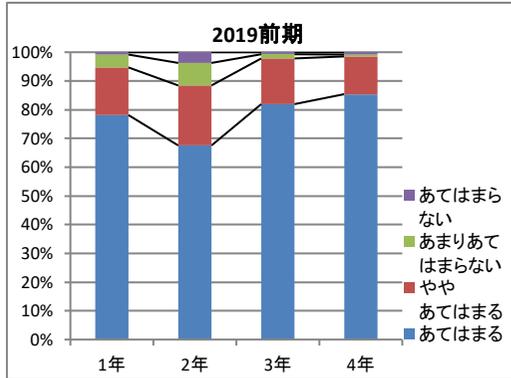
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



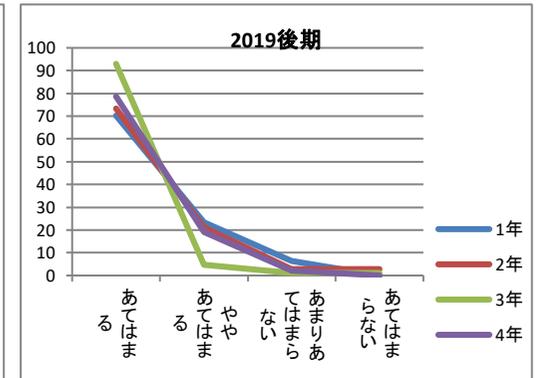
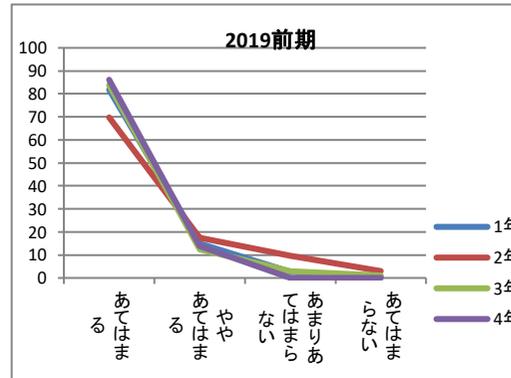
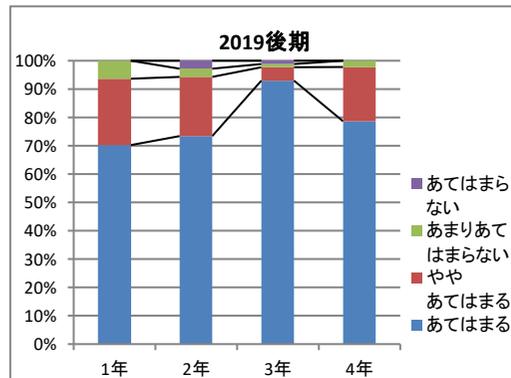
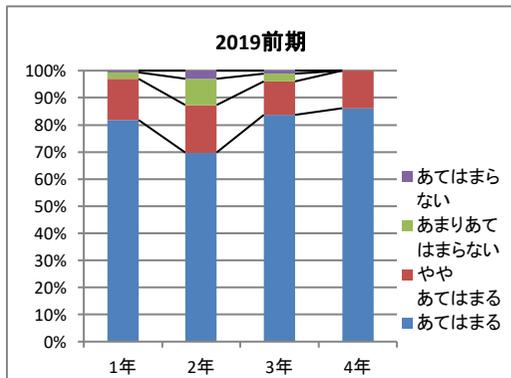
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



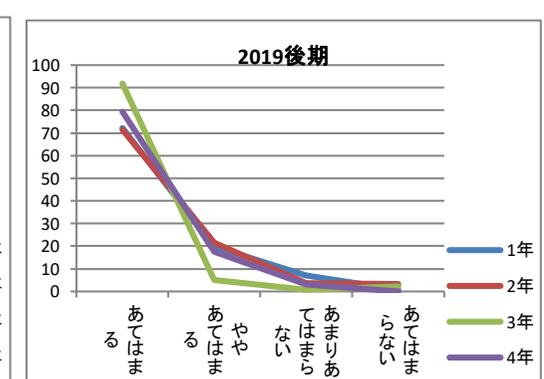
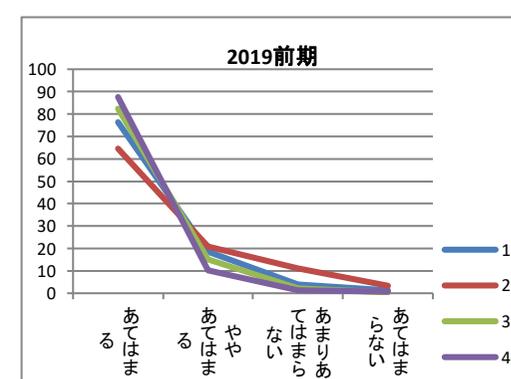
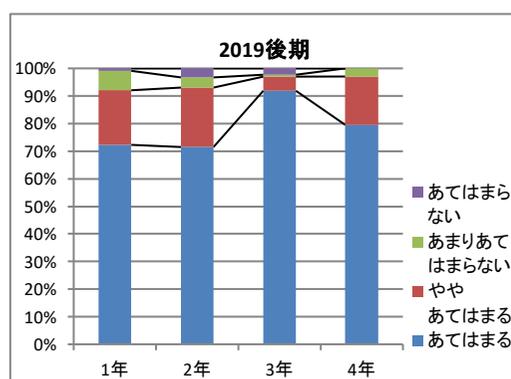
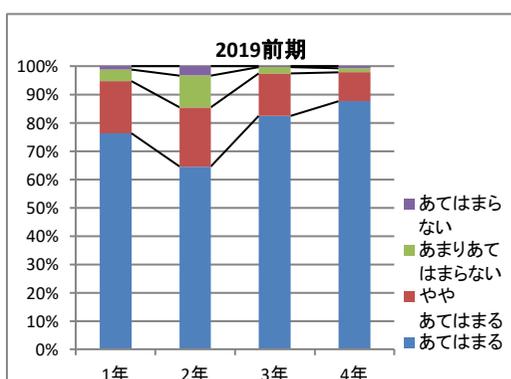
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



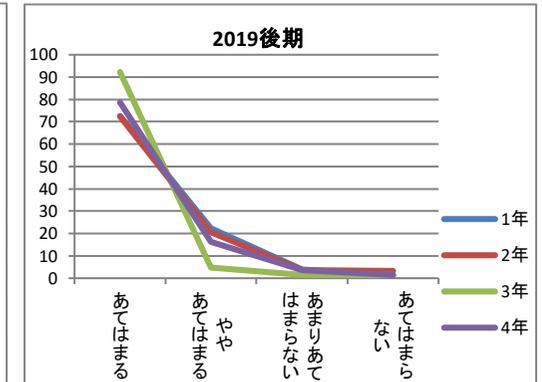
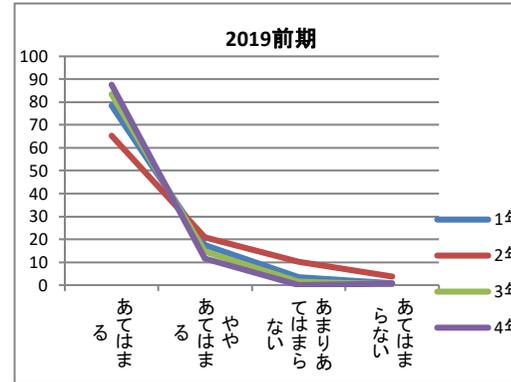
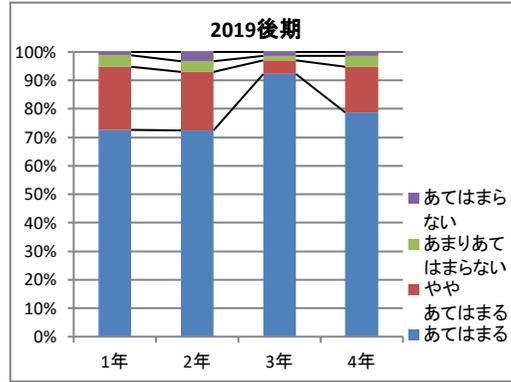
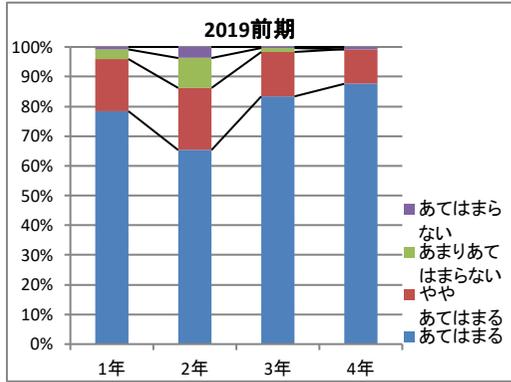
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



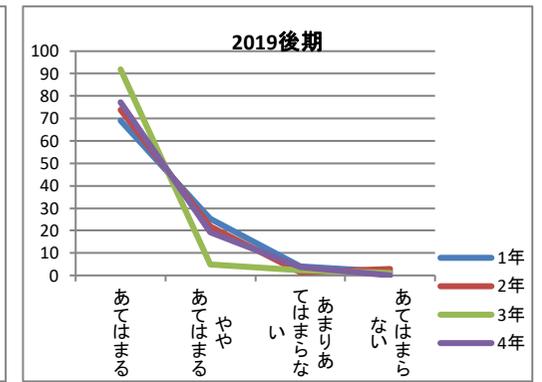
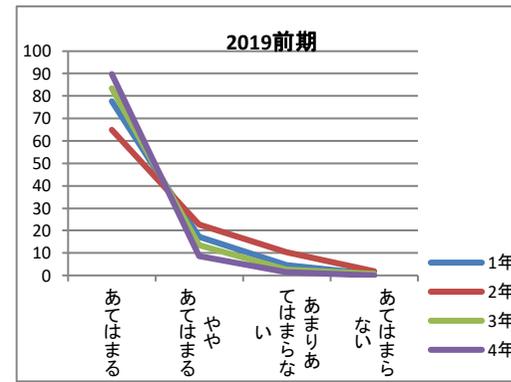
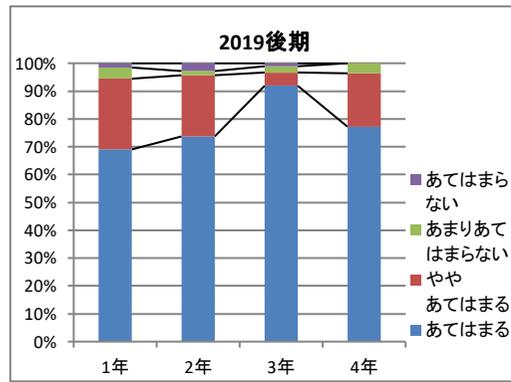
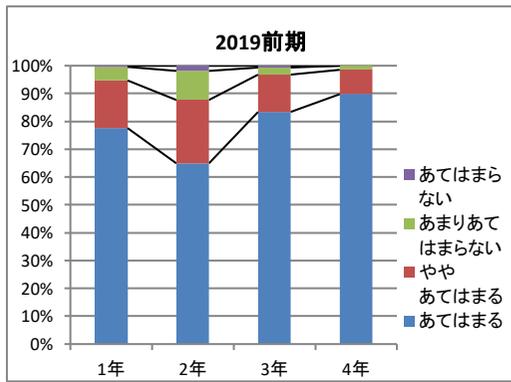
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



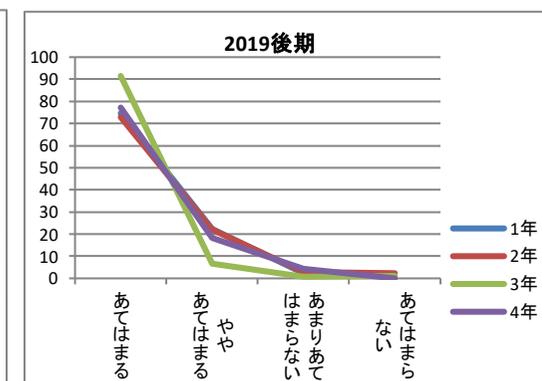
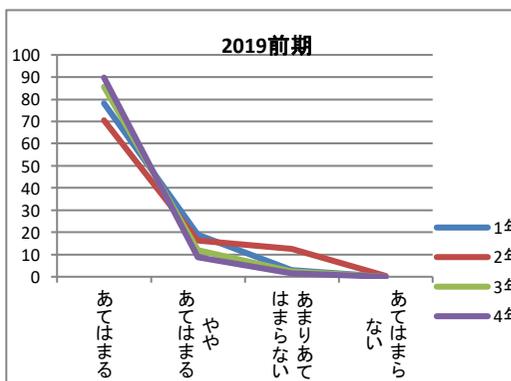
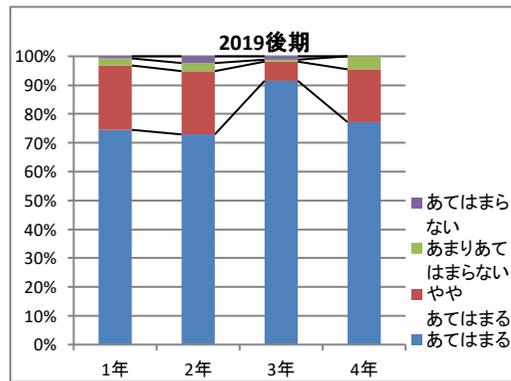
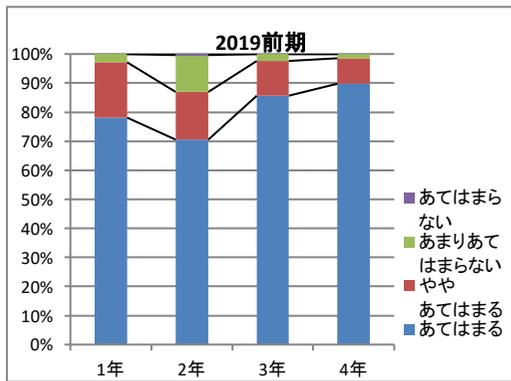
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



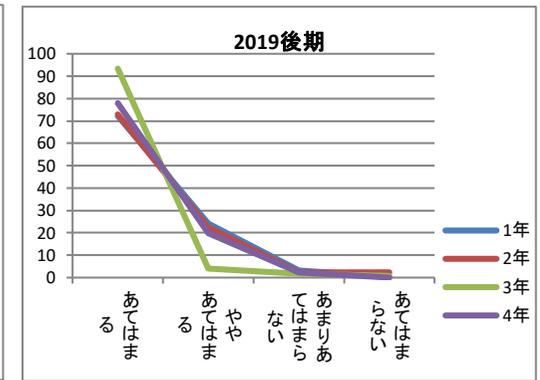
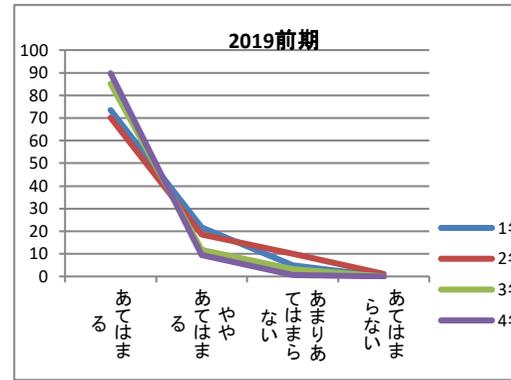
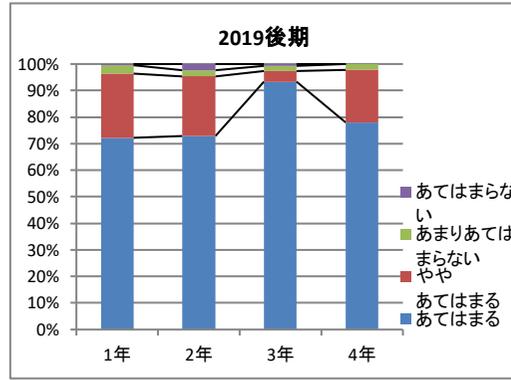
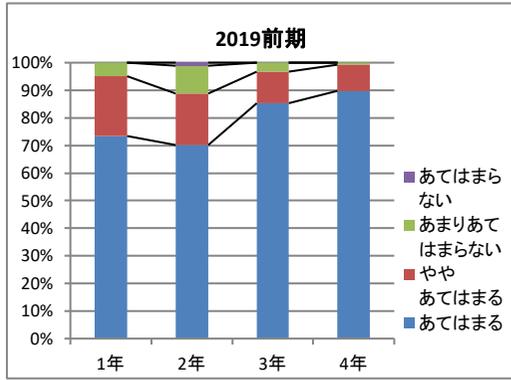
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



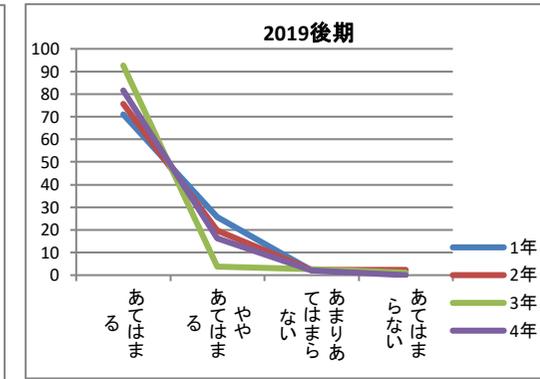
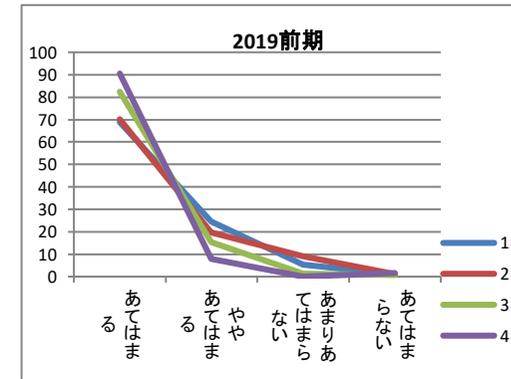
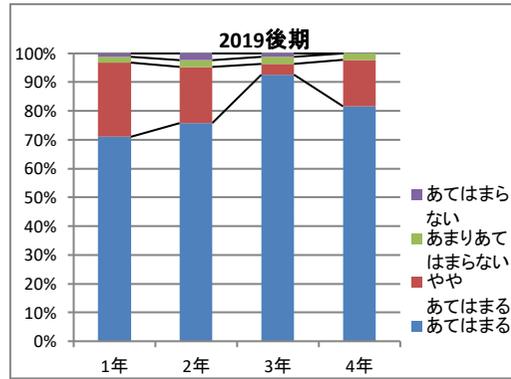
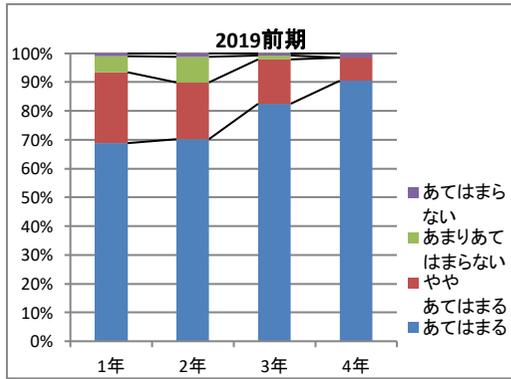
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



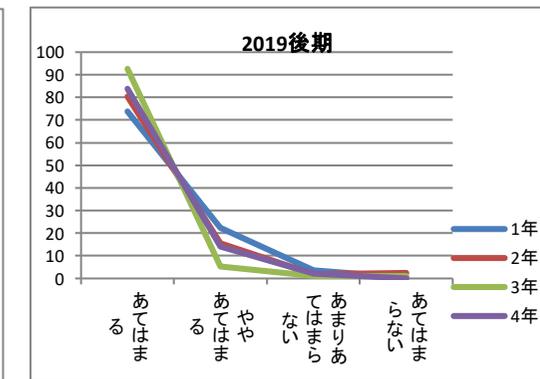
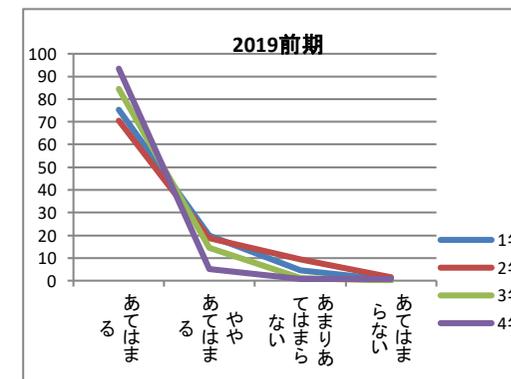
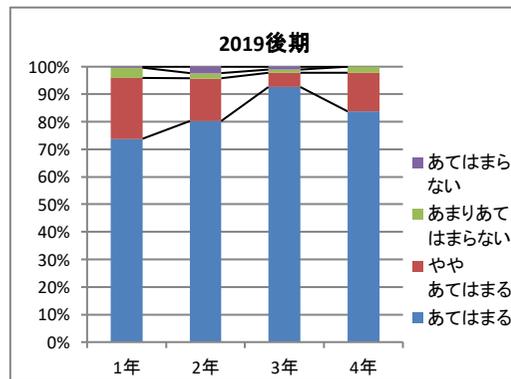
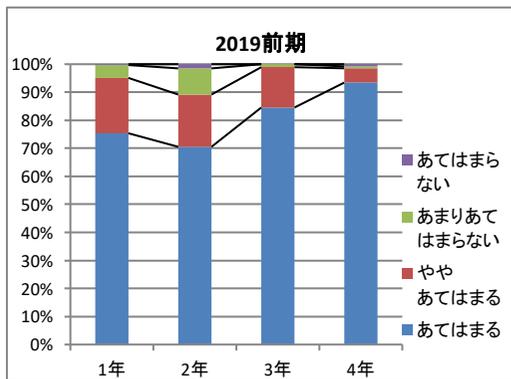
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

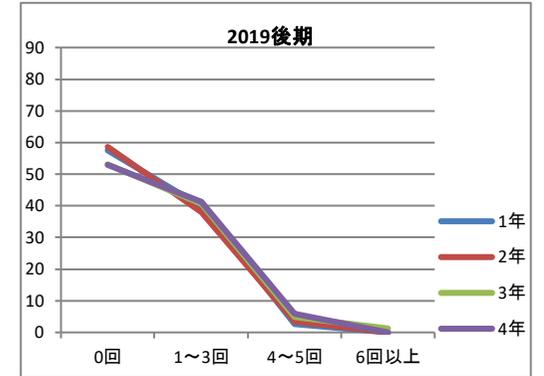
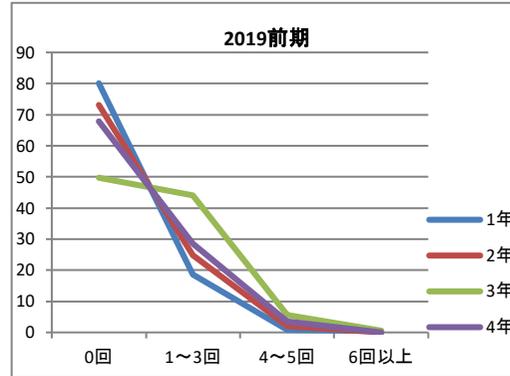
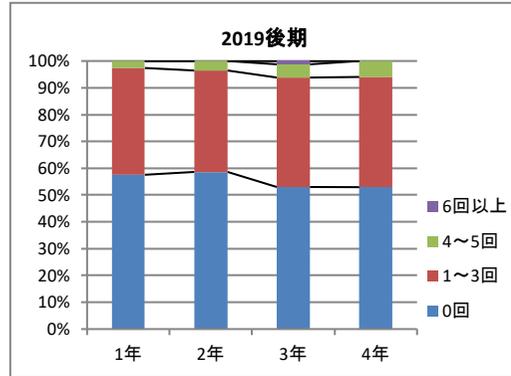
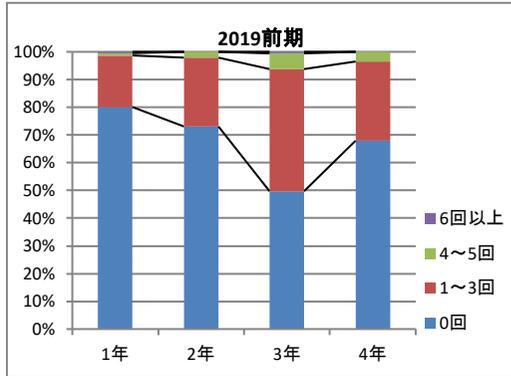


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<作業療法学科>

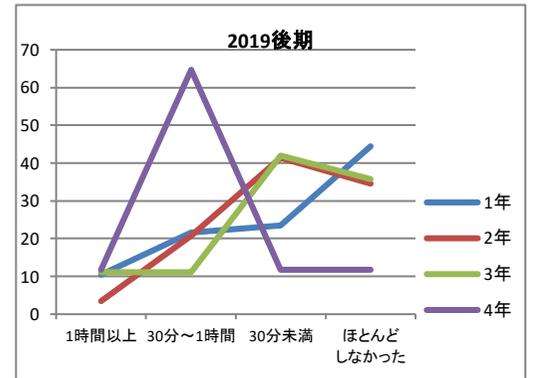
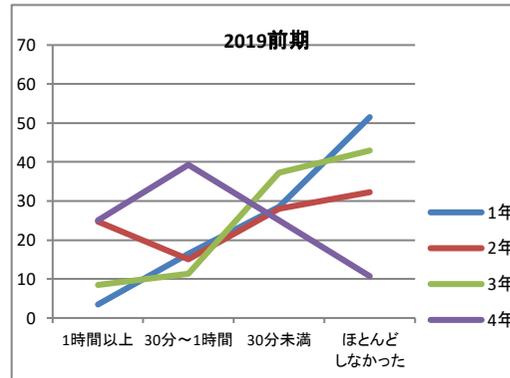
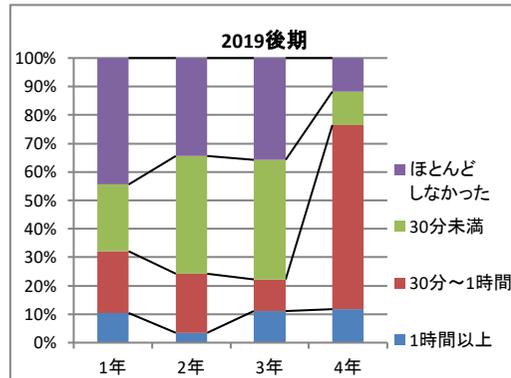
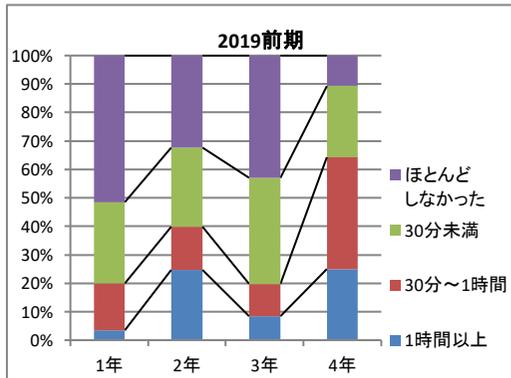
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



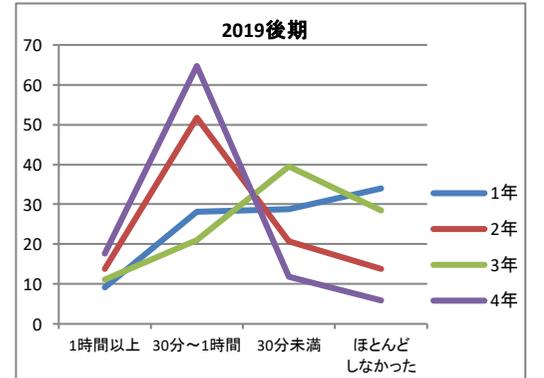
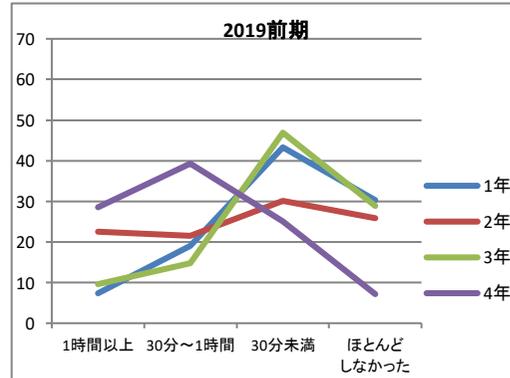
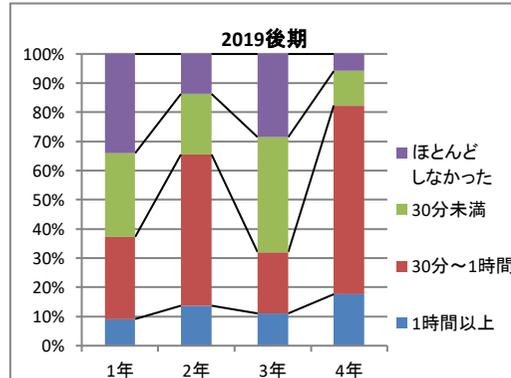
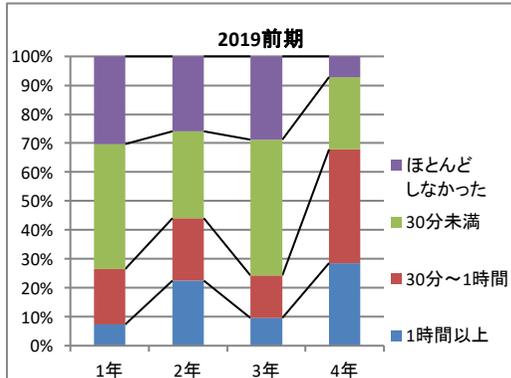
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



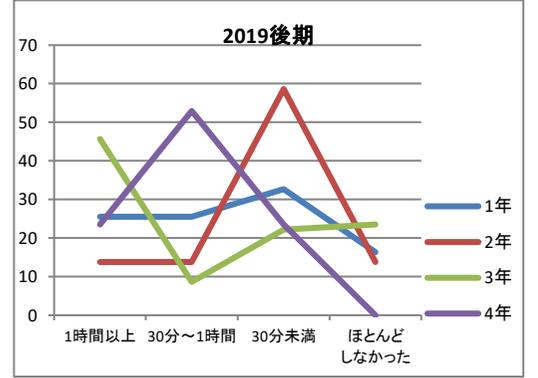
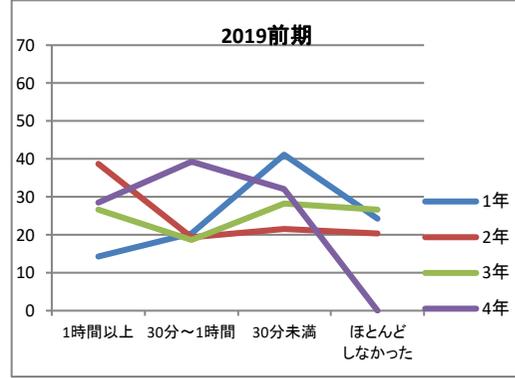
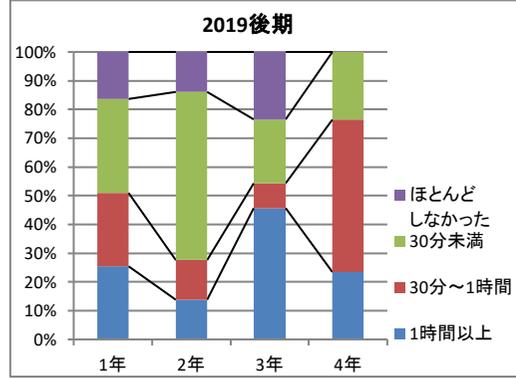
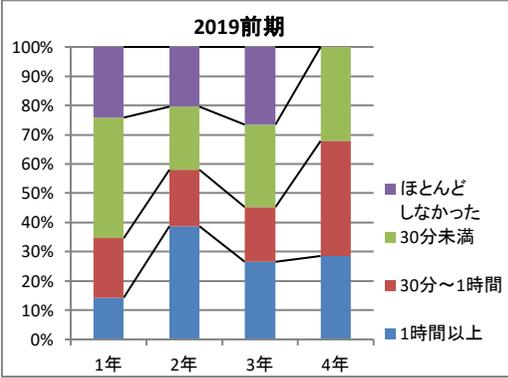
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



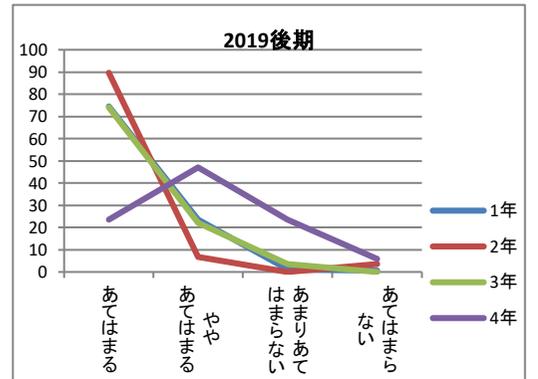
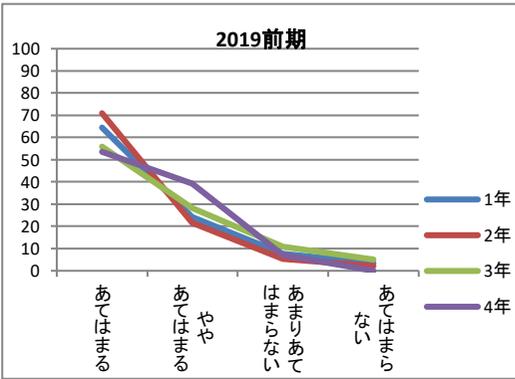
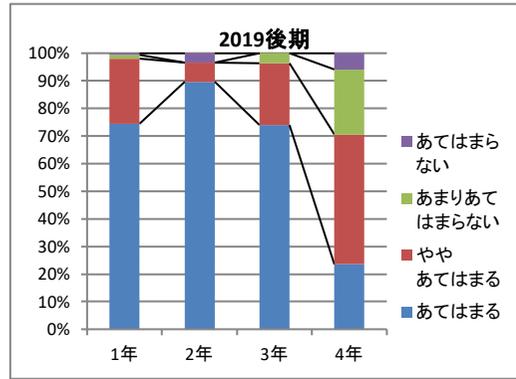
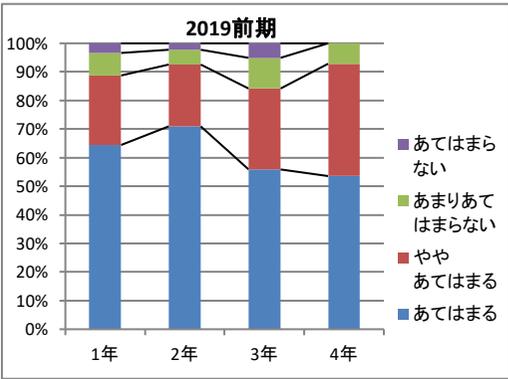
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



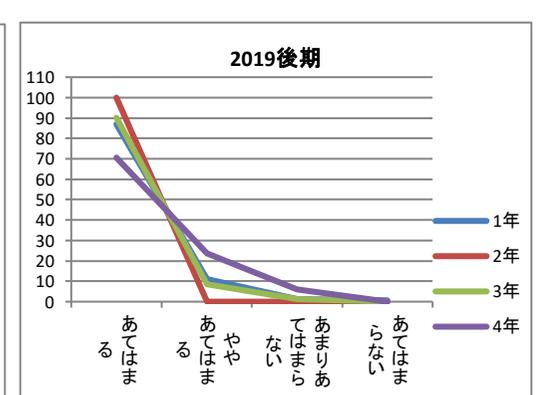
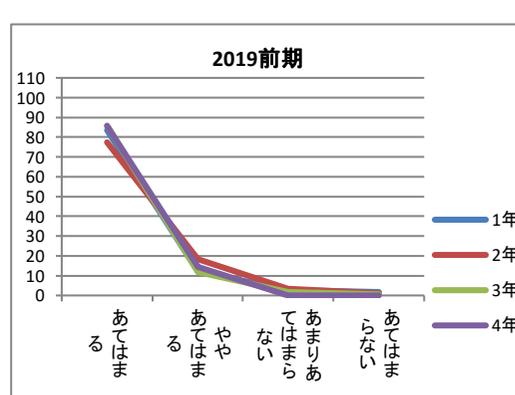
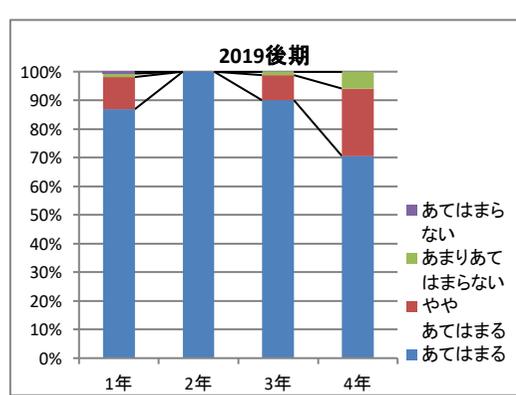
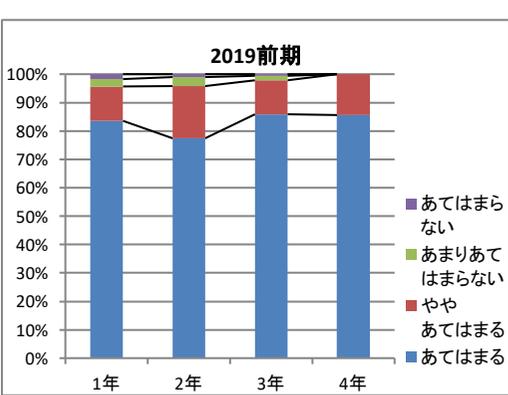
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



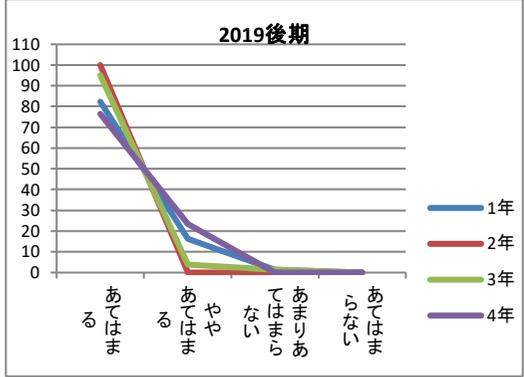
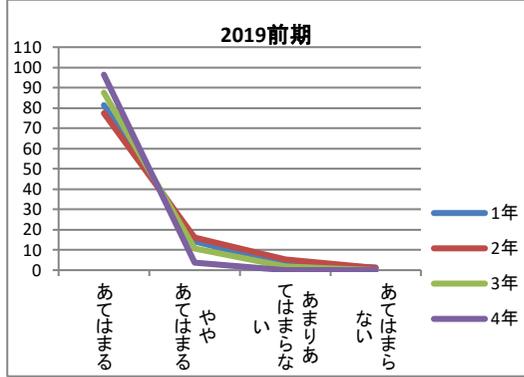
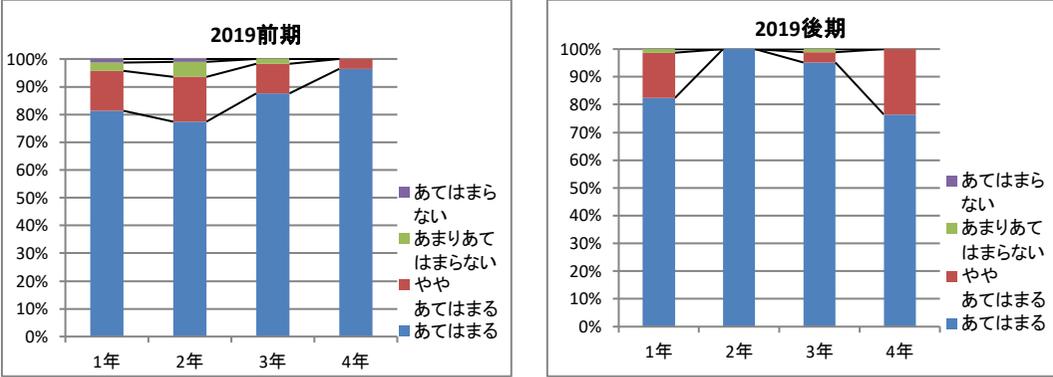
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



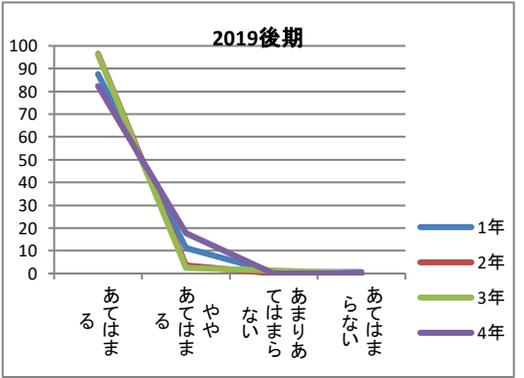
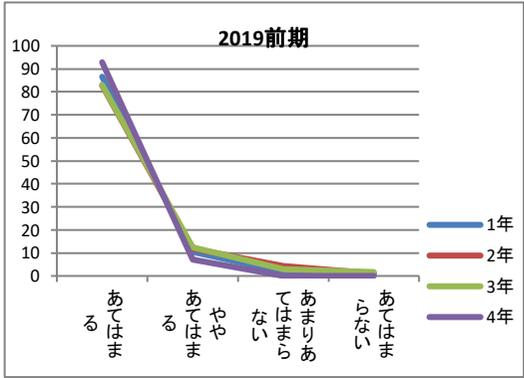
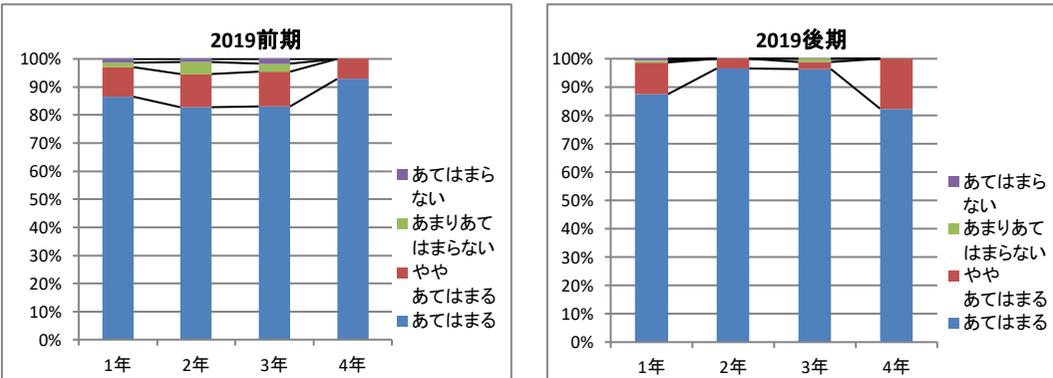
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



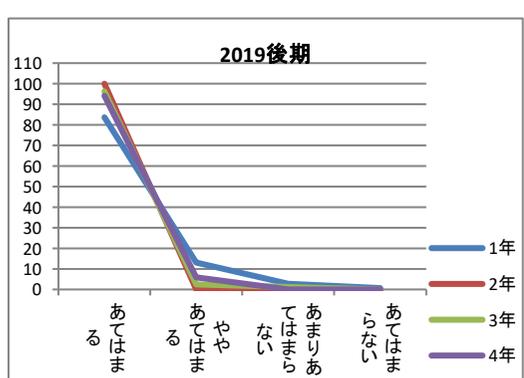
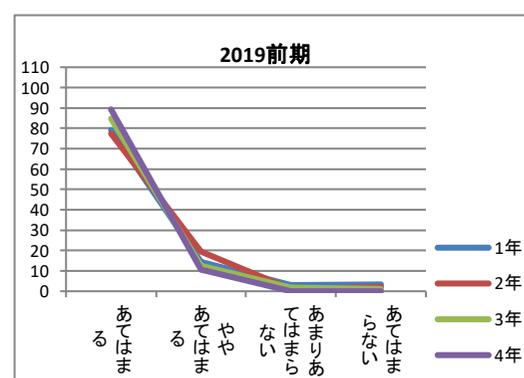
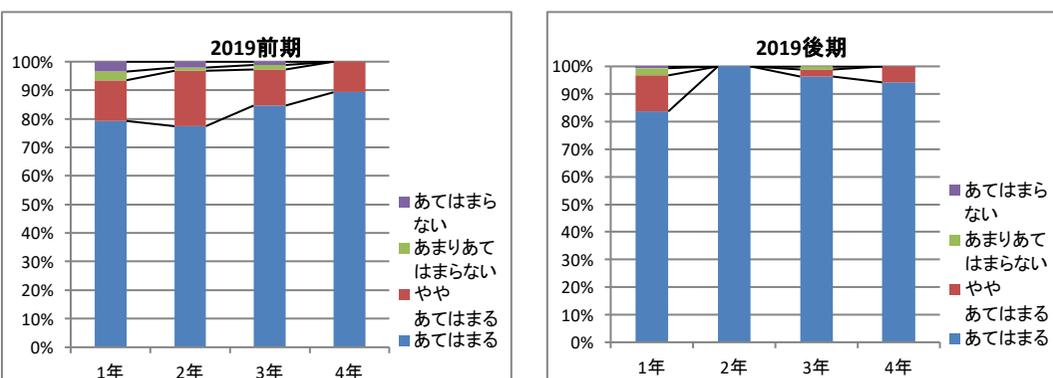
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



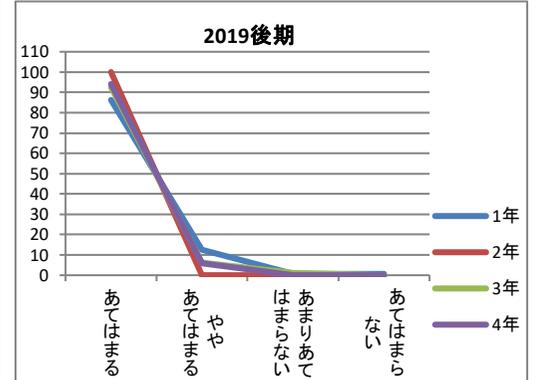
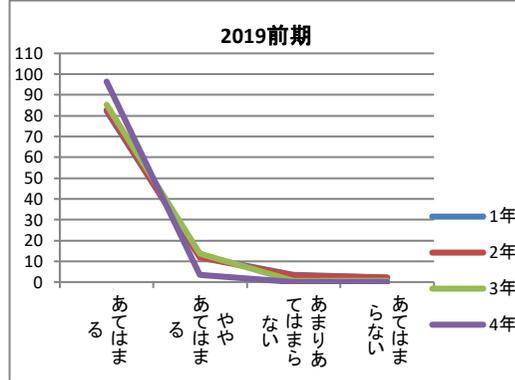
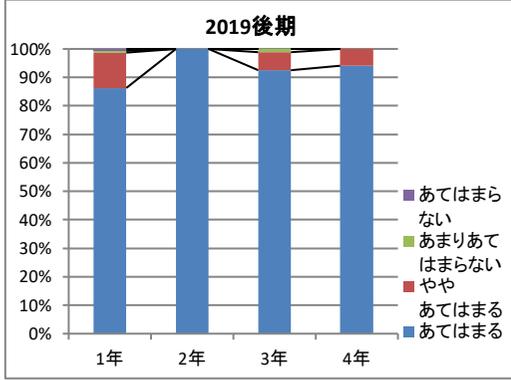
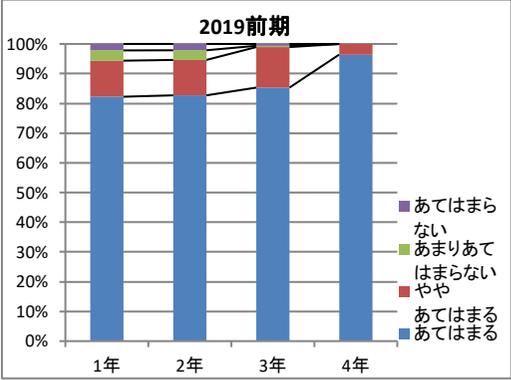
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



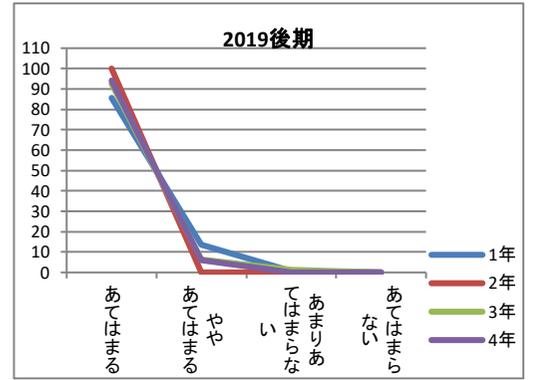
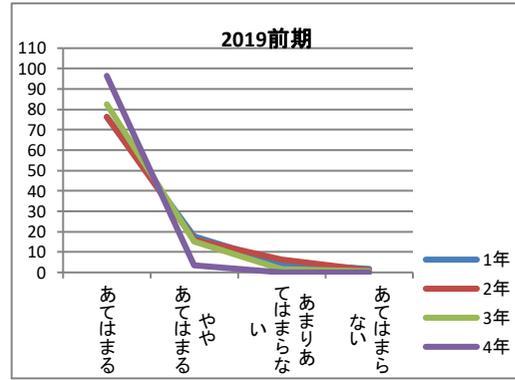
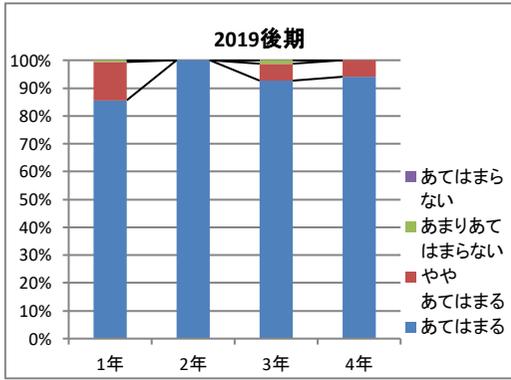
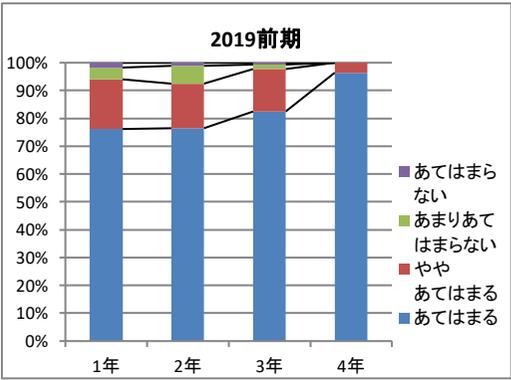
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



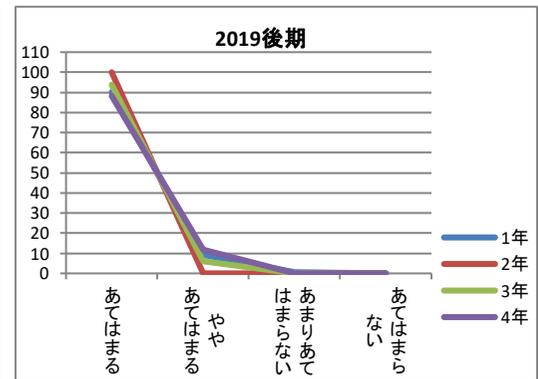
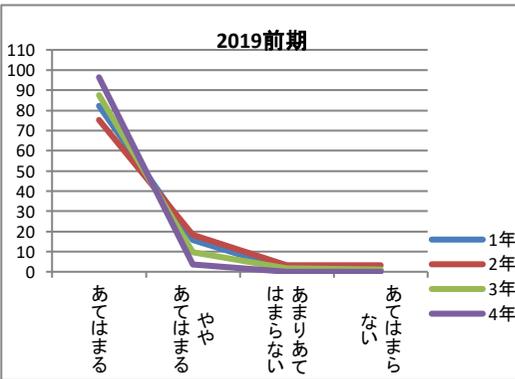
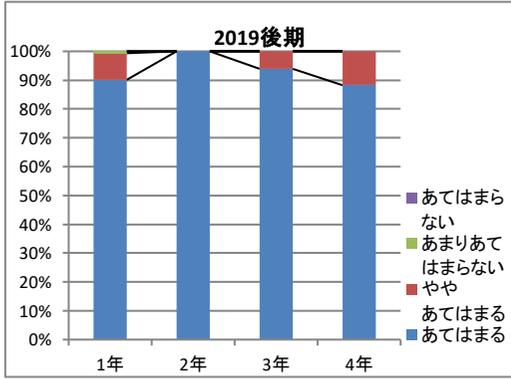
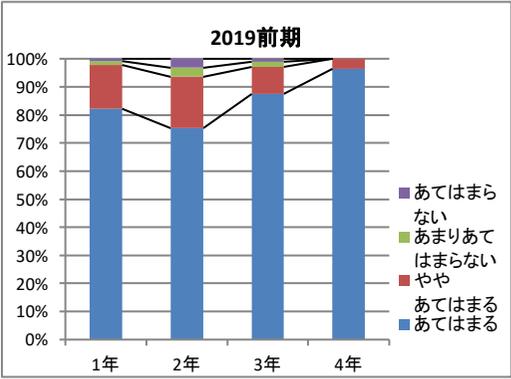
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



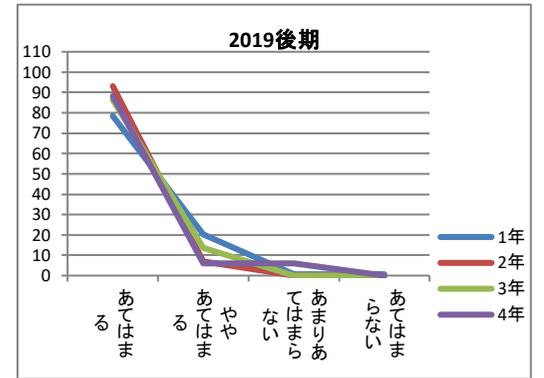
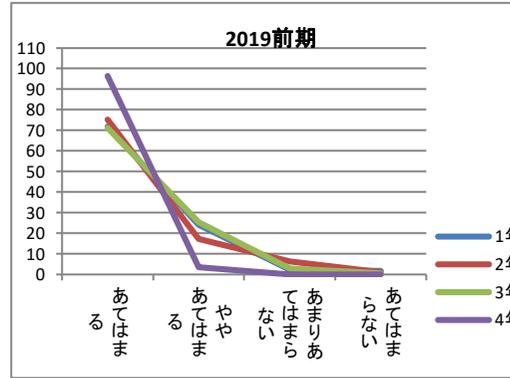
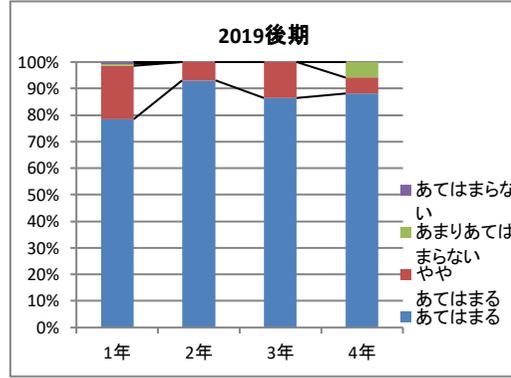
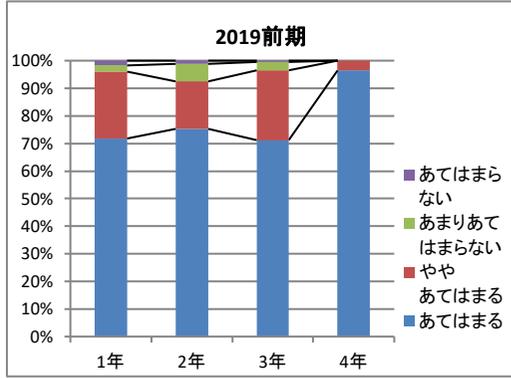
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



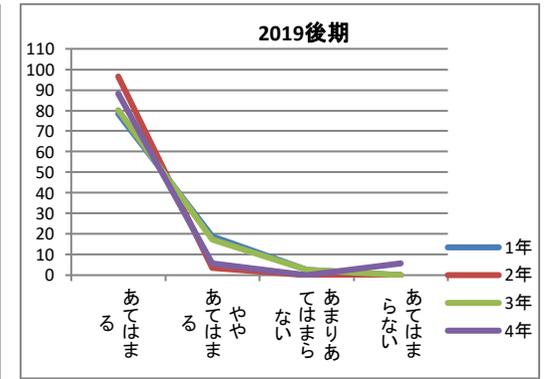
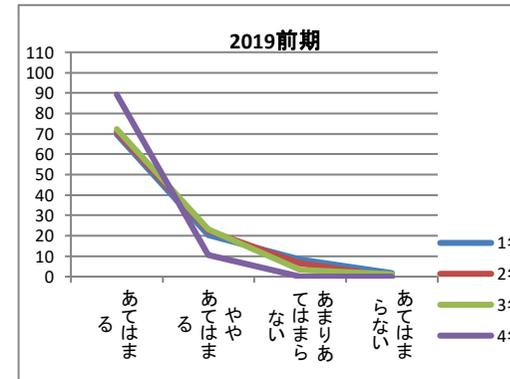
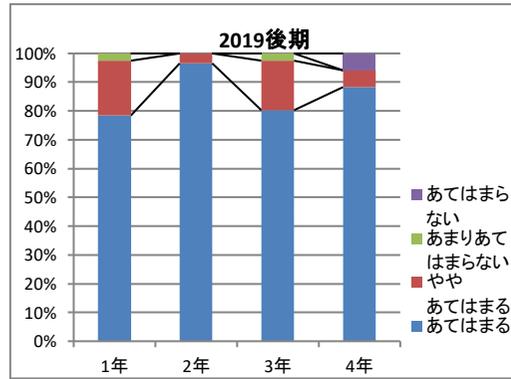
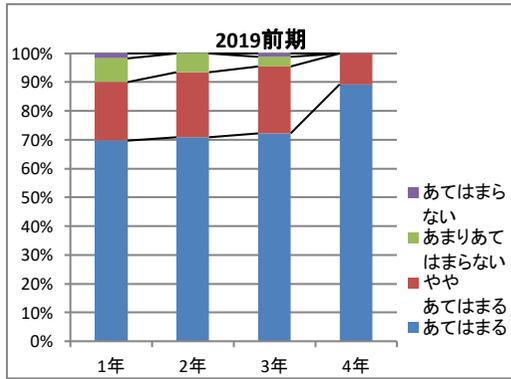
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



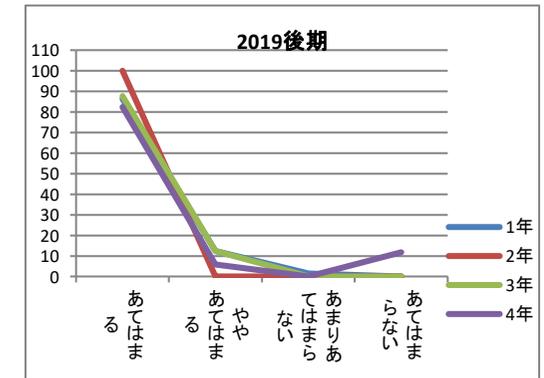
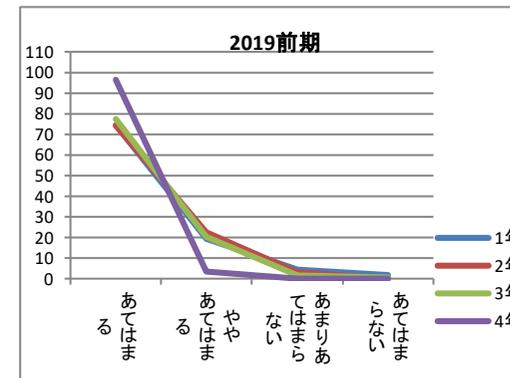
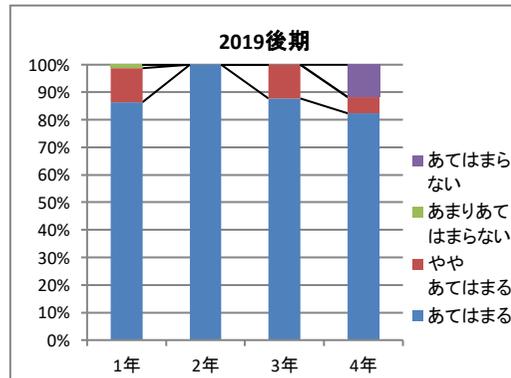
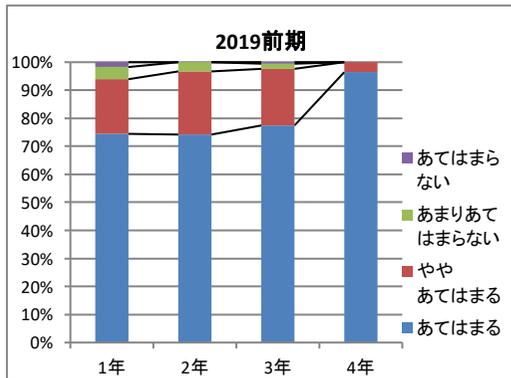
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

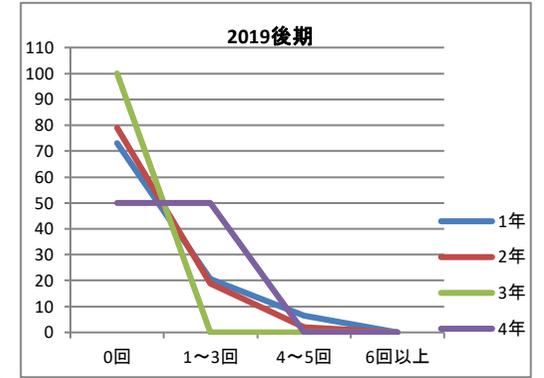
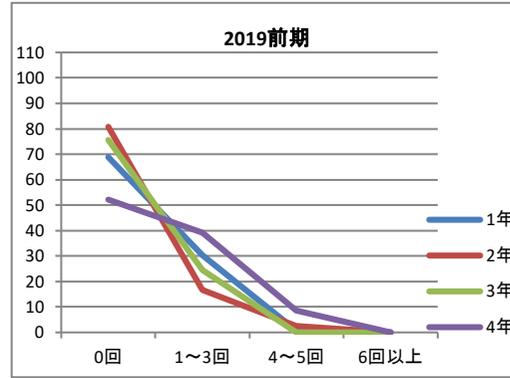
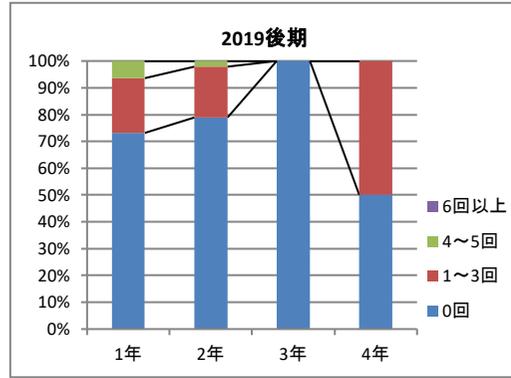
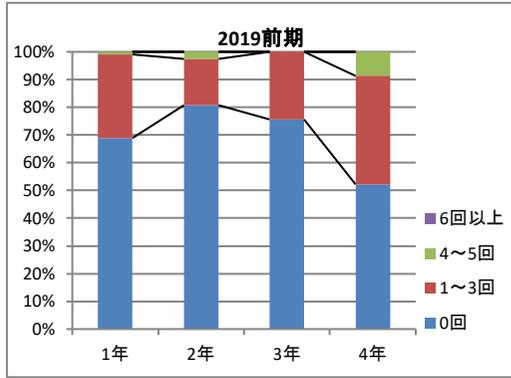


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<言語聴覚療法学科>

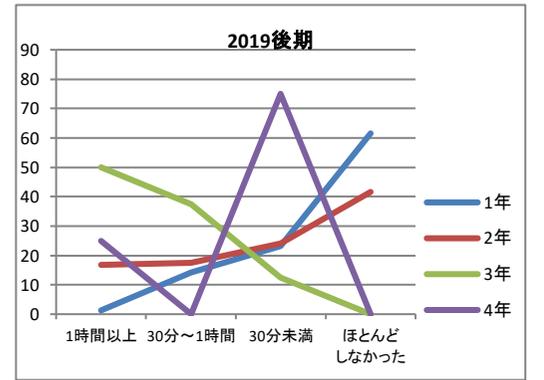
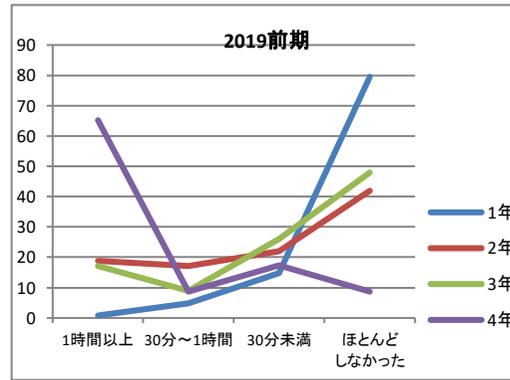
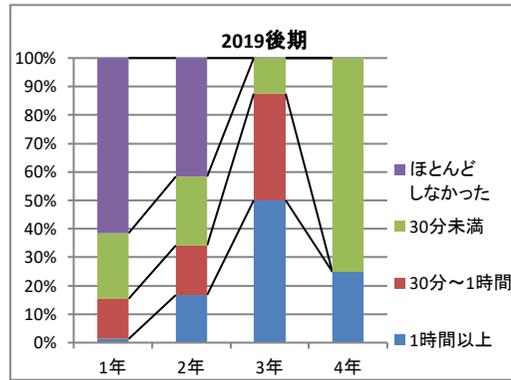
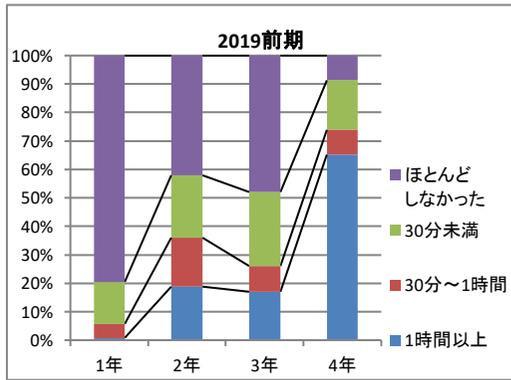
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



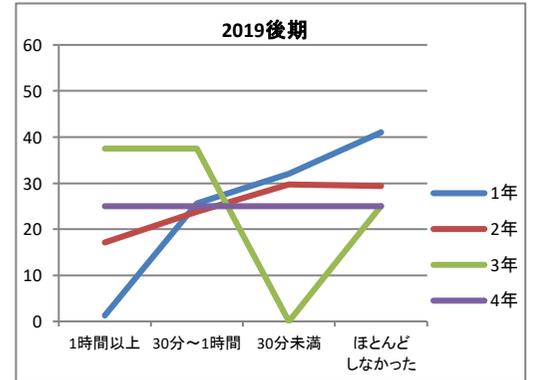
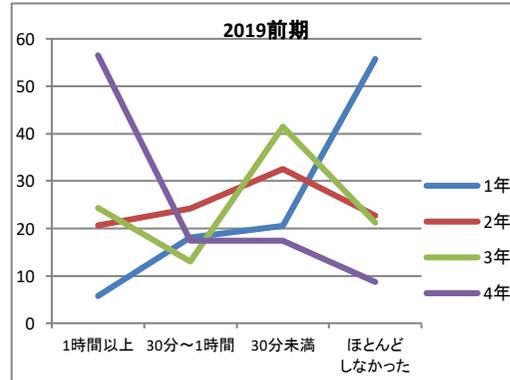
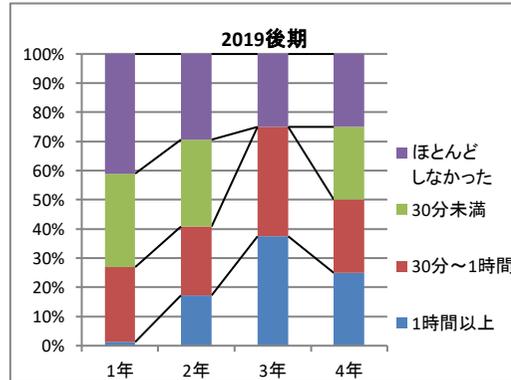
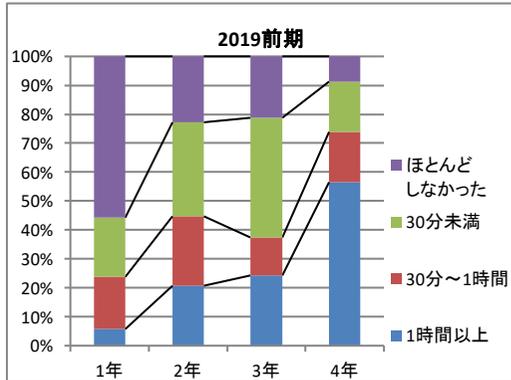
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



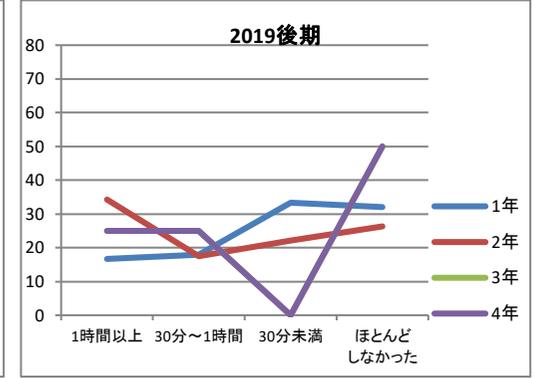
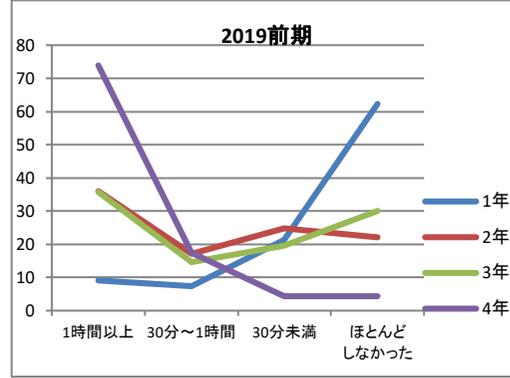
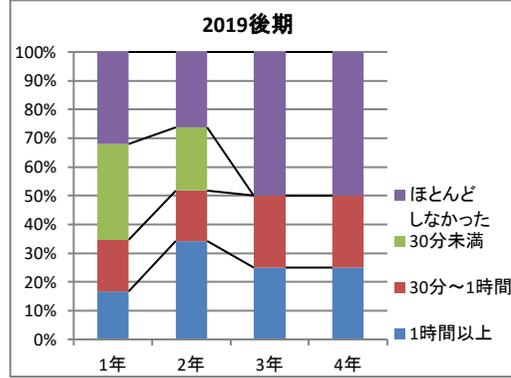
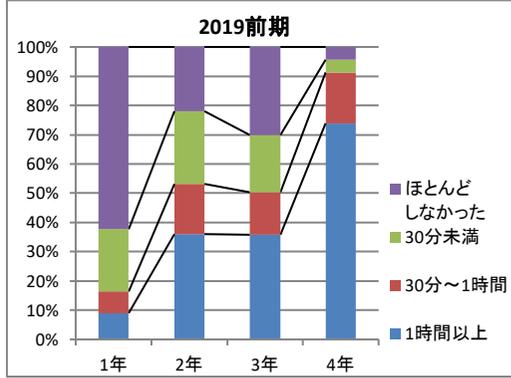
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



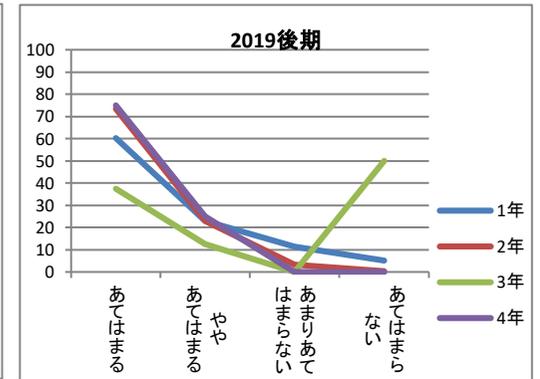
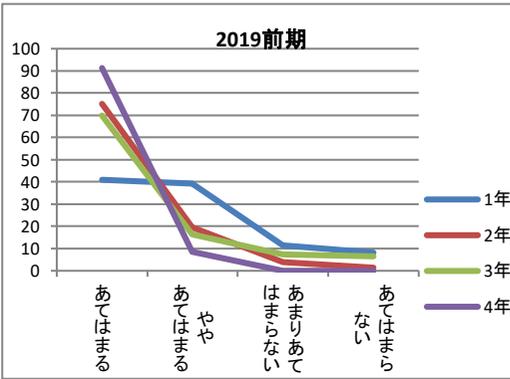
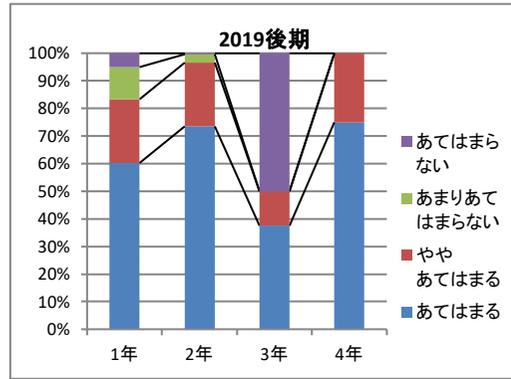
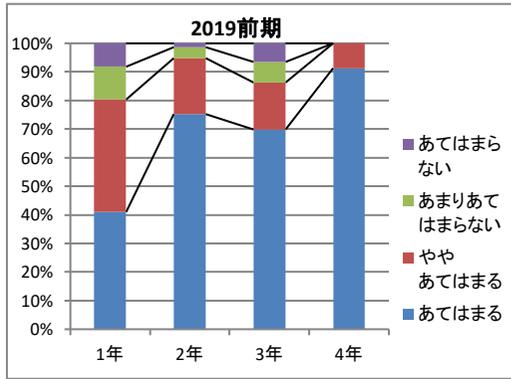
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



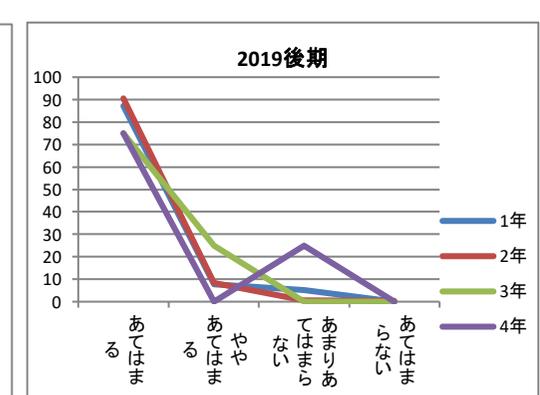
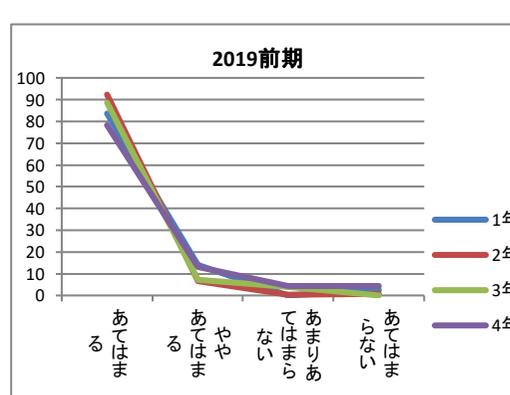
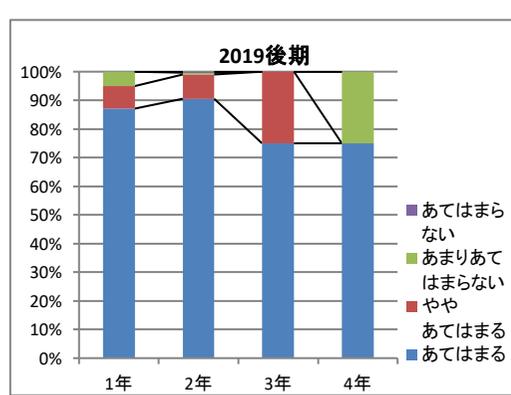
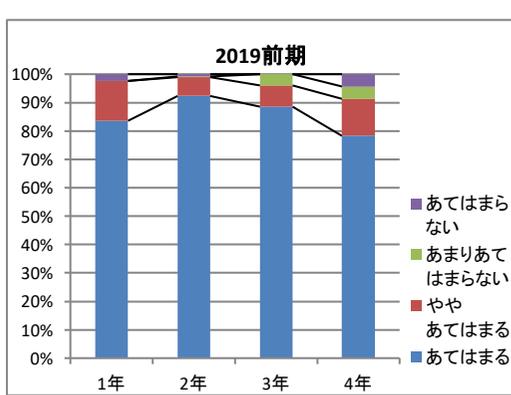
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



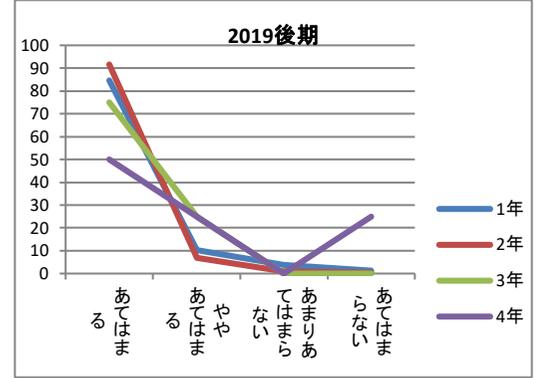
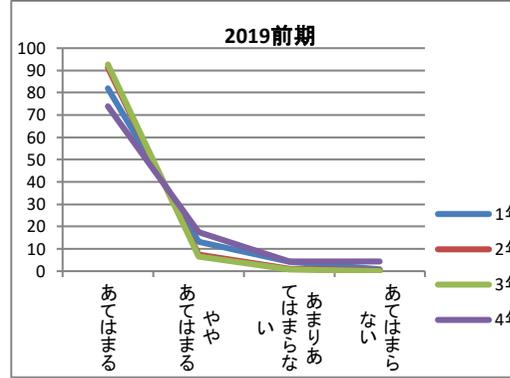
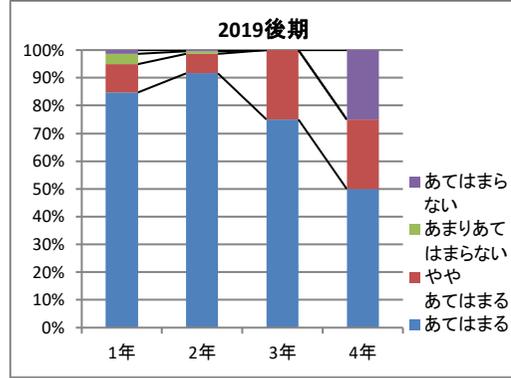
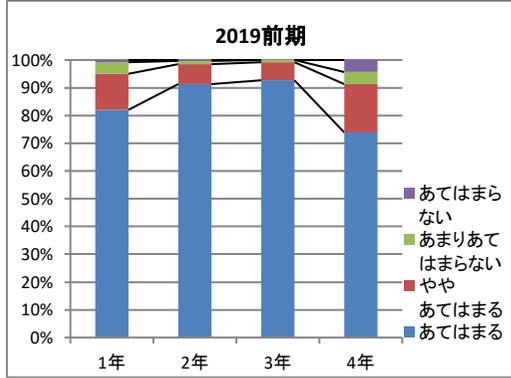
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



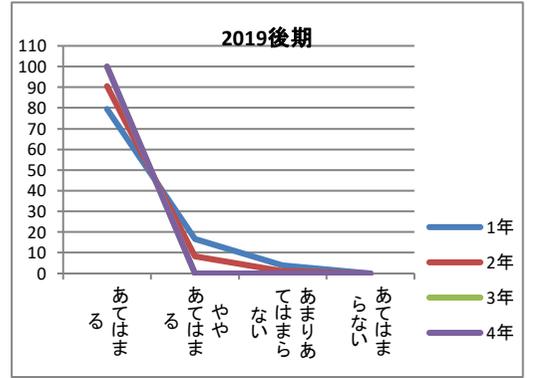
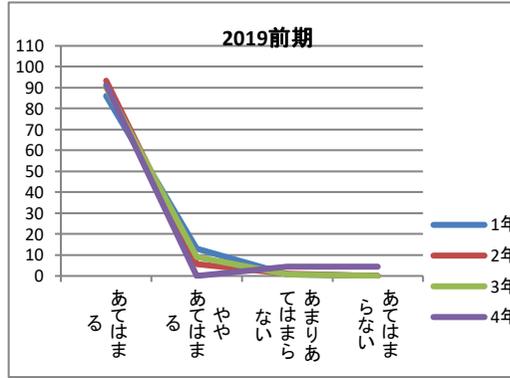
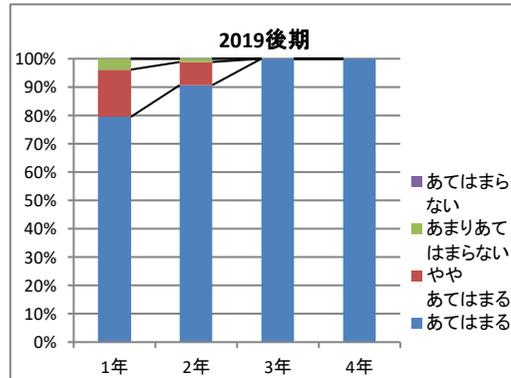
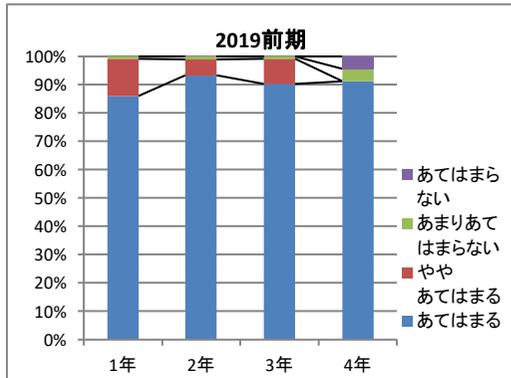
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



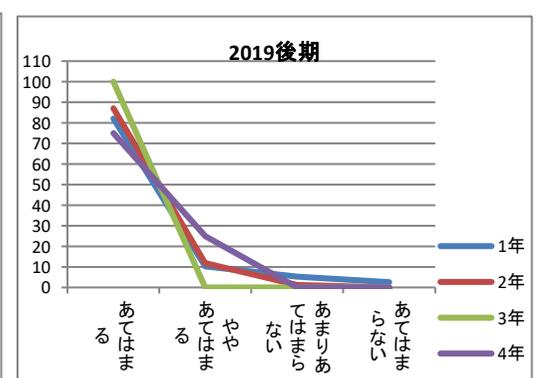
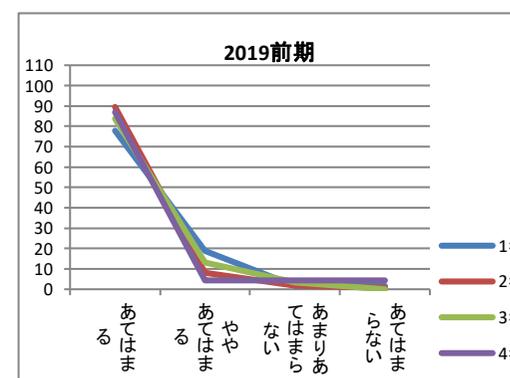
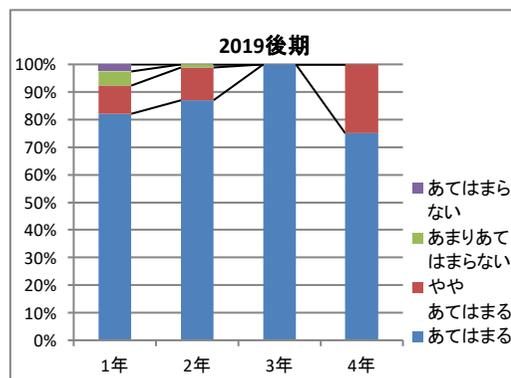
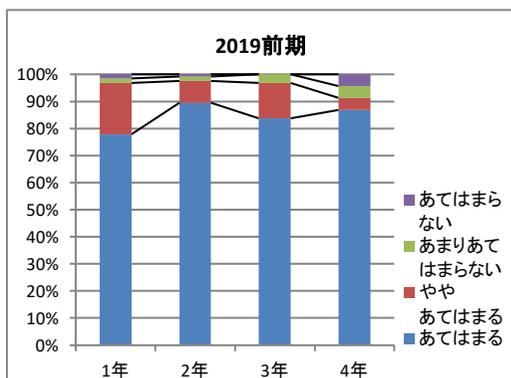
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



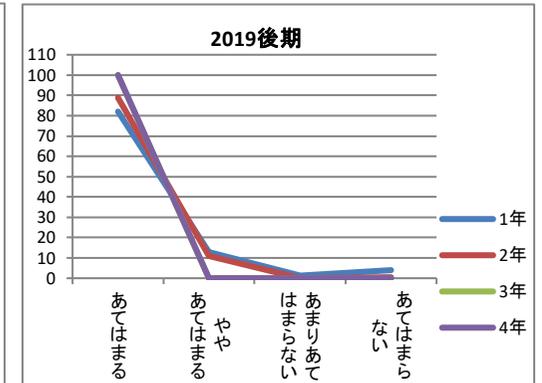
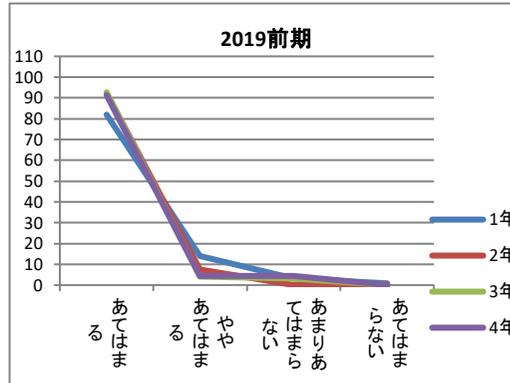
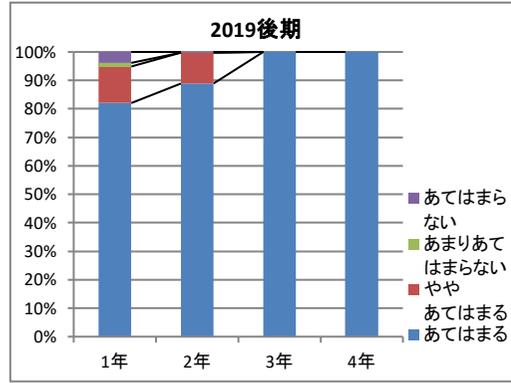
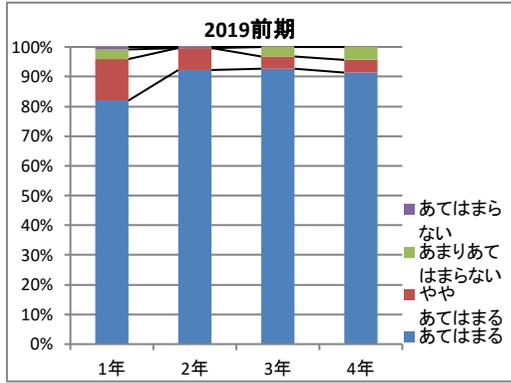
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



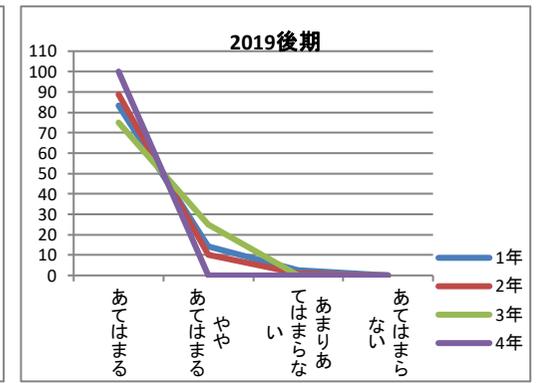
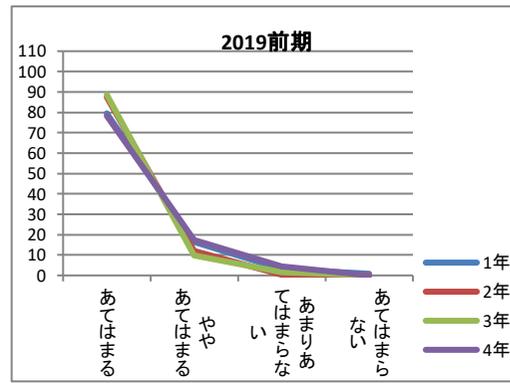
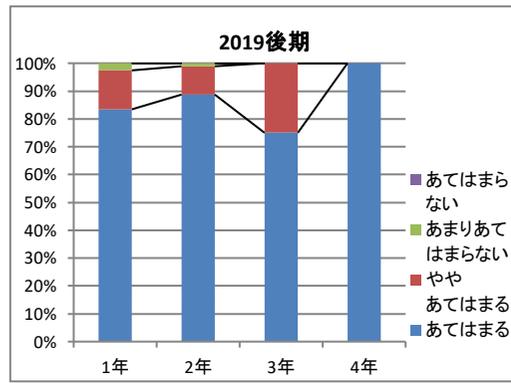
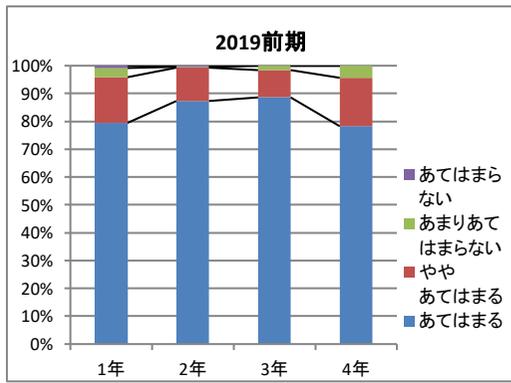
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



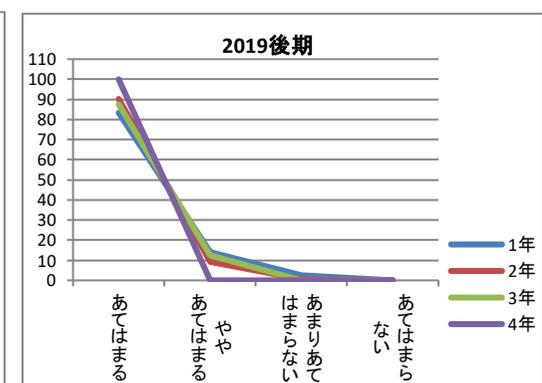
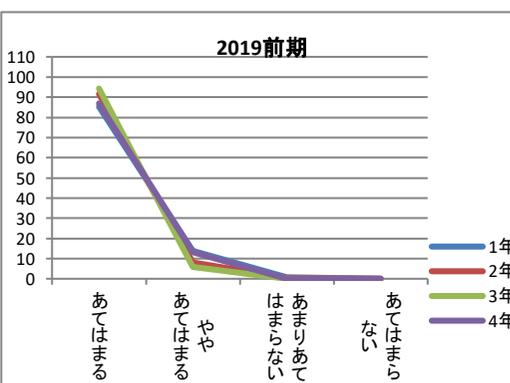
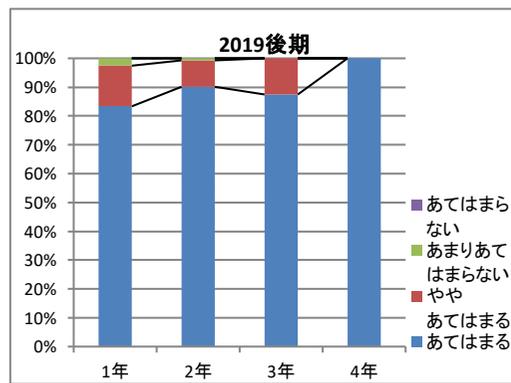
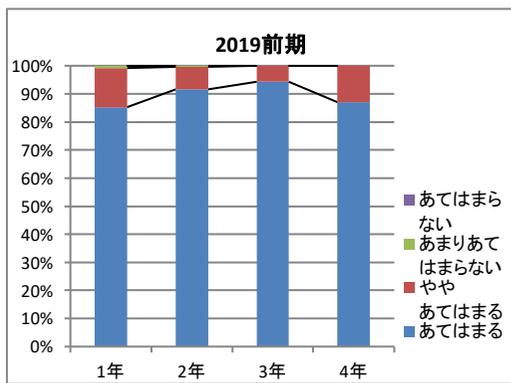
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



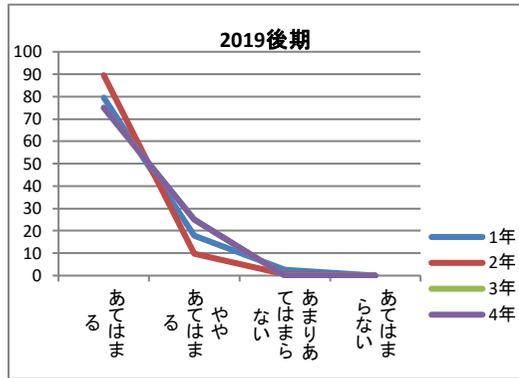
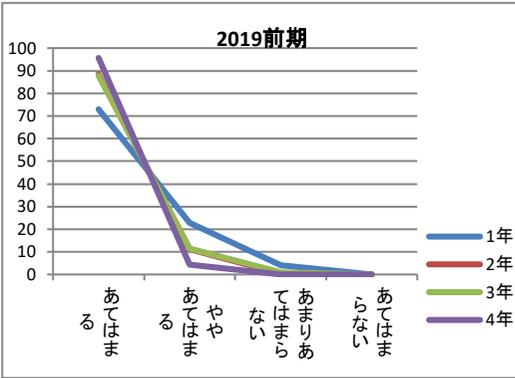
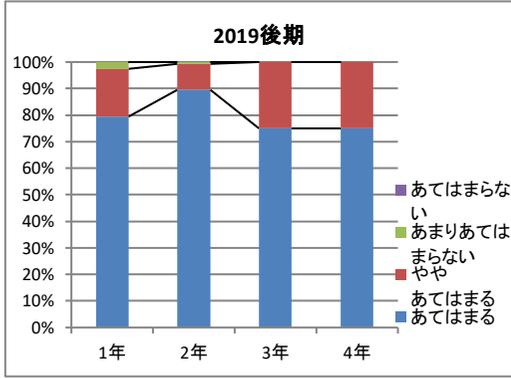
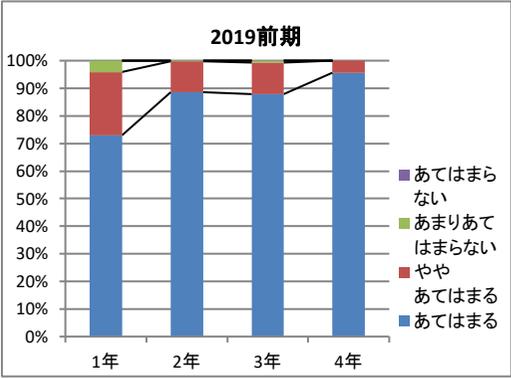
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



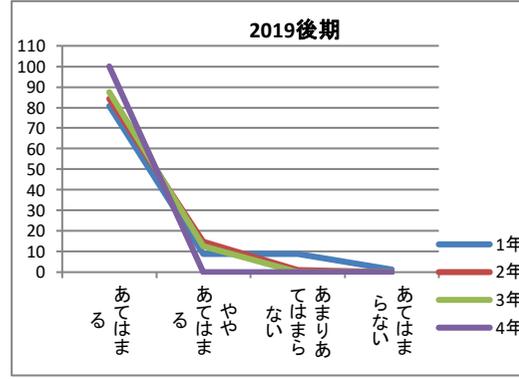
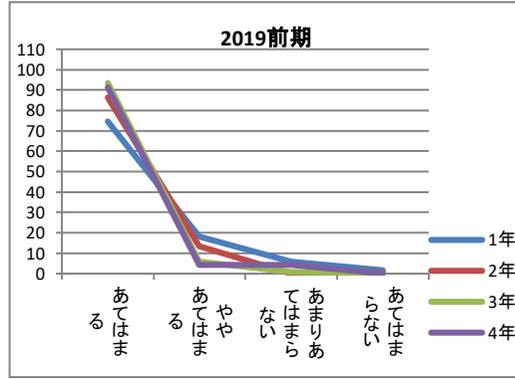
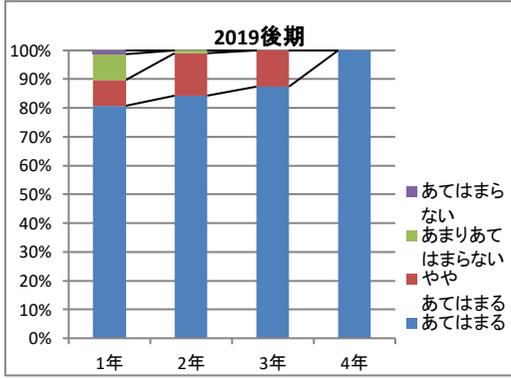
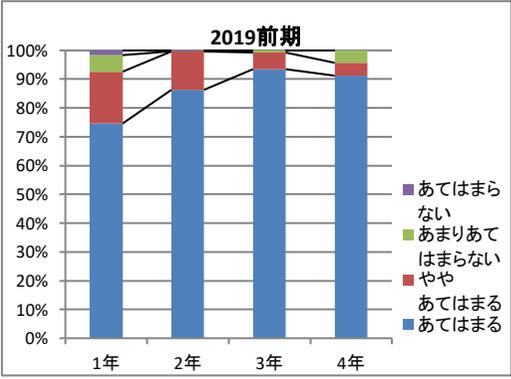
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



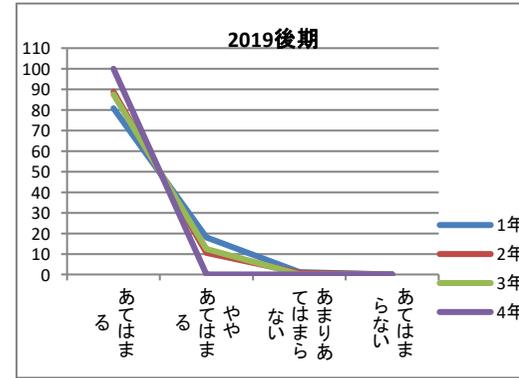
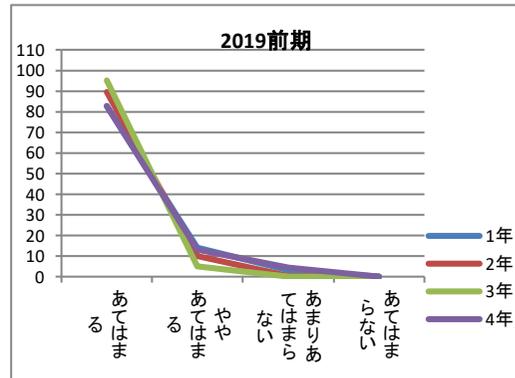
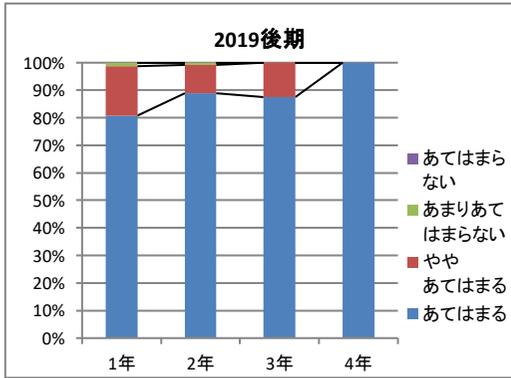
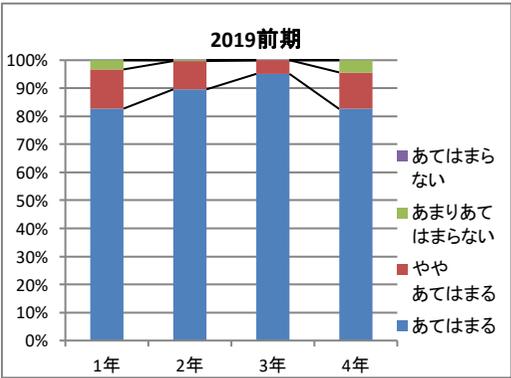
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

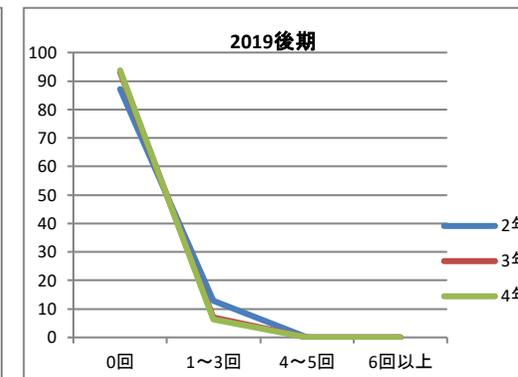
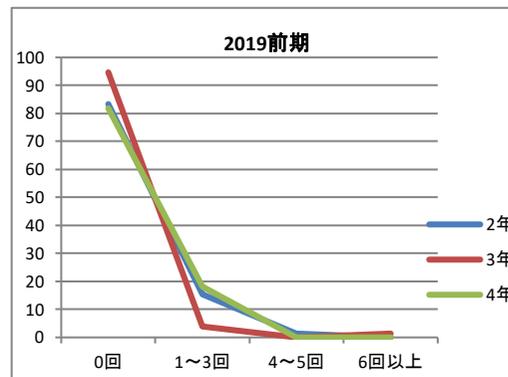
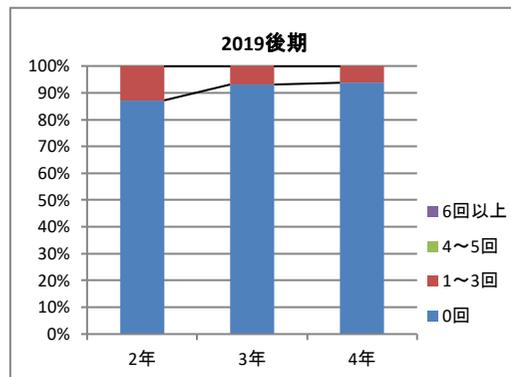
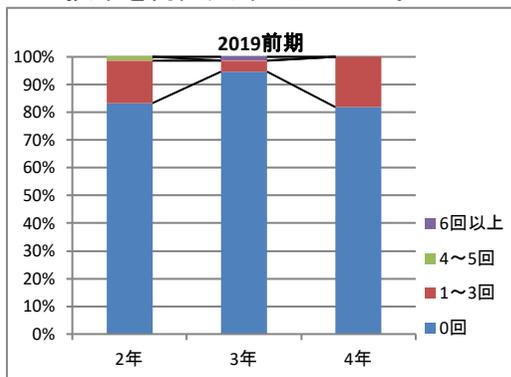


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<視機能療法学科>

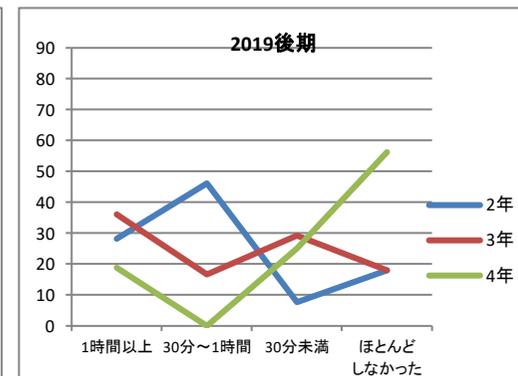
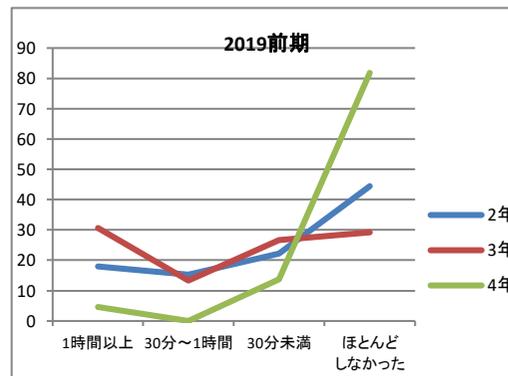
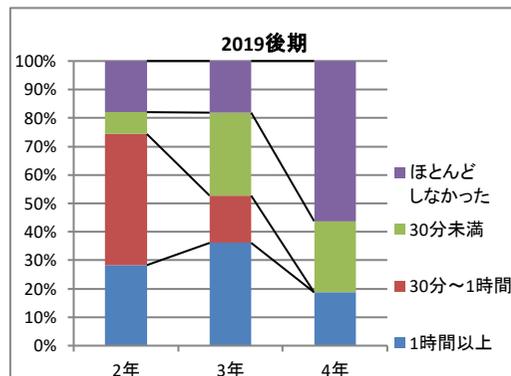
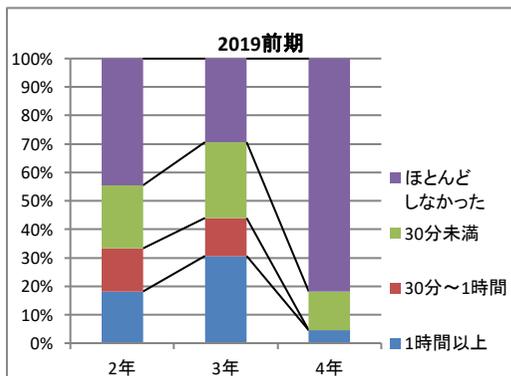
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



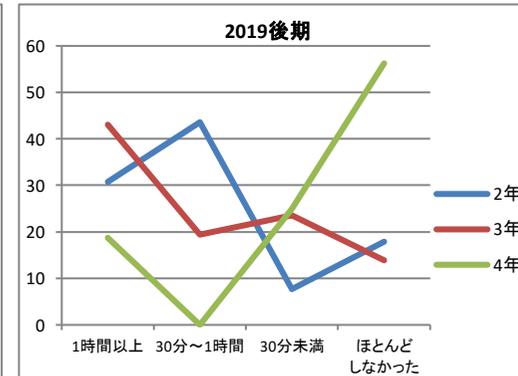
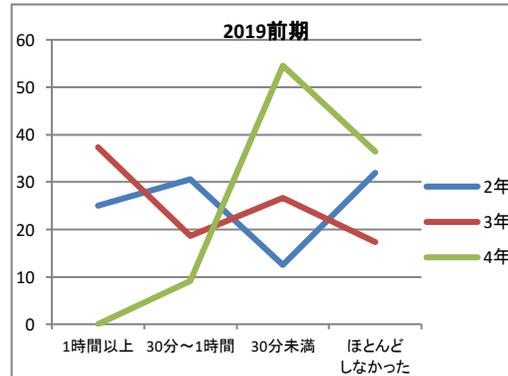
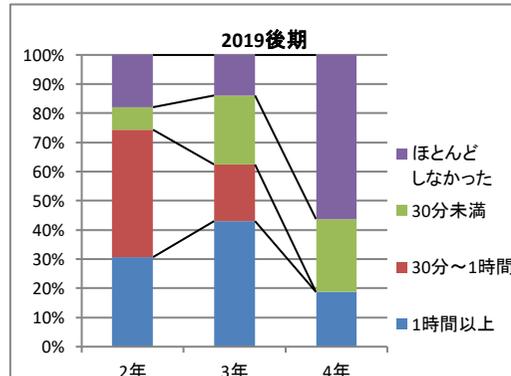
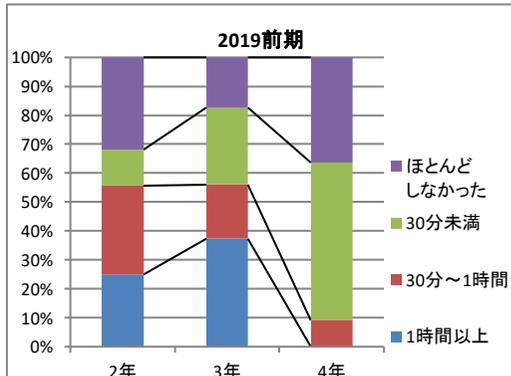
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



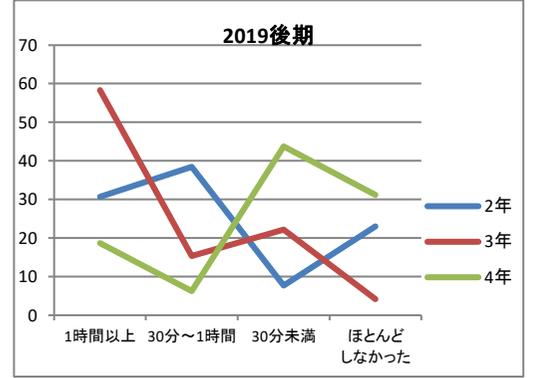
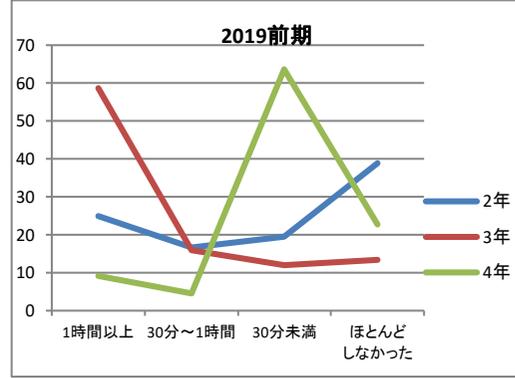
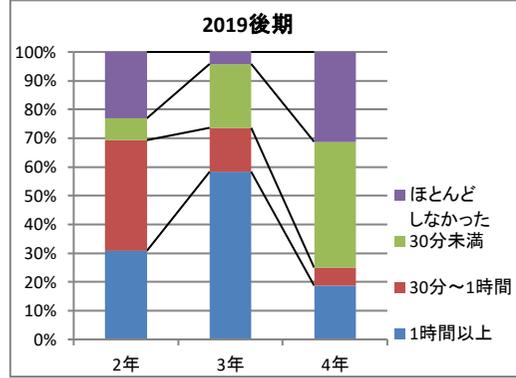
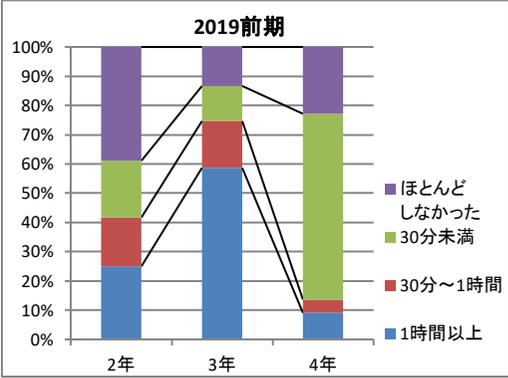
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



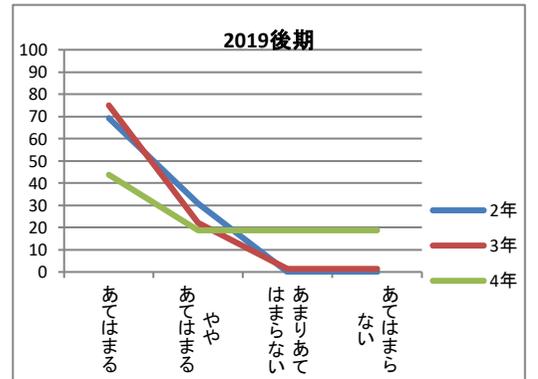
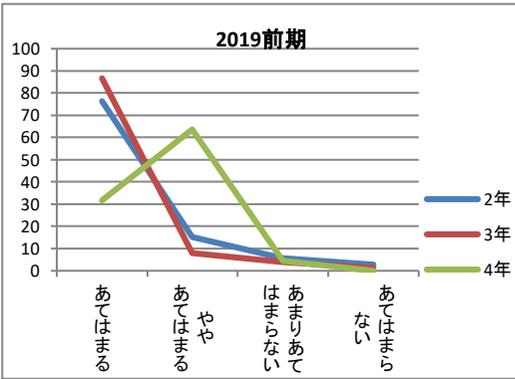
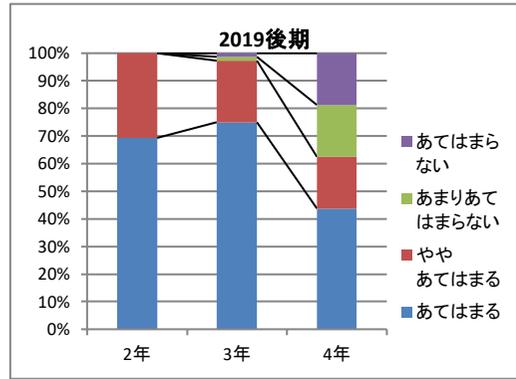
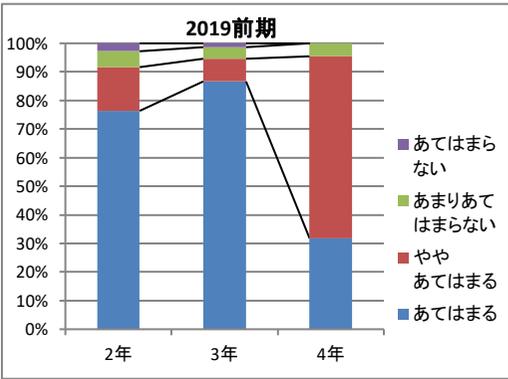
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



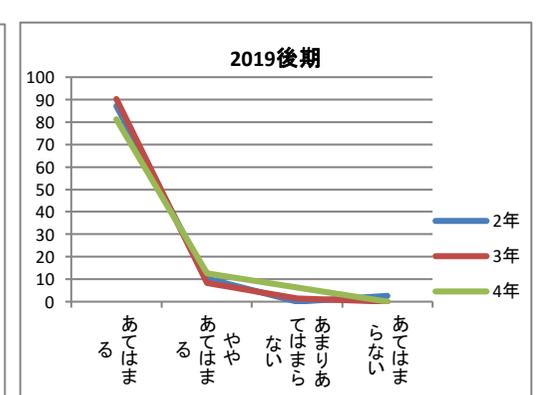
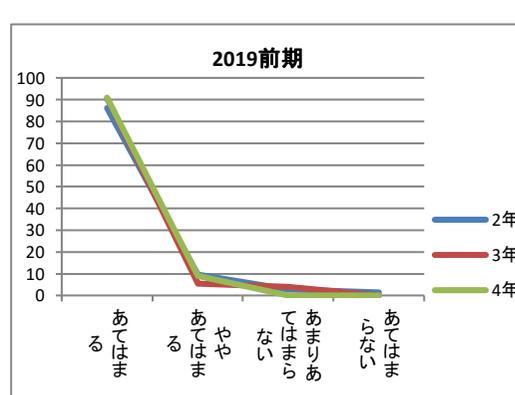
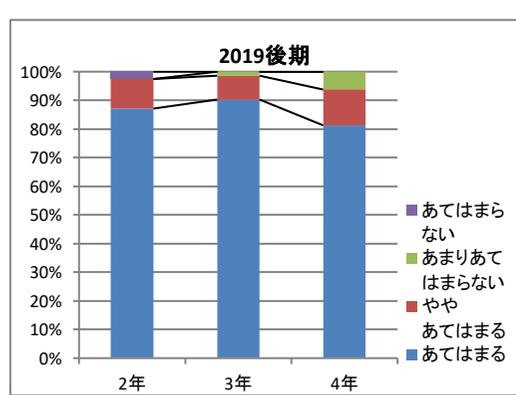
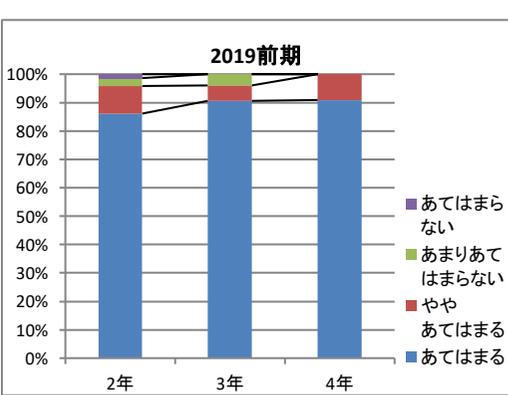
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



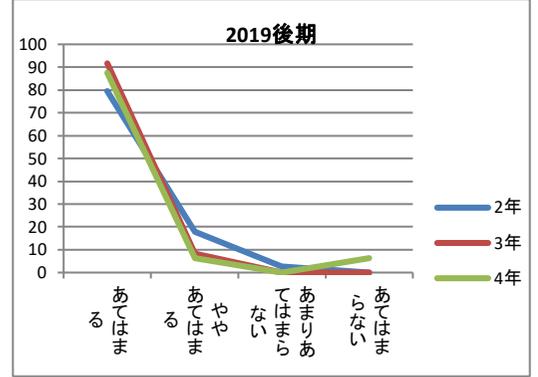
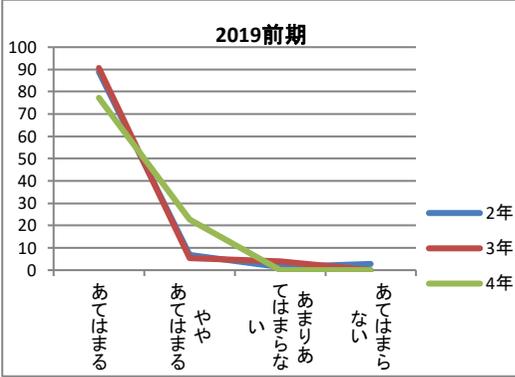
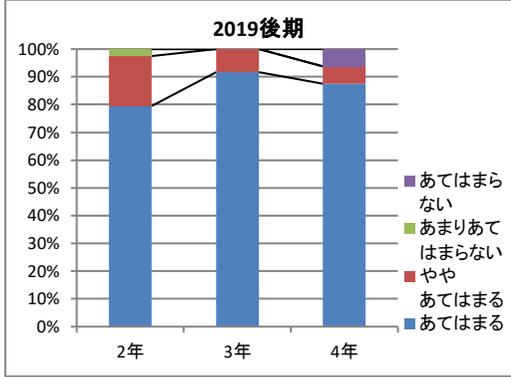
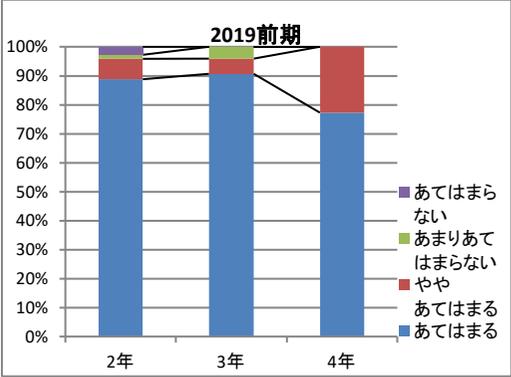
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



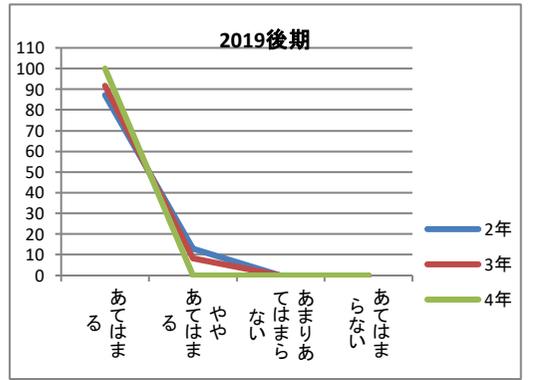
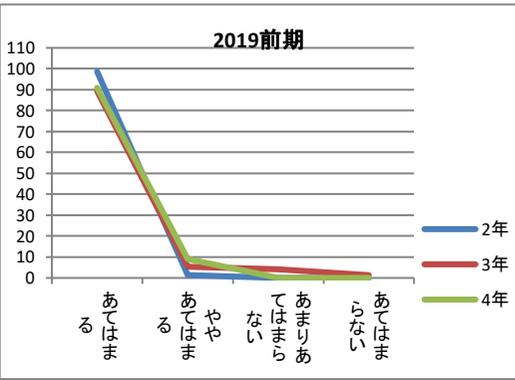
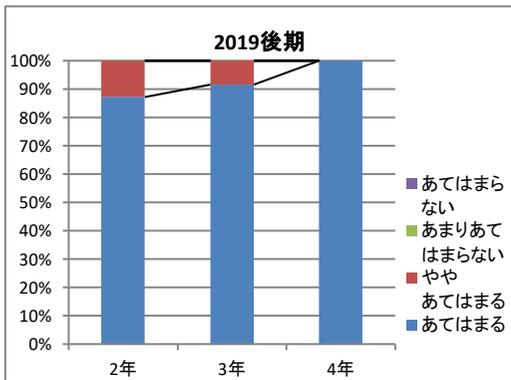
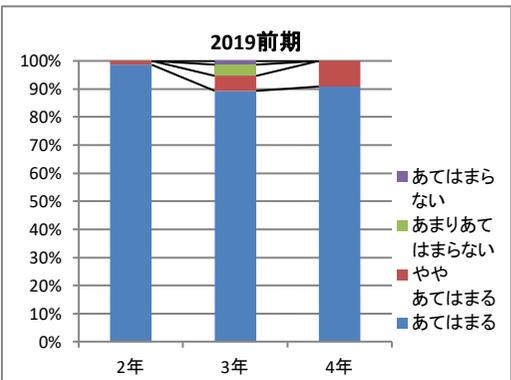
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



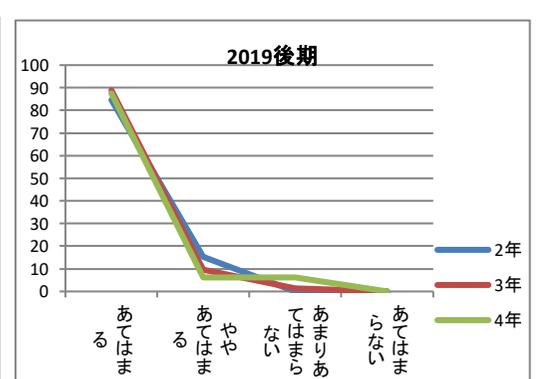
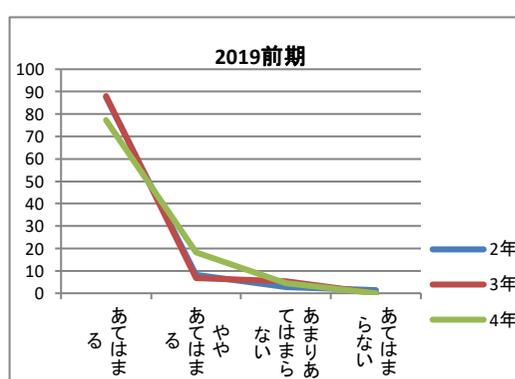
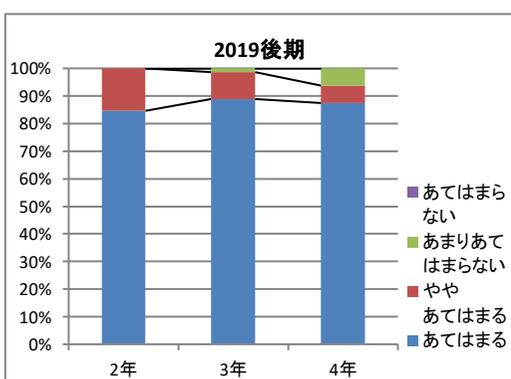
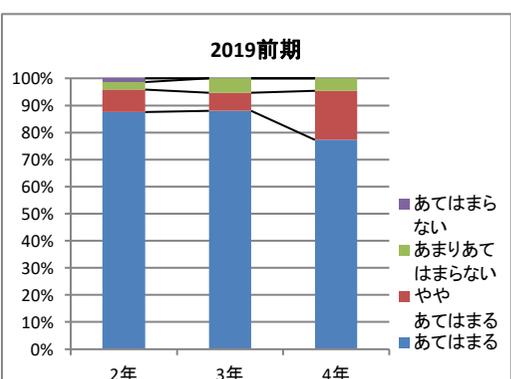
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



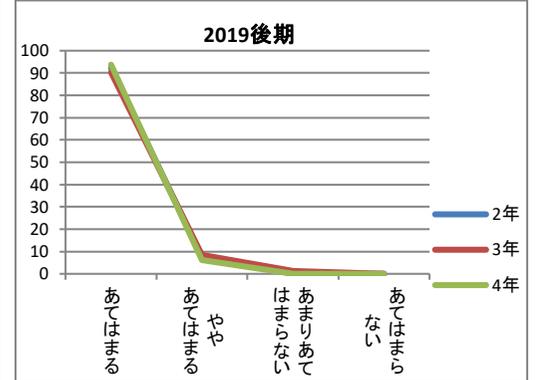
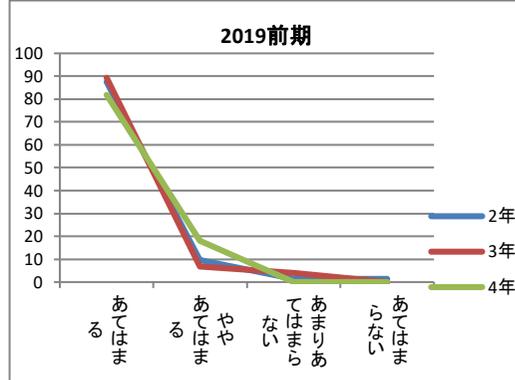
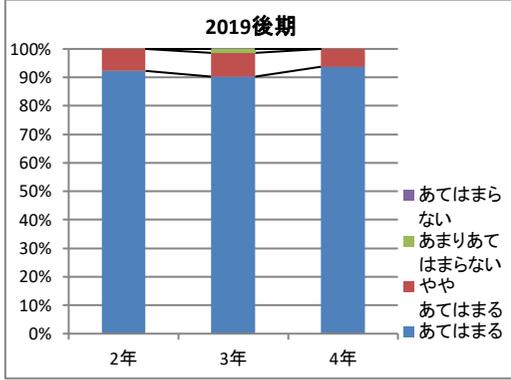
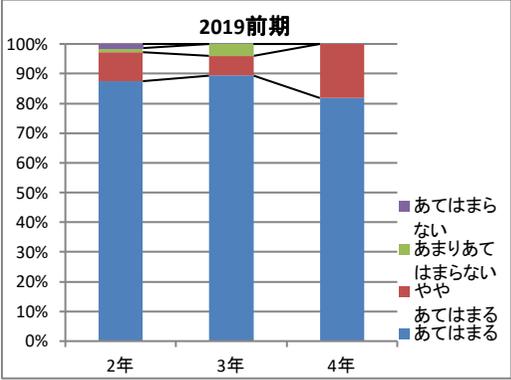
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



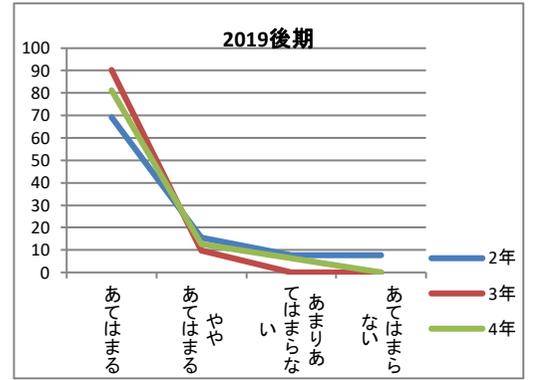
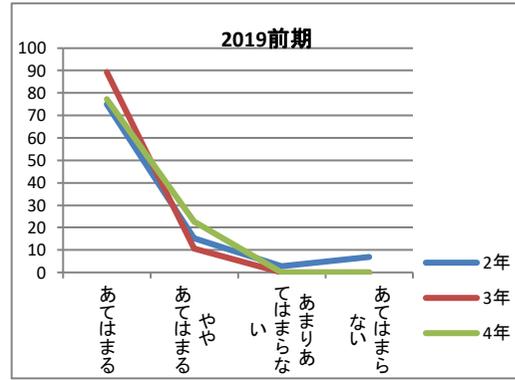
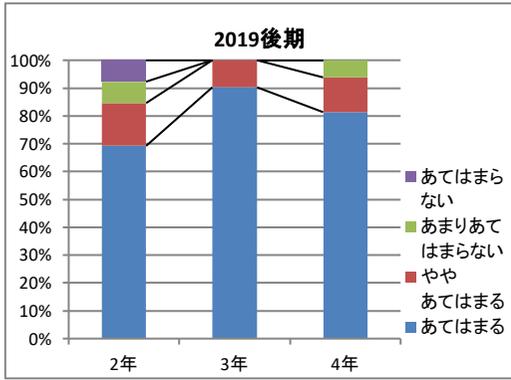
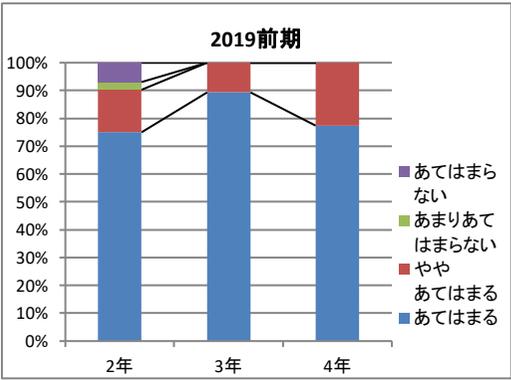
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



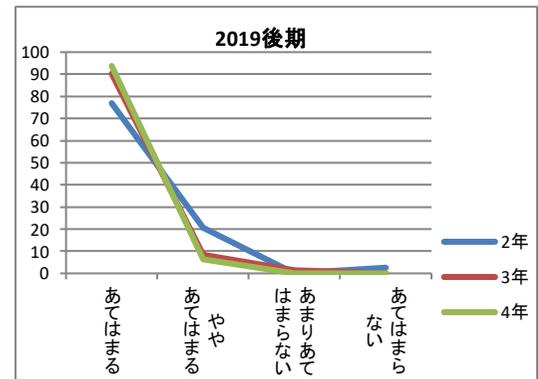
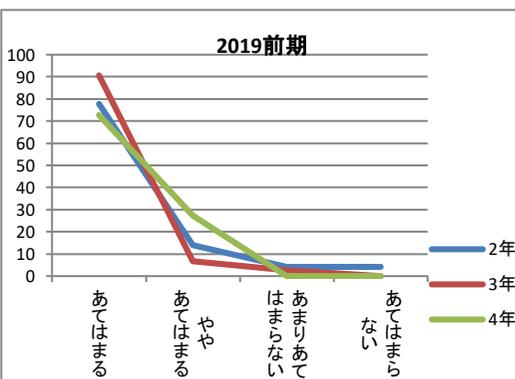
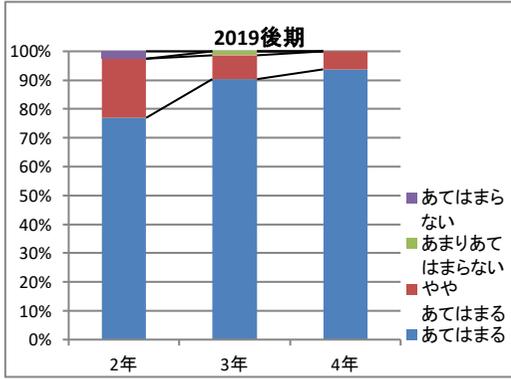
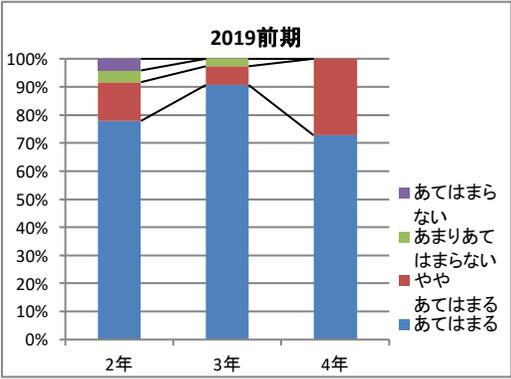
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



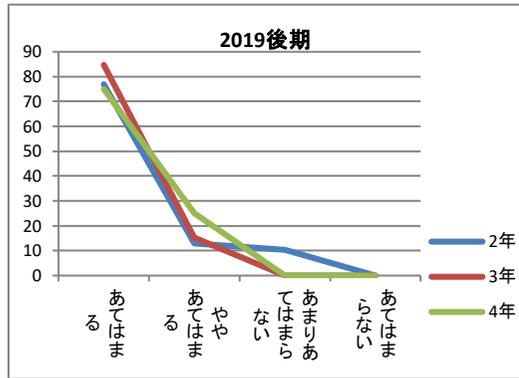
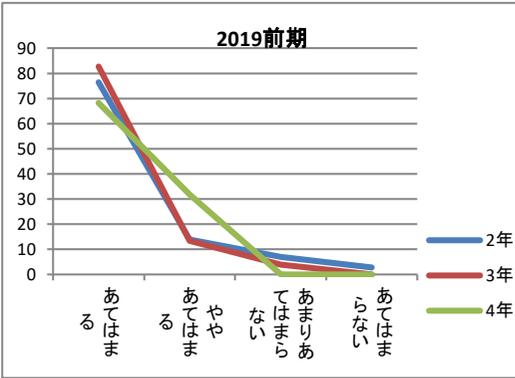
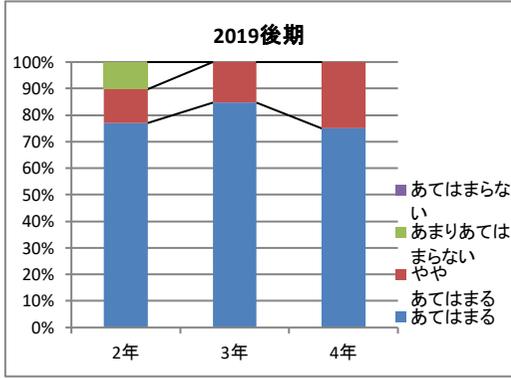
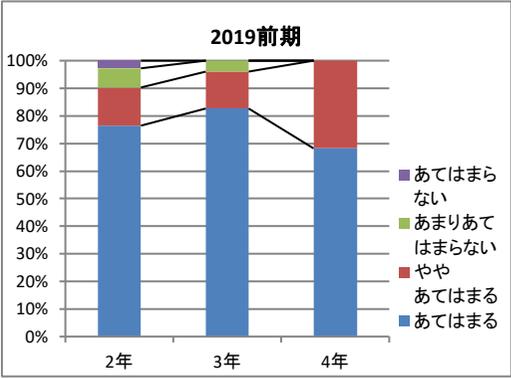
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



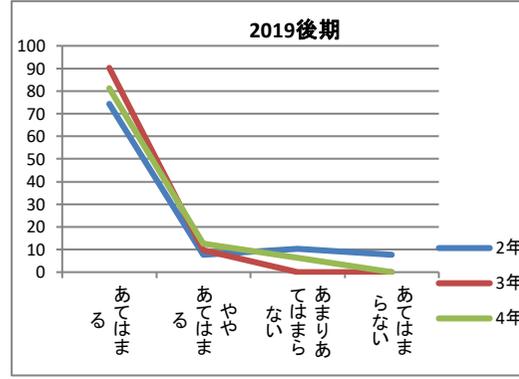
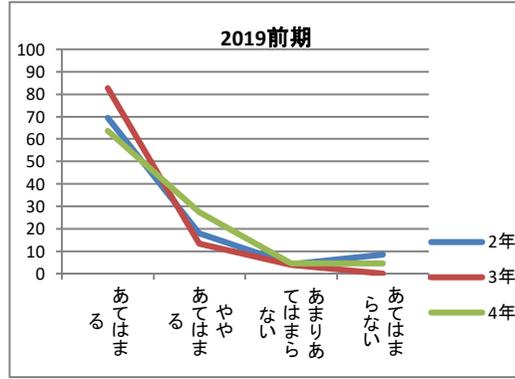
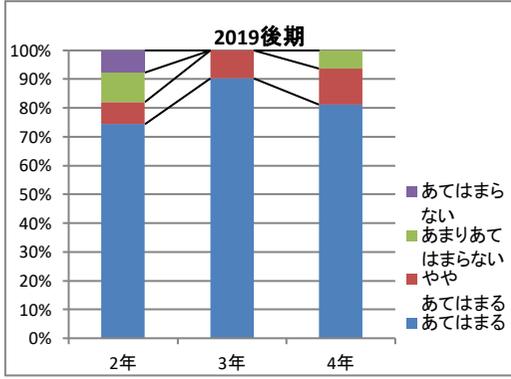
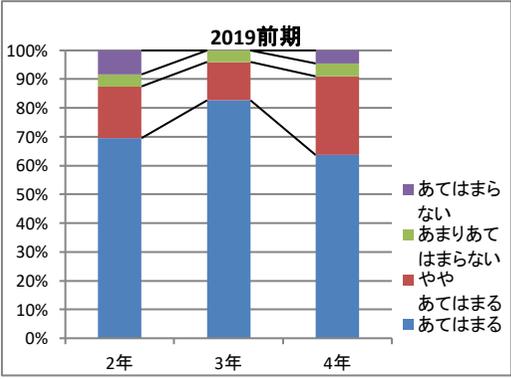
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



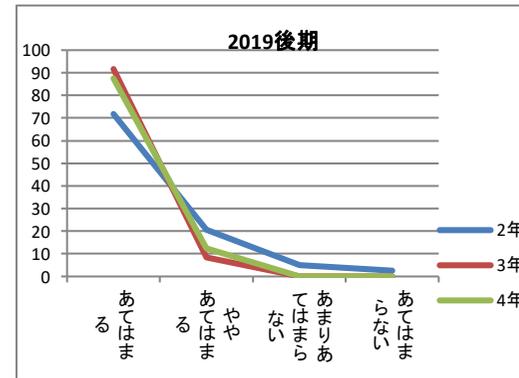
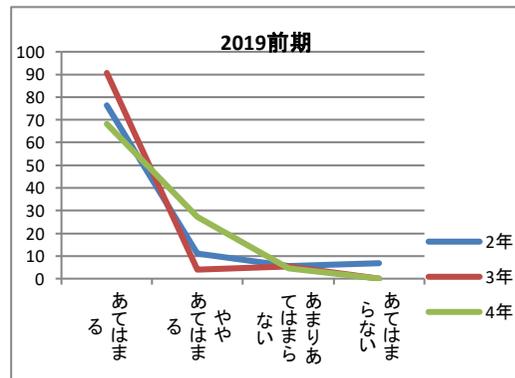
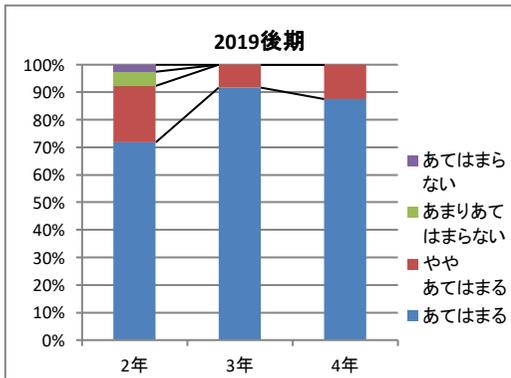
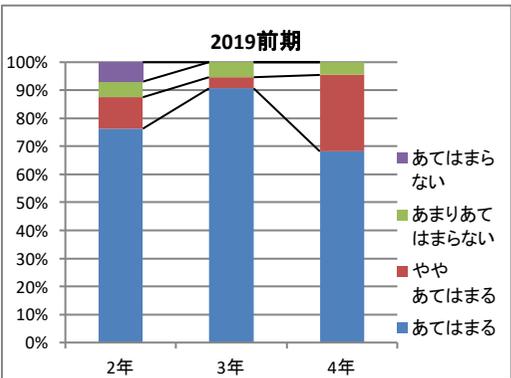
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

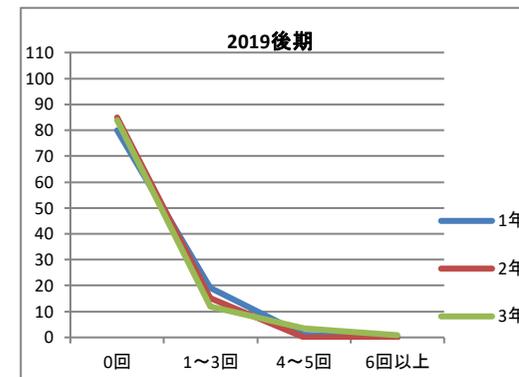
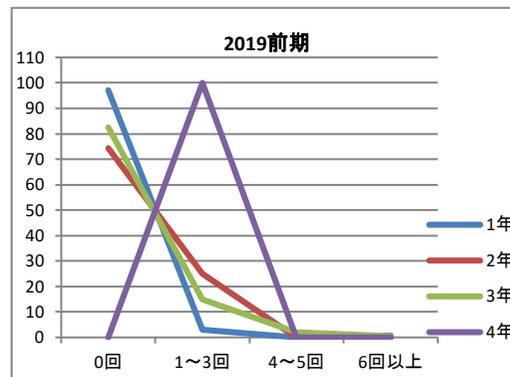
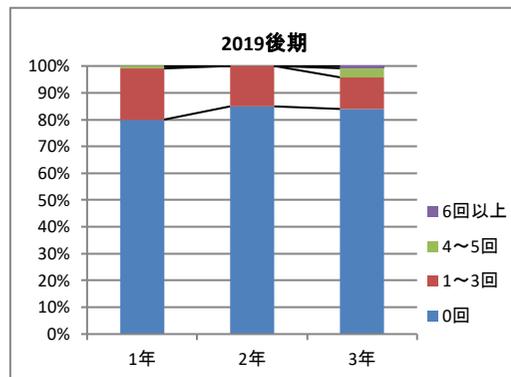
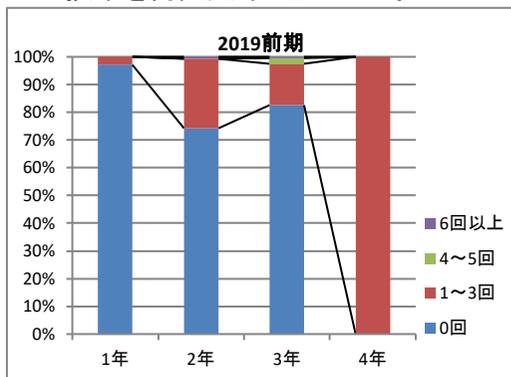


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<臨床工学科>

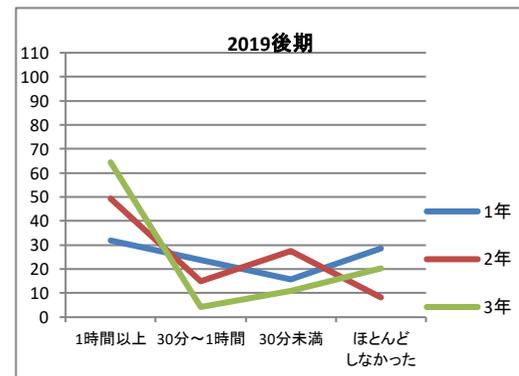
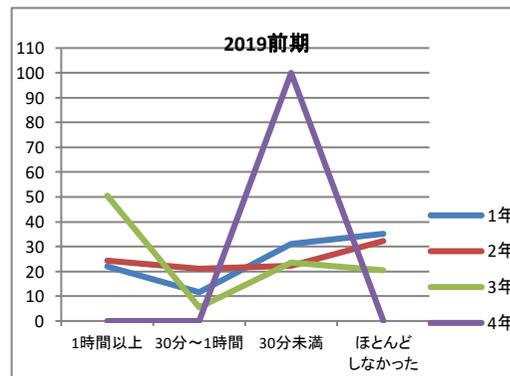
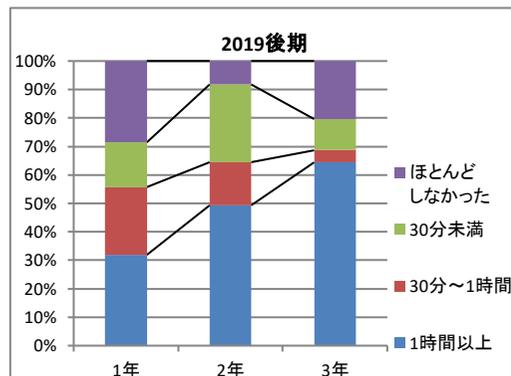
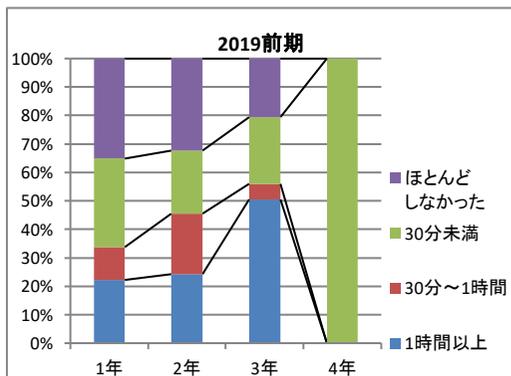
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



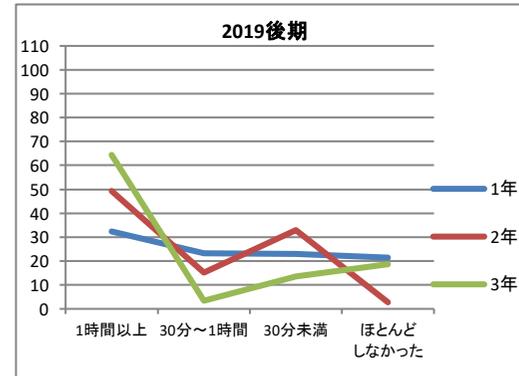
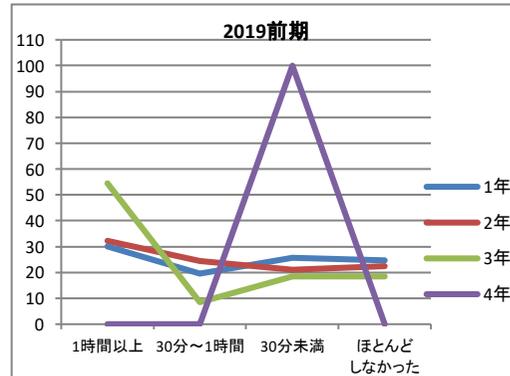
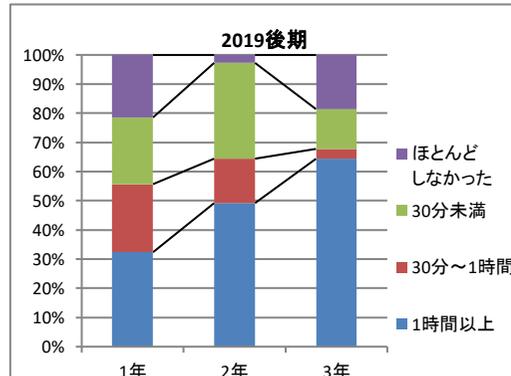
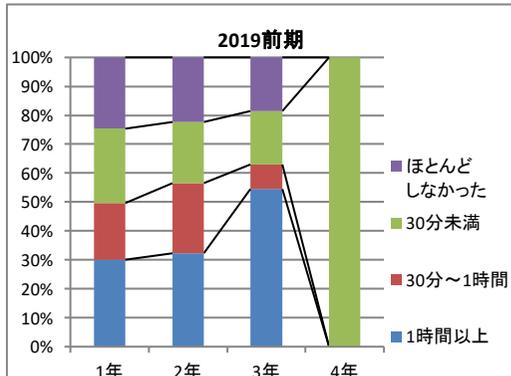
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



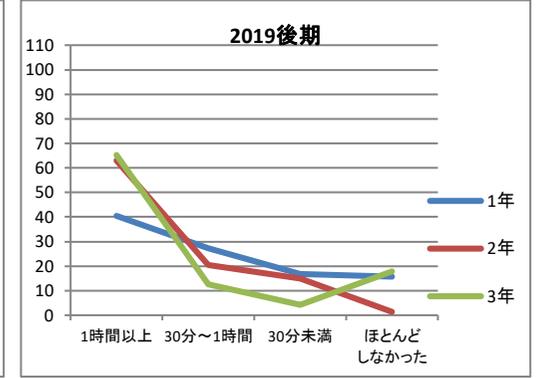
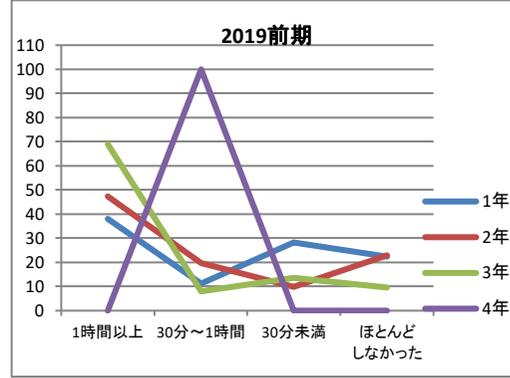
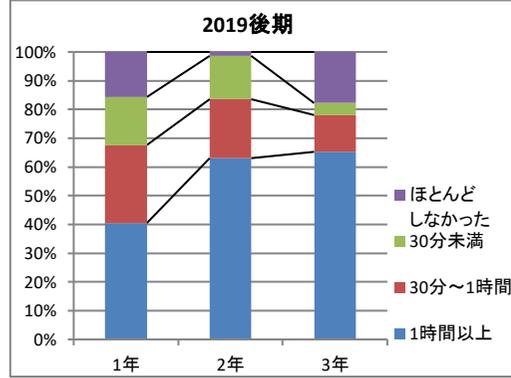
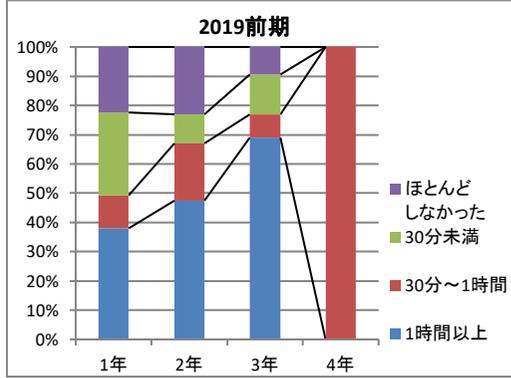
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



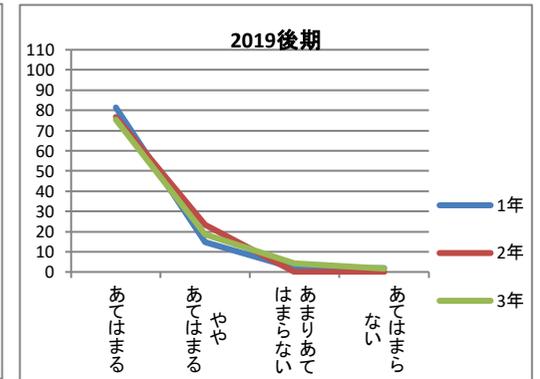
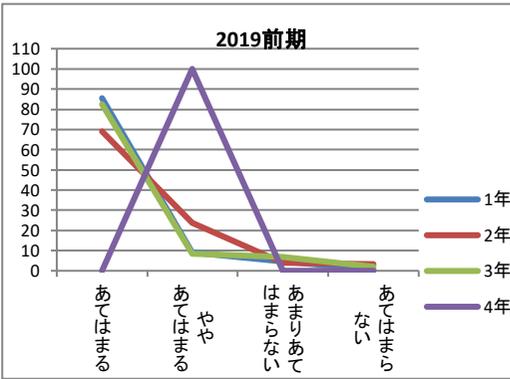
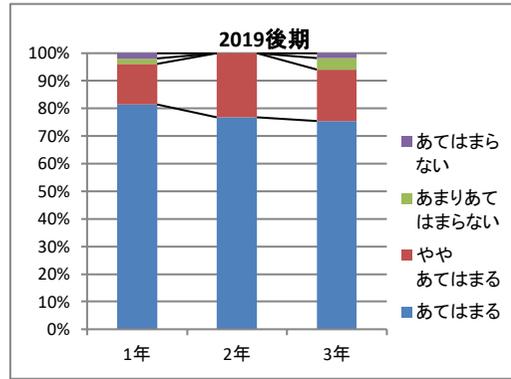
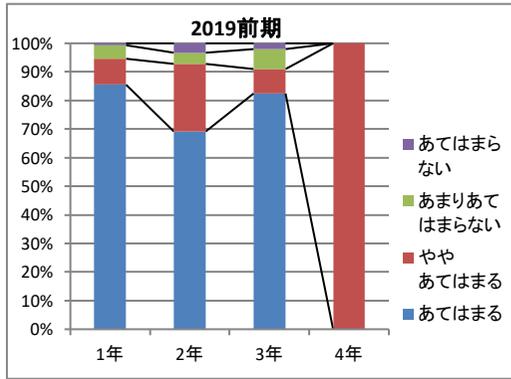
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



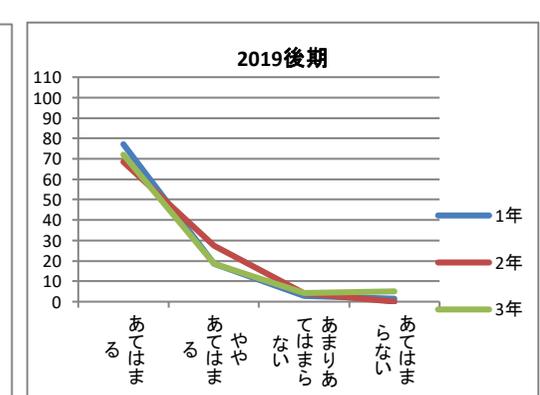
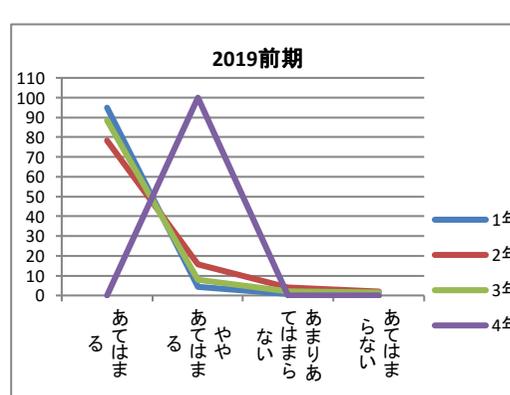
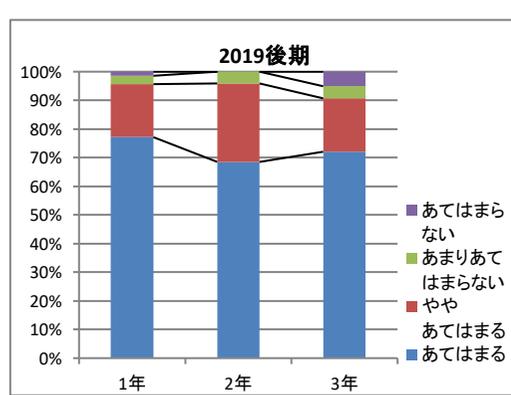
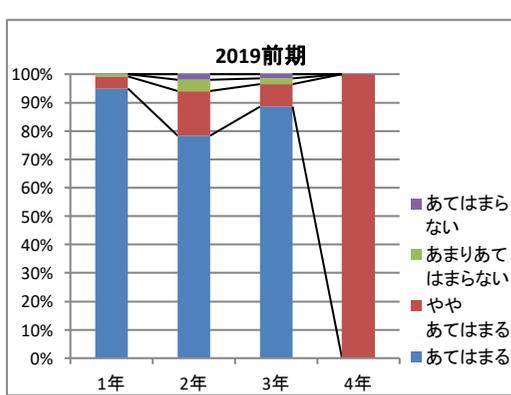
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



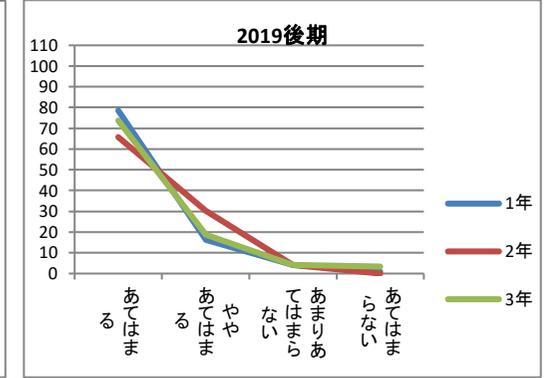
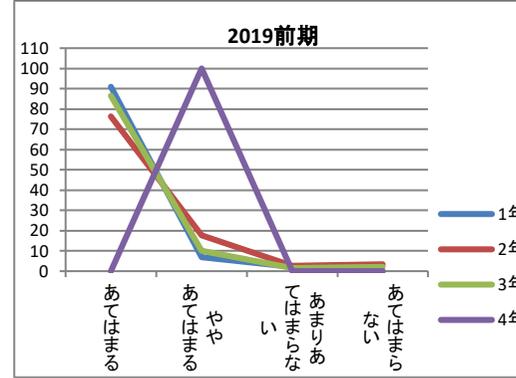
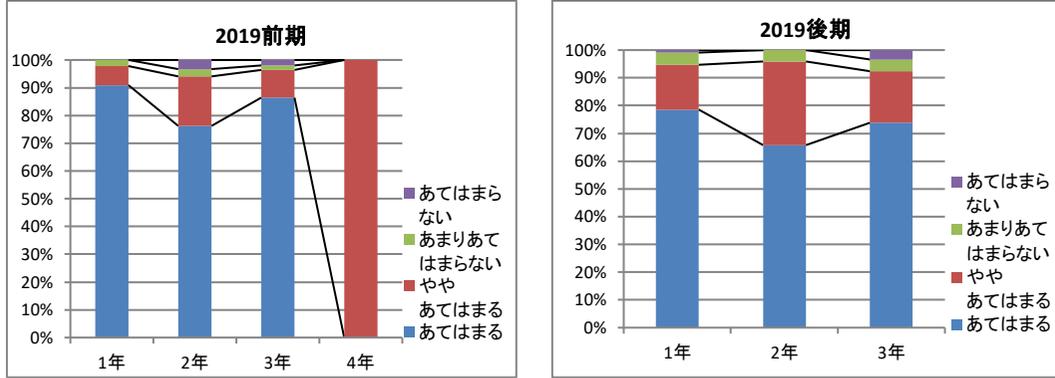
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



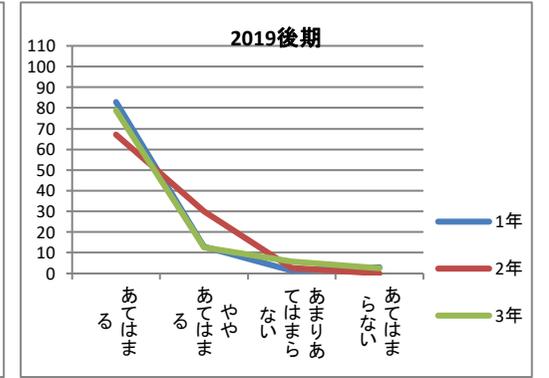
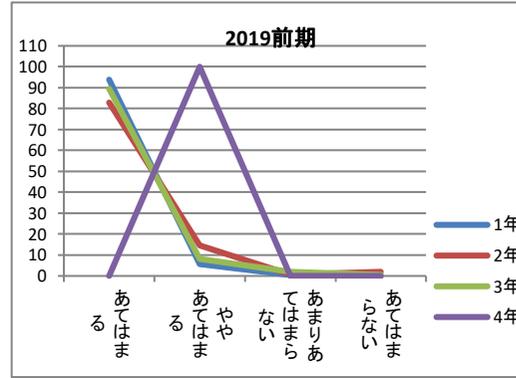
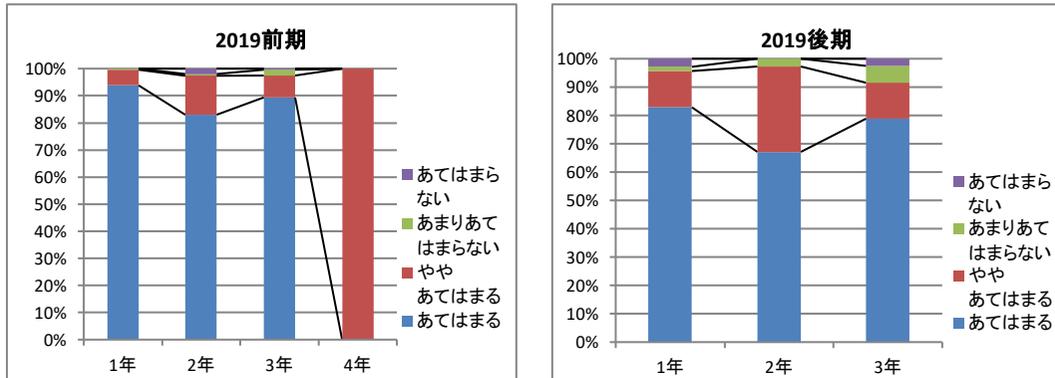
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



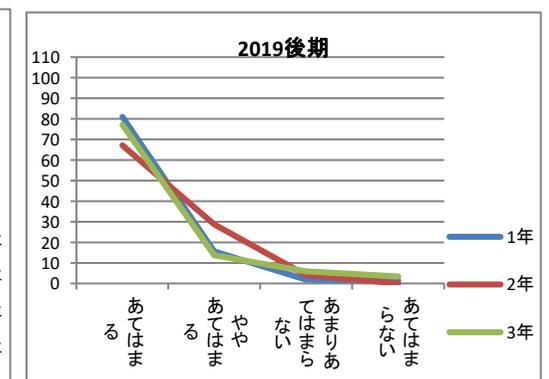
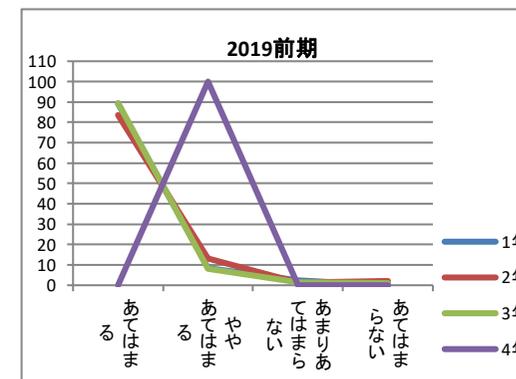
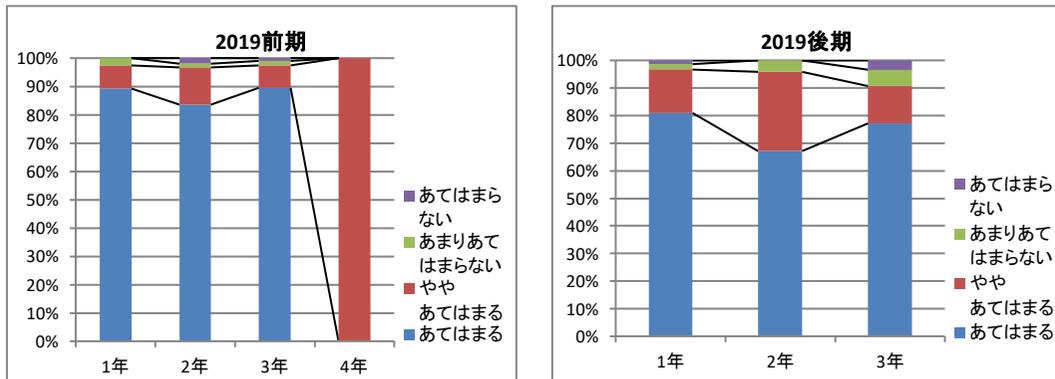
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



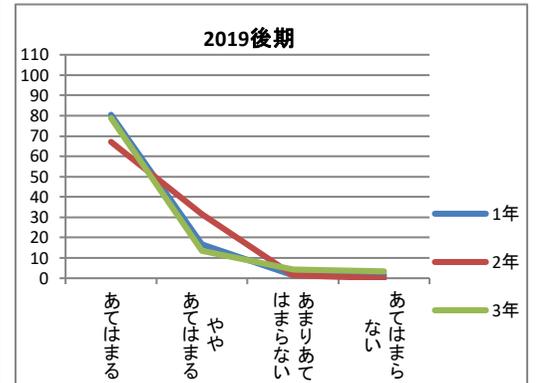
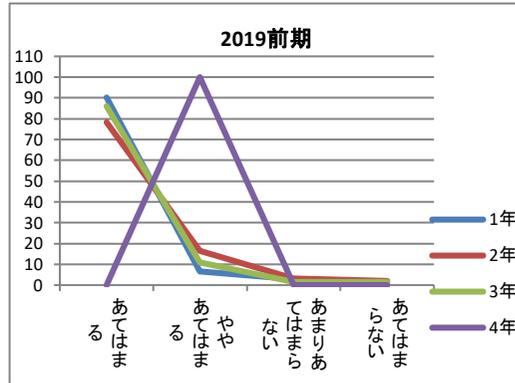
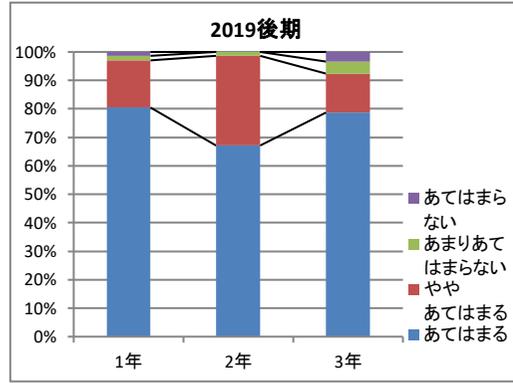
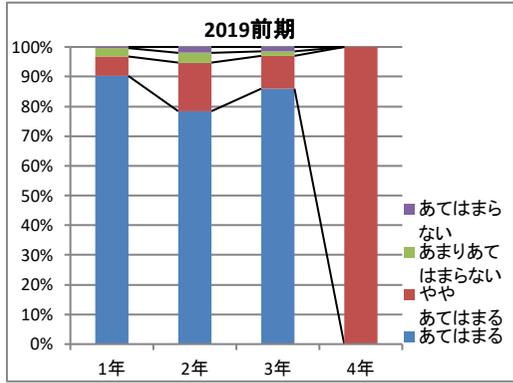
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



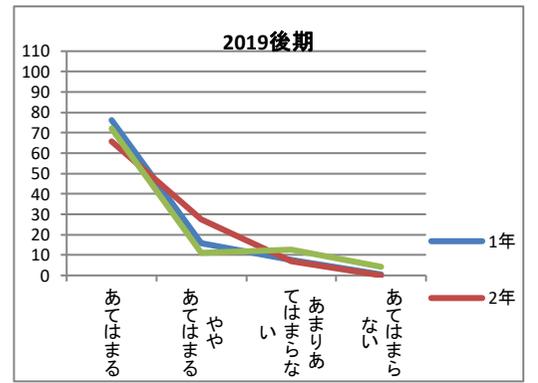
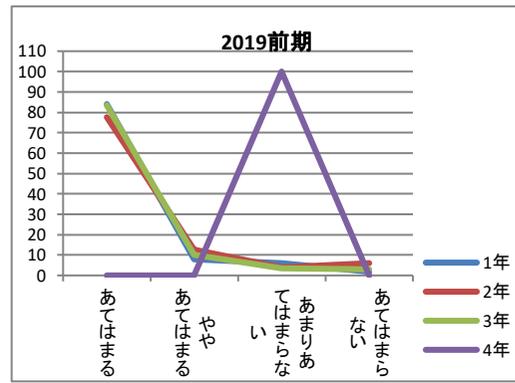
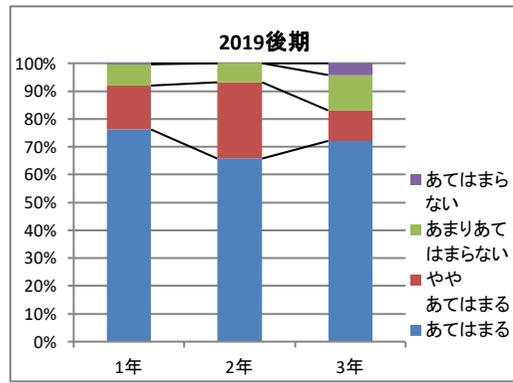
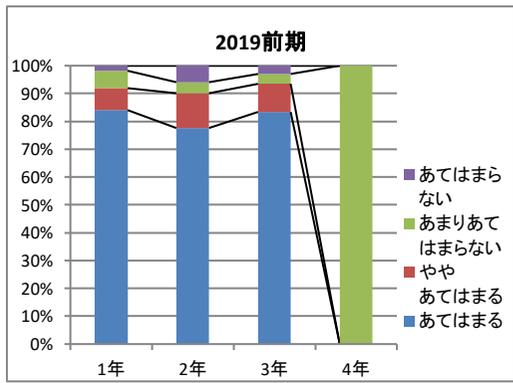
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



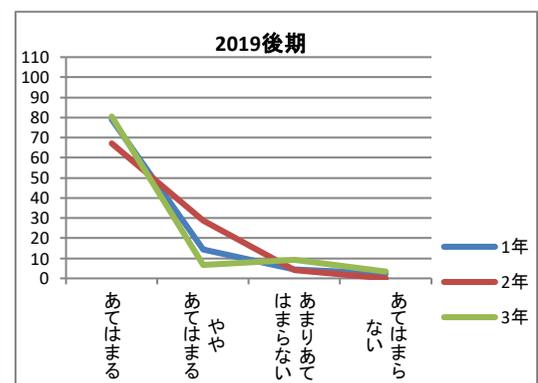
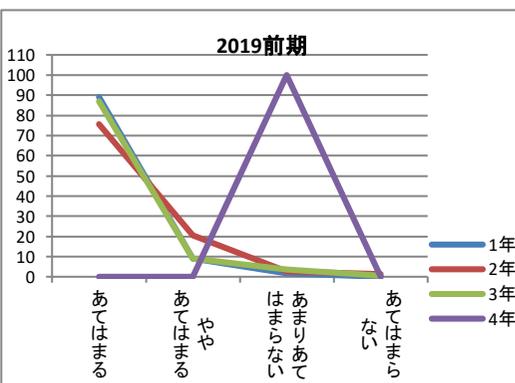
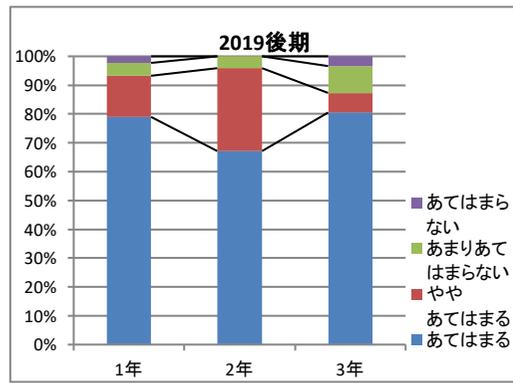
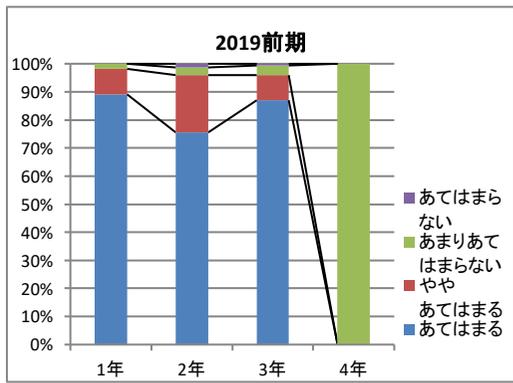
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



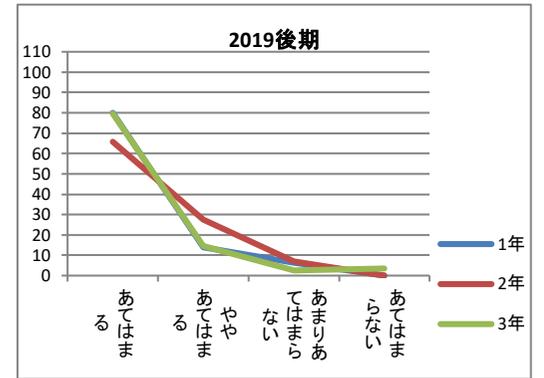
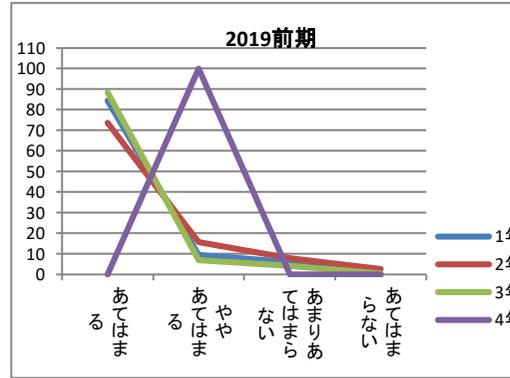
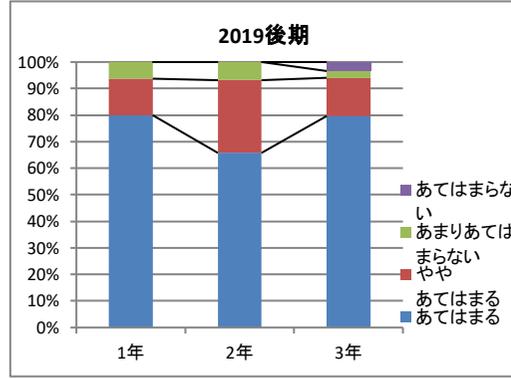
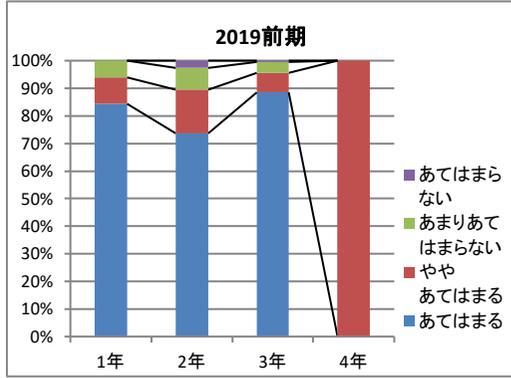
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



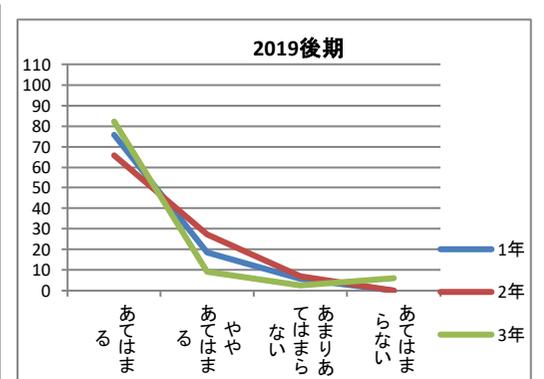
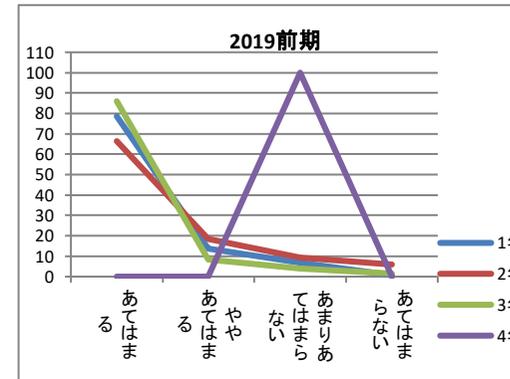
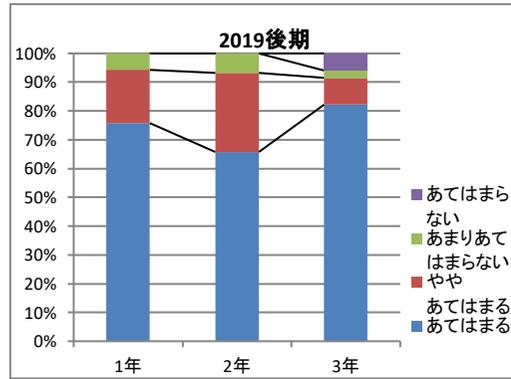
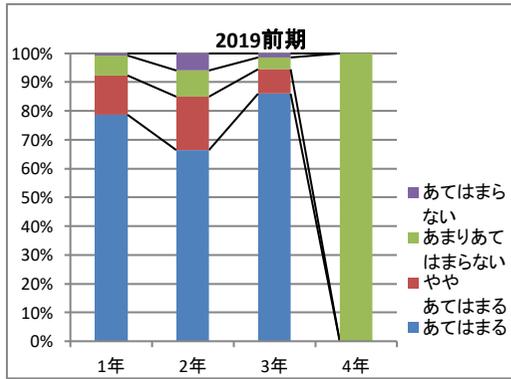
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



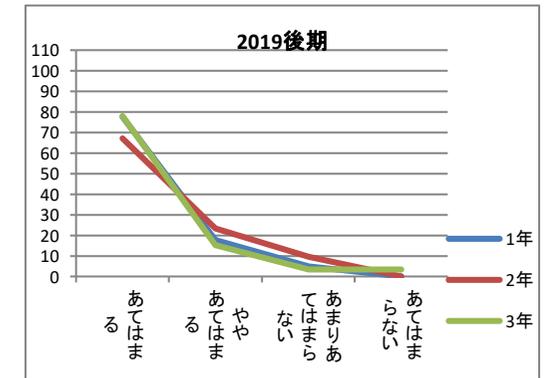
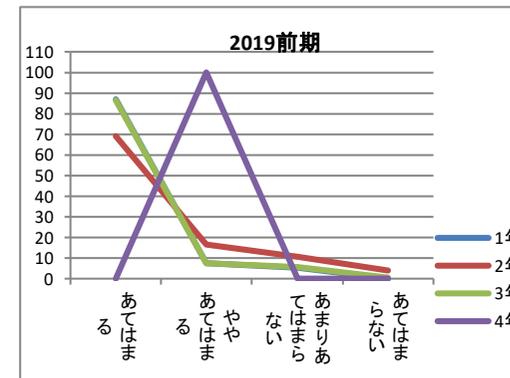
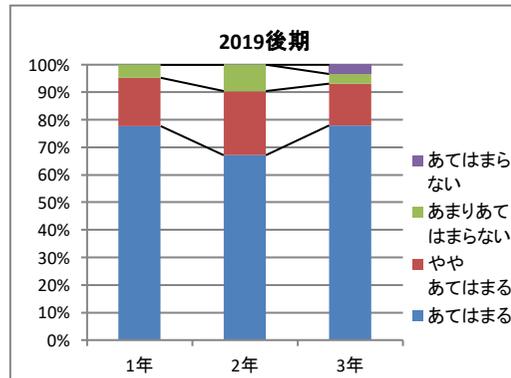
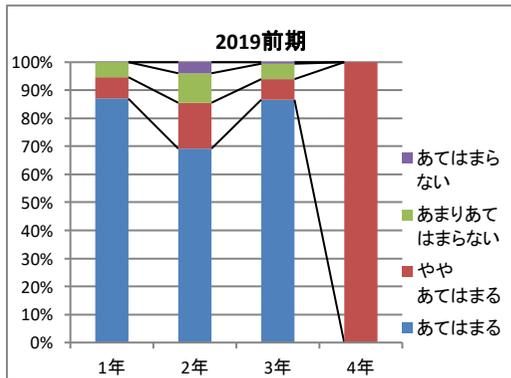
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

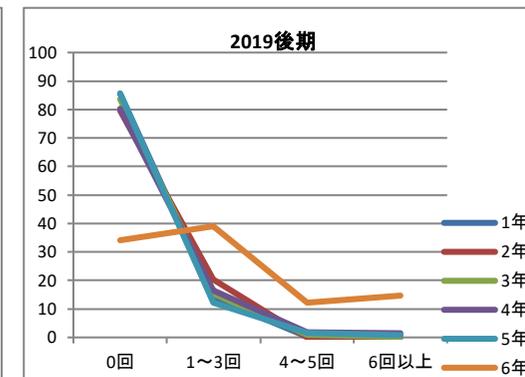
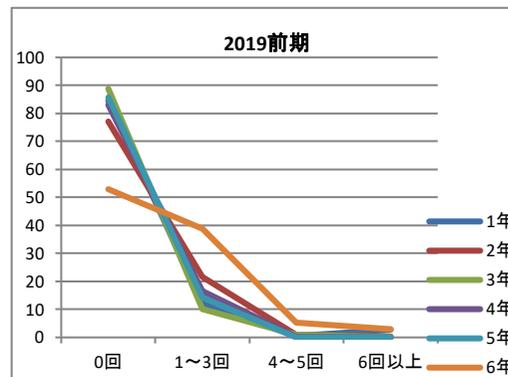
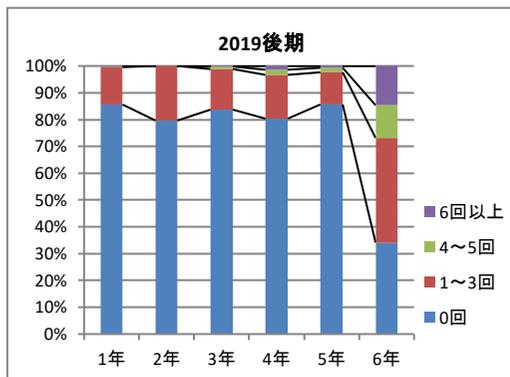
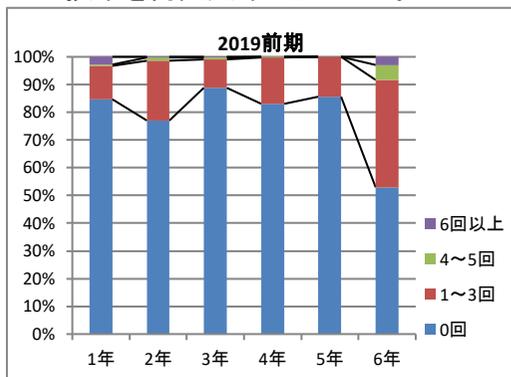


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<薬学科>

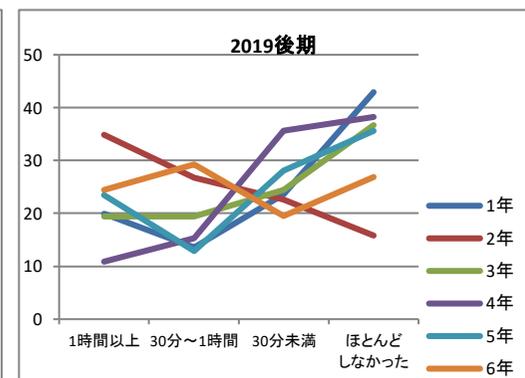
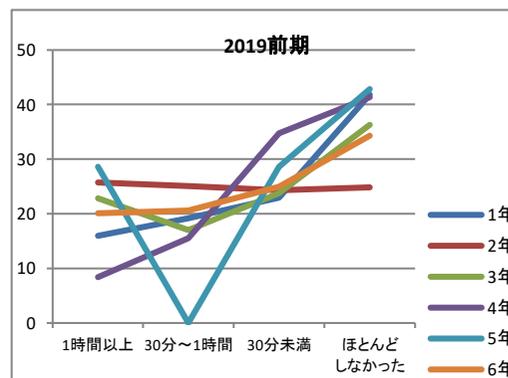
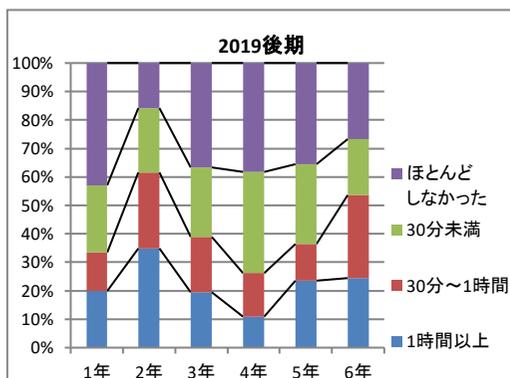
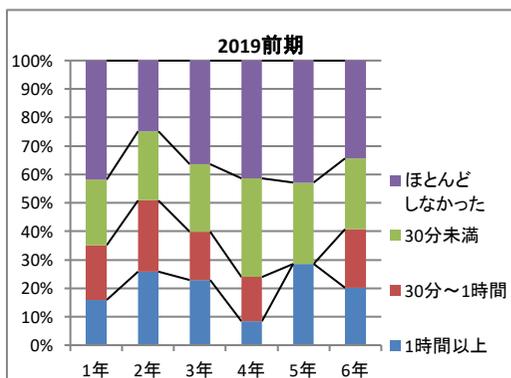
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



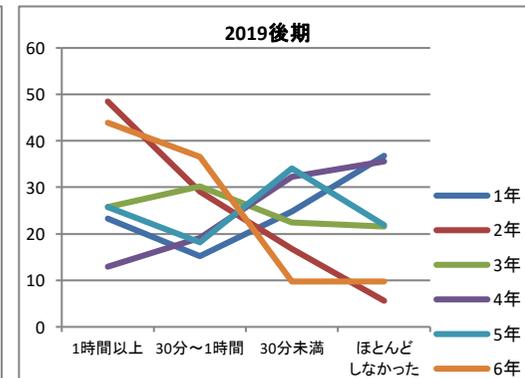
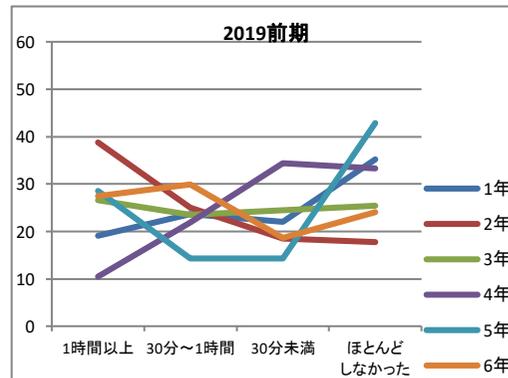
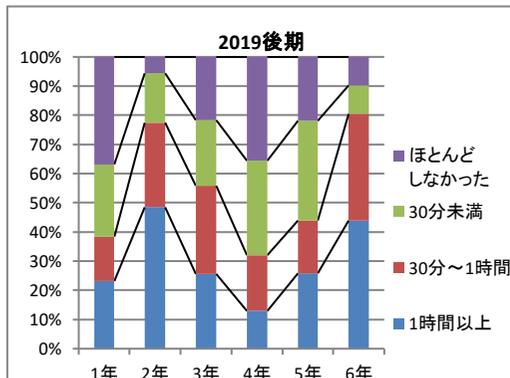
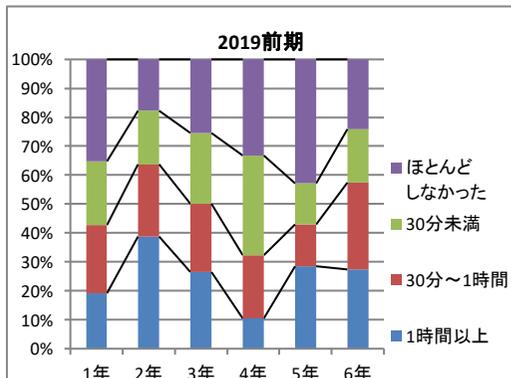
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



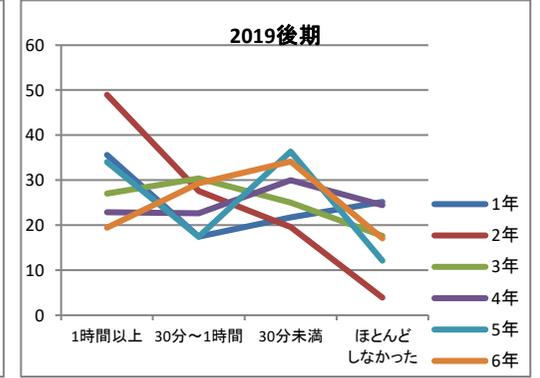
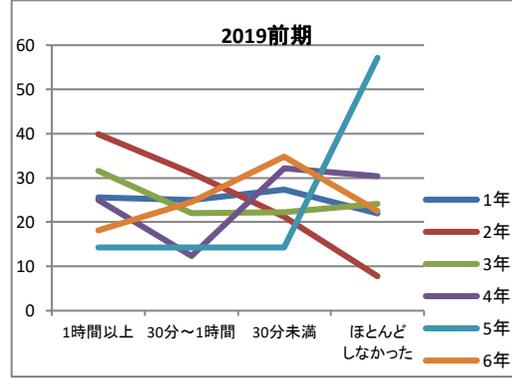
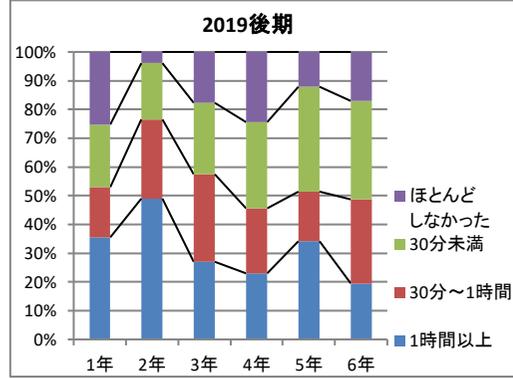
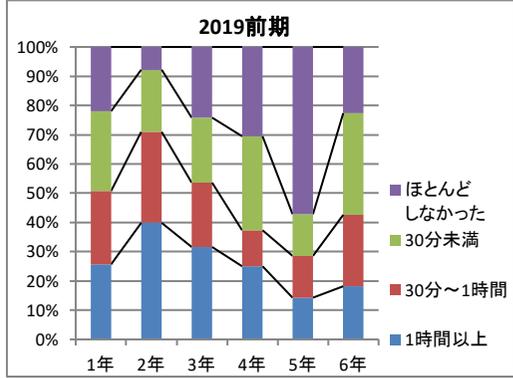
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



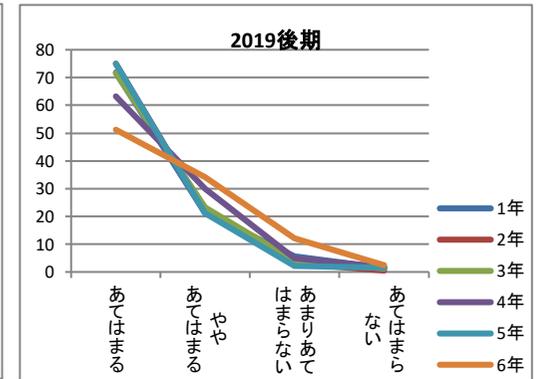
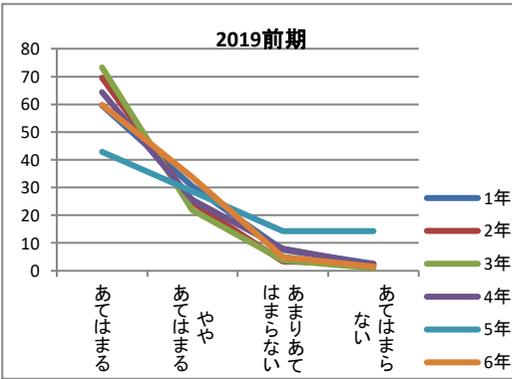
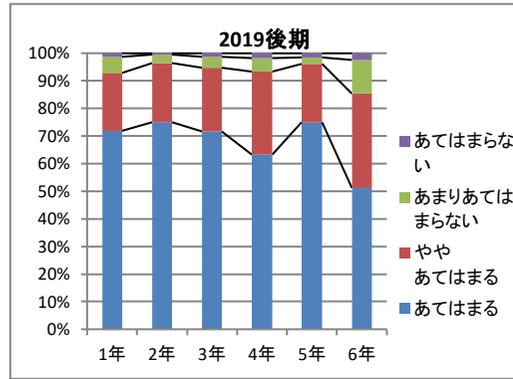
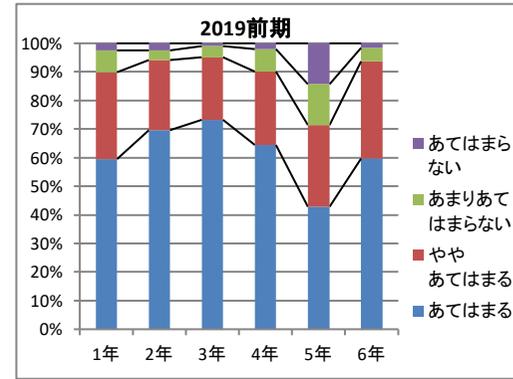
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



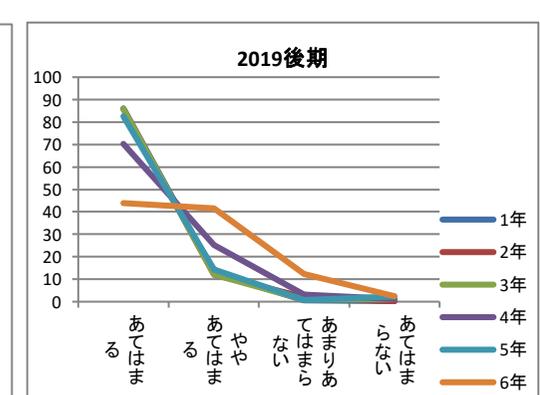
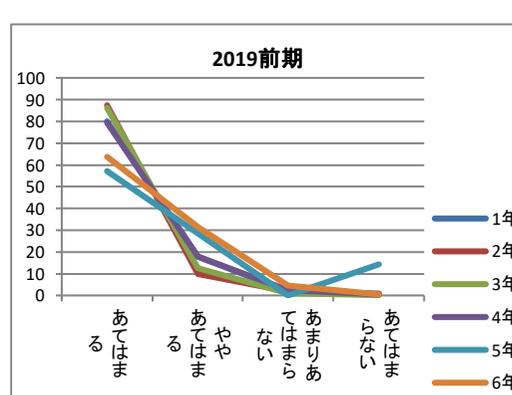
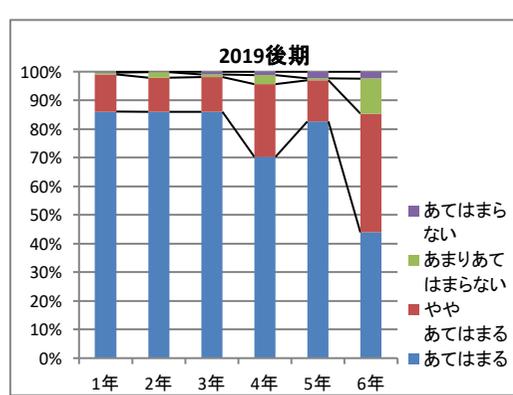
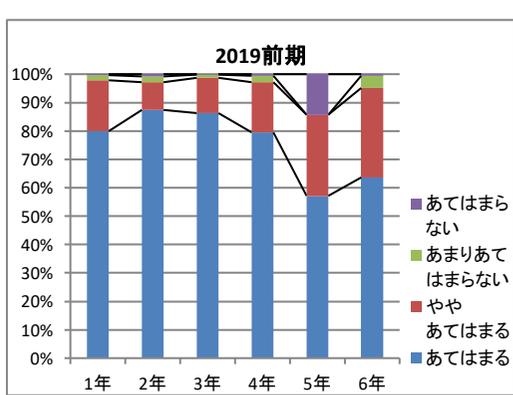
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



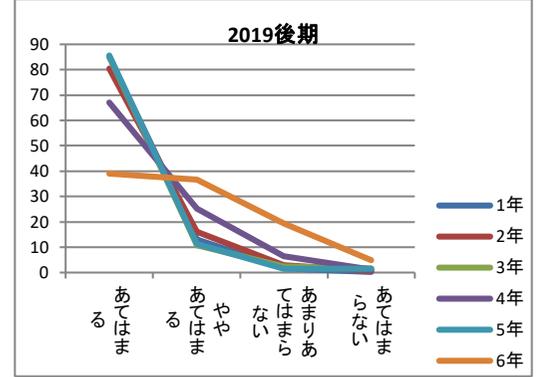
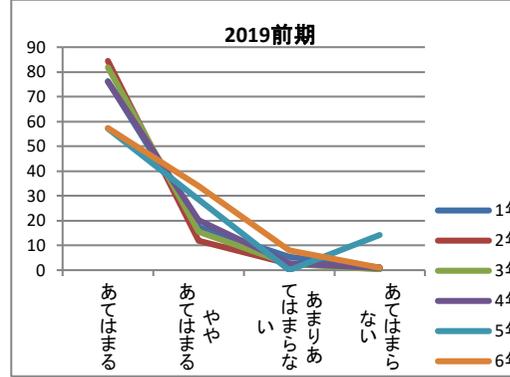
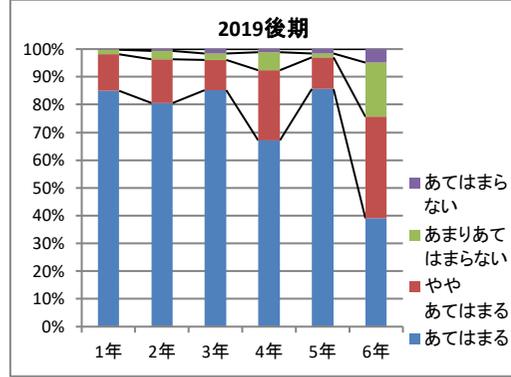
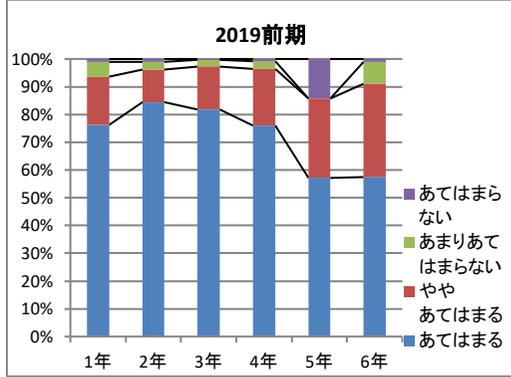
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



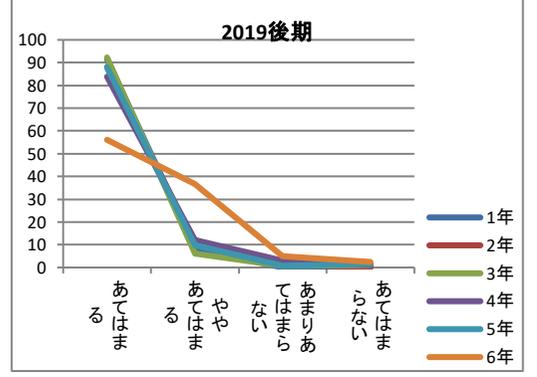
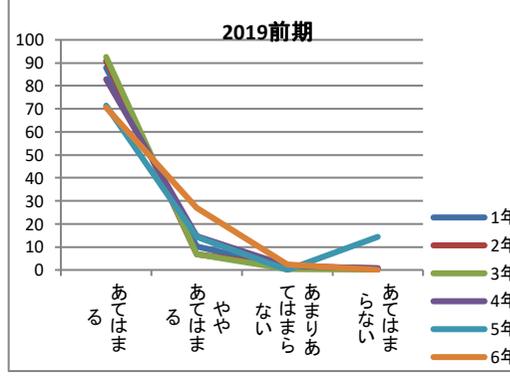
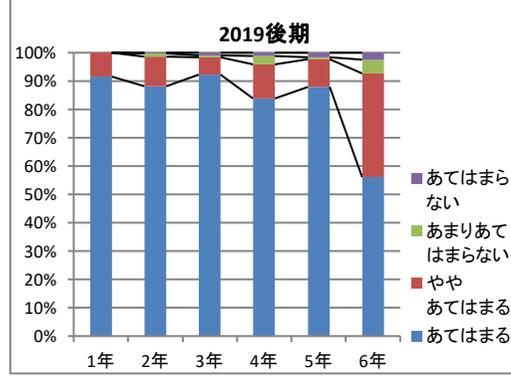
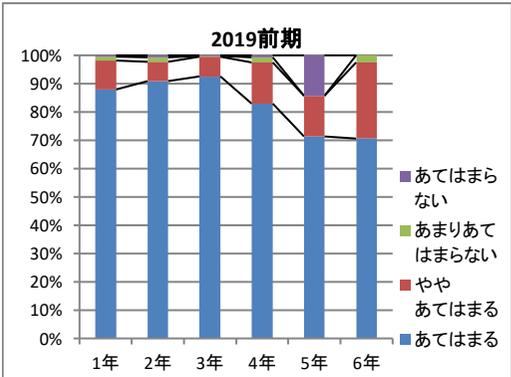
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



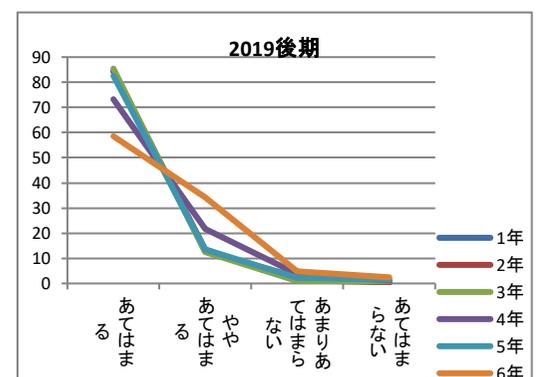
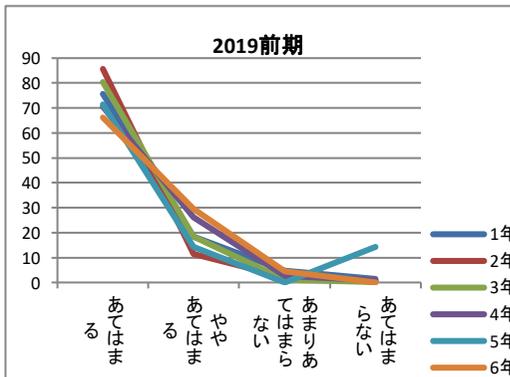
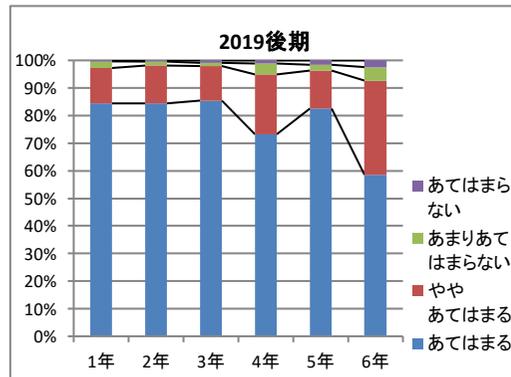
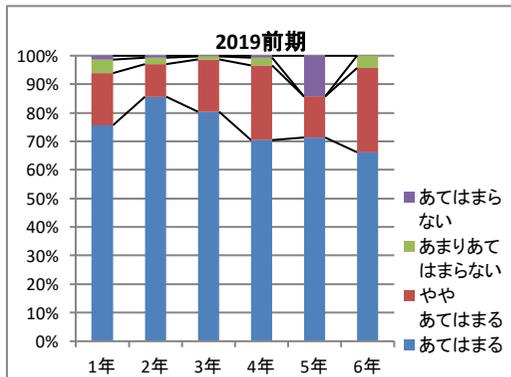
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



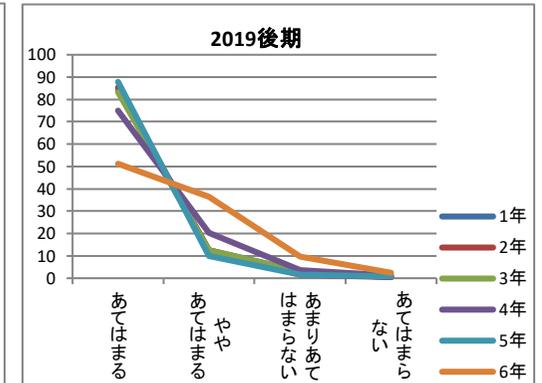
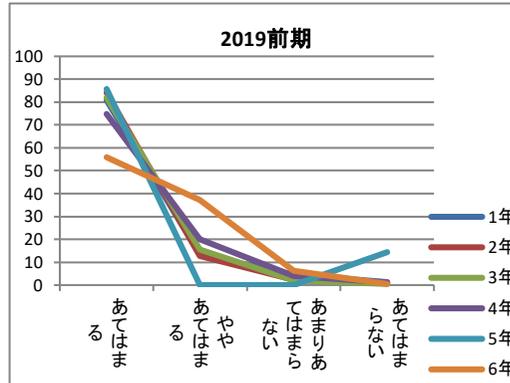
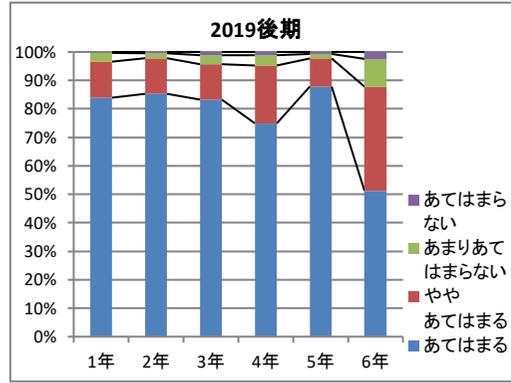
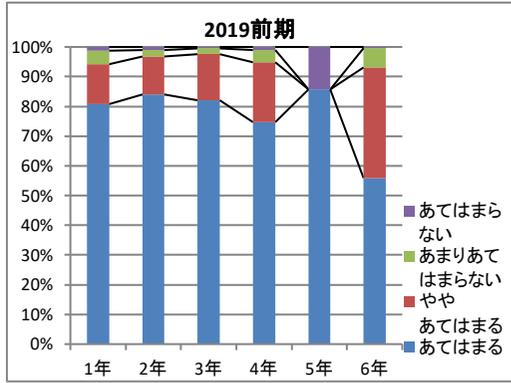
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



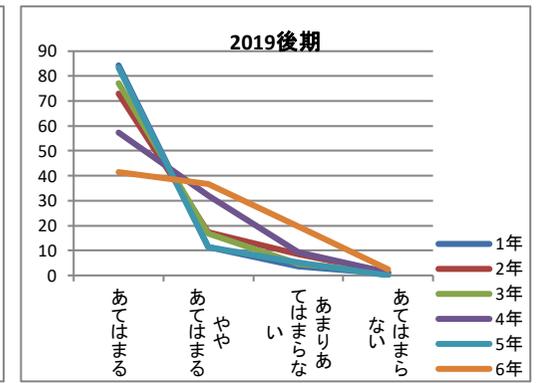
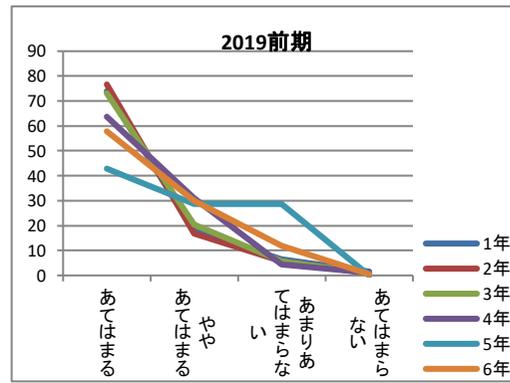
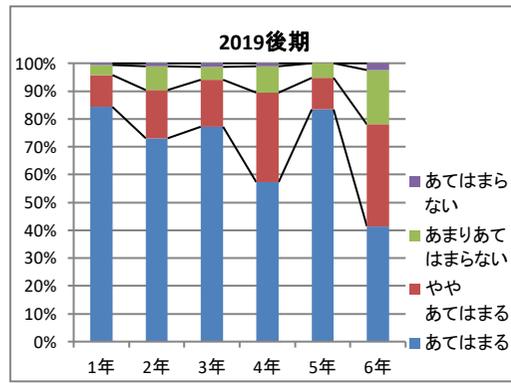
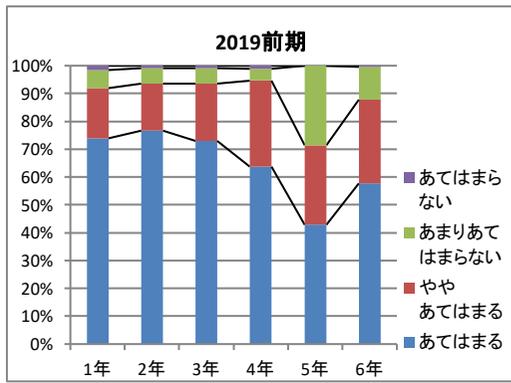
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



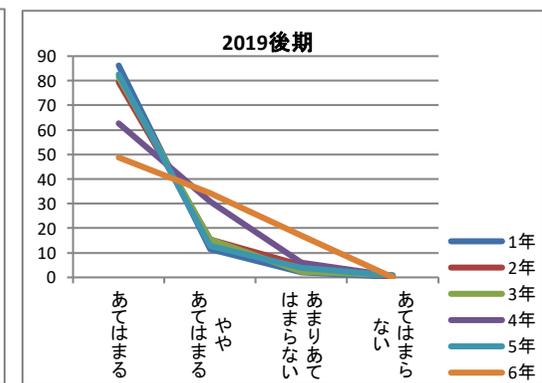
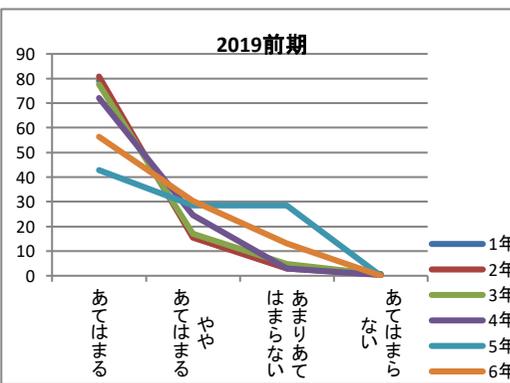
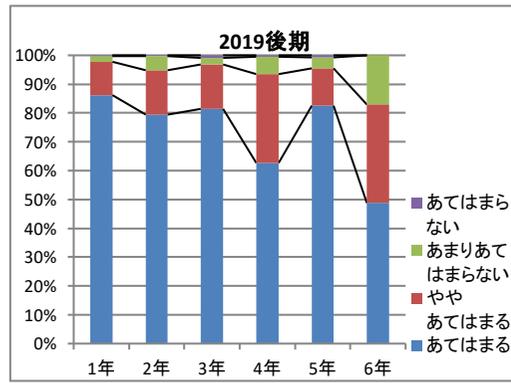
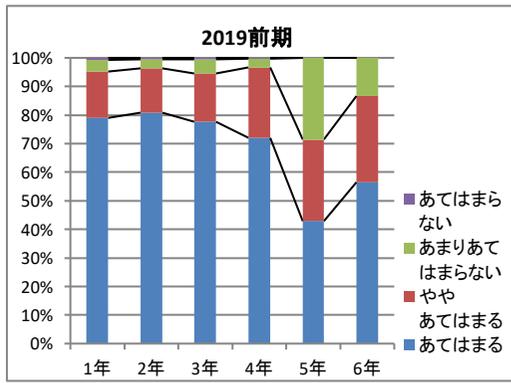
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



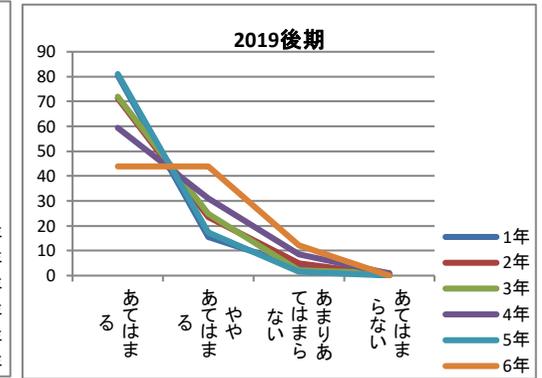
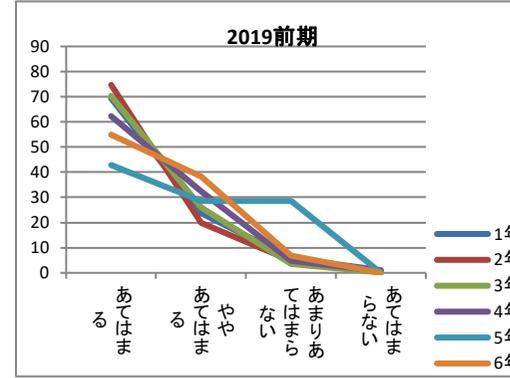
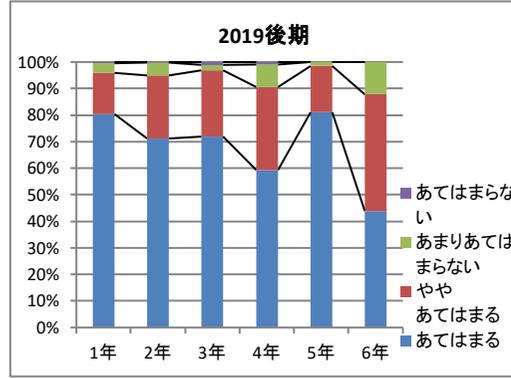
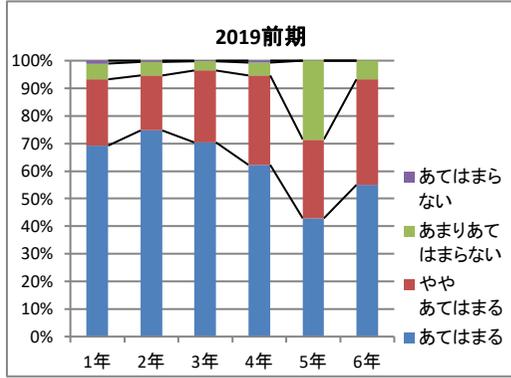
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



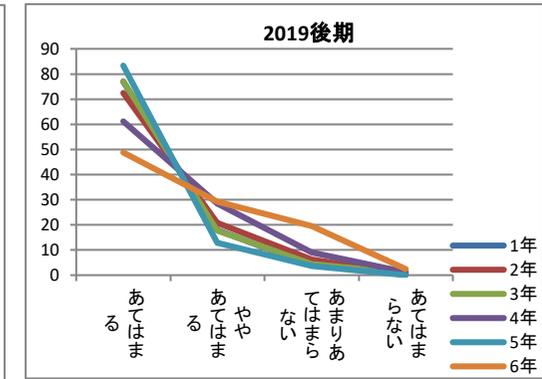
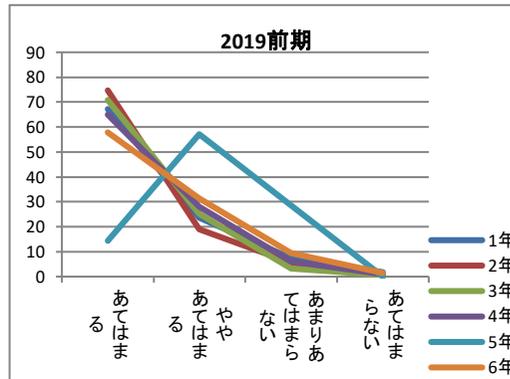
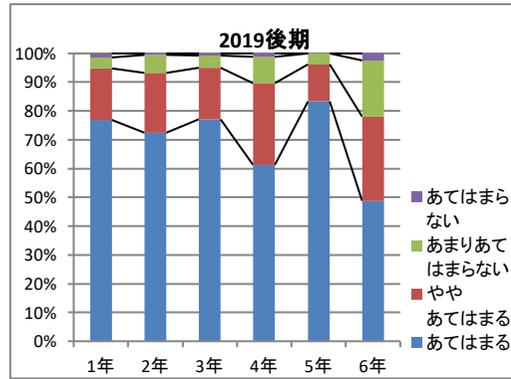
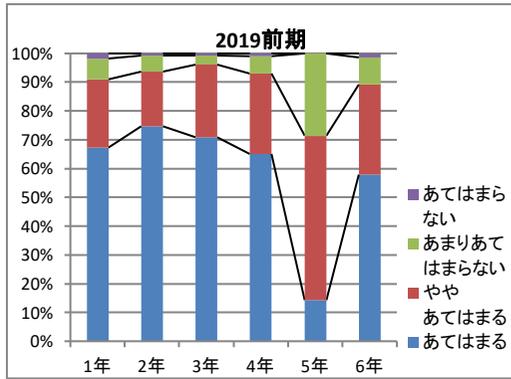
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



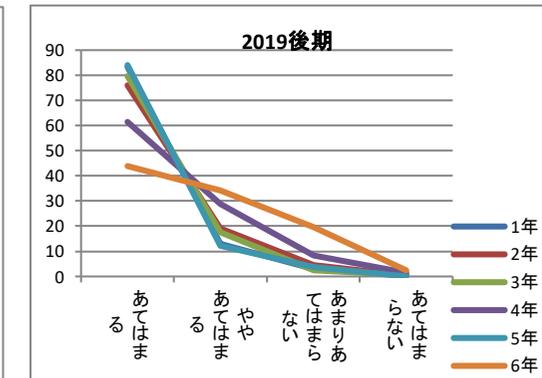
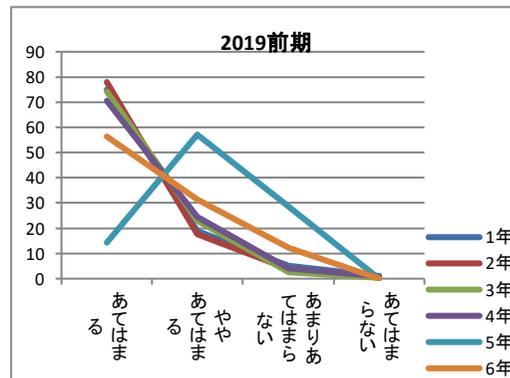
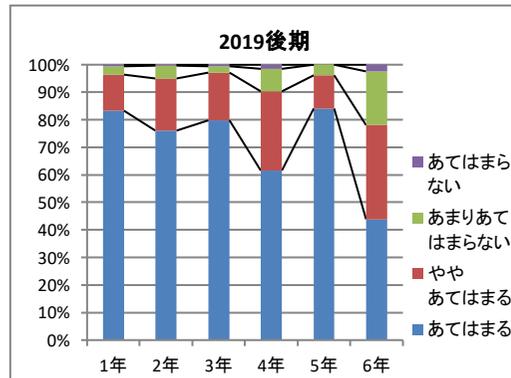
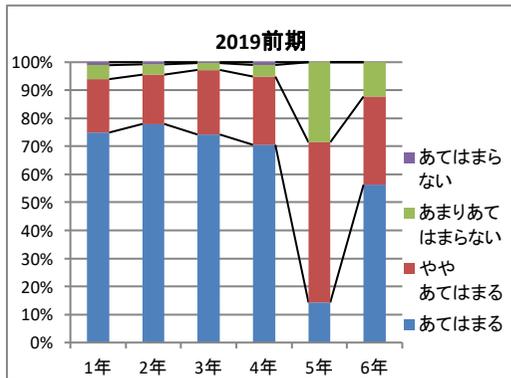
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



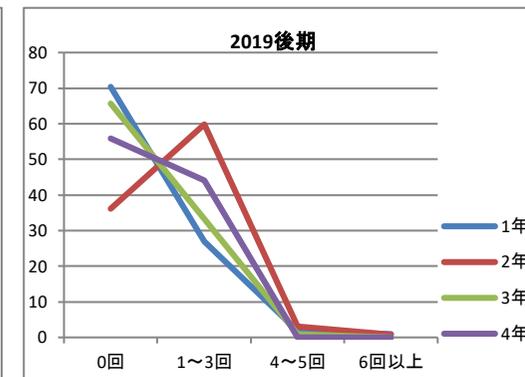
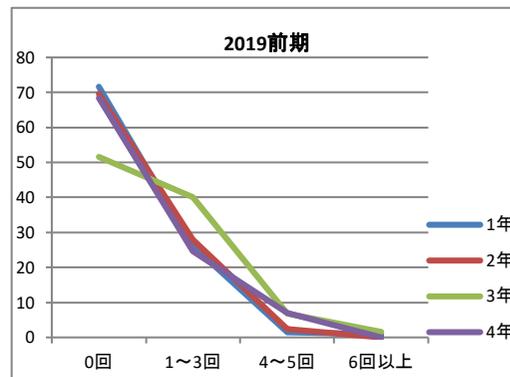
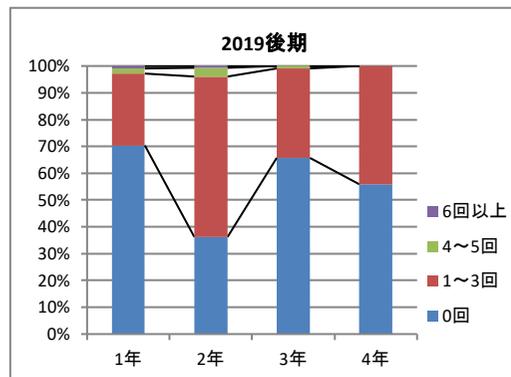
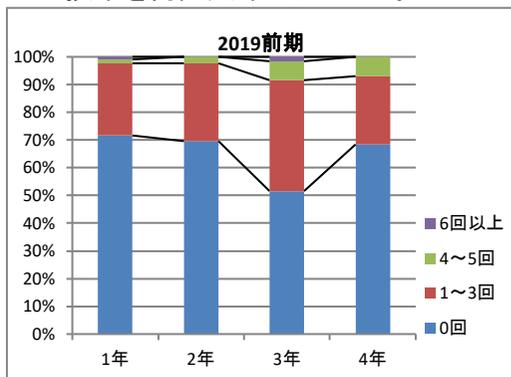
授業アンケート 令和元年度 2019年度

<動物生命薬科学科>

図X 動物生命

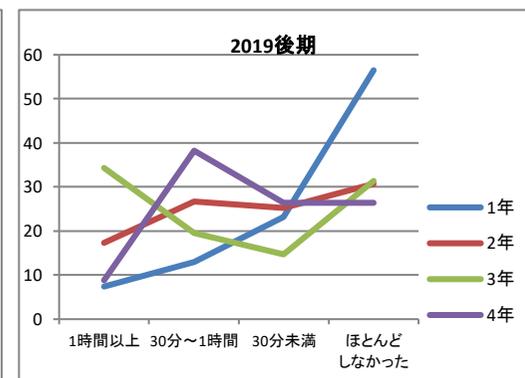
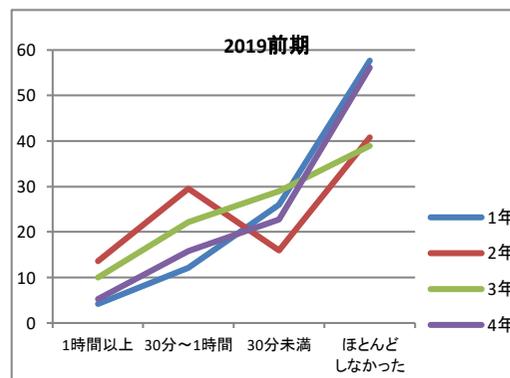
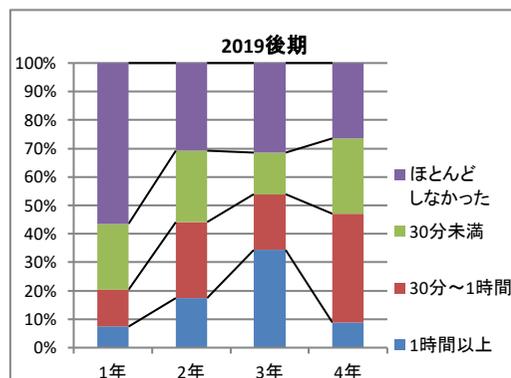
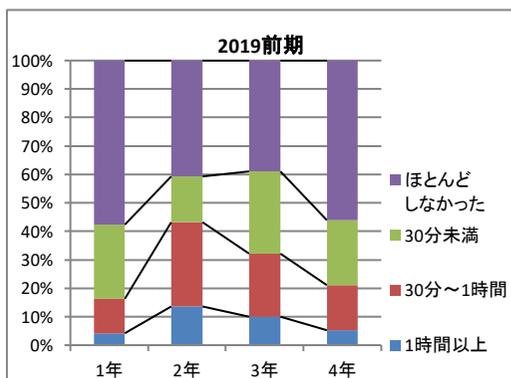
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



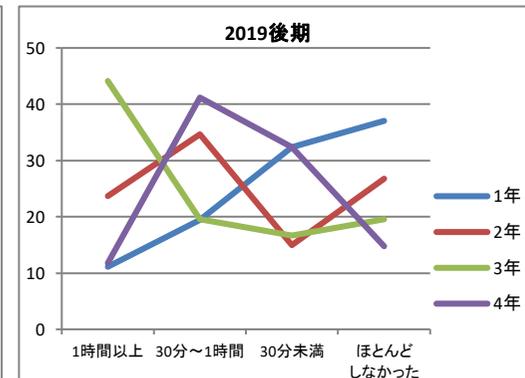
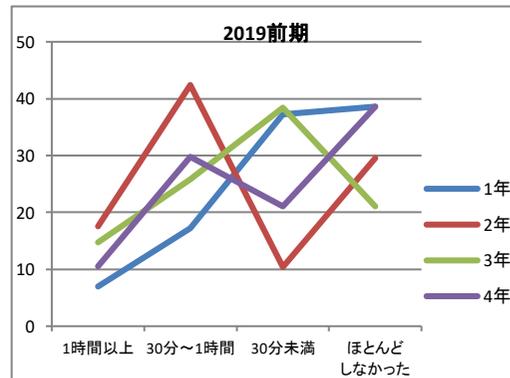
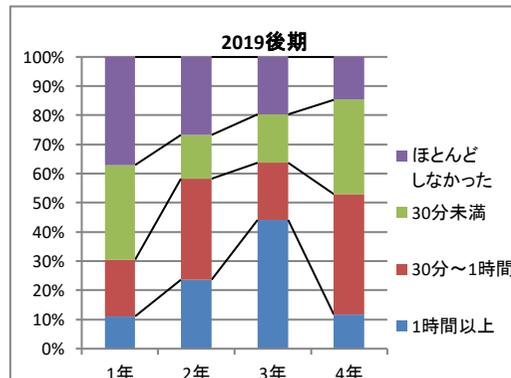
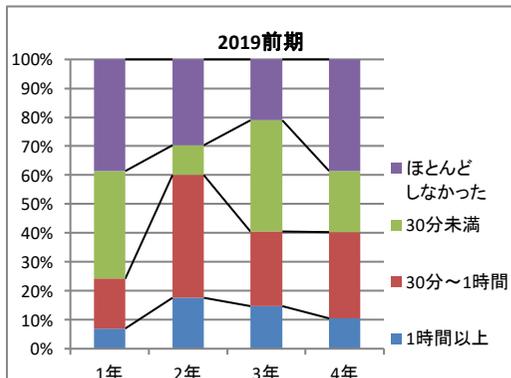
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



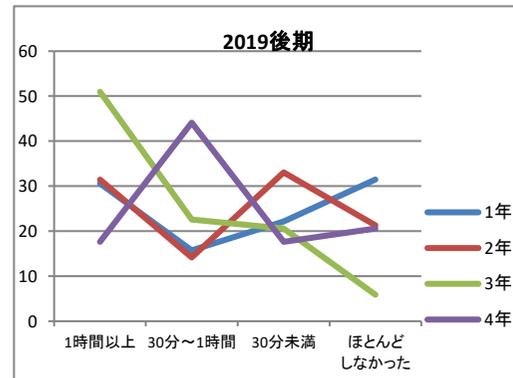
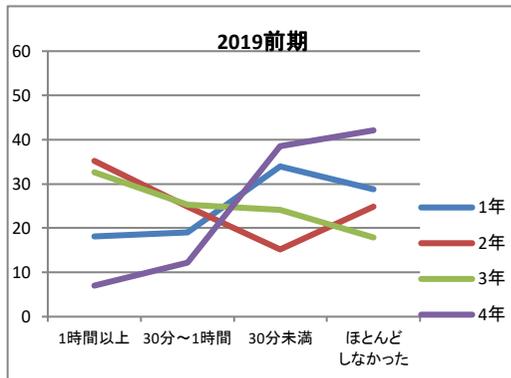
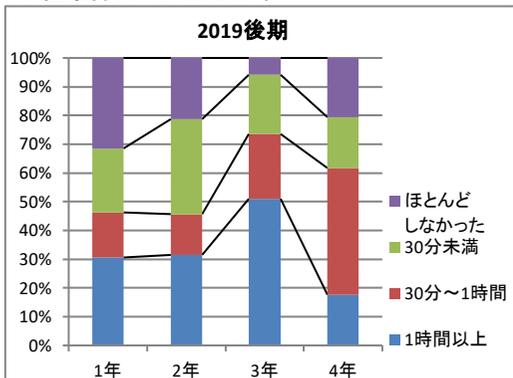
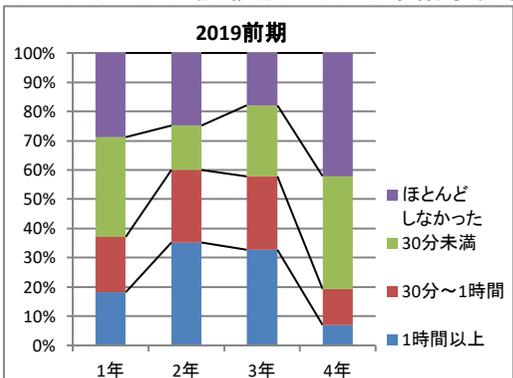
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



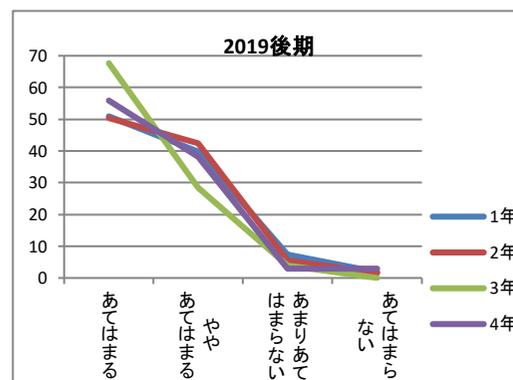
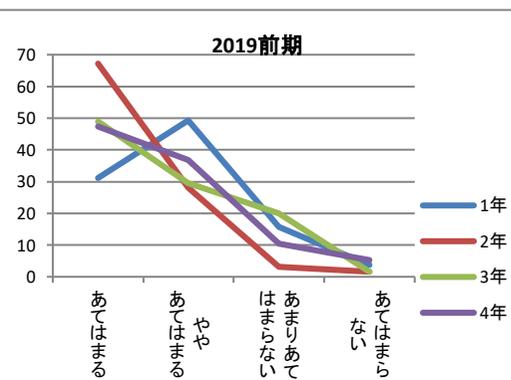
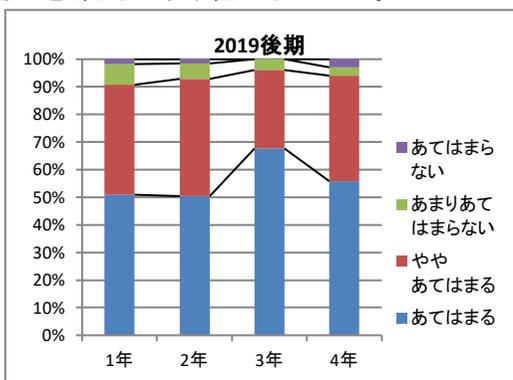
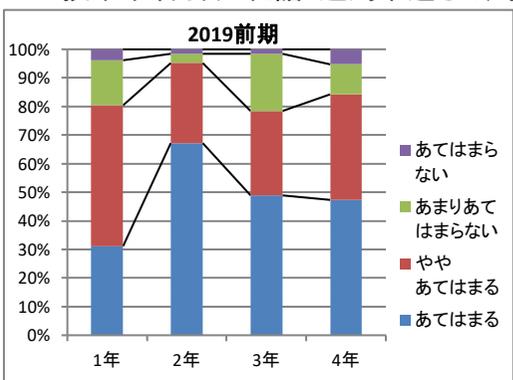
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



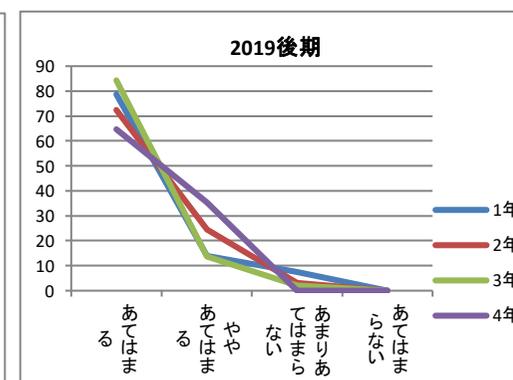
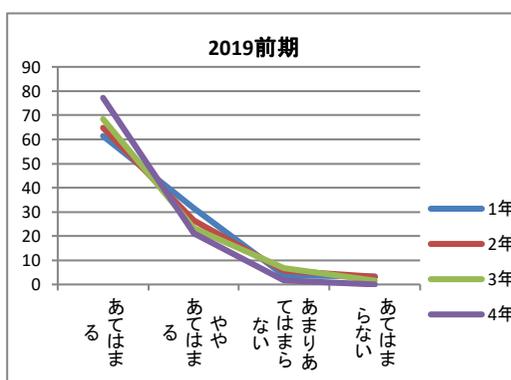
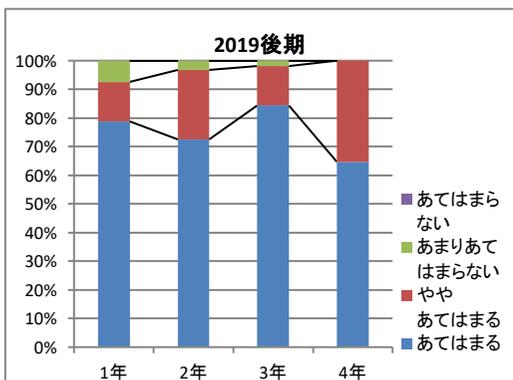
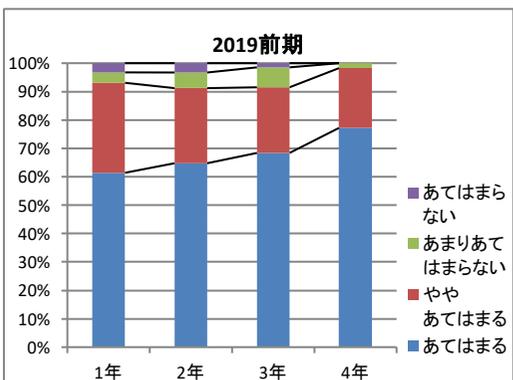
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



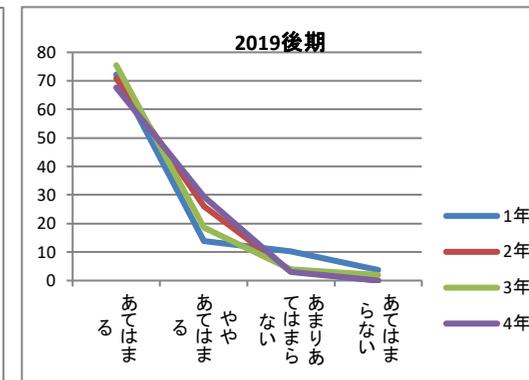
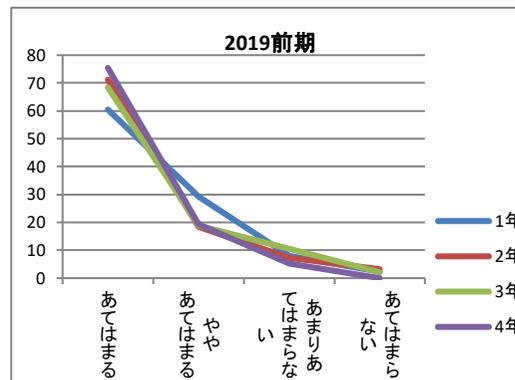
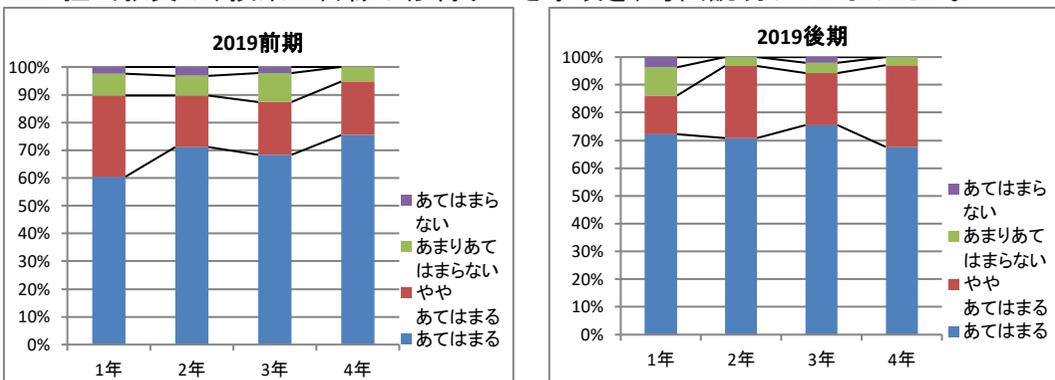
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



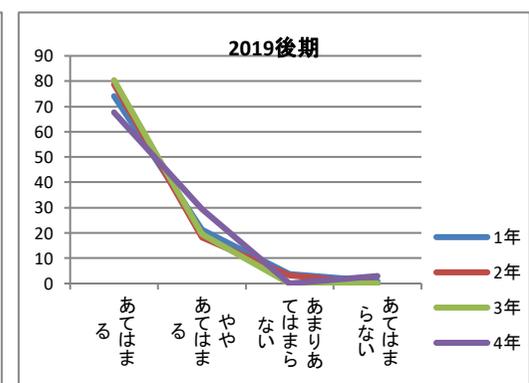
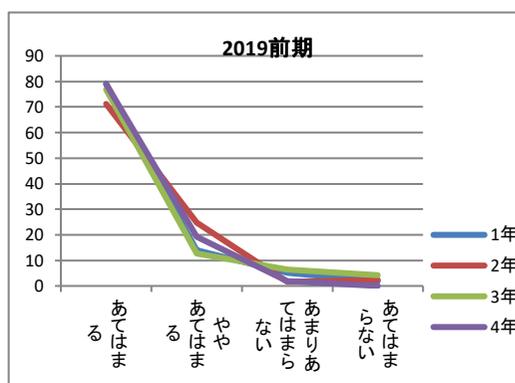
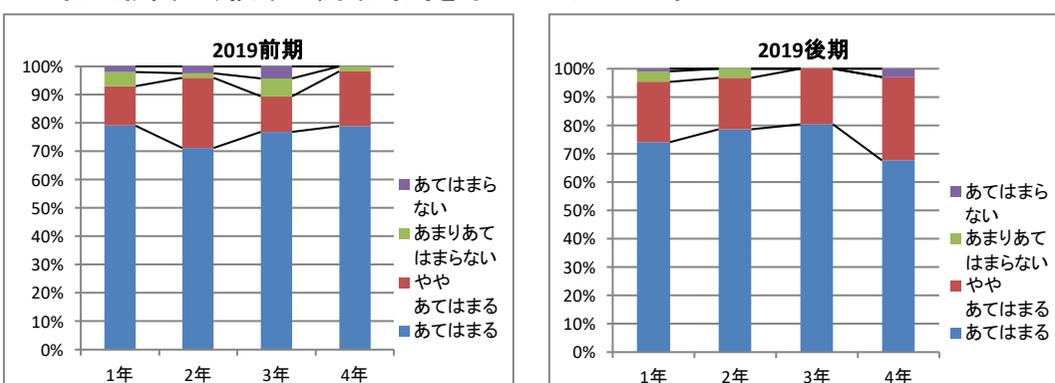
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



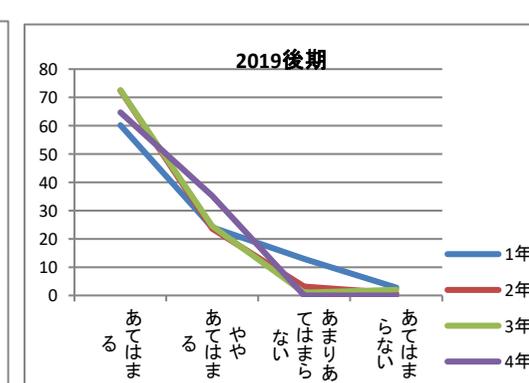
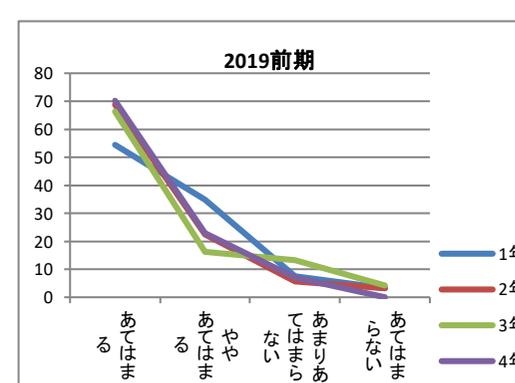
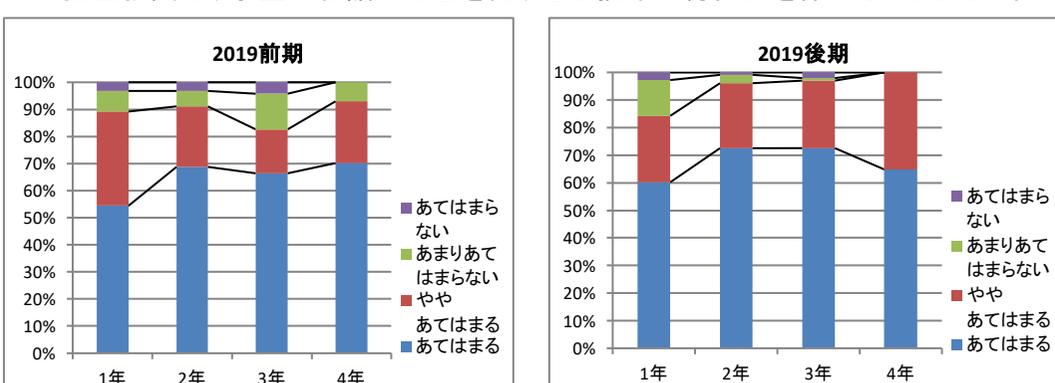
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



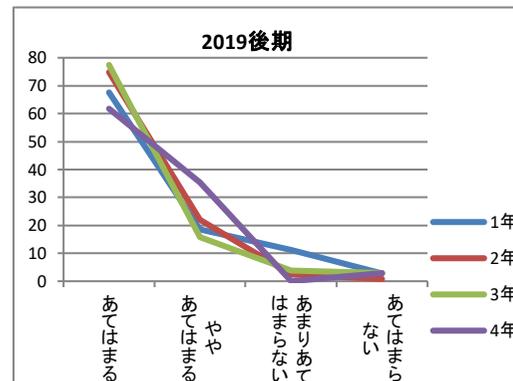
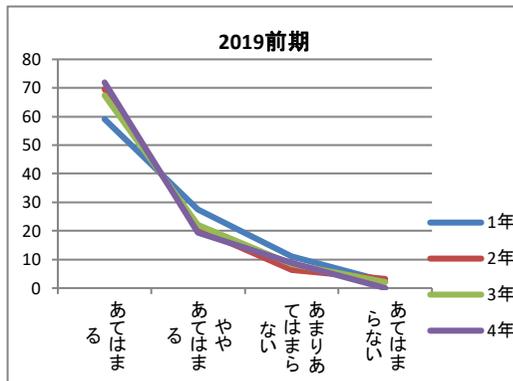
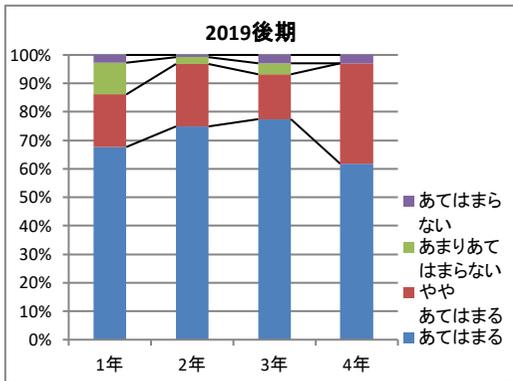
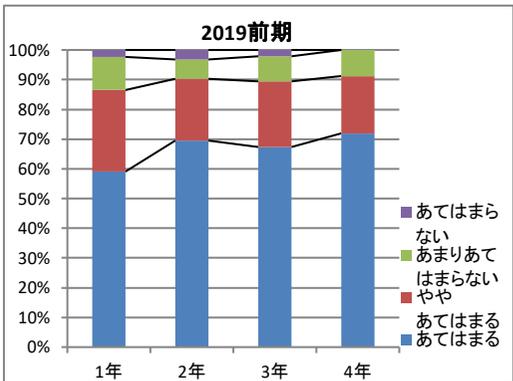
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



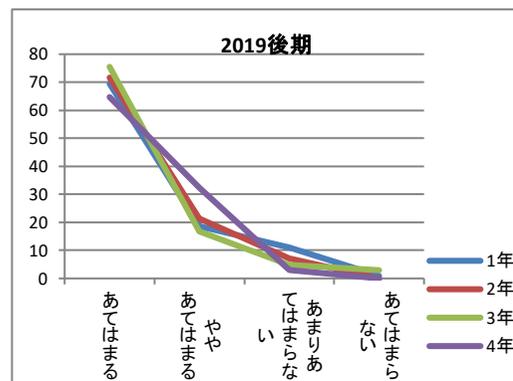
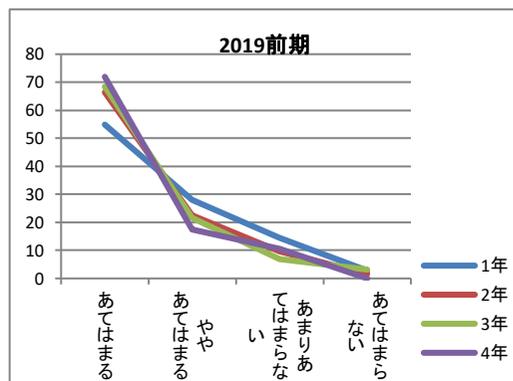
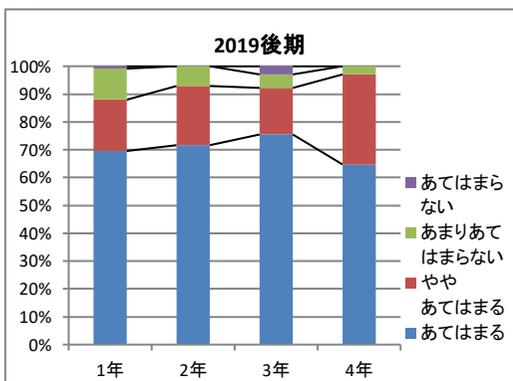
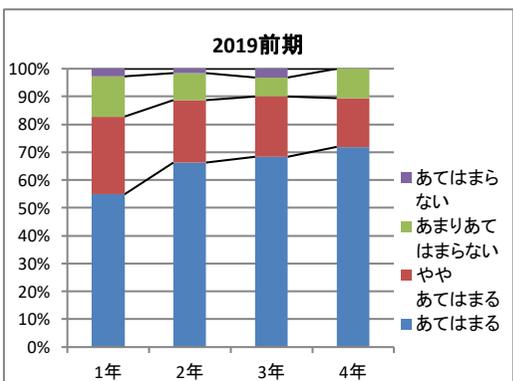
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



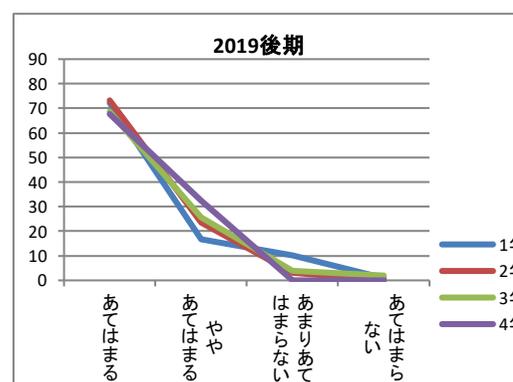
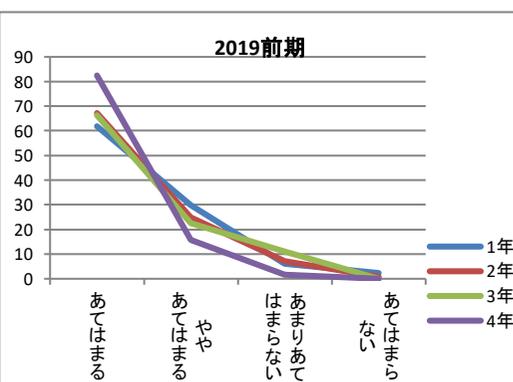
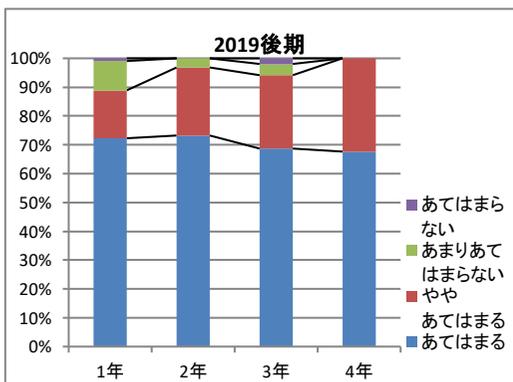
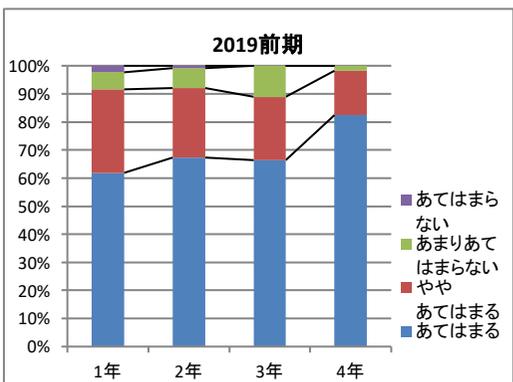
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



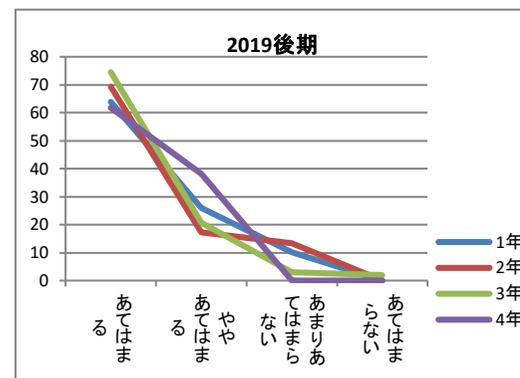
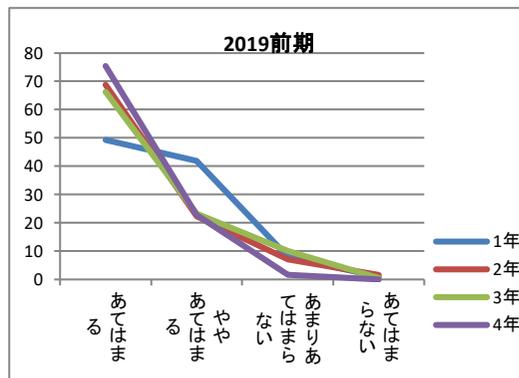
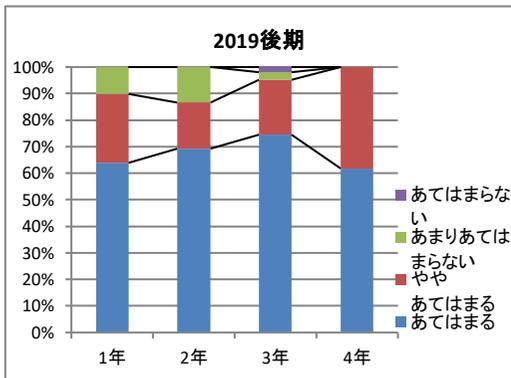
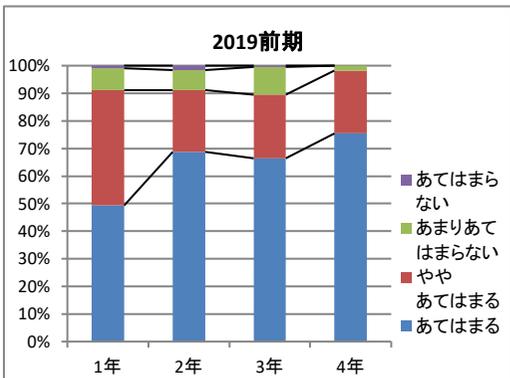
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



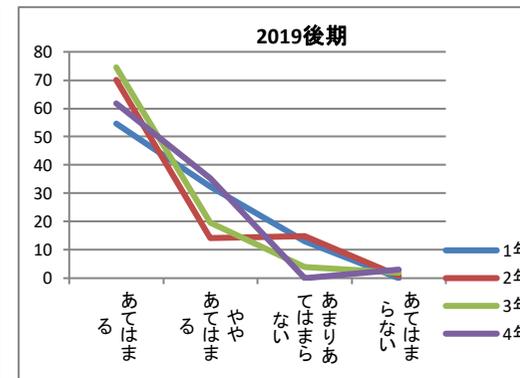
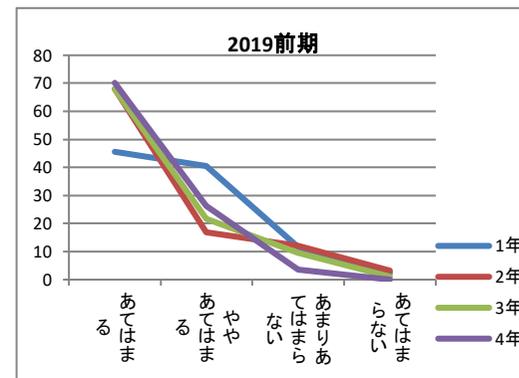
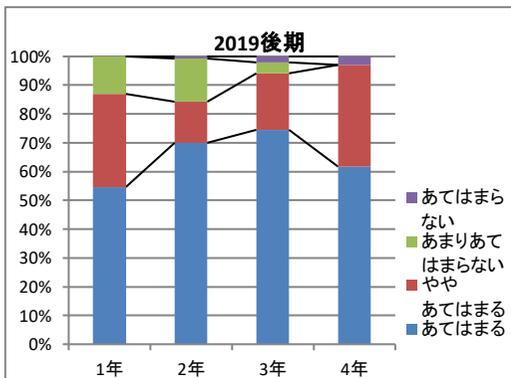
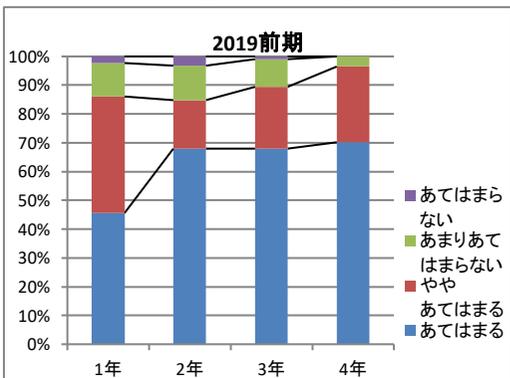
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



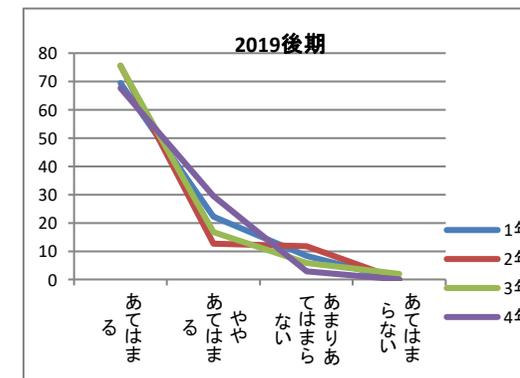
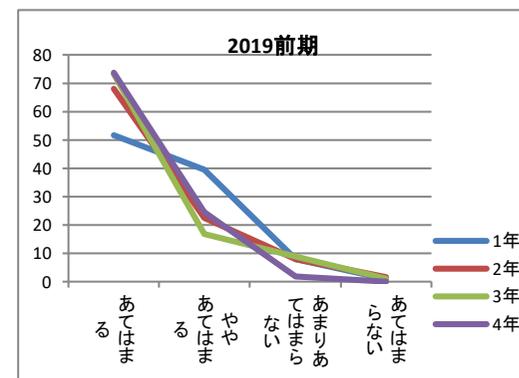
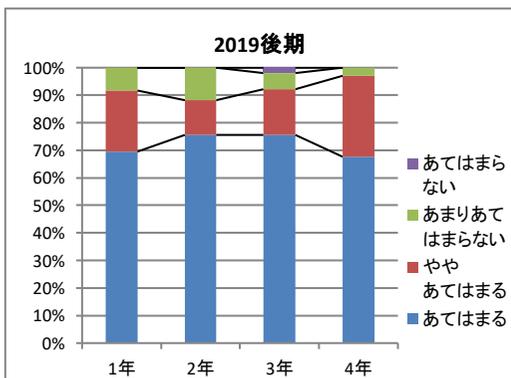
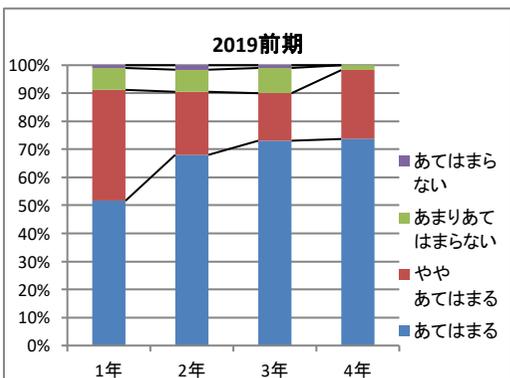
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

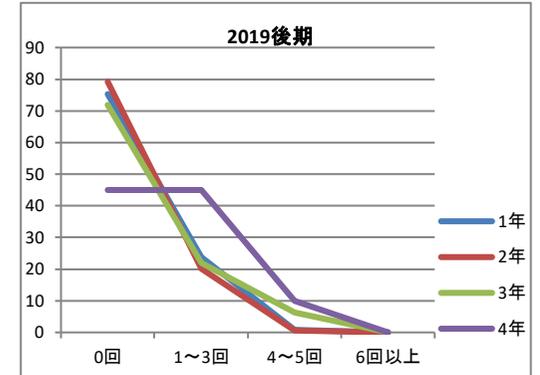
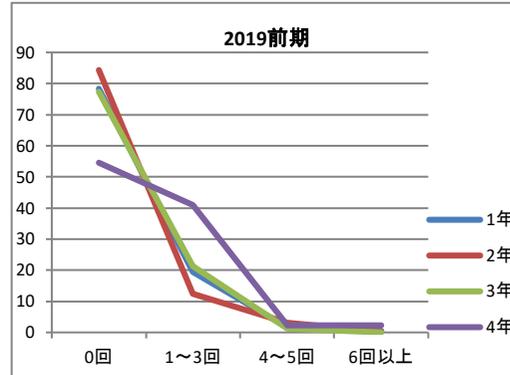
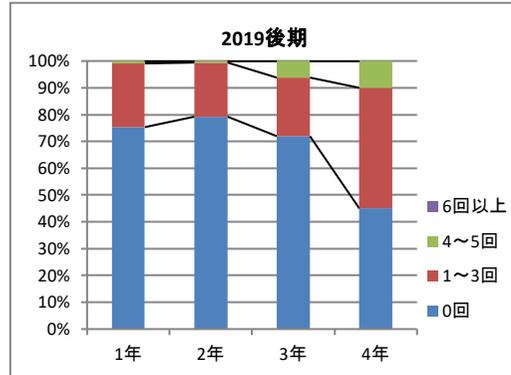
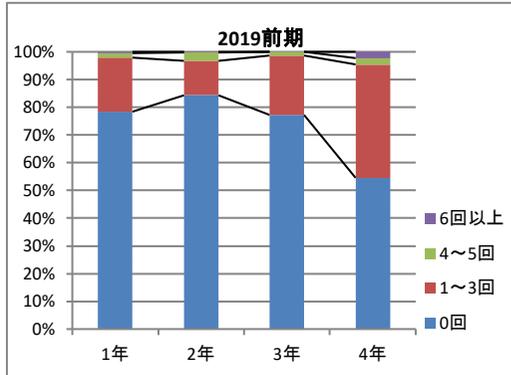


授業アンケート 令和元年度 2019年度

<生命医科学科>

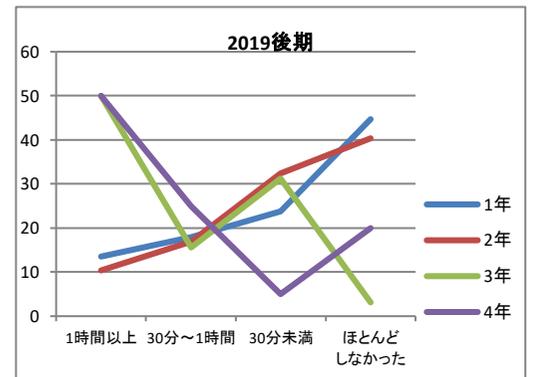
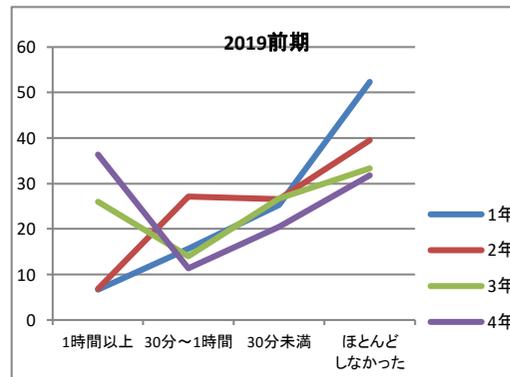
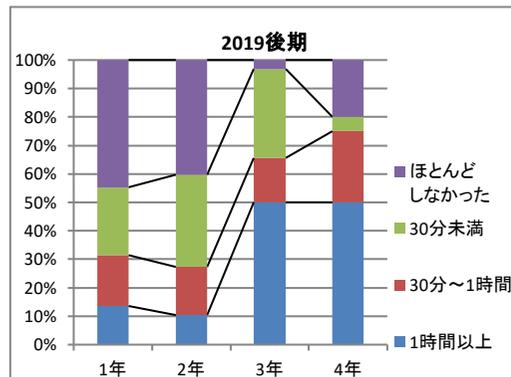
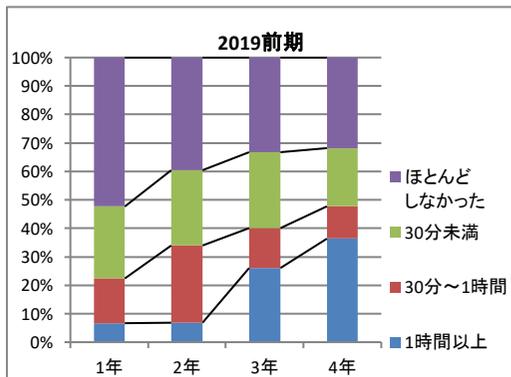
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



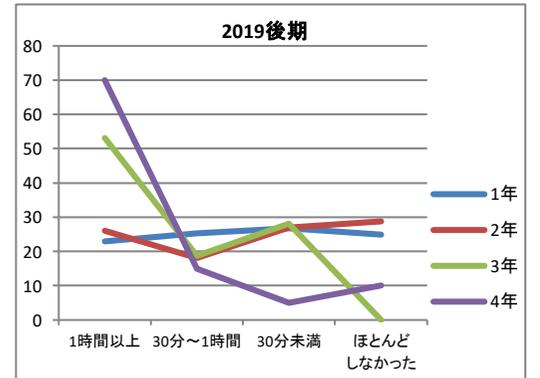
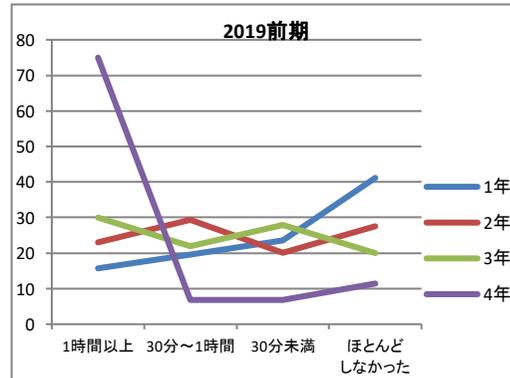
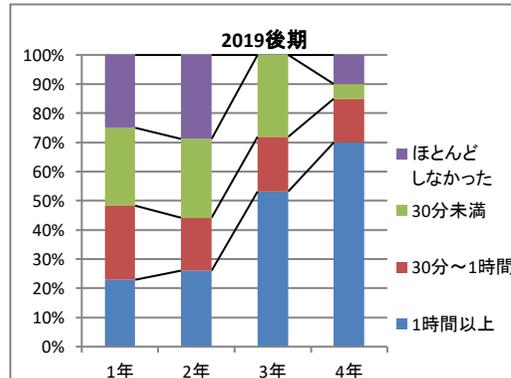
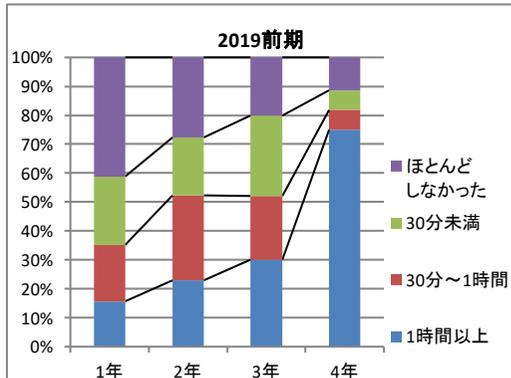
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



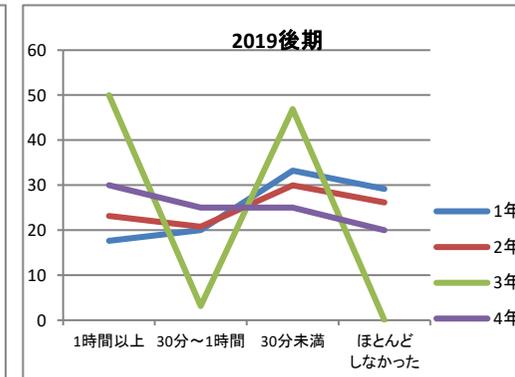
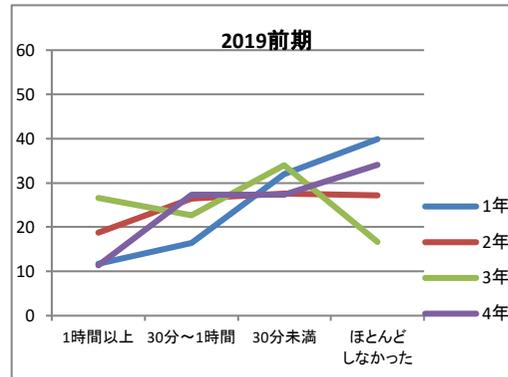
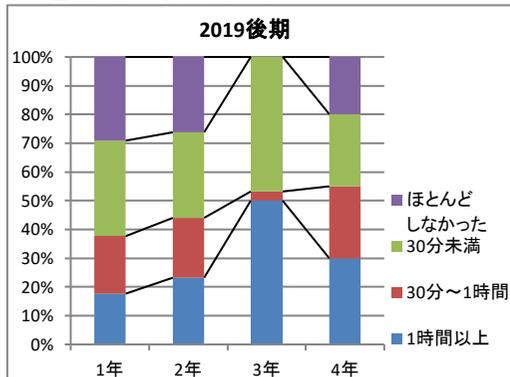
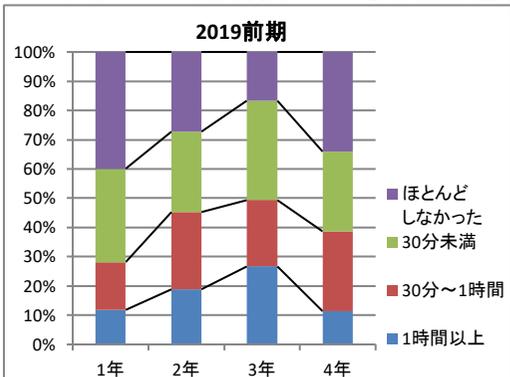
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



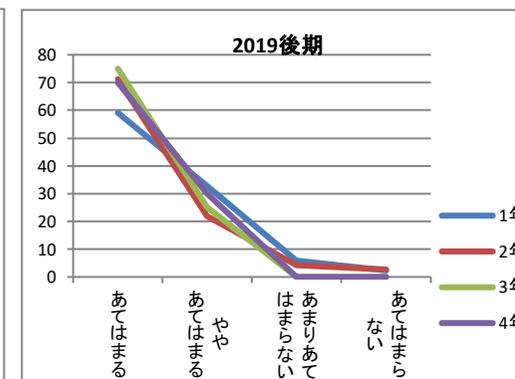
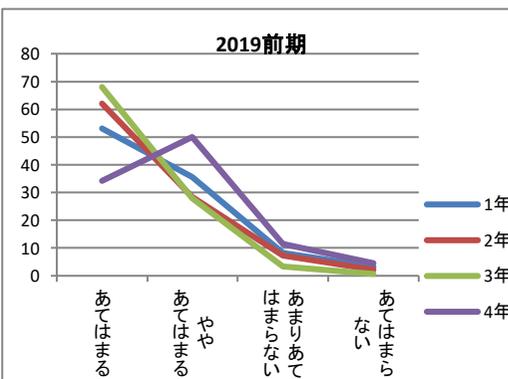
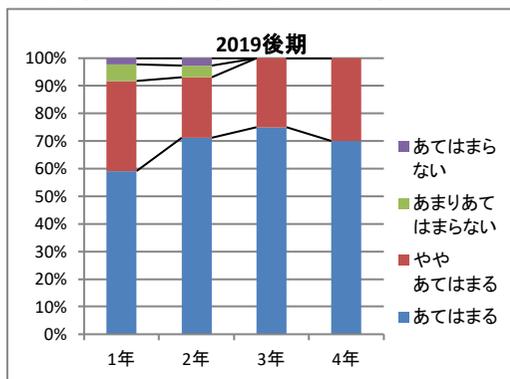
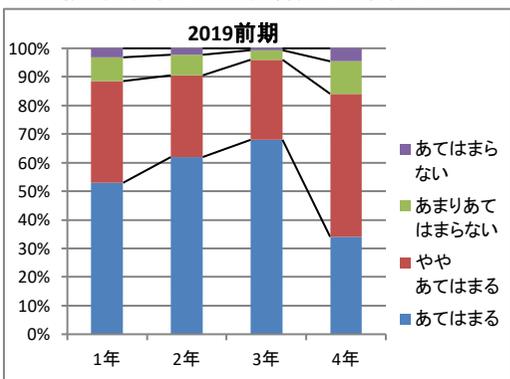
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



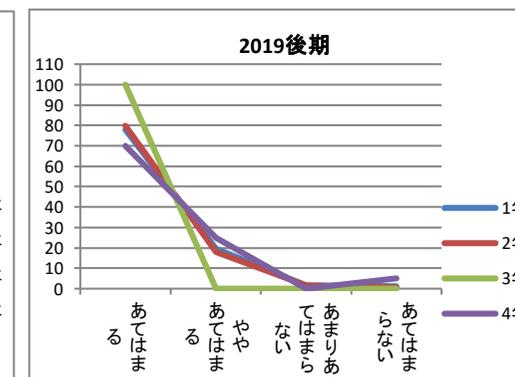
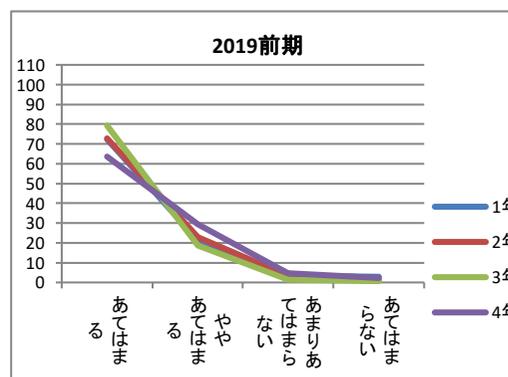
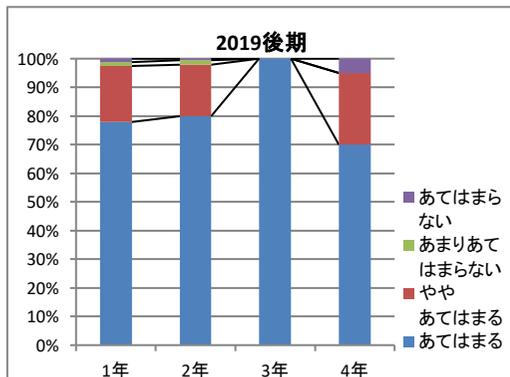
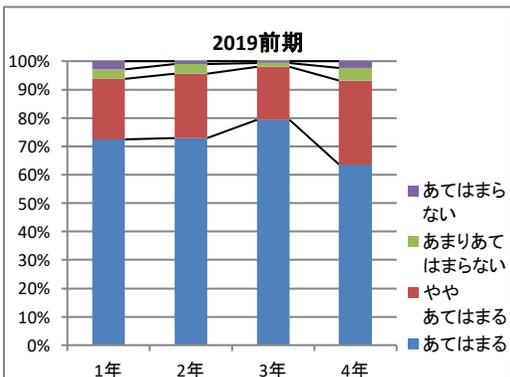
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



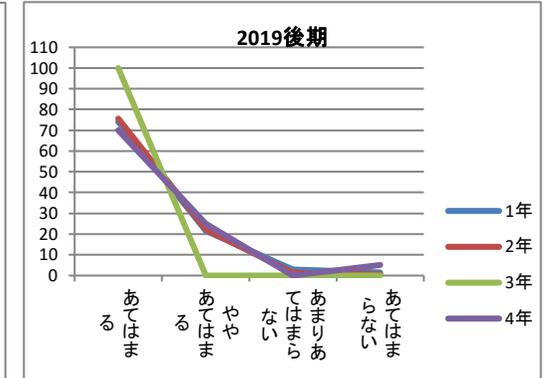
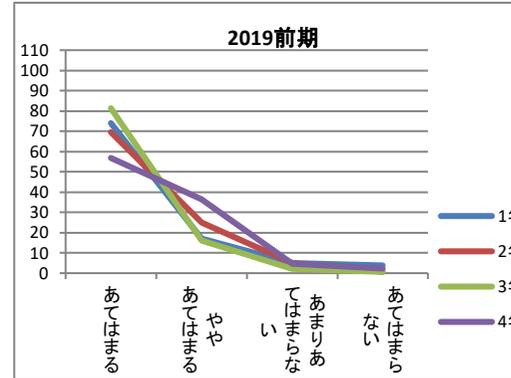
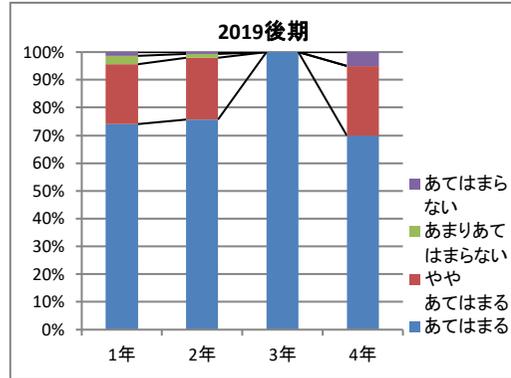
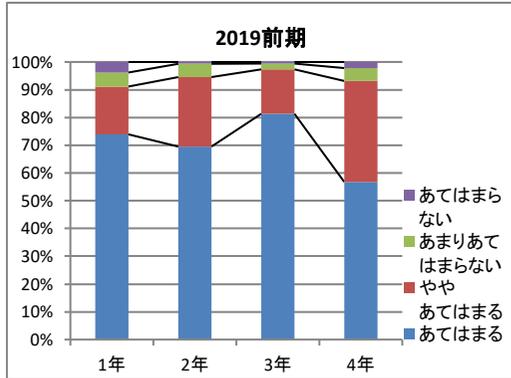
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



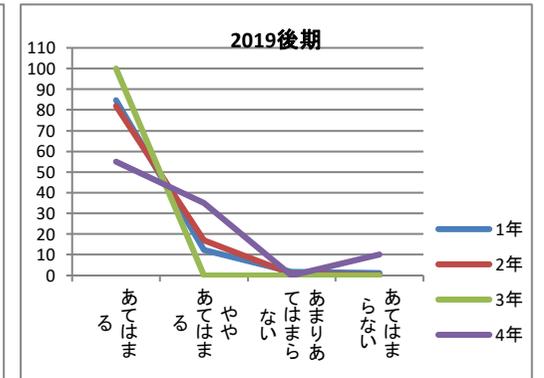
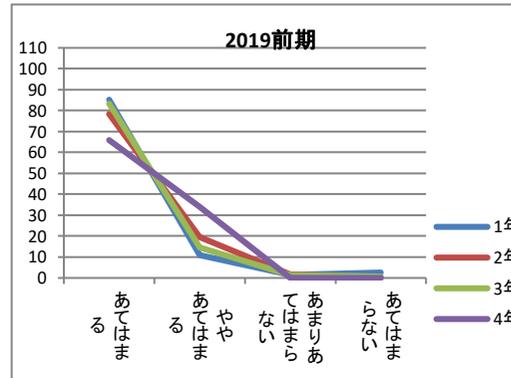
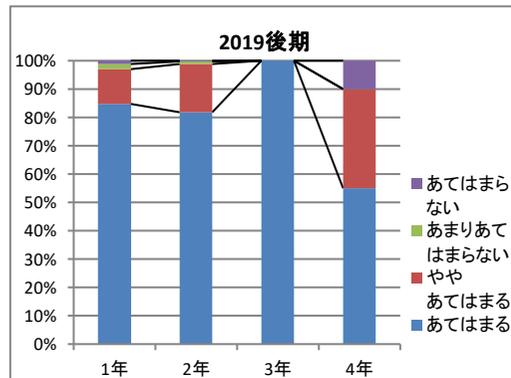
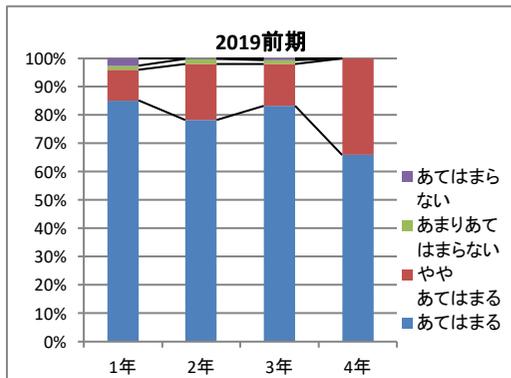
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



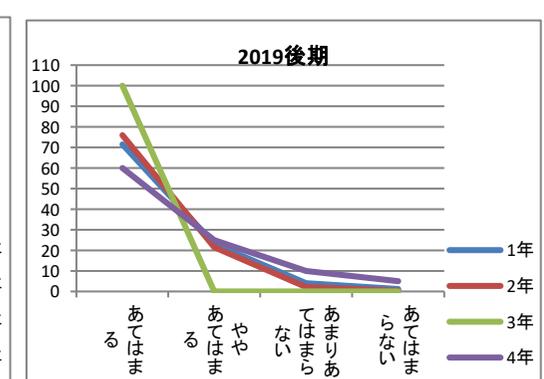
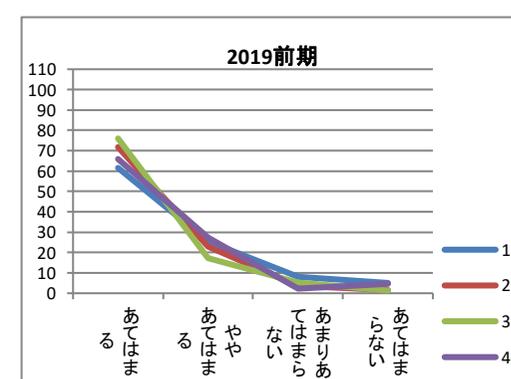
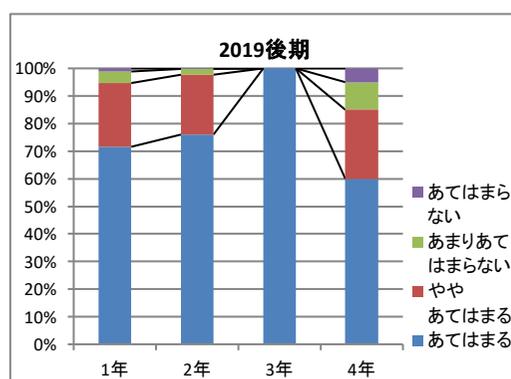
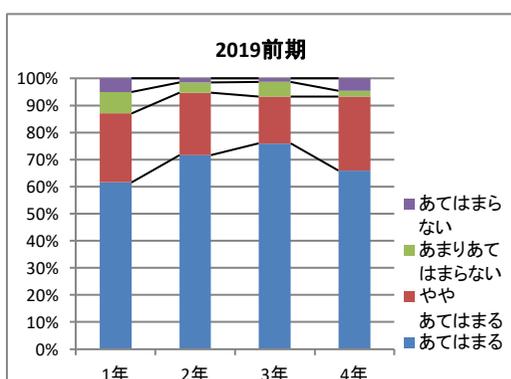
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



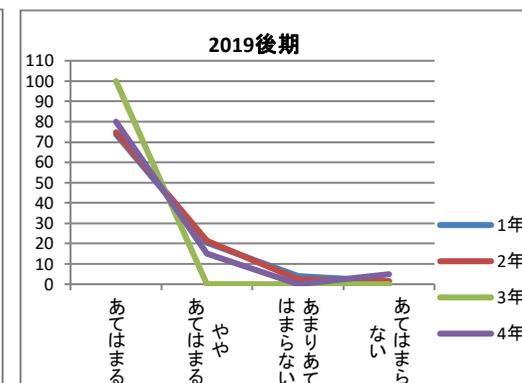
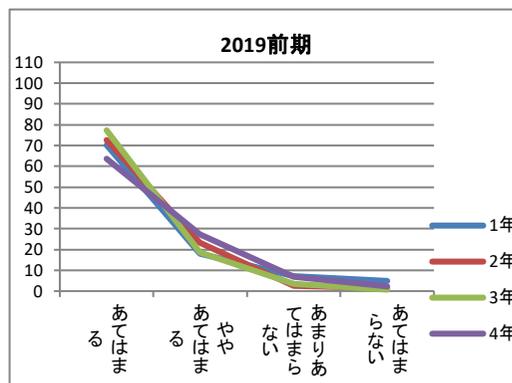
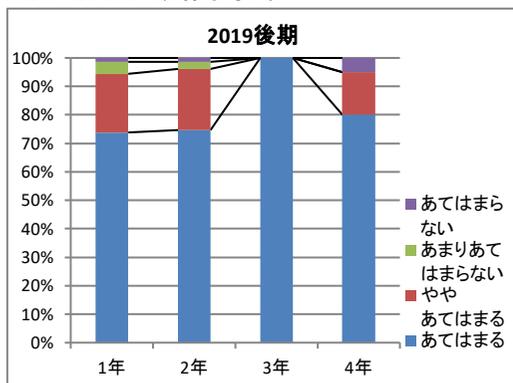
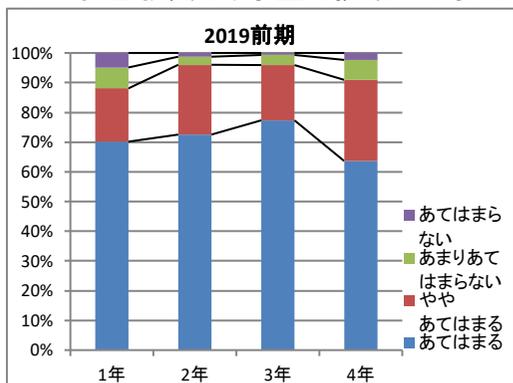
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



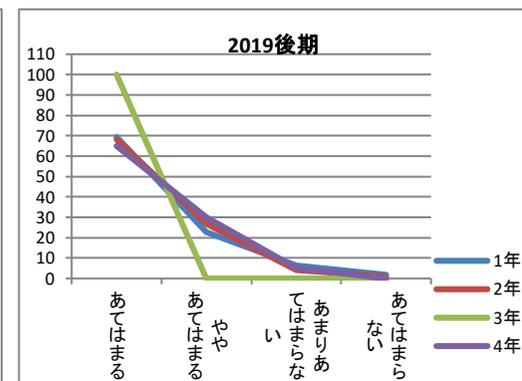
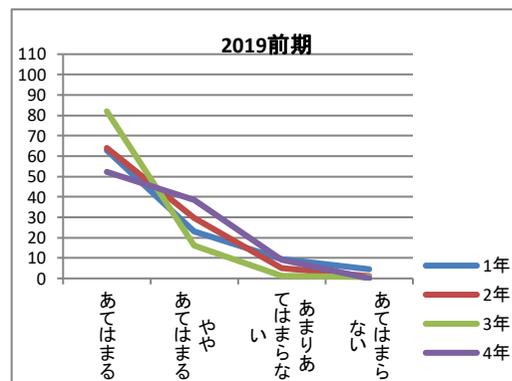
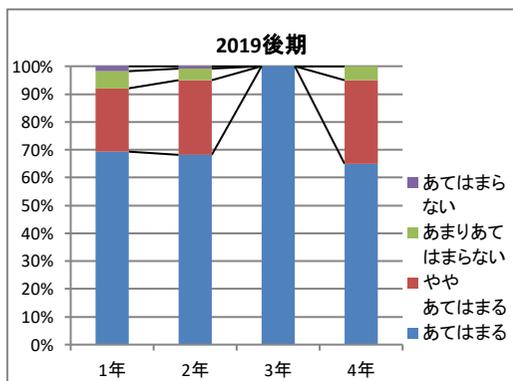
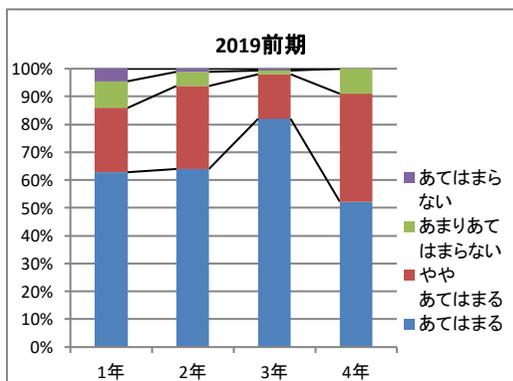
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



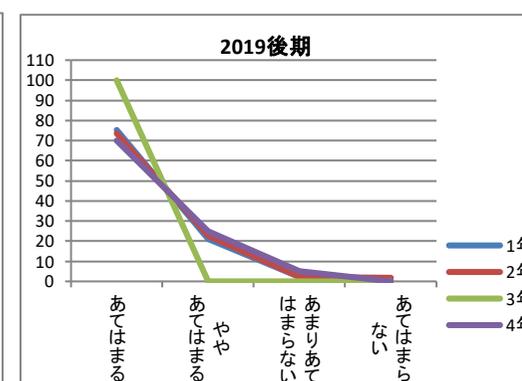
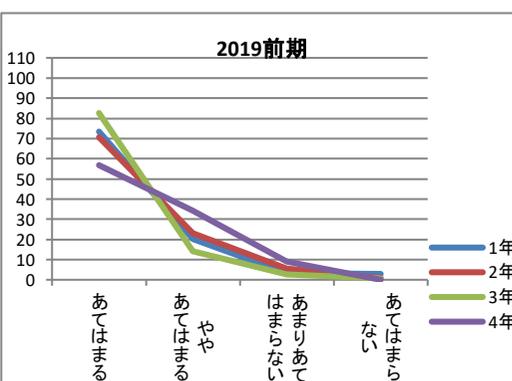
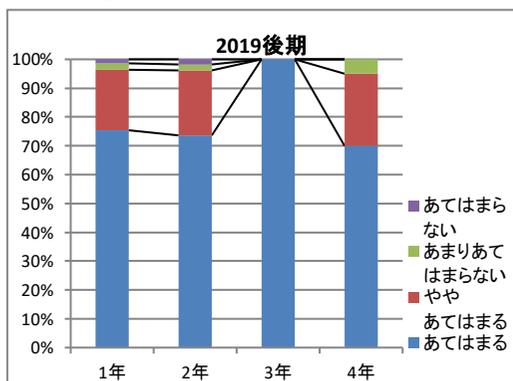
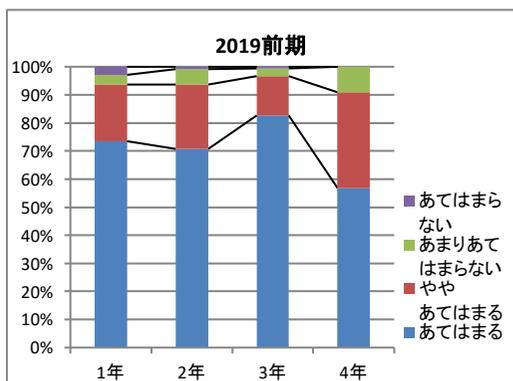
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



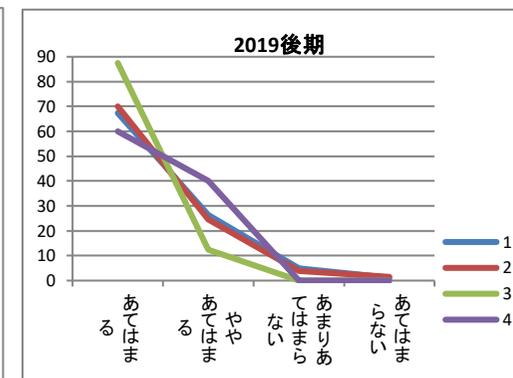
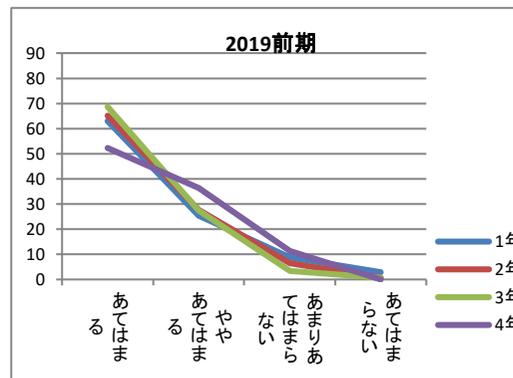
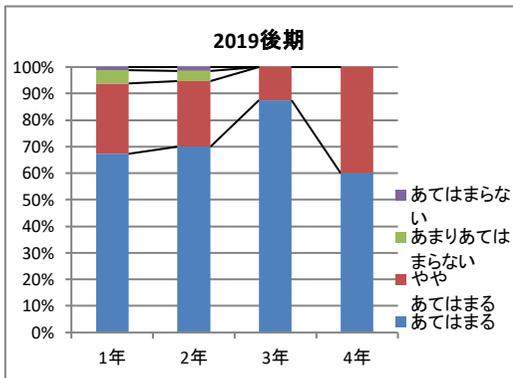
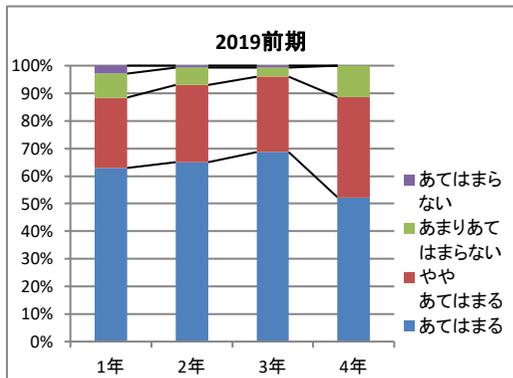
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



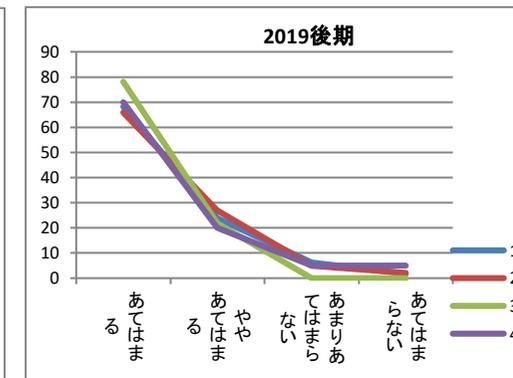
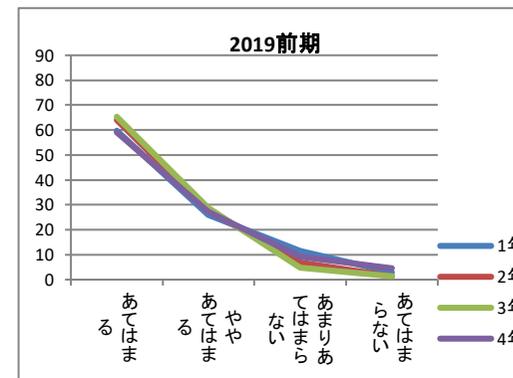
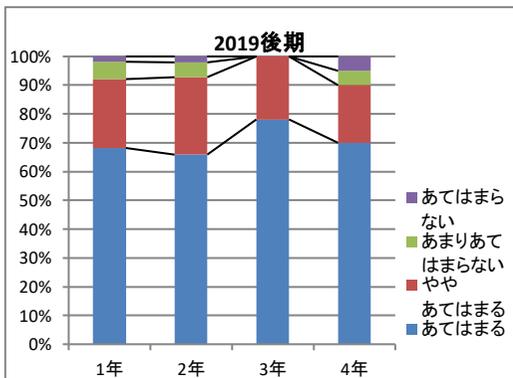
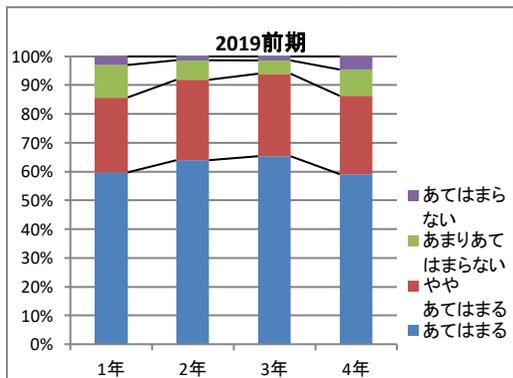
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

